

令和7年度（第26回） 那覇市民意識調査報告書



那覇市立病院 新病院棟

2026年（令和8年）3月

未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり



はじめに

はいさい！ ぐすーよー ちゅーうがなびら。

本市では、市民の皆さまの日常生活に関する意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する満足度と重要度を把握・分析し、



今後の市政運営とより良いまちづくりへと反映させるため、2年に1回の市民意識調査を実施しております。

今回の調査においても、多くの市民の皆さまのご理解とご協力により、有意義な調査結果をとりまとめることができました。心より感謝を申し上げます。

本調査結果をもとに、すべての方が輝ける那覇市を実現するため、市民の皆さまとともに力を合わせながら、たくましく成長する市政を築き、持続し発展していくまちづくりを進めてまいります。

本調査にご協力いただいた市民の皆さまには、重ねて御礼を申し上げます、巻頭のあいさつといたします。

いっぺー にふえーでーびる。

2026(令和8)年3月
那覇市長 知念 覚

目 次

I. 調査設計と実施の概要

1.目的	1
2.調査設計	1
3.調査票の送付状況	1
4.調査項目	2
5.回収結果	3
6.集計方法	3
7.報告書の見方	4
8.調査票	4

II. 調査結果の概要

1.日常生活等に関する意識	21
2.市の政策に対する満足度・重要度	29

III. 調査結果(項目別)

質問1. 性別	31
質問2. 年代	31
質問3. 居住地区	32
質問4. 居住年数	33
質問5. 出身	34
質問6. 住居形態	35

(1) 住み心地について

質問7. 住み心地	36
質問8. 愛着	38
質問8-1. 愛着を感じる理由	40
質問8-2. 愛着を感じない理由	42
質問9. 転出予定の有無	44
質問9-1. 転出予定先	46
質問9-2. 転出予定の理由	47
質問9-3. 転出先を選んだ理由	48

(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問 10. 地域づくりへの参加の有無	49
質問 10-1. 地域づくりへの参加内容	51
質問 10-2. 地域づくりに参加しない理由	53
質問 11. 地域の課題	56

(3) 市政への市民参加について

質問 12. 市政への関心	58
質問 13. 市政への市民参加促進	60
質問 14. 市情報の取得方法	62

(4) 議会への市民参加について

質問 15. 議会に求めること	64
質問 16. 意見交換会のテーマ	66

(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 17. 男女の役割分担について	70
質問 18. 性の多様性について	72

(6) 誰もが移動しやすいまちについて

質問 19. 誰もが移動しやすいまちづくり	74
質問 20. 平日の交通手段	76
質問 21. 公共交通への満足度	78
質問 21-1. 公共交通が不満な理由	80

(7) 緑のまちについて

質問 22. 緑のまちの満足度	82
-----------------	----

(8) 中心市街地活性化について

質問 23. 中心市街地への訪問頻度	84
質問 24. 中心市街地の活性化	87

(9) 子育て支援について	
質問 25. 子育て支援	91
質問 26. ひとり親世帯への支援	93
質問 27. こどもの貧困対策	95
質問 28. こどもを応援する取組	97
質問 29. 子育て支援への満足度	99
質問 30. こどもの権利への関心度	101
質問 31. こどもの権利	103
(10) 福祉について	
質問 32. 福祉相談機関の認知度	105
質問 33. 身近にいる相談できる人	107
質問 34. 所得に対する満足度	109
質問 35. 所得に占める食費の割合	111
質問 36. 生活必需品購入の困難度	113
質問 37. 住まいへの課題	115
(11) 健康について	
質問 38. 運動の習慣	117
質問 39. 食事の習慣	119
(12) 文化・芸術について	
質問 40. 文化芸術の機会の充実度	121
質問 41. 文化芸術振興に必要な取組	123
(13) 観光意識について	
質問 42. 観光に関する意識	125
(14) 生涯学習について	
質問 43. 生涯学習への興味	128
(15) 防災対策について	
質問 44. 実施している防災対策	131
質問 45. 市に求める災害対策	133

(16) 環境について	
質問 46. 環境のため実践していること	136

(17) 行政手続きのデジタル化について	
質問 47. 行政デジタル化への満足度	139
質問 48. デジタル化に求める取組	141
質問 49. デジタル化で不安なこと	143

(18) 幸福度	
質問 50. 幸福度	145
質問 50-1. 幸福度の変化	148
質問 51. 市政に関するご意見	150

IV. 「市の政策に対する満足度・重要度」の調査結果

質問 52	
1. 満足度・重要度調査について	153
2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価	
(1) 回答者数について	153
(2) 満足度・重要度調査の 加点方法と平均評価点	154
(3) 満足度・重要度のランキング	155
(4) 満足度・重要度の経年変化	156
(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた 政策に対する市民意識	157
3. 各政策に対する満足度・重要度の評価	159
4. 各政策に対する年代別の 満足度・重要度の評価	182

I. 調査設計と実施の概要

I. 調査設計と実施の概要

1. 目的

この調査は日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするため、2年に1回実施するものである。

また、「第5次那覇市総合計画」において施策ごとに設定された指標のうち、本調査で進捗管理を把握すると決定している項目についても、あわせて調査を実施した。

2. 調査設計

- (1) 調査対象 那覇市に居住する満18歳以上の男女5,000人
- (2) 調査地域 那覇市全域
- (3) 抽出方法 年齢等間隔抽出法（住民基本台帳による等間隔抽出）による
- (4) 調査方法 調査票の配布：郵送
調査票の回収：郵送またはウェブ回答による
- (5) 調査期間 令和7年9月15日～10月15日（30日間）

3. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った5,000人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下のとおりとなった。

		送付実数	送付比率
合 計		5,000人	100.0%
性別	男 性	2,377人	47.5%
	女 性	2,623人	52.5%
年代別	10代	69人	1.4%
	20代	631人	12.6%
	30代	698人	14.0%
	40代	776人	15.5%
	50代	853人	17.1%
	60代	722人	14.4%
	70代以上	1,251人	25.0%
居住地区別	本 庁	1,698人	34.0%
	真和志	1,654人	33.1%
	小 禄	863人	17.3%
	首 里	785人	15.7%

4. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目も含め、以下の項目で構成した。
なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。
(質問総数は、分岐質問9問を含め、合計 61 問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 出身
- 6) 住居形態

(2) 日常生活等に関する意識について

- 1) 住み心地について
- 2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 議会への市民参加について
- 5) 平和行政・男女共同参画について
- 6) 誰もが移動しやすいまちについて
- 7) 緑のまちについて
- 8) 中心市街地活性化について
- 9) 子育て支援について
- 10) 福祉について
- 11) 健康について
- 12) 文化・芸術について
- 13) 観光意識について
- 14) 生涯学習について
- 15) 防災対策について
- 16) 環境について
- 17) 行政手続きのデジタル化について
- 18) 幸福度

(3) 市の政策に対する満足度・重要度調査

5. 回収結果

調査票の配布は郵送で行い、回収は郵送またはウェブ回答にて行った。総数で 1,885 人の回収があった。有効回収実数および回収率と、性別・年代別・居住地区別の回収実数および回収率は、以下のとおりとなった。

		送付実数 (A)	回収実数 (B)	回収率 (B)/(A)	回答方法別			
					郵送		ウェブ	
					回収実数 (C)	回収率 (C)/(A)	回収実数 (D)	回収率 (D)/(A)
合 計		5,000	1,885	37.7%	1,162	23.2%	723	14.5%
性別	男 性	2,377	788	33.2%	437	18.4%	351	14.8%
	女 性	2,623	1,090	41.6%	720	27.4%	370	14.1%
	その他	-	2	-	0	-	2	-
	無回答	-	5	-	5	-	0	-
年代別	10代	69	10	14.5%	2	2.9%	8	11.6%
	20代	631	149	23.6%	46	7.3%	103	16.3%
	30代	698	222	31.8%	77	11.0%	145	20.8%
	40代	776	278	35.8%	115	14.8%	163	21.0%
	50代	853	366	42.9%	194	22.7%	172	20.2%
	60代	722	352	48.8%	263	36.4%	89	12.3%
	70代以上	1,251	502	40.1%	459	36.7%	43	3.4%
	無回答	-	6	-	6	-	0	-
居住地区別	本庁	1,698	652	38.4%	389	22.9%	263	15.5%
	真和志	1,654	563	34.0%	362	21.9%	201	12.2%
	小禄	863	320	37.1%	173	20.0%	147	17.0%
	首里	785	337	42.9%	225	28.7%	112	14.3%
	無回答	-	13	-	13	-	0	-

6. 集計方法

単純集計と以下の項目別クロス集計を行った。

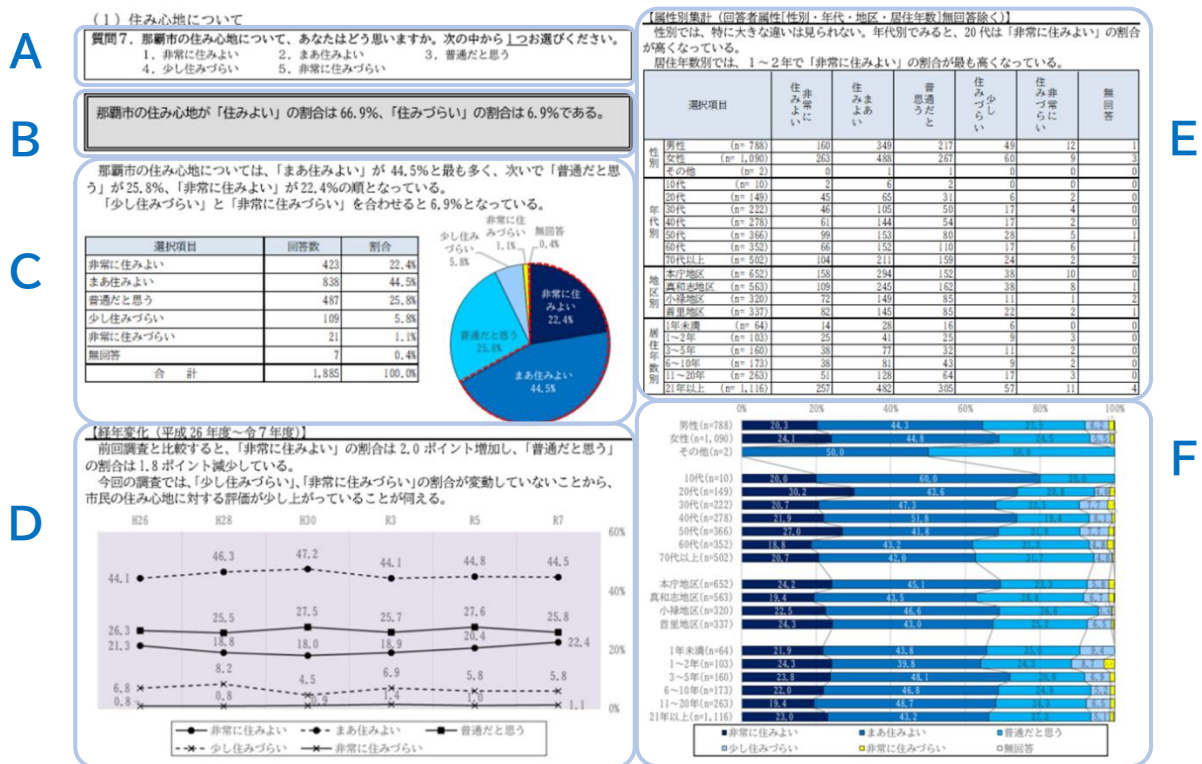
- (1) 基本項目（性別、年代、居住地区、那覇市における居住年数、出身、住居形態）と日常生活等に関する意識の各項目における設問間クロス集計
- (2) 結果は百分率で表示した。少数点第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (3) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (4) 経年変化に係る分析は、過去の調査等のデータを用いている。
- (5) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。
- (6) 「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (7) 指標調査は、「第5次那覇市総合計画」に掲げられた「目標値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (8) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、単一回答の

場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、複数回答の場合は横棒グラフによるパーセント表示（回答者数を母数とする割合）を採用した。

- (9) 複数回答の場合は、母数を回答総数ではなく、回答者数としているため、パーセント表示の合計が100%を超えている。
- (10) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (11) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。

7. 報告書の見方

- A …… 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- B …… Aの質問に関し、C～Fの表やグラフから分析した総括を掲載
- C …… Aの質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載
- D …… 平成26年度から令和7年度までの、Aと同種質問の経年変化グラフを掲載
- E …… Aの質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- F …… Eにおいて集計した結果を棒グラフで掲載



※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさや、わかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

8. 調査票

次頁に当該調査に使用した調査票を掲載する。

基本項目

質問1. あなたの性別を、次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

質問2. あなたの年代を、次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 | |

質問3. あなたがお住まいの地区を、次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 本庁地区 | 2. 真和志地区 | 3. 小禄地区 | 4. 首里地区 |
|---------|----------|---------|---------|

※お住いの地区は、封筒の宛名にも記載しています。ご確認ください。

質問4. あなた是那覇市にお住まいになって何年になりますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～2年 | 3. 3～5年 |
| 4. 6～10年 | 5. 11～20年 | 6. 21年以上 |

質問5. あなたのご出身はどちらですか。次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 那覇市 | 2. 市外 | 3. 県外 | 4. 国外 |
|--------|-------|-------|-------|

質問6. あなたのお住まいの住居形態を、次の中から1つお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------|-------------------|
| 1. 一戸建て(持ち家・借家) | 2. 分譲マンション | 3. 賃貸(アパート・マンション) |
| 4. 公営住宅(市営・県営など) | 5. 社宅・公官舎・寮 | |
| 6. その他(_____) | | |

【日常生活等に関する意識について】

(1) 住み心地について

質問7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 非常に住みよい | 2. まあ住みよい | 3. 普通だと思う |
| 4. 少し住みづらい | 5. 非常に住みづらい | |

質問8. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. 愛着を感じる | 2. 愛着を感じない | 3. どちらともいえない |
|-----------|------------|--------------|

質問8-1. 質問8で「1」を選択した方に伺います。愛着を感じる理由を2つまでお選びください。

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 公共交通の便がよいから | 2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから |
| 3. 子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など） | |
| 4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから | |
| 5. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから | |
| 6. レジャー施設・公園などが充実しているから | 7. 景色・景観がよいから |
| 8. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから | |
| 9. 自然環境が豊かだから | 10. その他（_____） |

質問8-2. 質問8で「2」を選択した方に伺います。愛着を感じない理由を2つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|----------------|
| 1. 公共交通の便が悪いから | 2. 交通渋滞が多いから |
| 3. 通勤・通学・買い物など生活に不便だから | |
| 4. 子育て環境が悪いから（保育施設や教育施設の不足など） | |
| 5. 住宅にかかる費用（家賃、借地料、土地の価格など）が高いから | |
| 6. 地域の文化芸術や伝統芸能が少ないから | |
| 7. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発ではないから | |
| 8. レジャー施設・公園などが不足しているから | 9. 景色・景観が悪いから |
| 10. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が不足しているから | |
| 11. 自然環境が少ないから | 12. その他（_____） |

質問9. 那覇市外へ1年以内に転出する予定はありますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|----------|--------|-------------------------|
| 1. 予定がある | 2. 検討中 | 3. 予定はない（⇒質問10へお進みください） |
|----------|--------|-------------------------|

質問9で「1」または「2」を選択した方は、以下の3つの質問にご回答ください。

質問9-1. 転出予定（検討）先を次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|---------------------|--------|----------------|--------|
| 1. 豊見城市 | 2. 浦添市 | 3. 南風原町 | 4. 糸満市 |
| 5. その他県内他市町村（_____） | | ※市町村名をお書きください。 | |
| 6. 県外 | 7. 国外 | 8. 未定 | |

質問9-2. 転出を予定（検討）している理由を次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. ご自身の就職・転職・転勤 | 2. ご家族の就職・転職・転勤 |
| 3. ご自身の入学・進学・卒業 | 4. ご家族の入学・進学・卒業 |
| 5. 家賃が高いから | 6. 那覇市外に住宅を購入したから |
| 7. ご自身の結婚・出産 | 8. ご家族・ご親族の介護・看病 |
| 9. 交通渋滞が多いから | 10. 交通の利便性が良くないから |
| 11. 買い物の利便性が良くないから | 12. ご自身が施設に入所するため |
| 13. その他（_____） | |

質問9-3. 転出予定（検討）先を選んだ理由について次のうちから3つまでお選びください。

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1. 職場に近いから | 2. 学校に近いから |
| 3. 住宅に係る費用（家賃、借地料、土地の価格など）が安いから | |
| 4. 販売・分譲されていた住宅（土地）が気に入ったから | |
| 5. 自治体の子育て支援サービスが充実していたから | |
| 6. 子育て支援者（親族）の近くに住むから | |
| 7. 交通渋滞が少ないから | 8. 交通の利便性が良いから |
| 9. 買い物の利便性が良いから | |
| 10. その他（_____） | |

(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問10. あなたもしくはあなたのご家庭は、自治会・通り会・小学校区まちづくり協議会・PT(C)A等の地域活動（ボランティアやイベント参加を含む）に参加していますか。次の中から1つお選びください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない（今後参加したい） |
| 3. 参加していない（今後も参加しない） | 4. わからない（⇒質問11へお進みください） |

質問10-1. 質問10で「1」を選択した方に伺います。活動への参加はどのような内容ですか。次の中から1つお選びください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 役員又は組織運営 |
| 2. 定例会等に月1回以上の出席参加 |
| 3. 交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加 |
| 4. 祭りやイベント等又は講座等への来場 |
| 5. 直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加 |
| 6. その他（_____） |

質問10-2. 質問10で「2」又は「3」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を、次の中から1つお選びください。

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他（_____） | |

質問 11. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | |
| 2. 自治会、通り会、小学校区まちづくり協議会、PT(C)A、などの連携 | |
| 3. 防犯に関する取組 | 4. 防災に関する取組 |
| 5. 青少年健全育成に関する取組 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援 |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 |
| 9. 住民同士の交流 | 10. その他 (_____) |

(3) 市政への市民参加について

質問 12. 市役所が行っている事業について、どれくらい関心がありますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

質問 13. 市役所の事業実施や計画立案に市民が参加するために、市に行ってほしいことを次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|---------------------|------------------------------|---------------|
| 1. 参加の機会を増やす | 2. わかりやすい広報活動 | 3. 楽しく参加できる工夫 |
| 4. 参加の呼びかけを増やす | 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる | |
| 6. 自治会などが行う地域活動の活性化 | 7. 市民活動団体への支援 | |
| 8. その他 (_____) | | |

質問 14. あなたは普段那覇市の情報(施策やイベント等)をどの媒体から取得していますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|----------------|--------|
| 1. 広報紙「なは市民の友」 | 2. 那覇市公式ホームページ | 3. ライン |
| 4. インスタグラム | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. その他 (_____) | | |

(4) 議会への市民参加について

質問 15. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 意見交換会等の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | 7. その他 (_____) | |

質問 16. 意見交換会等で取り上げてほしいテーマを、次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|---------------------|---------------|------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 | 3. 医療や福祉問題 |
| 4. 環境問題 | 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題 | 8. 中心市街地の活性化 | 9. 交通政策・都市計画 |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他 (_____) | | |

(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 17. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | |

質問 18. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。LGBTQ^(※)カップルの届出に基づく、那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

※LGBTQ：レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー（こころとからだの性別が一致しない方）やそれに当てはまらない人も含めた全ての性的少数者を表す言葉

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |
|-------|---------------|---------------|-------|

(6) 誰もが移動しやすいまちについて

質問 19. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1. 自転車を利用しやすくする | 2. オートバイを利用しやすくする |
| 3. タクシーを利用しやすくする | 4. バスを利用しやすくする |
| 5. モノレールを利用しやすくする | 6. LRT（次世代型路面電車）を導入する |
| 7. 乗合タクシー ^(※) 等を導入する | 8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する |
| 9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する | 10. 駐車場・駐輪場を整備する |
| 11. その他（_____） | |

※乗合タクシー：利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しいタイプの公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

質問 20. あなたが現在、平日に最も多く利用する交通手段を次の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------------------------|----------------|-----------------|
| 1. モノレール | 2. 路線バス（市内線） | 3. 路線バス（市外線） |
| 4. ふくちゃん号 ^(※) | 5. 真和志地域乗合タクシー | 6. タクシー |
| 7. 自転車 | 8. シェアサイクル | 9. オートバイ |
| 10. 徒歩 | 11. 送迎バス | 12. 自家用車（自分で運転） |
| 13. 自家用車（同乗） | 14. その他（_____） | |

※ふくちゃん号：那覇市内を運航している、60歳以上の高齢者又は障がいのある方が無料で利用できる福祉バス。

質問 21. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|--------------|-----------|-------|-------|----------|
| 1. 非常に満足している | 2. 満足している | 3. 普通 | 4. 不満 | 5. 非常に不満 |
|--------------|-----------|-------|-------|----------|

質問21-1. 質問21で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

1. バスが時間通りに来ない	2. バスの便数が少ない
3. バスの路線がわかりづらい	4. バス停の間隔が長い（遠い）
5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	6. タクシー乗り場が少ない
7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい	8. モノレール車内が混雑している
9. その他（ _____ ）	

(7) 緑のまちについて

質問22. あなたは、住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足	2. まあ満足	3. やや不満	4. 不満	5. わからない
-------	---------	---------	-------	----------

(8) 中心市街地活性化について

質問23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数を、それぞれ1つお選びください。

国際通り	1. ほぼ毎日	2. 週3～4回	3. 週1～2回
	4. 月1～2回	5. 年1～2回	6. 全く行かない
マチグワー（※）	1. ほぼ毎日	2. 週3～4回	3. 週1～2回
	4. 月1～2回	5. 年1～2回	6. 全く行かない
※マチグワー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。 [例] 第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。			

質問24. 国際通りやマチグワー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。
 （実施主体は行政・民間を問いません）

1. 花や緑を増やす	2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く	4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的を開催する	
7. 再開発により市街地を再生する	8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する	
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせることができる場所を整備する	
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）	
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する	
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	
14. その他（ _____ ）	
※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。	

(9) 子育て支援について

質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大 | |
| 2. 認定こども園での受入年齢などの拡充 | |
| 3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充 | |
| 4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充 | 5. 障がい児保育の拡充 |
| 6. 夜間保育の拡充 | 7. 一時預かり保育の拡充 |
| 8. 育児休業制度や育児支援事業の啓発 | 9. 保育、教育に関する経済的負担の軽減 |
| 10. その他（ _____ ） | |

質問 26. ひとり親世帯への子育て支援策について、市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|-----------------|-------------------------|---------|
| 1. 養育費の確保支援 | 2. 就業支援 | 3. 居住支援 |
| 4. 資金貸付の条件の緩和 | 5. インターネットなどを活用した手続きの推進 | |
| 6. こどもの預かり等家事支援 | 7. その他（ _____ ） | |

質問 27. こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

- | |
|--|
| 1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援 |
| 2. こどもの医療費助成など医療施策の充実 |
| 3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実 |
| 4. 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援 |
| 5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実 |
| 6. 不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援 |
| 7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援 |
| 8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援 |

質問 28. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 学習支援などのボランティア活動 | 2. 寄付や募金などの資金援助 |
| 3. 食材やサービスなどの物品提供 | 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供 |
| 5. 就労体験などの機会の提供 | 6. 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動 |
| 7. わからない | |

質問 29. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 36. 現在のご家庭で食料や衣服、こどもの学用品などの最低限度の生活必需品の購入がどの程度難しいですか。次の中からもっとも近いものを1つお選びください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 購入できないときはない | 2. 購入できないときが時々ある |
| 3. 購入できないときがよくある | 4. 常に購入できない |

質問 37. 現在のご家庭で住まいについて課題はありますか。次の中からもっとも近いものを2つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. 住まいについて課題はない | 2. 住まいを賃貸するのに課題がある（借家） |
| 3. 転居したいが転居先の確保に不安がある | |
| 4. 住み続けたいが施設入所等の理由で転居しなければならない | |
| 5. 住まいを取得するのに課題がある（持ち家） | |
| 6. 住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい | |
| 7. 住まいを修繕するのに課題がある | |
| 8. 住まいの相続や譲渡（売却）に課題がある | |

（11）健康について

質問 38. あなたは、1回30分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週3回以上 | 3. 週1～2回程度 |
| 4. 月1～2回程度 | 5. 関心はあるが機会がない | 6. 関心がない |

質問 39. あなたは、主食(※1)、主菜(※2)、副菜(※3)の3つを組み合わせる食べることが1日2回以上ある日が、週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

※1 ごはん、パン、麺類などの料理

※2 魚介類、肉類、卵類、大豆及び大豆製品を主材料にした料理

※3 野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

- | | | | |
|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日程度 | 4. ほとんどない |
|-----------|-----------|-------------|-----------|

（12）文化・芸術について

質問 40. 本市において文化芸術を鑑賞したり、習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会が充実していると思いますか。次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. とてもそう思う | 2. ある程度そう思う |
| 3. あまりそう思わない | 4. 全くそう思わない |

質問41. 本市における文化芸術活動や伝統芸能を含むエンターテインメントなどをより多様で豊かなものにする取り組みとして、あなたが必要だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充
2. 子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充
3. うちなーぐちのさらなる普及
4. 地域の伝統文化や伝統行事の継承
5. 本市の誇りとなるような一流の文化芸術作品の創造・発信
6. 文化財・文化資源のさらなる保存・継承・活用
7. 文化芸術活動と福祉・地域生活等との連携（社会包摂的な取り組みの拡充）
8. 観光客をターゲットとした文化芸術コンテンツの創造・支援・発信
9. 文化芸術を通じた他市町村、国内外との交流活動の拡充
10. その他（ ）

（13）観光意識について

質問42. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ ）

（14）生涯学習について

質問43. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. 犬猫の保護などの動物愛護活動
2. ごみ問題などの環境保全活動
3. 食育や生活習慣病予防などの健康活動
4. 避難訓練などの地域防災活動
5. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動
6. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動
7. その他（ ）

（15）防災対策について

質問44. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | | |
|-----------------|-----------------------|---------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | 2. 家具などの転倒・落下防止策 | 3. 避難場所・経路の確認 |
| 4. ハザードマップの確認 | 5. 家族間での連絡方法の確認 | 6. 防災訓練への参加 |
| 7. 家屋の耐震化 | 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 | |
| 9. その他（ _____ ） | 10. 特にやっていない | |

質問45. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

- | |
|---|
| 1. 非常用食糧の備蓄 |
| 2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援 |
| 3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供 |
| 4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定 |
| 5. 地域の防災リーダーの育成・活用 |
| 6. 防災訓練の充実 |
| 7. 防災に関するイベント・講演会 |
| 8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供 |
| 9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充 |
| 10. ボランティアの育成、受け入れ、活用 |
| 11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備 |
| 12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結 |
| 13. その他（ _____ ） |

（16）環境について

質問 46. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. 電気の節約（LED への交換、こまめな消灯など）
2. 水の節約（節水シャワーヘッドの利用など）
3. スーパー、コンビニでレジ袋の購入を控える（リフューズ）
4. 詰め替え用の商品、適量の食品を選ぶ（リデュース）
5. 中古品を買ったり売ったりすることがある（フリマアプリ、リサイクルショップ、フリーマーケットなど）
6. ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）
7. エコドライブの実践
8. 公共交通の利用（パークアンドライド含む）
9. ノーマイカーデーの実践（相乗り出勤含む）
10. 地産地消の実践
11. 環境性能に優れた自動車（プラグインハイブリッド車（PHV）・電気自動車（EV）など）の利用
12. 太陽光発電の利用
13. 太陽熱温水器の利用
14. エコキュート・エネファーム（電気による給湯システム）の利用
15. 環境にやさしい製品（簡易包装、紙ストローなど）の選択
16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
17. 省エネタイプの電化製品を利用（買い替えの際は省エネタイプのものを選択）している
18. クールビズ（かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど）を実践している

（17）行政手続きのデジタル化について

質問 47. 本市における行政手続きのオンライン化、情報発信等の行政サービスのデジタル化の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 48. 那覇市が行うデジタル化について、今後、特に力を入れてほしいと思う取り組みは何ですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる
2. マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している
3. インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる
4. インターネットで公共施設や窓口の予約ができる
5. 必要とする行政情報がタイムリーに取得できる
6. 情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる
7. 市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる
8. 行政が保有するデータを加工・利用できる（オープンデータなど）
9. 行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受けることができる
10. 特になし
11. その他（_____）

【市の政策に対する満足度・重要度調査】

質問 52. 那覇市では、第5次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいる23の政策に対する「満足度」と「重要度」について、あなたの実感や印象、経験に基づき、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思いますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
回答例→	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA										
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
地域の力が重なる安全安心のまちづくり (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (平和・国際交流の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (人権尊重、男女共同参画推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA										
地域で暮らし地域で支えるまちづくり (福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (健康づくりの実践、こころの健康維持等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (地域医療の充実等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (生活衛生・食品衛生・感染症対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA										
子育てが楽しくなるまちづくり (子育て支援、待機児童対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (学力向上、教育環境の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思えますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA										
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (産業振興、中小企業支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
中心市街地を活かしたまちづくり (商店街・マチグワの振興等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA										
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (魅力ある都市景観の形成、道路美化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
暮らしてよし歩いて楽しい快適なまちづくり (交通体系の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (安全安心で快適な道路や公園の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (都市計画、土地利用等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う										
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (行政サービスの電子化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
効率的で効果的な行財政運営を行う (市民満足度の高いサービスの提供等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

1. 「日常生活等に関する意識」の調査結果概要

令和7年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記のとおりである。

(1) 住み心地について

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、前回調査と比較するとやや増加傾向にある。

約7割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着を感じている。また、愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が最も多かった。一方で、愛着を感じない理由は「交通渋滞が多いから」が最も多かった。



那覇市外へ1年以内に転出する予定がある、または、転出を検討中である市民は約1割であり、転出予定（検討）先については「県外」が最も多かった。また、転出を予定（検討）している理由は「ご自身の就職・転職・転勤」が最も多く、転出予定（検討）先を選んだ理由は「住宅に係る費用が安いから」が最も多かった。

- 住み心地が「非常に住みよい」、「まあ住みよい」を合わせて「住みよい」と感じている市民は66.9%。
- 居住地区別では、首里地区の愛着度が最も高く、小祿地区が最も低い。
- 愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が66.8%で最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が51.2%となっている。
- 愛着を感じない理由は「交通渋滞が多いから」が38.7%で最も高く、次いで「住宅にかかる費用が高いから」が30.6%となっている。
- 転出予定（検討）先は、「県外」が34.4%、次いで「浦添市」、「その他県内他市町村」がともに11.3%となっている。
- 転出を予定（検討）している理由は「ご自身の就職・転職・転勤」が26.9%、次いで「家賃が高いから」が15.0%となっている。
- 転出予定（検討）先を選んだ理由は、「住宅に係る費用が安いから」が25.6%、次いで「職場に近いから」が24.4%となっている。

(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

17.9%の市民が自治会、校区まちづくり協議会等へ「参加している」と回答しており、前回調査時から、2.7ポイント減少している。

参加している活動については「祭りやイベント等又は講座等への来場」と回答した市民が多い。

地域コミュニティ活動へ「参加していない」と回答した市民の理由について、個人的な理由以外に、「地域コミュニティがない」、「勧誘がない」などの地域の事情がある。

地域の課題としては「防犯に関する取組」が首位となっている。次いで「地域の美化・清掃」、「一人暮らしのお年寄りの支援」と回答した市民が多い。

- 地域コミュニティ活動については、首里地区で「参加している」の割合が高く、今後参加したい市民の割合を含めると5割近くとなっている。
- 参加している活動としては「祭りやイベント等又は講座等への来場」が27.6%、次いで「交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」が21.1%、「役員又は組織運営」が16.3%となっている。
- 「参加していない」と回答した市民の理由は、「時間的にゆとりがない」が30.6%、次いで「関心がない」が15.3%、「参加の仕方がわからない」が11.7%となっている。
- 地域の課題としては「防犯に関する取組」が25.8%で最も割合が高い。

(3) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は49.4%となっており、市政に対する関心は、前回調査結果(58.7%)と比較して、減少傾向にある。

市の情報を取得している媒体について、20代以下は「テレビ」、30代以上は「広報紙なは市民の友」の割合が最も高くなっている。

- 市政へ関心のある市民は49.4%、関心がない市民は31.5%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」、「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 市の情報を取得している媒体については、「広報紙なは市民の友」が64.0%で最も高く、次いで「テレビ」が割合28.4%、「新聞」が割合26.9%となっている。

(4) 議会への市民参加について

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」、「政策や条例の提案」が多い。

また、議会報告会で取り上げてほしいテーマとして、20~40代は「子育て支援・教育問題」、50代以上では「医療や福祉問題」などライフステージに応じたテーマがあげられている。



- 議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」が48.0%と最も高く、すべての属性別においても最も割合が高くなっている。続いて「政策や条例の提案」が26.2%、「議員定数や報酬などの見直し」が25.7%の順となっている。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「医療や福祉問題」が47.6%、「子育て支援・教育問題」が35.3%、「防災・防犯など安全なまちづくり」が29.7%となっている。

(5) 平和行政・男女共同参画について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、6割を超える市民が反対と回答している。

市では、「男女平等」、「性の多様性」の取組に対し支持または理解を示す市民を増やしていく事を目標に掲げており、市の取組が概ね受け入れられていると考えられる。

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「賛成」・「どちらかといえば賛成」の合計は17.2%、「反対」・「どちらかといえば反対」の合計は61.2%となっている。
- 「性の多様性」に関する取組については、「賛成」が37.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が34.6%、「どちらかといえば反対」が11.7%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

(6) 誰もが移動しやすいまちについて

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「バスを利用しやすくする」、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」が上位を占めている。

各公共交通について「満足している」市民は18.6%に対し、「不満」な市民は33.4%であり、「不満」が「満足」を上回っている。



- 誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「バスを利用しやすくする」が49.1%と最も多く、次いで「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」が40.1%となっている。
- 平日に最も多く利用する交通手段については、「自家用車(自分で運転)」が39.3%と最も多く、次いで「自家用車(同乗)」が10.3%、「路線バス(市内線)」が10.1%となっている。
- 各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が46.6%と最も多く、次いで「不満」が26.2%、「満足している」が15.6%の順となっている。
- 各公共交通の不満に感じていることは、「バスが時間通りに来ない」が46.4%と最も高く、次いで、「バスの便数が少ない」が46.3%、「バスの路線がわかりづらい」が42.0%と、上位3位までを「バス」に対する不満が占めている。

(7) 緑のまちについて

居住地域の花や緑に「満足」している市民は53.0%。「不満」な市民は30.4%で居住地域の花や緑に対して「満足」している市民の方が多い。

年代別では年代が下がるにつれて「満足」している割合が高くなっている。

- 住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に対して、「まあ満足」が44.0%で最も多く、次いで「やや不満」が20.2%、「わからない」が11.0%となっている。



(8) 中心市街地活性化について

市民が国際通り、マチグラー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年1~2回」が最も多い。「全く行かない」と「年1~2回」を合わせると、国際通りで約5割、マチグラーで約6割となっている。

中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」を望む声が最も多く、ついで「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」、「市街地周辺部に駐車場を整備する」である。

- 国際通りについては、「年1~2回」が32.3%と最も多く、次いで「月1~2回」が23.6%、「全く行かない」が23.3%、の順となっている。
- マチグラーについては、「年1~2回」が33.6%と最も多く、次いで「全く行かない」が32.4%、「月1~2回」が18.4%の順となっている。
- 中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が46.3%、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」33.7%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」27.5%となっている。

(9) 子育て支援について



小学校就学前までの子育て支援について優先的に取り組んでほしい施策は、「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が最も多く、次いで「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」となっている。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が最も多く、次に「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」となっている。

こどものみらいを応援する取組として、市民ができると思うことは、「地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動」である。

- 子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策は「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が45.3%、次いで「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」が44.7%となっている。

- ひとり親世帯への子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「養育費の確保支援」が48.2%で最も高く、次いで「就業支援」が38.0%、「居住支援」が34.4%となっている。
- こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が54.5%、次いで「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」が50.4%となっている。
- こどものみらいを応援する取組として、市民ができると思うことは「地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動」が18.8%で最も多く、次いで「寄付や募金などの資金援助」が18.2%となっている。
- 本市における子育て支援について満足しているかについて、「満足」「まあ満足」を合わせた割合は25.0%、「不満」「やや不満」を合わせた割合は13.3%となっている。
- こどもの権利の関心度について、「非常に関心がある」「まあ関心がある」を合わせた割合は65.1%となっており、こどもの権利が守られていると感じているかについては、「守られている」「どちらかというと守られている」を合わせた割合は45.7%となっている。

(10) 福祉について

知っているまたは利用したことがある相談支援機関は、「地域包括支援センター」が最も多く、次いで「那覇市社会福祉協議会」である。また、相談支援機関以外に身近で相談できるのは「家族、友人」が最も多く、次いで「相談できる人はいない」である。

所得や家計について「満足」している市民は39.3%に対し、「不満」な市民は48.5%であり、「不満」が「満足」を上回った。また、収入に対する食費は「3割以下」が最も多く、最低限度の生活必需品の購入は「購入できないときはない」が最も多かった。

住まいの課題は「住まいについて課題はない」が最も高く、次いで「住まいを修繕するのに課題がある」、「住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい」となっている。



- 知っているまたは利用したことがある相談支援機関は「地域包括支援センター」が47.4%、次いで「那覇市社会福祉協議会」が38.4%、「那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター」が16.3%となっている。
- 相談支援機関以外に身近で相談できる方は「家族、友人」が76.8%、次いで「相談できる人はいない」が13.1%、「隣人」の割合が5.4%となっている。
- 所得や家計は「まあ満足」が30.2%、次いで「やや不満」が25.5%、「不満」が23.0%の順となっている。
- 収入に対する食費は、「3割以下」が43.7%、次いで「4割～5割」が36.0%、「6割～7割」が10.8%となっている。

- 最低限度の生活必需品の購入は「購入できないときはない」が 58.4%、次いで「購入できないときが時々ある」が 24.1%、「購入できないときがよくある」が 8.0%となっている。
- 住まいの課題は、「住まいについて課題はない」が 45.1%、次いで「住まいを修繕するのに課題がある」が 22.9%、「住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい」が 19.9%となっている。

(11) 健康について



1回30分以上の運動を週3回以上取り組んでいる市民は32.8%。一方で、取り組む関心はあるが、機会がない市民は26.3%となっている。

年代別でみると、20代以下では「ほとんど毎日」の割合が、他の年代より高くなっている。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上の日がほぼ毎日の市民は4割を上回っている。

- 1回30分以上の運動への取組に対して、「関心はあるが機会がない」が26.3%、次いで「週1~2回程度」が22.2%、「ほとんど毎日」が16.6%の順となっている。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が「ほとんど毎日」の市民は、41.3%、次いで「週に2~3日」が24.5%、「週に4~5日」が22.2%の順となっている。

(12) 文化・芸術について

那覇市で文化的な環境にふれる機会が充実しているかについて、「そう思う」市民は5割以上となっている。

エンターテインメントなどをより多様で豊かなものにするためには、「子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充」が最も必要とされており、次いで「市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充」、「地域の伝統文化や伝統行事の継承」となっている。



- 那覇市で文化的な環境にふれる機会が充実しているかについて、「ある程度そう思う」が48.1%、次いで「あまりそう思わない」が34.6%、「全くそう思わない」が9.0%となっている。
- エンターテインメントなどをより多様で豊かなものにするために必要だと思うものは、「子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充」が50.2%、次いで「市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充」が41.5%、「地域の伝統文化や伝統行事の継承」が39.1%となっている。

(13) 観光意識について

那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」と6割の市民が感じており、ほぼ全ての属性別においても、最も高い回答結果となっている。

- 観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」が61.5%と最も高く、次いで「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」が32.6%、「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が29.4%の順となっている。

(14) 生涯学習について

市民が、興味があり学んでみたい活動は「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が最も多い。居住年数別でみると、1～5年では「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」の割合が高くなっている。

- 興味があり学んでみたい活動については、「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が42.8%で最も高く、次いで「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が38.3%、「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」が28.6%の順となっている。

(15) 防災対策について

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」が約3割となっており、ほぼすべての属性で高い割合を占めている。

市民が特に力を入れてほしい災害対策は「非常用食糧の備蓄」が5割を超えている。

- 市民が実施している防災対策については、「避難場所・経路の確認」が32.0%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が31.5%、「家族間での連絡方法の確認」が25.3%の順となっている。
- 那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「非常用食糧の備蓄」が56.2%で最も高く、次いで「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が48.5%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が38.9%となっている。



(16) 環境について

地球環境保護のため実践していることについて、「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」が最も多い。また、一人当たりの実践数の平均は4.46個である。

- 地球環境保護のため実践していることは、「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」が70.2%で最も多く、次いで「レジ袋の購入を抑える（リフューズ）」が66.2%、「電気の節約」が59.5%の順となっている。



(17) 行政手続きのデジタル化について

行政手続きのデジタル化に「満足」している市民は37.7%、「不満」な市民は20.9%で「満足」している市民の方がやや多いが、「わからない」と回答した市民も32.8%となっている。

特に力を入れてほしいデジタル化施策は「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が最も多い。

行政サービスのデジタル化への不安としては「個人情報漏洩して悪用される」が6割を上回っている。

- 那覇市に特に力を入れてほしいデジタル化施策については、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が47.9%で最も高く、次いで「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」が40.5%、「インターネットで公共施設や窓口の予約ができる」が25.0%の順となっている。
- 行政サービスのデジタル化に不安を感じるものについては、「個人情報漏洩して悪用される」が62.1%と最も高く、次いで「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」が42.7%、「スマートフォン等の機器にウイルスが感染し、不正操作される」が36.0%の順となっている。

(18) 幸福度

那覇市民の平均幸せ点数は10点満点中6.48点となっている。

昨年と比べて幸福感が「変わらない」市民は6割以上となっている。

- 那覇市民の平均幸せ点数は、10点満点中6.48点となっている。
- 昨年と比べて幸福感が「変わらない」が66.6%で最も多く、次いで「上がっている」が16.0%、「下がっている」が13.5%の順となっている。

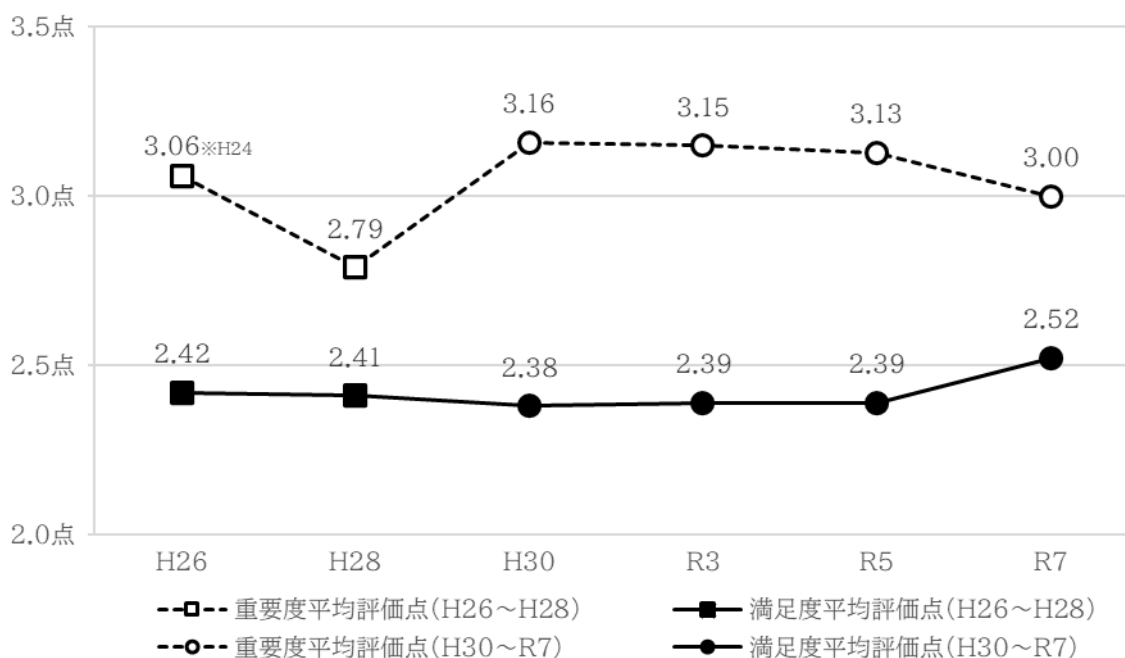
2. 「市の政策に対する満足度・重要度」の調査結果概要

第5次総合計画で掲げた23の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 2,631点
 満足度の有意回答者数平均 = 1,043人
満足度の一人当たり平均評価点 = 2.52点

重要度の合計点数平均 = 3,717点
 重要度の有意回答者数平均 = 1,239人
重要度の一人当たり平均評価点 = 3.00点

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成26年度～令和7年度）



※H26調査は重要度調査を実施しておらず、H24調査の重要度を掲載している。

平成30年度の調査から第5次総合計画の政策となったことで、質問項目が前回と異なることから、単純比較は出来ないが、参考として、前回までの調査結果との経年変化を掲載した。

満足度については、政策23項目のうち全施策の平均点2.52以上の項目が11項目（前回は23項目の内11項目）あることから、満足度に大きな変化はないと考えられる。

重要度については、政策23項目のうち全施策の平均点3.00以上の項目が12項目（前回は23項目の内14項目）という結果となっている。

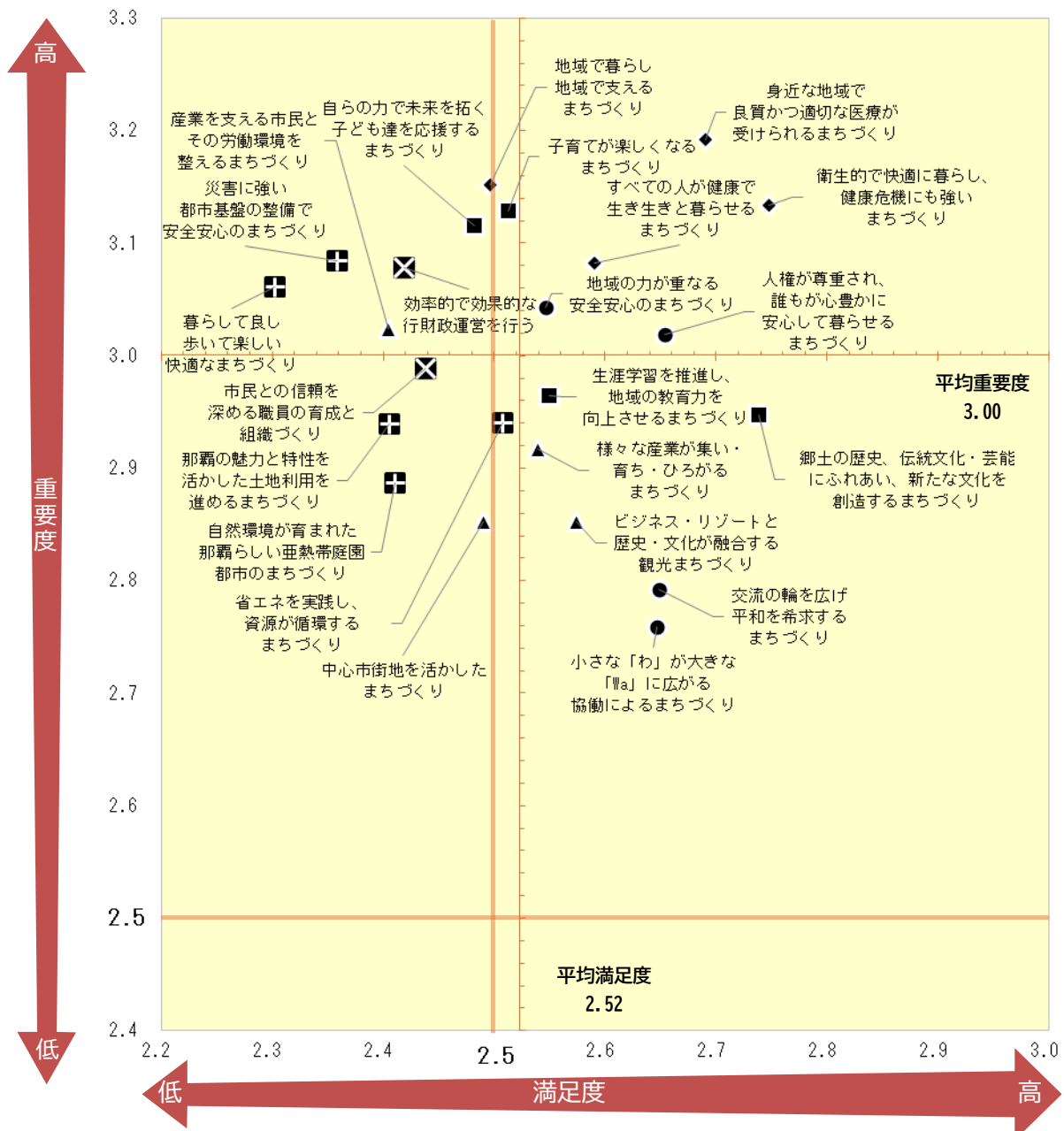
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。

- 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。

- 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
- 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
- 中心市街地を活かしたまちづくり

●平均満足度・平均重要度を中心とした23の個々の政策分布図



Ⅲ. 調査結果（項目別）

Ⅲ. 調査結果 (項目別)

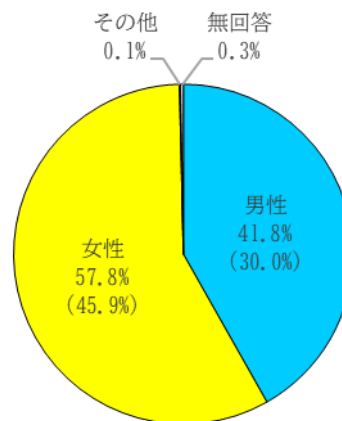
質問 1. あなたの性別を、次の中から 1つお選びください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

回答者の性別については、「男性」が788人(41.8%)、「女性」が1,090人(57.8%)、「その他」が2人(0.1%)、「無回答」が5人(0.3%)となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	割合
男性	788	41.8%
女性	1,090	57.8%
その他	2	0.1%
無回答	5	0.3%
合計	1,885	100.0%



()内は送付数に対する回収率

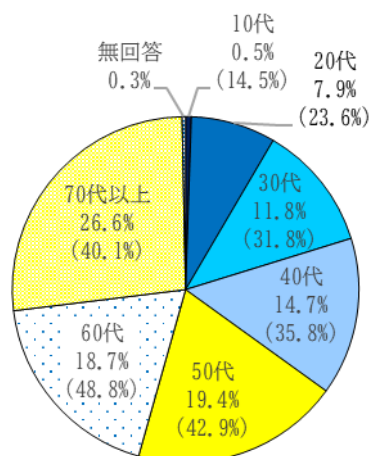
質問 2. あなたの年代を、次の中から 1つお選びください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上

年代別の回収率をみると、「70代以上」が26.6%と最も多く、次いで「50代」が19.4%、「60代」が18.7%の順となっている。

送付数に対する回収率は、「20代」の割合が低いものの概ね各年代の那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	割合
10代	10	0.5%
20代	149	7.9%
30代	222	11.8%
40代	278	14.7%
50代	366	19.4%
60代	352	18.7%
70代以上	502	26.6%
無回答	6	0.3%
合計	1,885	100.0%



()内は送付数に対する回収率

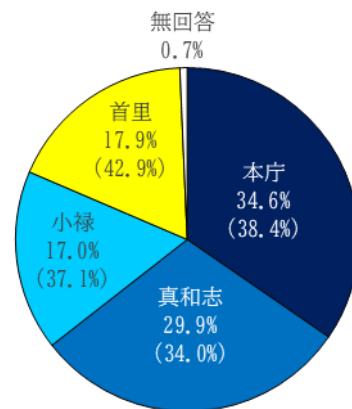
質問 3. あなたがお住まいの地区を、次の中から 1つお選びください。

1. 本庁地区 2. 真和志地区 3. 小禄地区 4. 首里地区

居住地区別については、送付数に対する回収率が「首里地区」でやや高くなっているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本数が確保されている。



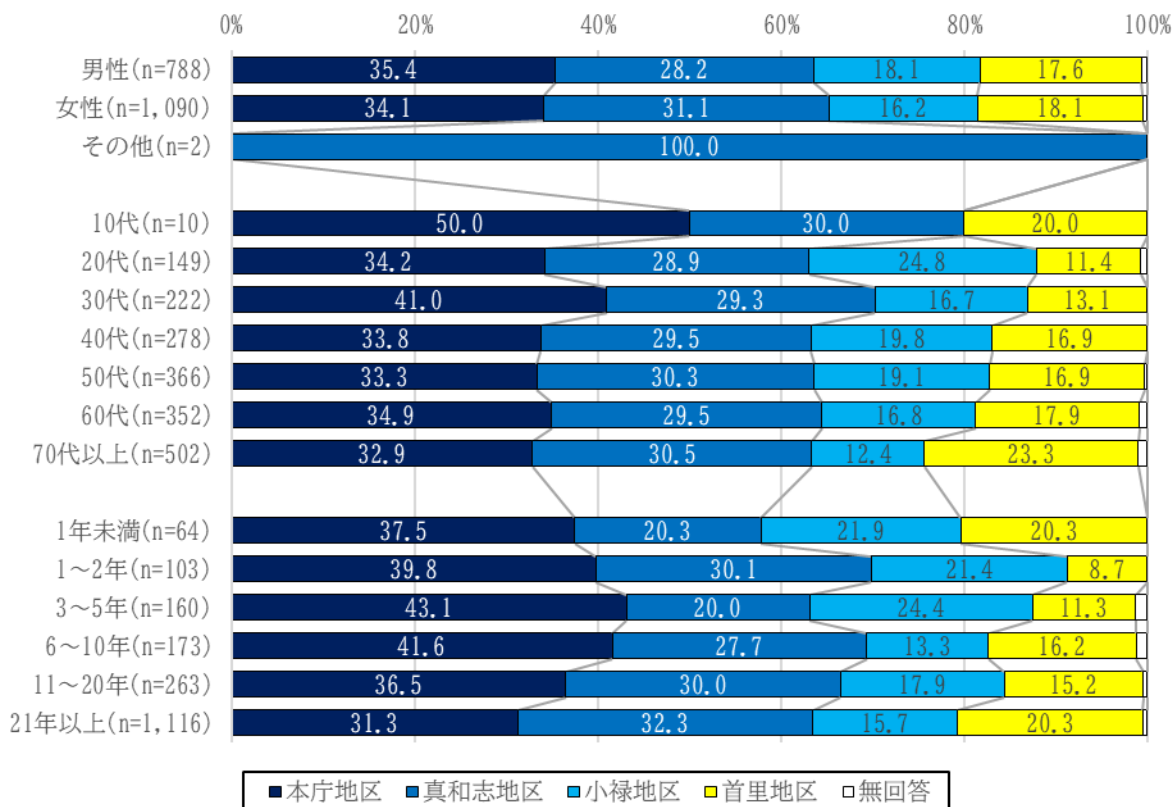
選択項目	回答数	割合
本庁地区	652	34.6%
真和志地区	563	29.9%
小禄地区	320	17.0%
首里地区	337	17.9%
無回答	13	0.7%
合計	1,885	100.0%



()内は送付数に対する回収率

【属性別集計 (回答者属性無回答除く)】

属性別でみると、「本庁地区」では居住年数「21年以上」の割合が最も低く、「真和志地区」では居住年数「21年以上」の割合が最も高い。「首里地区」では居住年数「1年未満」と「21年以上」の割合が高くなっている。また、「小禄地区」では居住年数の長い人よりも短い人の割合が高い傾向がある。

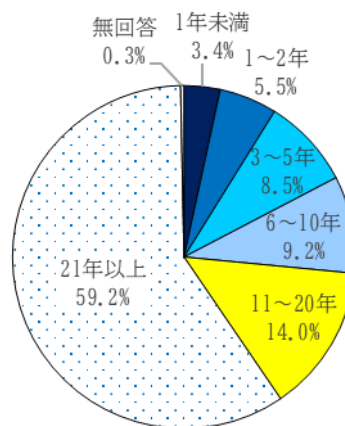


質問 4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～2年 | 3. 3～5年 |
| 4. 6～10年 | 5. 11～20年 | 6. 21年以上 |

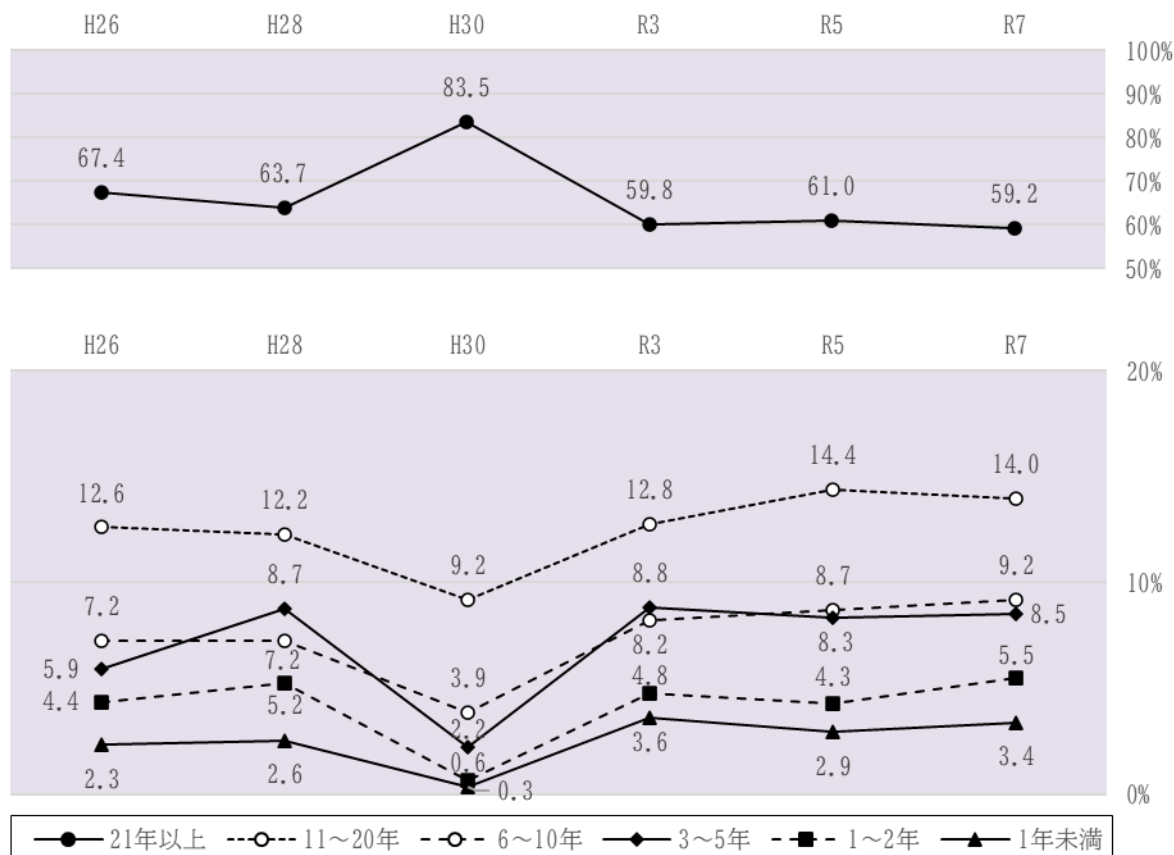
居住年数については、「21年以上」が59.2%と最も多く、次いで「11～20年」が14.0%、「6～10年」が9.2%の順となっており、居住年数に比例して回答割合が高いという結果になった。

選択項目	回答数	割合
1年未満	64	3.4%
1～2年	103	5.5%
3～5年	160	8.5%
6～10年	173	9.2%
11～20年	263	14.0%
21年以上	1,116	59.2%
無回答	6	0.3%
合計	1,885	100.0%



【経年変化 (平成 26 年～令和 7 年)】

前回調査と比較すると、「21年以上」の割合が1.8ポイント減少している。

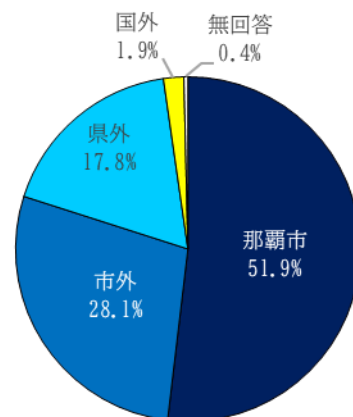


質問 5. あなたのご出身はどちらですか。次の中から 1つお選びください。

1. 那覇市 2. 市外 3. 県外 4. 国外

出身地については、「那覇市」が51.9%と最も多く、次いで「市外」が28.1%、「県外」が17.8%、「国外」が1.9%の順となっている。

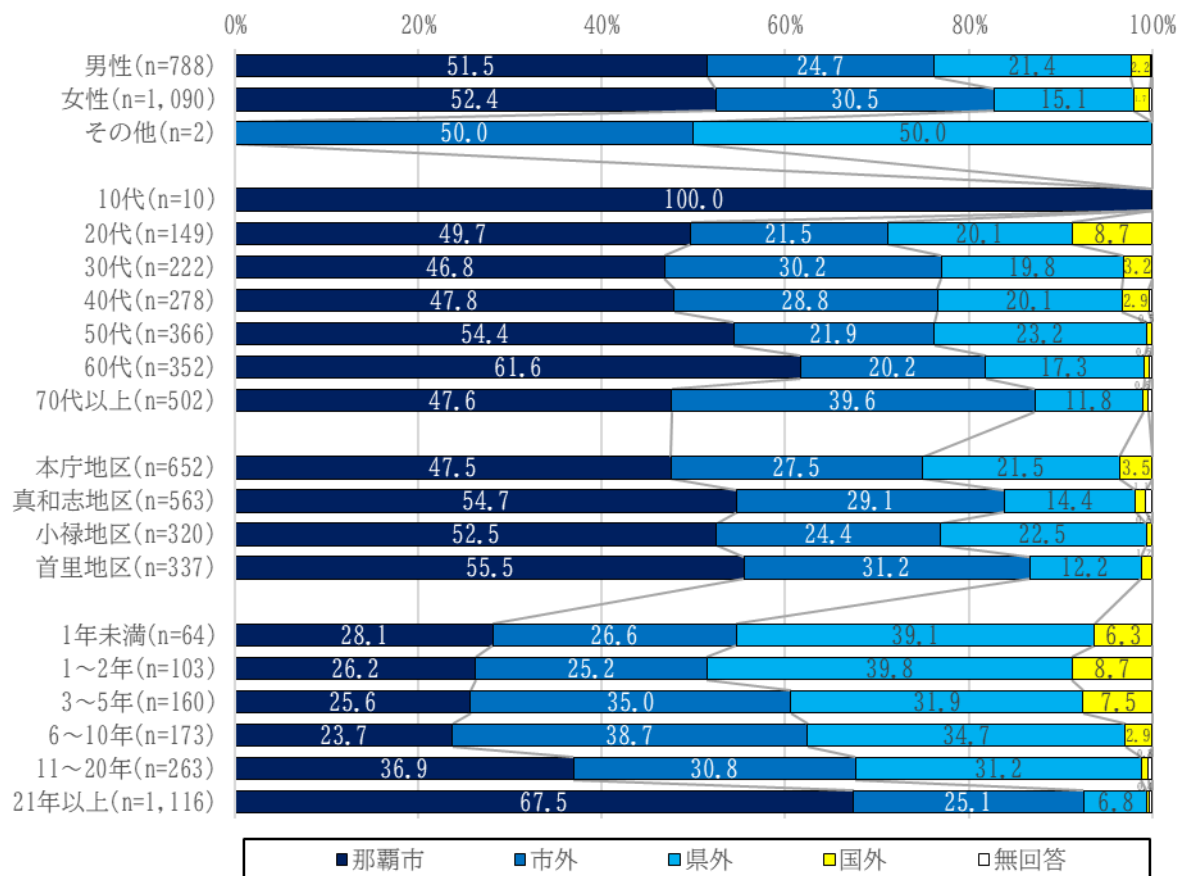
選択項目	回答数	割合
那覇市	978	51.9%
市外	529	28.1%
県外	335	17.8%
国外	36	1.9%
無回答	7	0.4%
合計	1,885	100.0%



【属性別集計（回答者属性無回答除く）】

居住区域別でみると、本庁地区、小禄地区では「県外」の割合が高く、真和志地区、首里地区では「市外」の割合が高くなっている。

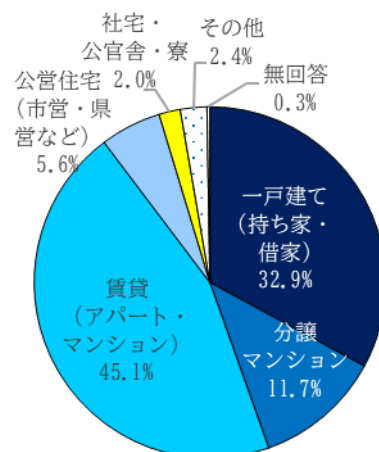
居住年数別でみると、2年未満では「県外」、3～10年では「市外」、11年以上では「那覇市」の割合が最も高くなっている。



質問 6. あなたのお住まいの住居形態を、次の中から 1つお選びください。
 1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
 4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
 6. その他()

住居形態別については、「賃貸(アパート・マンション)」が45.1%と最も多く、次いで「一戸建て(持ち家・借家)」が32.9%、「分譲マンション」が11.7%の順となっている。

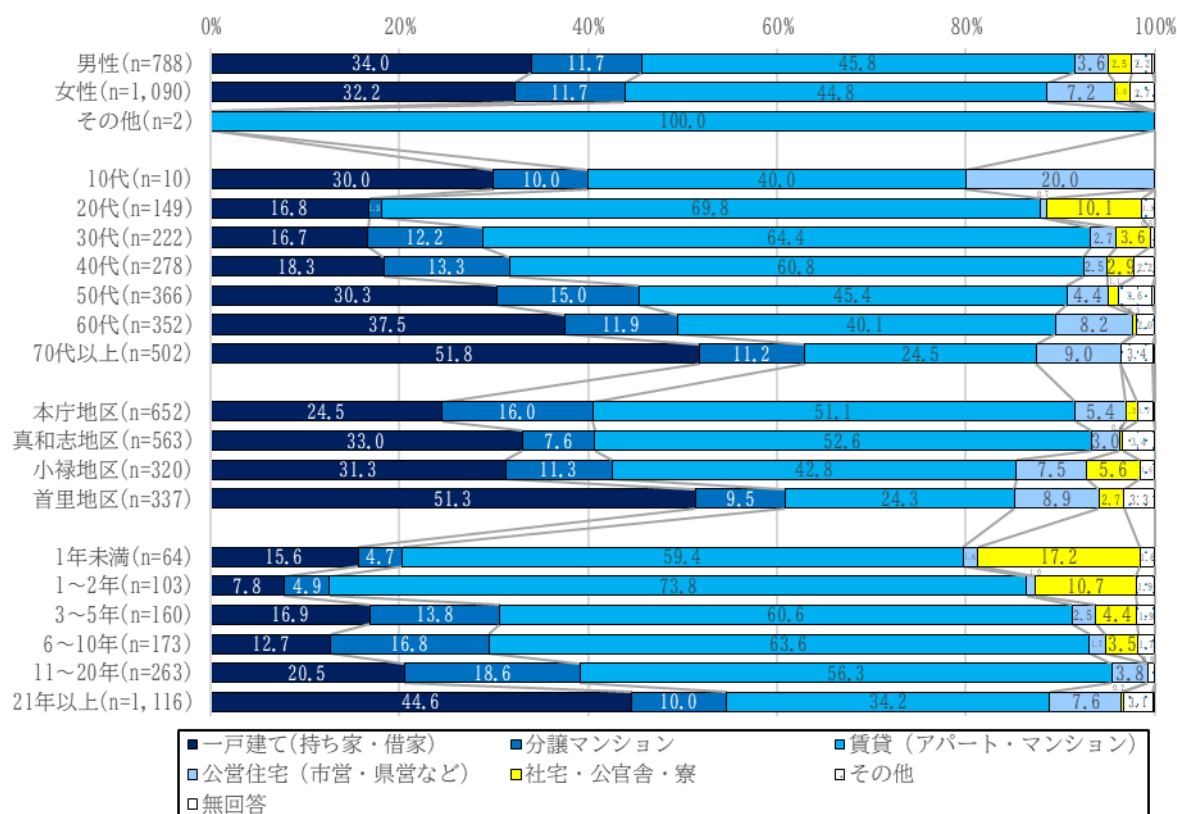
選択項目	回答数	割合
一戸建て(持ち家・借家)	620	32.9%
分譲マンション	220	11.7%
賃貸(アパート・マンション)	851	45.1%
公営住宅(市営・県営など)	106	5.6%
社宅・公官舎・寮	37	2.0%
その他	46	2.4%
無回答	5	0.3%
合計	1,885	100.0%



【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

年代別でみると、60代以下では、「賃貸(アパート・マンション)」の割合が最も高くなっており、年齢が上がるにつれて「一戸建て(持ち家・借家)」の割合が高くなる傾向にある。

居住年数別でみると、20年以下では「賃貸」の割合が高いが、21年以上では「一戸建て(持家・借家)」の割合が高くなっている。



（1）住み心地について

質問7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

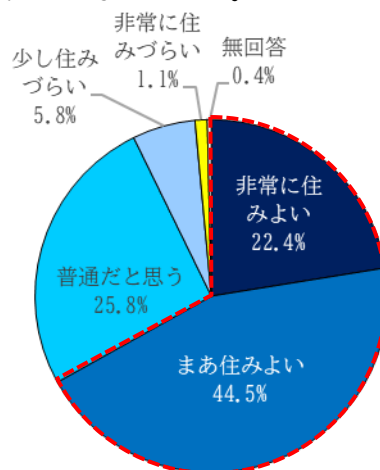
- 1. 非常に住みよい 2. まあ住みよい 3. 普通だと思う
- 4. 少し住みづらい 5. 非常に住みづらい

那覇市の住み心地が「住みよい」の割合は66.9%、「住みづらい」の割合は6.9%である。

那覇市の住み心地については、「まあ住みよい」が44.5%と最も多く、次いで「普通だと思う」が25.8%、「非常に住みよい」が22.4%の順となっている。

「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると6.9%となっている。

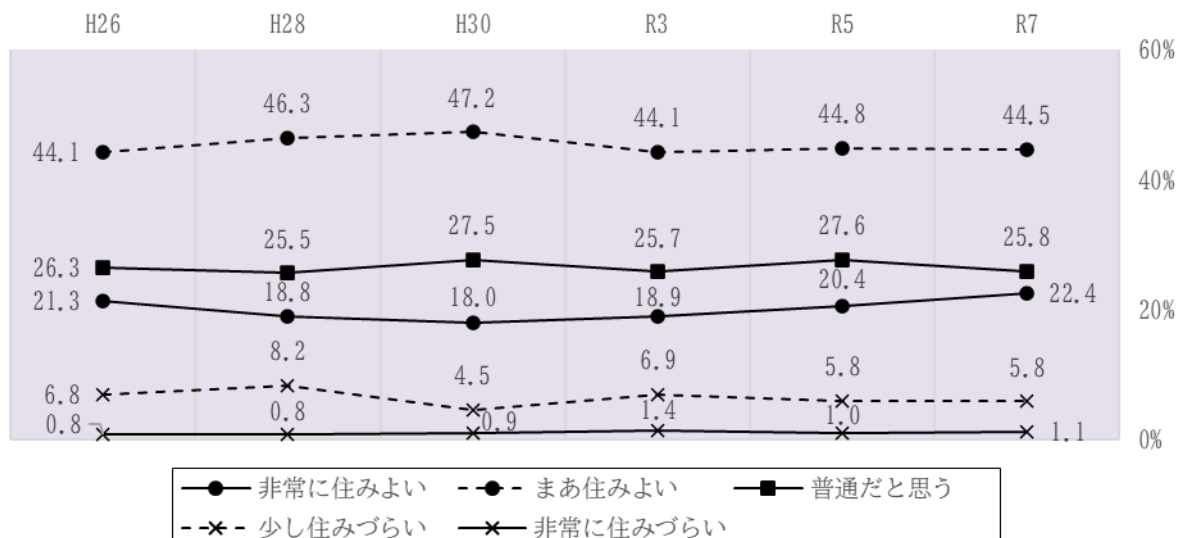
選択項目	回答数	割合
非常に住みよい	423	22.4%
まあ住みよい	838	44.5%
普通だと思う	487	25.8%
少し住みづらい	109	5.8%
非常に住みづらい	21	1.1%
無回答	7	0.4%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（平成26年度～令7年度）】

前回調査と比較すると、「非常に住みよい」の割合は2.0ポイント増加し、「普通だと思う」の割合は1.8ポイント減少している。

今回の調査では、「少し住みづらい」、「非常に住みづらい」の割合が変動していないことから、市民の住み心地に対する評価が少し上がっていることが伺える。

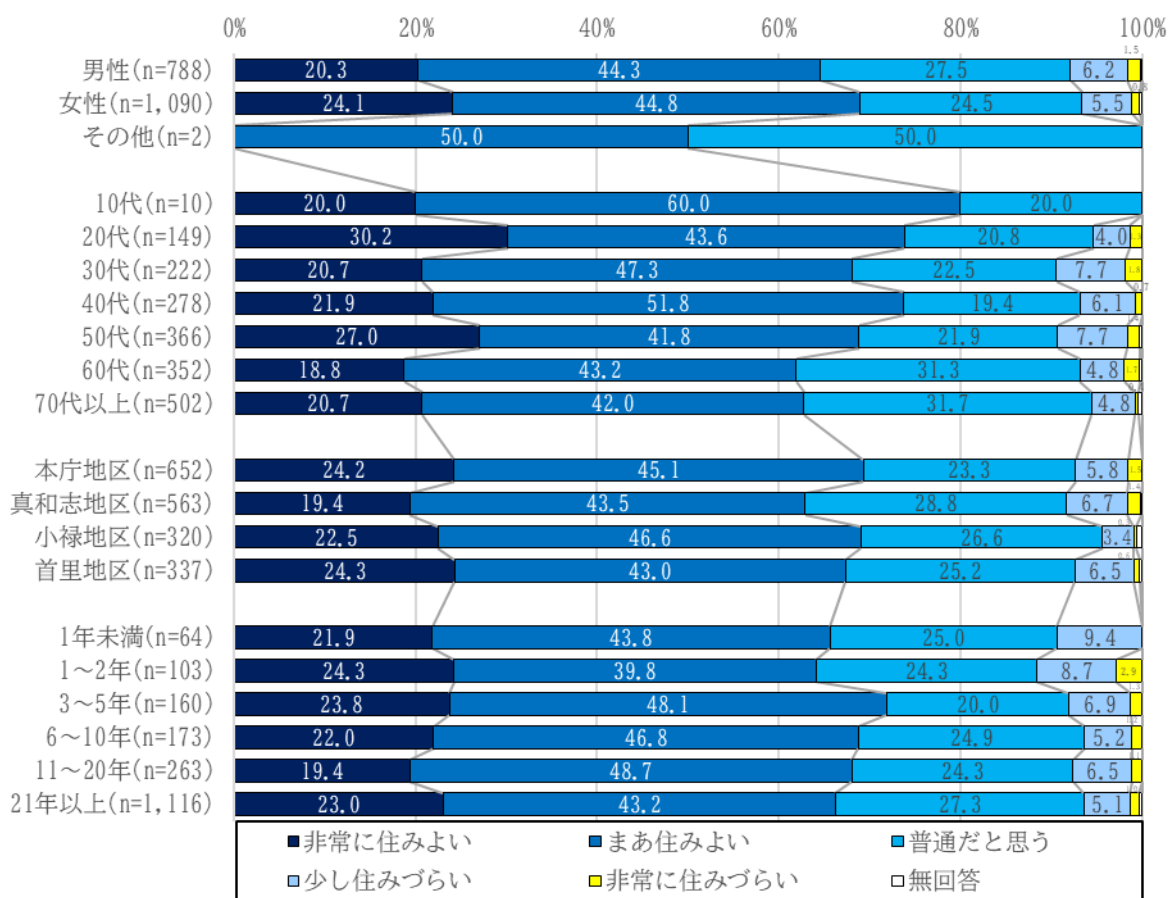


【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代は「非常に住みよい」の割合が高くなっている。

居住年数別では、1～2年で「非常に住みよい」の割合が最も高くなっている。

選択項目		非常に 住みよい	まあ 住みよい	普通 だと思う	少し 住みづらい	非常に 住みづらい	無 回答
性別	男性 (n= 788)	160	349	217	49	12	1
	女性 (n= 1,090)	263	488	267	60	9	3
	その他 (n= 2)	0	1	1	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	2	6	2	0	0	0
	20代 (n= 149)	45	65	31	6	2	0
	30代 (n= 222)	46	105	50	17	4	0
	40代 (n= 278)	61	144	54	17	2	0
	50代 (n= 366)	99	153	80	28	5	1
	60代 (n= 352)	66	152	110	17	6	1
	70代以上 (n= 502)	104	211	159	24	2	2
地区別	本庁地区 (n= 652)	158	294	152	38	10	0
	真和志地区 (n= 563)	109	245	162	38	8	1
	小祿地区 (n= 320)	72	149	85	11	1	2
	首里地区 (n= 337)	82	145	85	22	2	1
居住年数別	1年未満 (n= 64)	14	28	16	6	0	0
	1～2年 (n= 103)	25	41	25	9	3	0
	3～5年 (n= 160)	38	77	32	11	2	0
	6～10年 (n= 173)	38	81	43	9	2	0
	11～20年 (n= 263)	51	128	64	17	3	0
	21年以上 (n= 1,116)	257	482	305	57	11	4



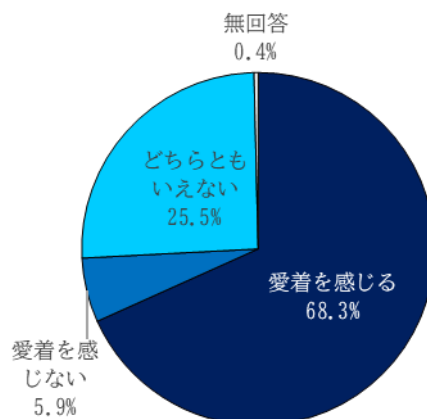
質問 8. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。次の中から 1 つお選びください。

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

那覇市に「自分のまち」として「愛着を感じる」の割合は 68.3%、「愛着を感じない」の割合は 5.9%である。

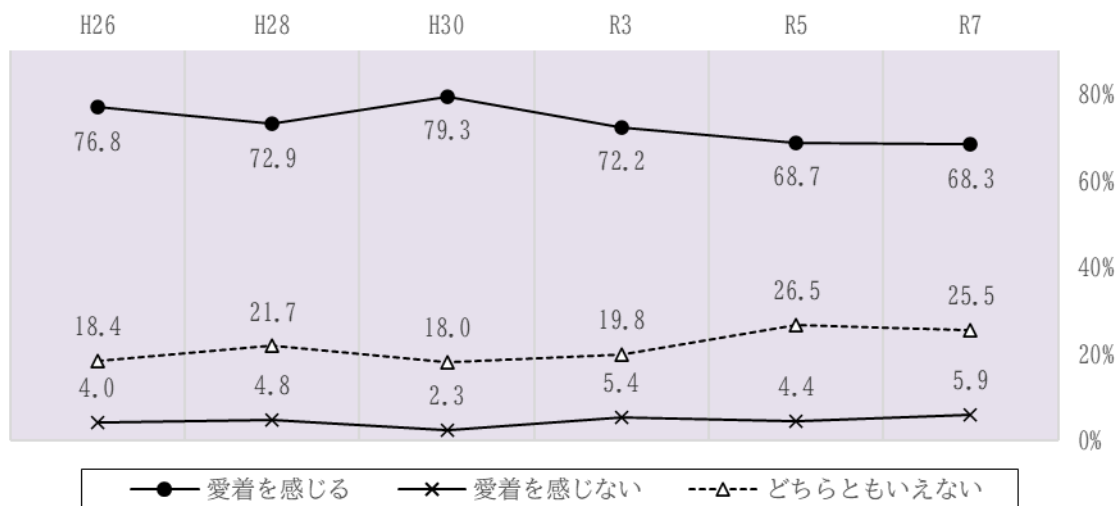
那覇市に愛着を感じるかについては、「愛着を感じる」の割合が 68.3%と最も多く、約 7 割を占めている。また、「どちらともいえない」の割合が 25.5%、「愛着を感じない」の割合が 5.9%となっている。

選択項目	回答数	割合
愛着を感じる	1,287	68.3%
愛着を感じない	111	5.9%
どちらともいえない	480	25.5%
無回答	7	0.4%
合 計	1,885	100.0%



【経年変化（平成 26 年度～令和 7 年度）】

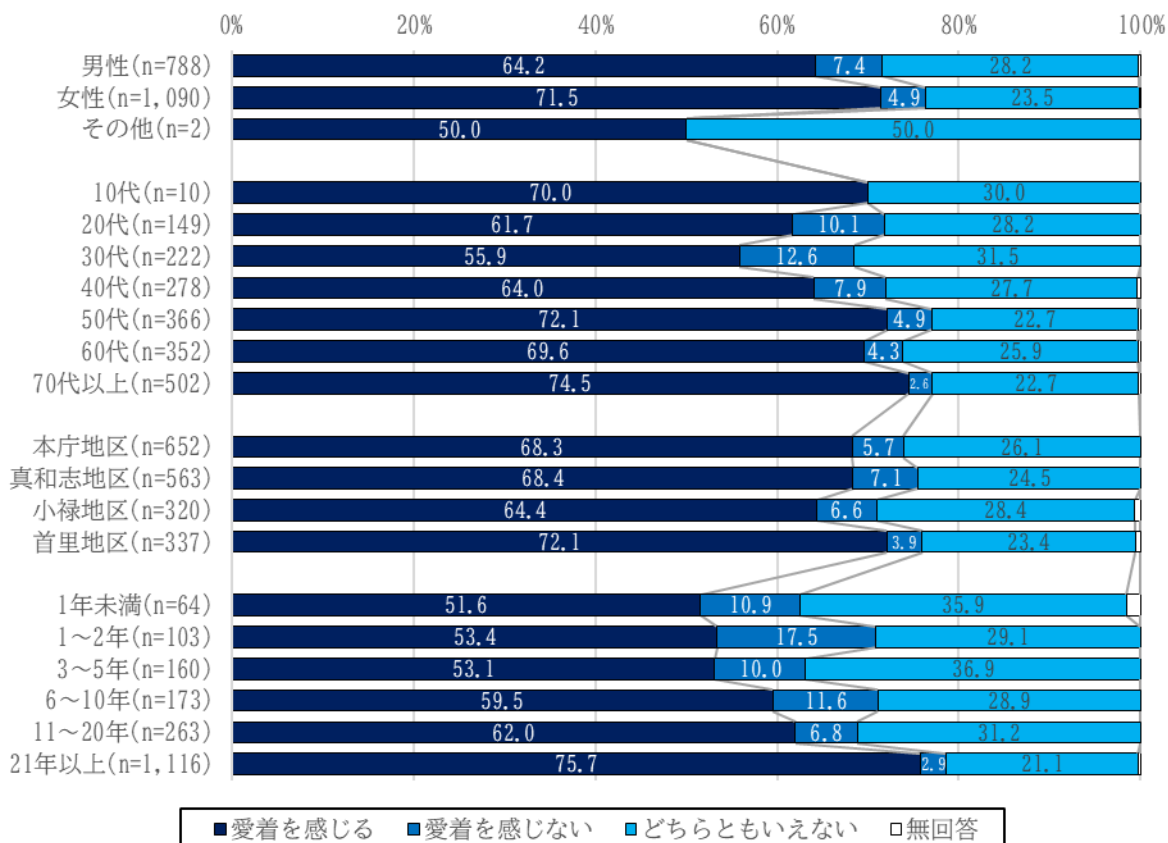
前回調査と比較すると、「愛着を感じる」の割合は 0.4 ポイント減少し、「愛着を感じない」の割合は 1.5 ポイント増加し、「どちらともいえない」の割合は 1.0 ポイント減少している。那覇市に愛着を感じる市民の割合が低くなっていることが伺える。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、30代は「愛着を感じる」の割合が低くなっている。
 居住地区別でみると、首里地区で「愛着を感じる」の割合が高くなっている。
 居住年数別でみると、居住年数が長いほど「愛着を感じる」の割合が高くなる傾向にある。

選択項目		愛着を感じる	愛着を感じない	どちらともいえない	無回答
回答者属性(n=合計)					
性別	男性 (n= 788)	506	58	222	2
	女性 (n= 1,090)	779	53	256	2
	その他 (n= 2)	1	0	1	0
年代別	10代 (n= 10)	7	0	3	0
	20代 (n= 149)	92	15	42	0
	30代 (n= 222)	124	28	70	0
	40代 (n= 278)	178	22	77	1
	50代 (n= 366)	264	18	83	1
	60代 (n= 352)	245	15	91	1
	70代以上 (n= 502)	374	13	114	1
地区別	本庁地区 (n= 652)	445	37	170	0
	真和志地区 (n= 563)	385	40	138	0
	小禄地区 (n= 320)	206	21	91	2
	首里地区 (n= 337)	243	13	79	2
居住年数別	1年未満 (n= 64)	33	7	23	1
	1~2年 (n= 103)	55	18	30	0
	3~5年 (n= 160)	85	16	59	0
	6~10年 (n= 173)	103	20	50	0
	11~20年 (n= 263)	163	18	82	0
	21年以上 (n= 1,116)	845	32	236	3



質問8-1. 質問8で「1. 愛着を感じる」を選択した方に伺います。愛着を感じる理由を2つまでお選びください。

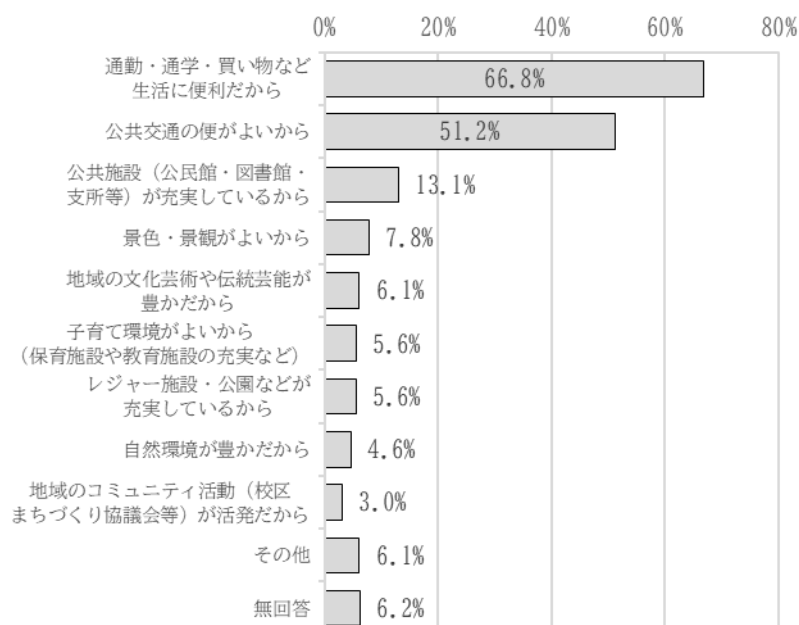
1. 公共交通の便がよいから
2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから
3. 子育て環境がよいから (保育施設や教育施設の充実など)
4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから
5. 地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等) が活発だから
6. レジャー施設・公園などが充実しているから
7. 景色・景観がよいから
8. 公共施設 (公民館・図書館・支所等) が充実しているから
9. 自然環境が豊かだから
10. その他 ()

愛着を感じる理由で最も多かったのは「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」である。

愛着を感じる理由については、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」の割合が 51.2%、「公共施設 (公民館・図書館・支所等) が充実しているから」の割合が 13.1%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	通勤・通学・買い物など生活に便利だから	860	66.8%
2位	公共交通の便がよいから	659	51.2%
3位	公共施設 (公民館・図書館・支所等) が充実しているから	169	13.1%
4位	景色・景観がよいから	101	7.8%
5位	地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから	79	6.1%
6位	子育て環境がよいから (保育施設や教育施設の充実など)	72	5.6%
6位	レジャー施設・公園などが充実しているから	72	5.6%
8位	自然環境が豊かだから	59	4.6%
9位	地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等) が活発だから	39	3.0%
-	その他	79	6.1%
-	無回答	80	6.2%
合 計		2,269	176.3%
回答者数		1,287	-

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



今回の調査結果から、那覇市が多く企業や商業施設を有していることや、モノレールやバスなどの公共交通機関が整備されていることなど、生活における利便性の高さが市民の愛着度につながっていることが見受けられる。

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

いずれの属性においても「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」の割合が最も多く、次いで「公共交通の便がよいから」の順となっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		公共交通の便がよいから	通勤・通学・買い物など生活に便利だから	子育て環境がよいから (保育施設や教育施設の充実など)	地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから	地域まわりのコミュニティ活動 (校区まわりの協議会等) が活発だから	レジャー施設・公園などが充実しているから	景色・景観がよいから	公共施設 (公民館・図書館・支所等) が充実しているから	自然環境が豊かだから	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)												
性別	男性 (n= 506)	231 45.7	321 63.4	26 5.1	36 7.1	17 3.4	45 8.9	40 7.9	69 13.6	28 5.5	31 6.1	36 7.1
	女性 (n= 779)	428 54.9	538 69.1	46 5.9	43 5.5	22 2.8	27 3.5	61 7.8	100 12.8	31 4.0	48 6.2	43 5.5
	その他 (n= 1)	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 7)	3 42.9	7 100.0	-	-	-	1 14.3	-	1 14.3	-	-	-
	20代 (n= 92)	43 46.7	65 70.7	3 3.3	7 7.6	4 4.3	5 5.4	10 10.9	10 10.9	4 4.3	4 4.3	3 3.3
	30代 (n= 124)	64 51.6	92 74.2	11 8.9	7 5.6	-	8 6.5	10 8.1	15 12.1	5 4.0	9 7.3	3 2.4
	40代 (n= 178)	90 50.6	139 78.1	18 10.1	12 6.7	4 2.2	12 6.7	10 5.6	15 8.4	7 3.9	12 6.7	4 2.2
	50代 (n= 264)	137 51.9	197 74.6	11 4.2	18 6.8	7 2.7	13 4.9	20 7.6	27 10.2	8 3.0	23 8.7	8 3.0
	60代 (n= 245)	143 58.4	171 69.8	14 5.7	11 4.5	10 4.1	11 4.5	21 8.6	32 13.1	11 4.5	12 4.9	12 4.9
	70代以上 (n= 374)	177 47.3	187 50.0	15 4.0	24 6.4	14 3.7	22 5.9	30 8.0	68 18.2	24 6.4	19 5.1	50 13.4
地区別	本庁地区 (n= 445)	216 48.5	299 67.2	26 5.8	24 5.4	7 1.6	38 8.5	36 8.1	50 11.2	22 4.9	28 6.3	33 7.4
	真和志地区 (n= 385)	212 55.1	279 72.5	9 2.3	19 4.9	13 3.4	13 3.4	15 3.9	58 15.1	11 2.9	22 5.7	25 6.5
	小緑地区 (n= 206)	111 53.9	142 68.9	15 7.3	8 3.9	7 3.4	13 6.3	14 6.8	26 12.6	8 3.9	14 6.8	10 4.9
	首里地区 (n= 243)	119 49.0	136 56.0	22 9.1	28 11.5	11 4.5	7 2.9	33 13.6	35 14.4	15 6.2	15 6.2	11 4.5
居住年数別	1年未満 (n= 33)	13 39.4	16 48.5	2 6.1	2 6.1	-	3 9.1	8 24.2	3 9.1	4 12.1	-	4 12.1
	1～2年 (n= 55)	27 49.1	32 58.2	3 5.5	6 10.9	1 1.8	3 5.5	8 14.5	5 9.1	5 9.1	8 14.5	2 3.6
	3～5年 (n= 85)	46 54.1	55 64.7	4 4.7	3 3.5	1 1.2	7 8.2	10 11.8	14 16.5	8 9.4	7 8.2	1 1.2
	6～10年 (n= 103)	54 52.4	65 63.1	8 7.8	10 9.7	7 6.8	5 4.9	12 11.7	10 9.7	4 3.9	11 10.7	3 2.9
	11～20年 (n= 163)	82 50.3	117 71.8	7 4.3	15 9.2	5 3.1	11 6.7	11 6.7	20 12.3	4 2.5	8 4.9	8 4.9
	21年以上 (n= 845)	436 51.6	574 67.9	48 5.7	43 5.1	25 3.0	43 5.1	51 6.0	116 13.7	33 3.9	44 5.2	62 7.3

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・生まれ育った所だから (29人) 男性-60代-首里地区・他
- ・長年住んでいるから (15人) 女性-70代以上-本庁地区・他
- ・住環境が落ち着いている (10人) 女性-50代-小緑地区・他

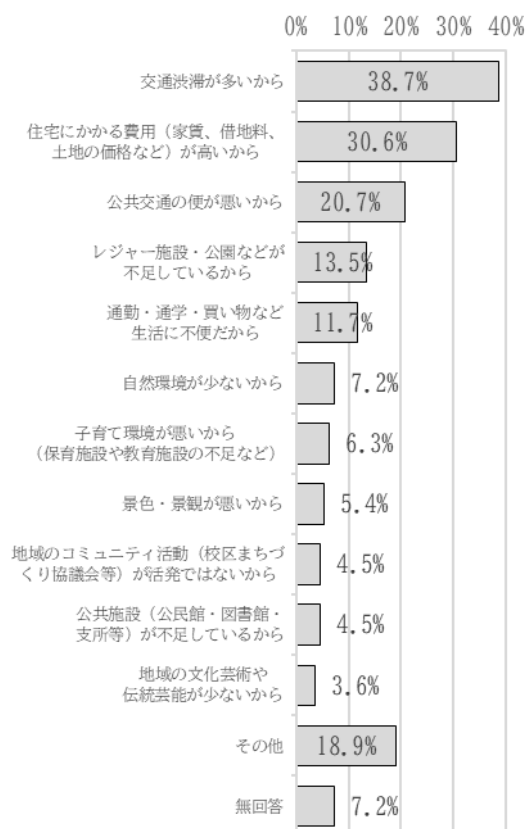
質問 8-2. 質問 8 で「2. 愛着を感じない」を選択した方に伺います。愛着を感じない理由を 2 つまでお選びください。

1. 公共交通の便が悪いから
2. 交通渋滞が多いから
3. 通勤・通学・買い物など生活に不便だから
4. 子育て環境が悪いから (保育施設や教育施設の不足など)
5. 住宅にかかる費用 (家賃、借地料、土地の価格など) が高いから
6. 地域の文化芸術や伝統芸能が少ないから
7. 地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等) が活発ではないから
8. レジャー施設・公園などが不足しているから
9. 景色・景観が悪いから
10. 公共施設 (公民館・図書館・支所等) が不足しているから
11. 自然環境が少ないから
12. その他 (_____)

愛着を感じない理由で最も多かったのは「交通渋滞が多いから」である。

愛着を感じない理由については、「交通渋滞が多いから」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「住宅にかかる費用が高いから」の割合が 30.6%、「公共交通の便が悪いから」の割合が 20.7%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	交通渋滞が多いから	43	38.7%
2位	住宅にかかる費用 (家賃、借地料、土地の価格など) が高いから	34	30.6%
3位	公共交通の便が悪いから	23	20.7%
4位	レジャー施設・公園などが不足しているから	15	13.5%
5位	通勤・通学・買い物など生活に不便だから	13	11.7%
6位	自然環境が少ないから	8	7.2%
7位	子育て環境が悪いから (保育施設や教育施設の不足など)	7	6.3%
8位	景色・景観が悪いから	6	5.4%
9位	地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等) が活発ではないから	5	4.5%
9位	公共施設 (公民館・図書館・支所等) が不足しているから	5	4.5%
11位	地域の文化芸術や伝統芸能が少ないから	4	3.6%
-	その他	21	18.9%
-	無回答	8	7.2%
合計		192	173.0%
回答者数		111	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

今回の調査結果から、那覇市の交通渋滞によるストレスや、移動に不便であること、住宅にかかる出費が大きいことなどが愛着を感じないことにつながっていることが見受けられる。

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

性別でみると、男性では「交通渋滞が多いから」が最も多く、女性では「住宅にかかる費用 (家賃、借地料、土地の価格など)が高いから」が最も多くなっている。

年代別では、20代と70代以上では「住宅にかかる費用 (家賃、借地料、土地の価格など)が高いから」が最も多く、30～60代では「交通渋滞が多いから」が最も多くなっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		公共交通の便が悪いから	交通渋滞が多いから	通勤・通学・買い物など生活に不便だから	子育て環境が悪いから (保育施設や教育施設の不足など)	住宅にかかる費用 (家賃、借地料、土地の価格など)が高いから	地域の文化芸術や伝統芸能が少ないから	地域のコミュニティ活動 (校区まちづくり協議会等)が活発ではないから	レジャー施設・公園などが不足しているから	景色・景観が悪いから	公共施設 (公民館・図書館・支所等)が不足しているから	自然環境が少ないから	その他	無回答
性別	男性 (n= 58)	13 22.4	27 46.6	8 13.8	4 6.9	13 22.4	1 1.7	3 5.2	8 13.8	2 3.4	2 3.4	2 3.4	17 29.3	2 3.4
	女性 (n= 53)	10 18.9	16 30.2	5 9.4	3 5.7	21 39.6	3 5.7	2 3.8	7 13.2	4 7.5	3 5.7	6 11.3	4 7.5	6 11.3
	その他 (n= 0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 15)	3 20.0	3 20.0	2 13.3	1 6.7	8 53.3	-	-	2 13.3	-	-	-	4 26.7	1 6.7
	30代 (n= 28)	3 10.7	12 42.9	4 14.3	2 7.1	10 35.7	3 10.7	-	5 17.9	1 3.6	2 7.1	-	5 17.9	2 7.1
	40代 (n= 22)	6 27.3	12 54.5	3 13.6	2 9.1	4 18.2	-	1 4.5	3 13.6	1 4.5	-	1 4.5	4 18.2	2 9.1
	50代 (n= 18)	4 22.2	10 55.6	1 5.6	2 11.1	4 22.2	-	-	1 5.6	-	1 5.6	5 27.8	7 38.9	-
	60代 (n= 15)	4 26.7	5 33.3	2 13.3	-	3 20.0	-	2 13.3	3 20.0	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	1 6.7
	70代以上 (n= 13)	3 23.1	1 7.7	1 7.7	-	5 38.5	1 7.7	2 15.4	1 7.7	1 7.7	1 7.7	4 30.8	-	2 15.4
地区別	本庁地区 (n= 37)	8 21.6	11 29.7	3 8.1	1 2.7	9 24.3	2 5.4	3 8.1	4 10.8	3 8.1	1 2.7	5 13.5	9 24.3	3 8.1
	真和志地区 (n= 40)	11 27.5	15 37.5	5 12.5	1 2.5	11 27.5	2 5.0	1 2.5	6 15.0	2 5.0	4 10.0	3 7.5	8 20.0	2 5.0
	小祿地区 (n= 21)	2 9.5	10 47.6	3 14.3	4 19.0	9 42.9	-	1 4.8	2 9.5	1 4.8	-	-	3 14.3	2 9.5
	首里地区 (n= 13)	2 15.4	7 53.8	2 15.4	1 7.7	5 38.5	-	-	3 23.1	-	-	-	1 7.7	1 7.7
居住年数別	1年未満 (n= 7)	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	-	-	-	-	-	2 28.6	1 14.3
	1～2年 (n= 18)	6 33.3	5 27.8	2 11.1	-	7 38.9	1 5.6	-	-	1 5.6	-	-	6 33.3	1 5.6
	3～5年 (n= 16)	2 12.5	11 68.8	-	2 12.5	6 37.5	1 6.3	1 6.3	4 25.0	-	-	-	6 37.5	1 6.3
	6～10年 (n= 20)	2 10.0	8 40.0	4 20.0	1 5.0	8 40.0	-	-	2 10.0	-	-	1 5.0	5 25.0	1 5.0
	11～20年 (n= 18)	5 27.8	2 11.1	3 16.7	2 11.1	4 22.2	1 5.6	1 5.6	3 16.7	-	1 5.6	1 5.6	4 22.2	3 16.7
	21年以上 (n= 32)	7 21.9	13 40.6	3 9.4	1 3.1	7 21.9	1 3.1	3 9.4	6 18.8	5 15.6	4 12.5	6 18.8	3 9.4	1 3.1

【選択肢「その他」の主な内容】

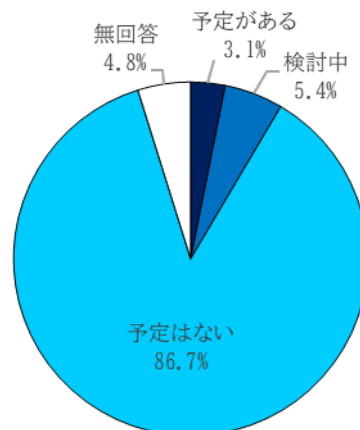
- ・生まれた場所ではないから (2人) 男性-40代-真和志地区・他
- ・駐車場がない (2人) 男性-40代-本庁地区・他
- ・観光客が多いから (2人) 男性-50代-本庁地区・他

質問9. 那覇市外へ1年以内に転出する予定はありますか。次の中から1つお選びください。
 1. 予定がある 2. 検討中 3. 予定はない

那覇市外へ1年以内に転出する予定について「予定はない」の割合は86.7%、「予定がある」の割合は3.1%である。

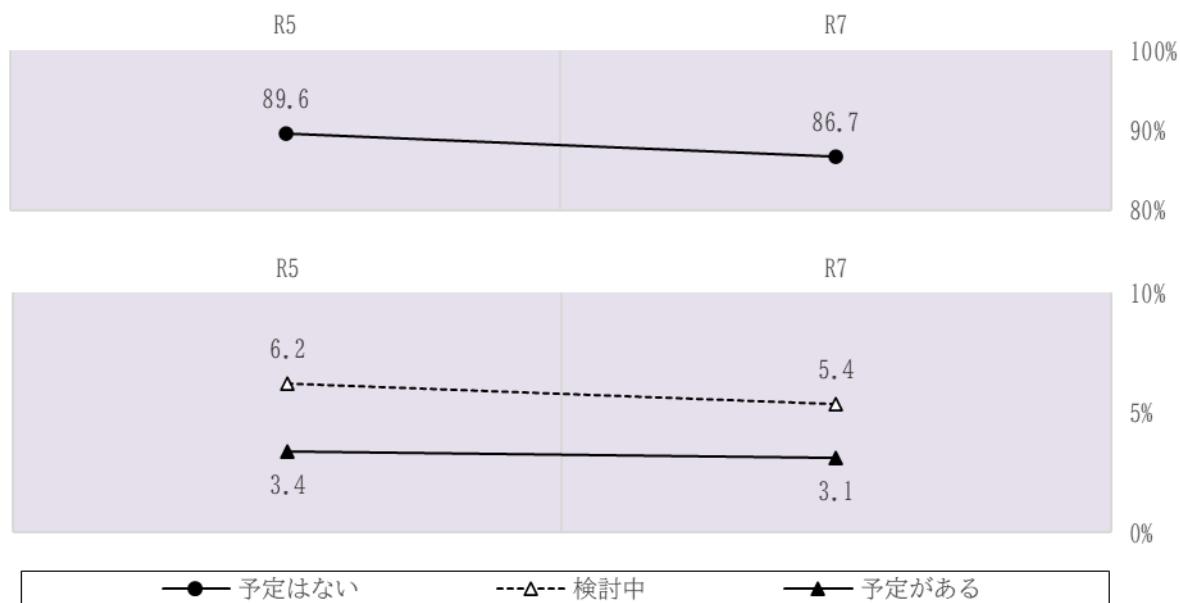
那覇市外へ1年以内に転出する予定については、「予定はない」の割合が86.7%と最も多く、約9割を占めている。また、「予定がある」の割合が3.1%、「検討中」の割合が5.4%となっている。

選択項目	回答数	割合
予定がある	59	3.1%
検討中	101	5.4%
予定はない	1,634	86.7%
無回答	91	4.8%
合 計	1,885	100.0%



【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

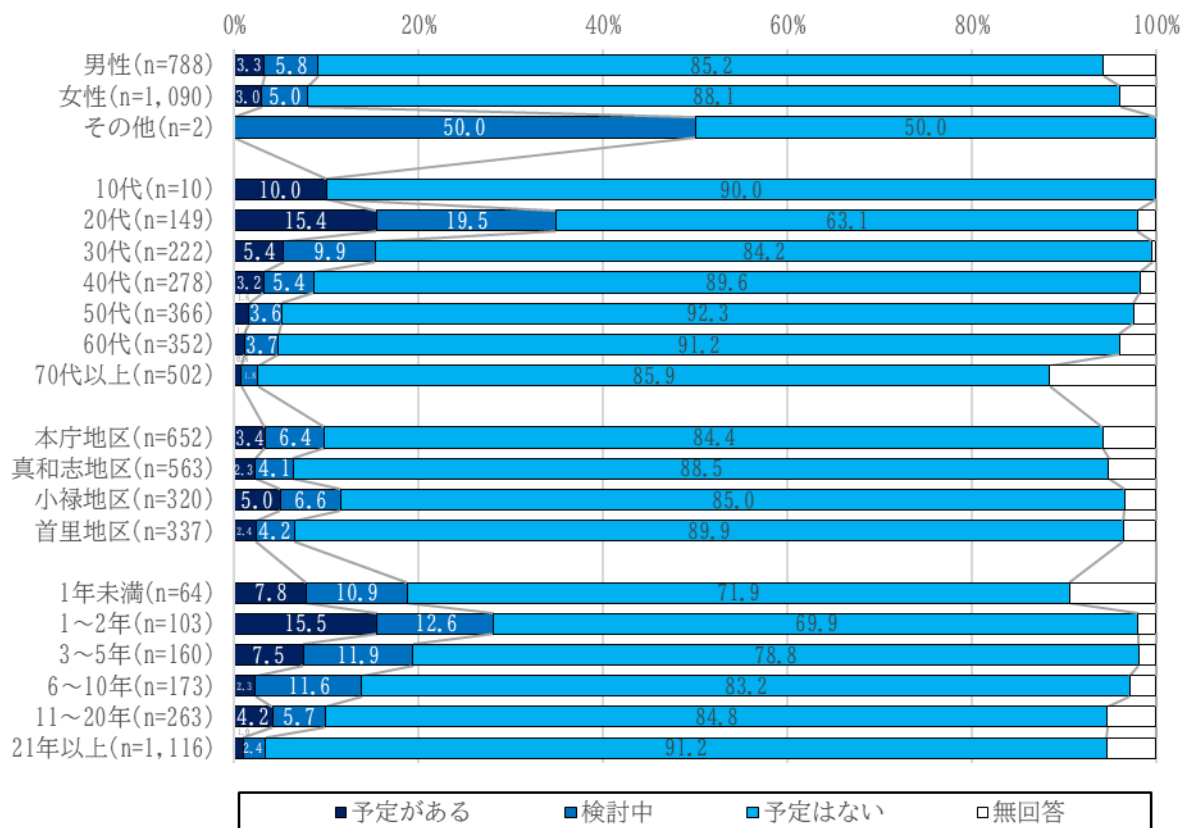
前回調査と比較すると、「予定はない」の割合が2.9ポイント減少し、「検討中」の割合が0.8ポイント減少し、「予定がある」の割合が0.3ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代で「予定がある」と「検討中」を合わせた割合が3割を上回っている。
 居住年数別でみると、1～2年で「予定がある」の割合が高く、10年以下で「検討中」の割合が1割を上回っている。

選択項目		予定がある	検討中	予定はない	無回答
回答者属性(n=合計)					
性別	男性 (n= 788)	26	46	671	45
	女性 (n= 1,090)	33	54	960	43
	その他 (n= 2)	0	1	1	0
年代別	10代 (n= 10)	1	0	9	0
	20代 (n= 149)	23	29	94	3
	30代 (n= 222)	12	22	187	1
	40代 (n= 278)	9	15	249	5
	50代 (n= 366)	6	13	338	9
	60代 (n= 352)	4	13	321	14
	70代以上 (n= 502)	4	9	431	58
地区別	本庁地区 (n= 652)	22	42	550	38
	真和志地区 (n= 563)	13	23	498	29
	小祿地区 (n= 320)	16	21	272	11
	首里地区 (n= 337)	8	14	303	12
居住年数別	1年未満 (n= 64)	5	7	46	6
	1～2年 (n= 103)	16	13	72	2
	3～5年 (n= 160)	12	19	126	3
	6～10年 (n= 173)	4	20	144	5
	11～20年 (n= 263)	11	15	223	14
	21年以上 (n= 1,116)	11	27	1,018	60



質問9で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。

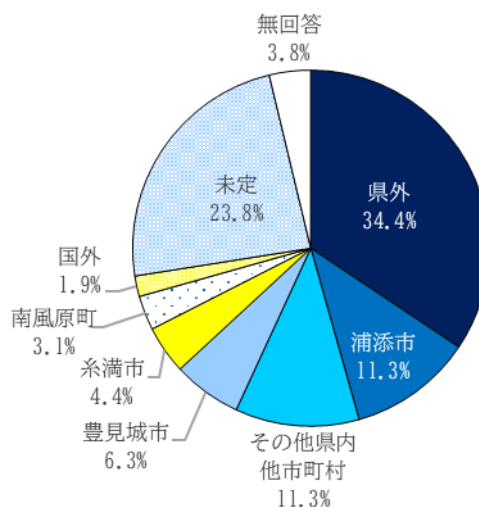
質問9-1. 転出予定（検討）先を次の中から1つお選びください。

- 1. 豊見城市 2. 浦添市 3. 南風原町 4. 糸満市
- 5. その他県内他市町村（ ）※市町村名をお書きください。
- 6. 県外 7. 国外 8. 未定

転出予定（検討）先のうち最も多かったのは「県外」である。

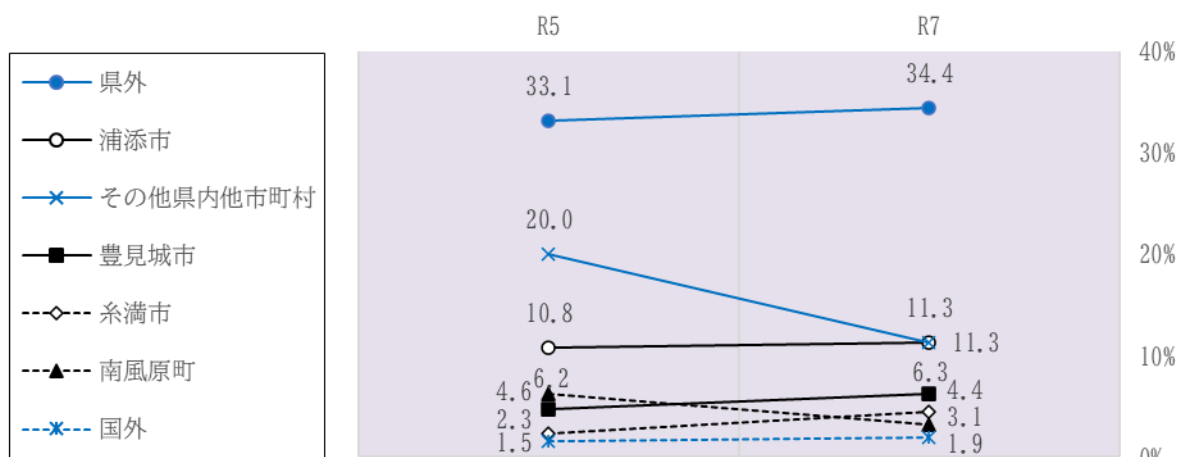
転出予定（検討）先については、「県外」の割合が34.4%と最も多く、次いで「浦添市」、「その他県内他市町村」の割合がともに11.3%、「豊見城市」の割合が6.3%となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	県外	55	34.4%
2位	浦添市	18	11.3%
2位	その他県内他市町村	18	11.3%
4位	豊見城市	10	6.3%
5位	糸満市	7	4.4%
6位	南風原町	5	3.1%
7位	国外	3	1.9%
-	未定	38	23.8%
-	無回答	6	3.8%
合 計		160	100.0%



【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「糸満市」の割合が2.1ポイント増加し、「その他県内他市町村」の割合が8.7ポイント減少している。



【選択肢「その他県内他市町村」の主な内容】

- ・ 八重瀬町 (3人) 女性-30代-真和志地区・他
- ・ 石垣市 (3人) 男性-60代-本庁地区・他
- ・ 与那原町 (2人) 男性-20代-本庁地区・他
- ・ 宜野湾市 (2人) 男性-50代-小禄地区・他
- ・ うるま市 (2人) 女性-20代-首里地区・他

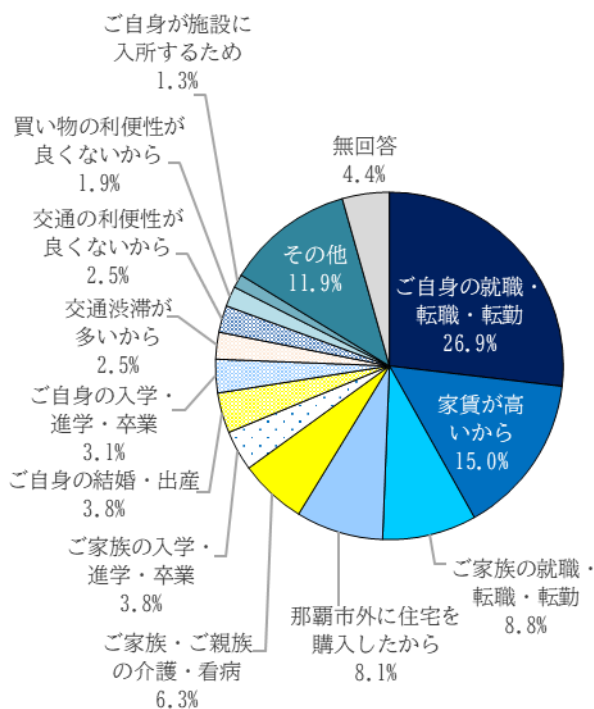
質問9で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。
 質問9-2. 転出を予定(検討)している理由を次の中から1つお選びください。

1. ご自身の就職・転職・転勤	2. ご家族の就職・転職・転勤
3. ご自身の入学・進学・卒業	4. ご家族の入学・進学・卒業
5. 家賃が高いから	6. 那覇市外に住宅を購入したから
7. ご自身の結婚・出産	8. ご家族・ご親族の介護・看病
9. 交通渋滞が多いから	10. 交通の利便性が良くないから
11. 買い物の利便性が良くないから	12. ご自身が施設に入所するため
13. その他 ()	

転出を予定(検討)している理由のうち最も多かったのは「ご自身の就職・転職・転勤」である。

転出を予定(検討)している理由は「ご自身の就職・転職・転勤」の割合が26.9%と最も多く、次いで「家賃が高いから」の割合が15.0%、「ご家族の就職・転職・転勤」の割合が8.8%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	ご自身の就職・転職・転勤	43	26.9%
2位	家賃が高いから	24	15.0%
3位	ご家族の就職・転職・転勤	14	8.8%
4位	那覇市外に住宅を購入したから	13	8.1%
5位	ご家族・ご親族の介護・看病	10	6.3%
6位	ご家族の入学・進学・卒業	6	3.8%
6位	ご自身の結婚・出産	6	3.8%
8位	ご自身の入学・進学・卒業	5	3.1%
9位	交通渋滞が多いから	4	2.5%
9位	交通の利便性が良くないから	4	2.5%
11位	買い物の利便性が良くないから	3	1.9%
12位	ご自身が施設に入所するため	2	1.3%
-	その他	19	11.9%
-	無回答	7	4.4%
合 計		160	100.0%



【選択肢「その他」の主な内容】

- | | |
|-------------------|---------------|
| ・ 自宅購入予定のため (2人) | 女性-50代-小禄地区・他 |
| ・ 静かな住環境を求めて (2人) | 男性-50代-小禄地区・他 |
| ・ 家族と過ごしたいため (1人) | 女性-20代-真和志地区 |

質問9で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。

質問9-3. 転出予定(検討)先を選んだ理由について次のうちから3つまでお選びください。

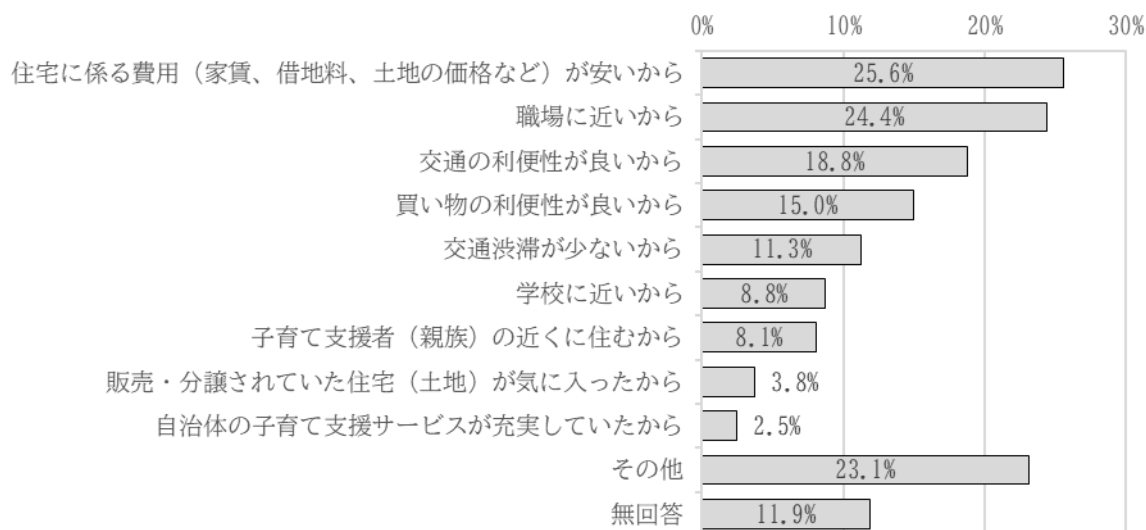
1. 職場に近いから
2. 学校に近いから
3. 住宅に係る費用(家賃、借地料、土地の価格など)が安いから
4. 販売・分譲されていた住宅(土地)が気に入ったから
5. 自治体の子育て支援サービスが充実していたから
6. 子育て支援者(親族)の近くに住むから
7. 交通渋滞が少ないから
8. 交通の利便性が良いから
9. 買い物の利便性が良いから
10. その他()

転出予定(検討)先を選んだ理由について最も多かったのは「住宅に係る費用(家賃、借地料、土地の価格など)が安いから」である。

転出予定(検討)先を選んだ理由については、「住宅に係る費用(家賃、借地料、土地の価格など)が安いから」の割合が25.6%と最も多く、次いで「職場に近いから」の割合が24.4%、「交通の利便性が良いから」の割合が18.8%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	住宅に係る費用(家賃、借地料、土地の価格など)が安いから	41	25.6%
2位	職場に近いから	39	24.4%
3位	交通の利便性が良いから	30	18.8%
4位	買い物の利便性が良いから	24	15.0%
5位	交通渋滞が少ないから	18	11.3%
6位	学校に近いから	14	8.8%
7位	子育て支援者(親族)の近くに住むから	13	8.1%
8位	販売・分譲されていた住宅(土地)が気に入ったから	6	3.8%
9位	自治体の子育て支援サービスが充実していたから	4	2.5%
-	その他	37	23.1%
-	無回答	19	11.9%
合 計		245	153.1%
回答者数		160	-

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問 10. あなたもしくはあなたのご家庭は、自治会・通り会・小学校区まちづくり協議会・PT(C) A等の地域活動（ボランティアやイベント参加を含む）に参加していますか。次の中から1つお選びください。

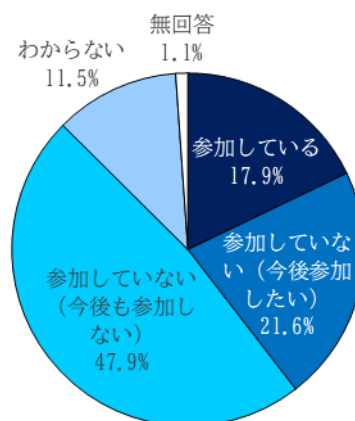
- 1. 参加している
- 2. 参加していない（今後参加したい）
- 3. 参加していない（今後参加しない）
- 4. わからない

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C) Aの活動に「参加している」割合は17.9%、「参加していない」の割合は69.5%（うち「今後参加したい」意向があるのは21.6%）である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C) Aの活動に参加しているかについては、「参加していない（今後参加しない）」が47.9%で最も多く、次いで「参加していない（今後参加したい）」が21.6%、「参加している」が17.9%の順となっている。

「参加していない（今後参加したい）」と「参加していない（今後参加しない）」を合わせた市民の割合は69.5%となっており、今後も参加しない意向は4割を上回っている。

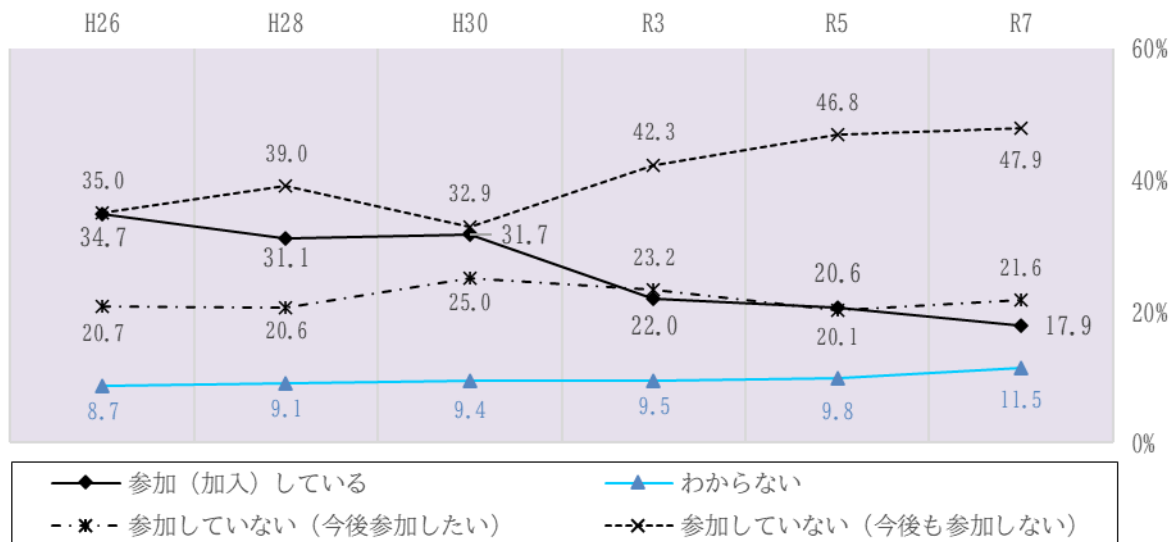
選択項目	回答数	割合
参加している	337	17.9%
参加していない（今後参加したい）	408	21.6%
参加していない（今後参加しない）	903	47.9%
わからない	216	11.5%
無回答	21	1.1%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「参加している」の割合が2.7ポイント減少し、「参加していない（今後参加しない）」の割合が1.1ポイント増加している。

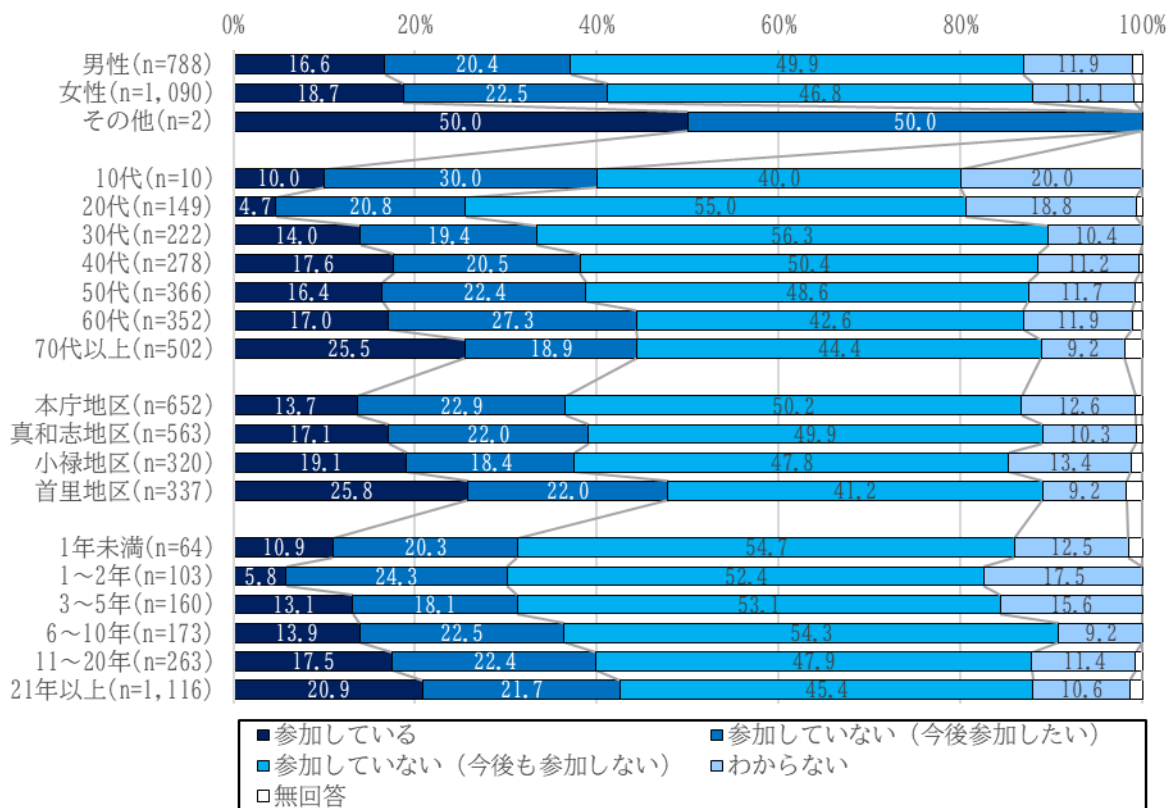
※平成28年度までは自治会・通り会等の加入を対象としており、平成30年度から「校区まちづくり協議会」や「PT(C) A」の活動を含めた参加状況としているため、単純比較できないので、取扱いに注意する必要があります。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住地区別でみると、首里地区が「参加している」の割合が高く、今後参加したい市民の割合を含めると5割近くとなっている。居住年数別でみると、1～2年で「参加している」の割合が最も低く、居住年数が長くなるにつれて「参加している」の割合が高くなっている。

選択項目		参加している	参加していない (今後参加したい)	参加していない (今後参加しない)	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)						
性別	男性 (n= 788)	131	161	393	94	9
	女性 (n= 1,090)	204	245	510	121	10
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	1	3	4	2	0
	20代 (n= 149)	7	31	82	28	1
	30代 (n= 222)	31	43	125	23	0
	40代 (n= 278)	49	57	140	31	1
	50代 (n= 366)	60	82	178	43	3
	60代 (n= 352)	60	96	150	42	4
	70代以上 (n= 502)	128	95	223	46	10
地区別	本庁地区 (n= 652)	89	149	327	82	5
	真和志地区 (n= 563)	96	124	281	58	4
	小禄地区 (n= 320)	61	59	153	43	4
	首里地区 (n= 337)	87	74	139	31	6
居住年数別	1年未満 (n= 64)	7	13	35	8	1
	1～2年 (n= 103)	6	25	54	18	0
	3～5年 (n= 160)	21	29	85	25	0
	6～10年 (n= 173)	24	39	94	16	0
	11～20年 (n= 263)	46	59	126	30	2
	21年以上 (n= 1,116)	233	242	507	118	16



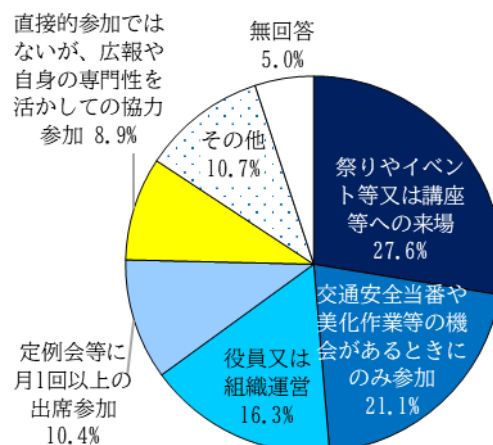
質問 10-1. 質問 10 で「1. 参加している」を選択した方に伺います。活動への参加はどのような内容ですか。次の中から 1 つお選びください。

1. 役員又は組織運営
2. 定例会等に月 1 回以上の出席参加
3. 交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加
4. 祭りやイベント等又は講座等への来場
5. 直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加
6. その他 ()

参加している活動のうち最も多かったのは「祭りやイベント等又は講座等への来場」である。

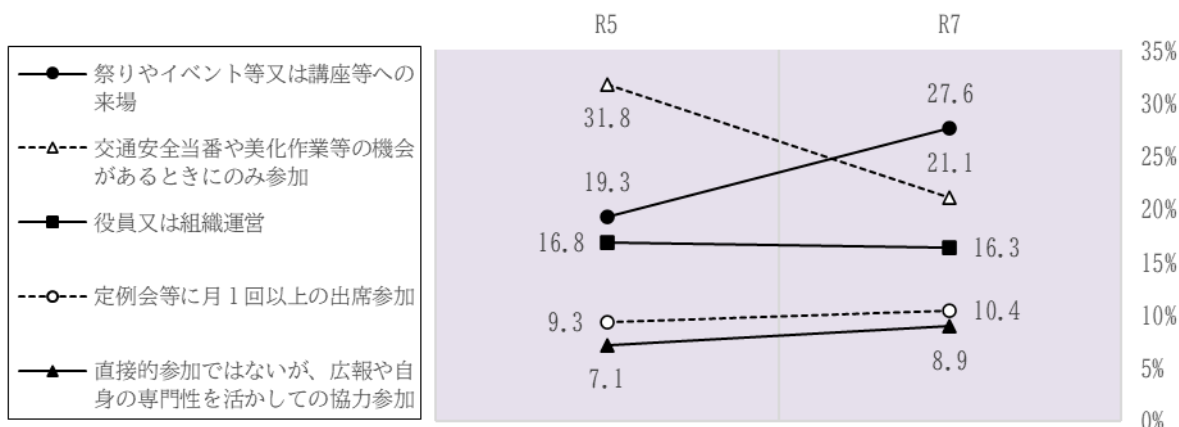
自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT (C) A の活動に参加している活動内容は「祭りやイベント等又は講座等への来場」の割合が 27.6% と最も多く、次いで「交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」の割合が 21.1%、「役員又は組織運営」の割合が 16.3% の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	祭りやイベント等又は講座等への来場	93	27.6%
2位	交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加	71	21.1%
3位	役員又は組織運営	55	16.3%
4位	定例会等に月1回以上の出席参加	35	10.4%
5位	直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加	30	8.9%
-	その他	36	10.7%
-	無回答	17	5.0%
合 計		337	100.0%



【経年変化 (令和5年度～令和7年度)】

前回調査と比較すると、「祭りやイベント等又は講座等への来場」の割合が 8.3 ポイント増加し、「交通安全当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」の割合が 10.7 ポイント減少している。



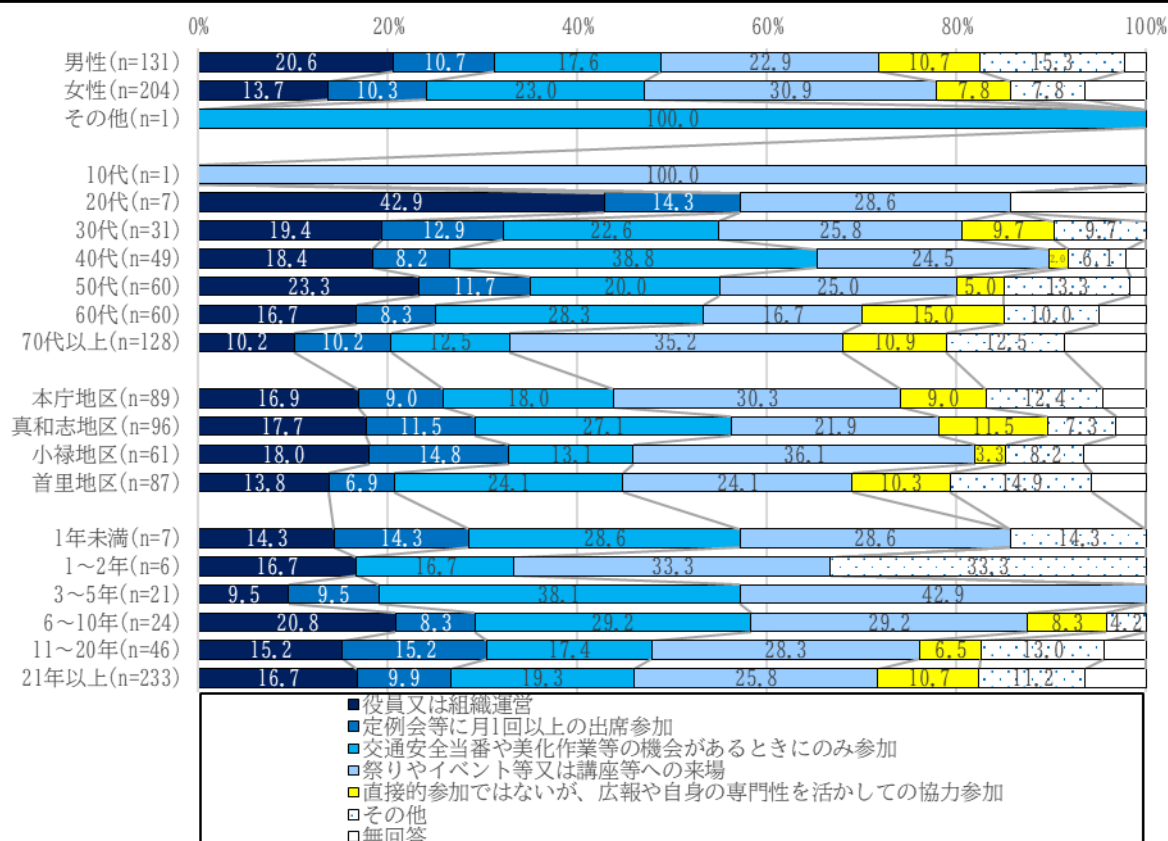
【選択肢「その他」の主な内容】

- ・清掃活動に参加 (8人) 女性-60代-首里地区・他
- ・会費だけ収めている (7人) 男性-30代-首里地区・他
- ・ボランティア (3人) 女性-50代-本庁地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、70代以上で「祭りやイベント等又は講座等への来場」の割合が高く、3割を上回っている。

選択項目		役員又は組織運営	定例会等に月1回以上の出席参加	交通安全当番や美化作業等の機会があるときのみ参加	祭りやイベント等又は講座等への来場	直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加	その他	無回答
回答者属性(n=合計)								
性別	男性 (n= 131)	27	14	23	30	14	20	3
	女性 (n= 204)	28	21	47	63	16	16	13
	その他 (n= 1)	0	0	1	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 1)	0	0	0	1	0	0	0
	20代 (n= 7)	3	1	0	2	0	0	1
	30代 (n= 31)	6	4	7	8	3	3	0
	40代 (n= 49)	9	4	19	12	1	3	1
	50代 (n= 60)	14	7	12	15	3	8	1
	60代 (n= 60)	10	5	17	10	9	6	3
	70代以上 (n= 128)	13	13	16	45	14	16	11
地区別	本庁地区 (n= 89)	15	8	16	27	8	11	4
	真和志地区 (n= 96)	17	11	26	21	11	7	3
	小祿地区 (n= 61)	11	9	8	22	2	5	4
	首里地区 (n= 87)	12	6	21	21	9	13	5
居住年数別	1年未満 (n= 7)	1	1	2	2	0	1	0
	1~2年 (n= 6)	1	0	1	2	0	2	0
	3~5年 (n= 21)	2	2	8	9	0	0	0
	6~10年 (n= 24)	5	2	7	7	2	1	0
	11~20年 (n= 46)	7	7	8	13	3	6	2
	21年以上 (n= 233)	39	23	45	60	25	26	15



質問 10-2. 質問 10 で「2. 参加していない (今後参加したい)」又は「3. 参加していない (今後も参加しない)」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を、次の中から1つお選びください。

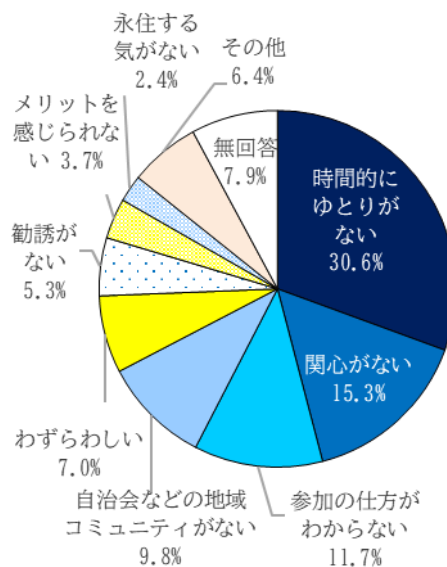
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他 (具体的に:) | |

活動に参加していない理由のうち最も多かったのは「時間的にゆとりがない」である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT (C) A の活動に参加していない理由は「時間的にゆとりがない」の割合が 30.6% と最も多く、次いで「関心がない」の割合が 15.3%、「参加の仕方がわからない」の割合が 11.7% の順となっている。

個人的意思 (「時間的にゆとりがない」、「関心がない」、「わずらわしい」、「永住する気がない」、「メリットを感じられない」を合わせた割合) で加入していない市民は 6 割弱を占めている。また、地域の事情 (「自治会などの地域コミュニティがない」、「勧誘がない」を合わせた割合) で加入していない市民は 15.0% となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	時間的にゆとりがない	401	30.6%
2位	関心がない	201	15.3%
3位	参加の仕方がわからない	153	11.7%
4位	自治会などの地域コミュニティがない	128	9.8%
5位	わずらわしい	92	7.0%
6位	勧誘がない	69	5.3%
7位	メリットを感じられない	48	3.7%
8位	永住する気がない	32	2.4%
-	その他	84	6.4%
-	無回答	103	7.9%
合 計		1,311	100.0%



【選択肢「その他」の主な内容】

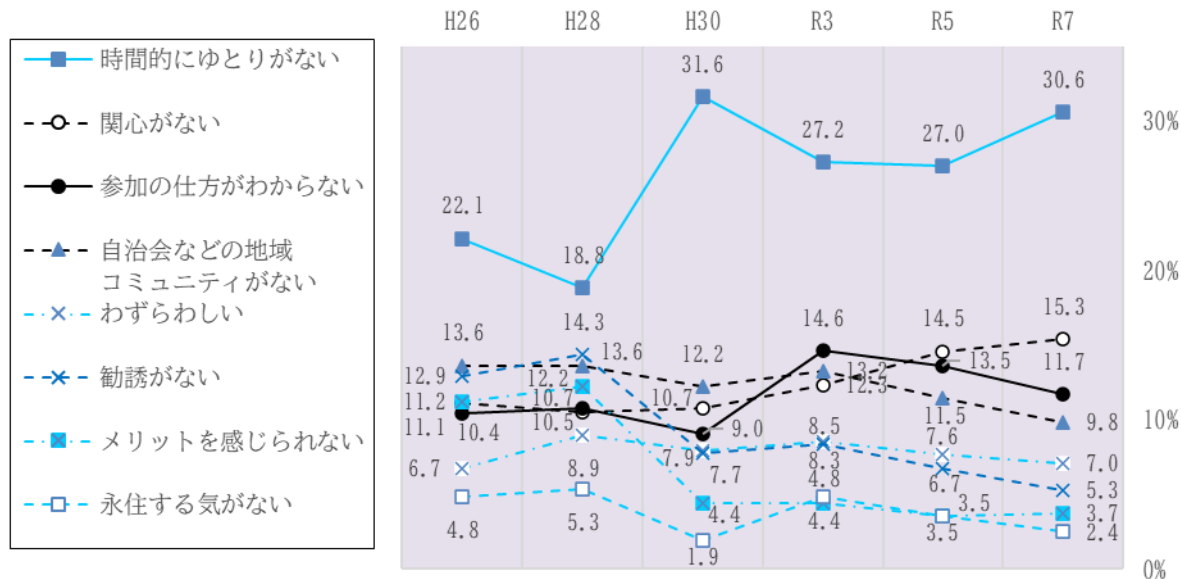
- ・高齢のため (27 人)
- ・怪我や病気のため (14 人)
- ・人とのコミュニケーションが苦手 (9 人)

男性-70 代以上-真和志地区・他
 男性-70 代以上-本庁地区・他
 女性-70 代以上-本庁地区・他

【経年変化 (平成 26 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「時間的にゆとりがない」の割合が 3.6 ポイント増加しており、「参加の仕方がわからない」の割合が 1.8 ポイント減少している。

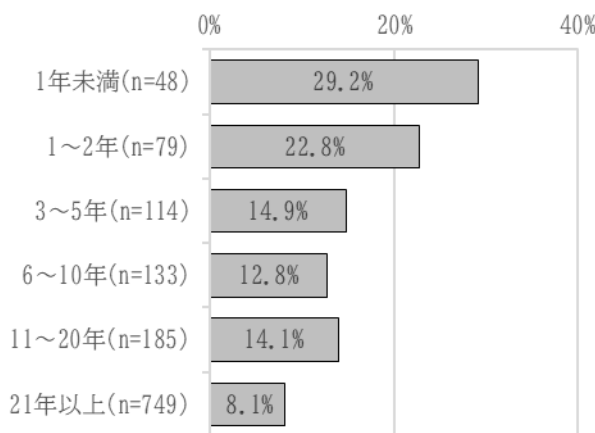
※平成 30 年度より、対象と選択項目を変更しているため単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。



【属性別集計 (回答者属性[居住年数]無回答除く)】

「参加の仕方がわからない」について、回答者の居住年数に着目し、その割合について比較を行った。概ね居住年数が短いほど、「参加の仕方がわからない」の割合が高い傾向にある。

居住年数	居住年数回答者	「参加の仕方がわからない」回答数	%
1年未満	48	14	29.2%
1～2年	79	18	22.8%
3～5年	114	17	14.9%
6～10年	133	17	12.8%
11～20年	185	26	14.1%
21年以上	749	61	8.1%
合計	1,308	153	



【属性別集計 (回答者属性[今後の参加意向・性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ここでは、質問 10 で「今後参加したい」「今後も参加しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

「参加していない (今後参加したい)」と回答した市民は、「参加していない (今後も参加しない)」と回答した市民に比べ、「参加の仕方がわからない」の割合が高くなっている。

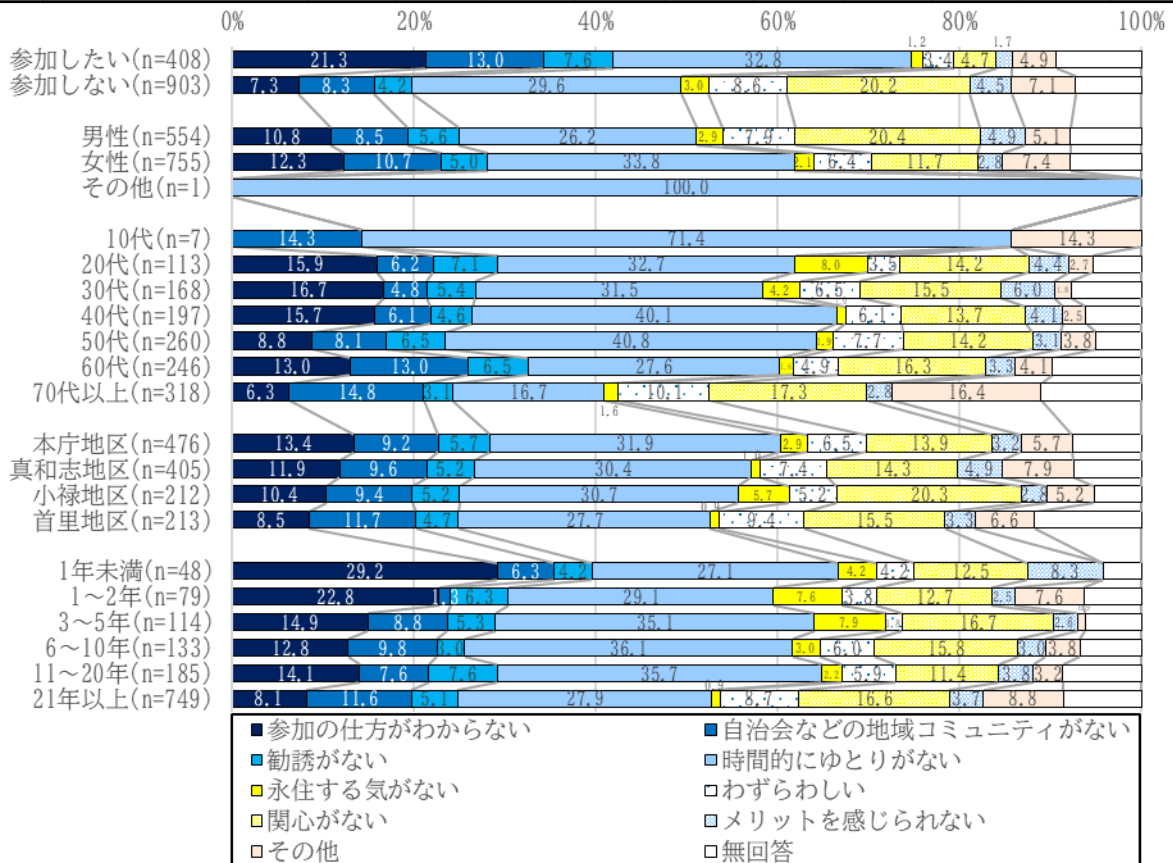
年代別でみると、10 代～60 代では「時間的にゆとりがない」の割合が高くなっている。70 代以上では「関心がない」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、小緑地区で「永住する気がない」の割合が比較的高くなっている。

居住年数別でみると、1 年未満～10 年では「参加の仕方がわからない」の割合が比較的高くなっている。

Ⅲ. 調査結果 (項目別)

選択項目		参加の仕方がわからない	自治会などの地域コミュニティがない	勧誘がない	時間的にゆとりがない	永住する気がない	わずらわしい	関心がない	メリットを感じられない	その他	無回答
回答者属性(n=合計)											
今後	参加したい (n= 408)	87	53	31	134	5	14	19	7	20	38
	参加しない (n= 903)	66	75	38	267	27	78	182	41	64	65
性別	男性 (n= 554)	60	47	31	145	16	44	113	27	28	43
	女性 (n= 755)	93	81	38	255	16	48	88	21	56	59
	その他 (n= 1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 7)	0	1	0	5	0	0	0	0	1	0
	20代 (n= 113)	18	7	8	37	9	4	16	5	3	6
	30代 (n= 168)	28	8	9	53	7	11	26	10	3	13
	40代 (n= 197)	31	12	9	79	2	12	27	8	5	12
	50代 (n= 260)	23	21	17	106	5	20	37	8	10	13
	60代 (n= 246)	32	32	16	68	4	12	40	8	10	24
	70代以上 (n= 318)	20	47	10	53	5	32	55	9	52	35
地区別	本庁地区 (n= 476)	64	44	27	152	14	31	66	15	27	36
	真和志地区 (n= 405)	48	39	21	123	4	30	58	20	32	30
	小祿地区 (n= 212)	22	20	11	65	12	11	43	6	11	11
	首里地区 (n= 213)	18	25	10	59	2	20	33	7	14	25
居住年数別	1年未満 (n= 48)	14	3	2	13	2	2	6	4	0	2
	1~2年 (n= 79)	18	1	5	23	6	3	10	2	6	5
	3~5年 (n= 114)	17	10	6	40	9	2	19	3	1	7
	6~10年 (n= 133)	17	13	4	48	4	8	21	4	5	9
	11~20年 (n= 185)	26	14	14	66	4	11	21	7	6	16
	21年以上 (n= 749)	61	87	38	209	7	65	124	28	66	64



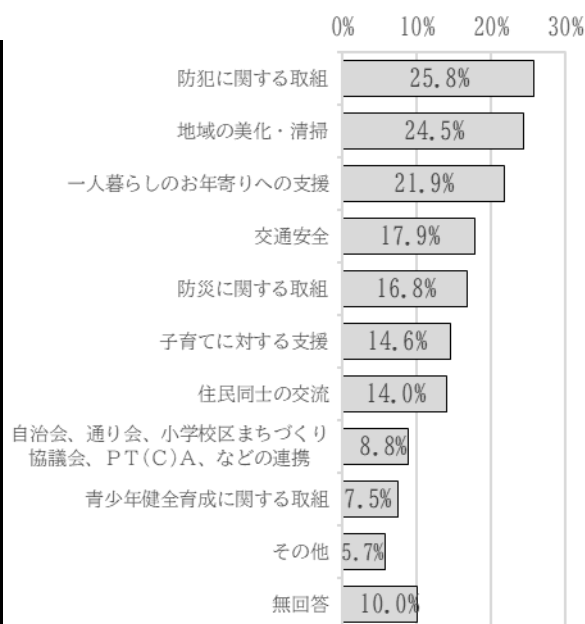
質問 11. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

1. 地域の美化・清掃
2. 自治会、通り会、小学校区まちづくり協議会、PT(C)A、などの連携
3. 防犯に関する取組
4. 防災に関する取組
5. 青少年健全育成に関する取組
6. 一人暮らしのお年寄りへの支援
7. 子育てに対する支援
8. 交通安全
9. 住民同士の交流
10. その他 (_____)

居住地域で特に大きいと思われる課題について最も多かったのは「防犯に関する取組」である。

居住地域での特に大きいと思われる課題については、「防犯に関する取組」の割合が 25.8%と最も多く、次いで「地域の美化・清掃」の割合が 24.5%、「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が 21.9%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	防犯に関する取組	486	25.8%
2位	地域の美化・清掃	461	24.5%
3位	一人暮らしのお年寄りへの支援	413	21.9%
4位	交通安全	338	17.9%
5位	防災に関する取組	316	16.8%
6位	子育てに対する支援	275	14.6%
7位	住民同士の交流	264	14.0%
8位	自治会、通り会、小学校区まちづくり協議会、PT(C)A、などの連携	166	8.8%
9位	青少年健全育成に関する取組	142	7.5%
-	その他	107	5.7%
-	無回答	189	10.0%
合 計		3,157	167.5%
回答者数		1,885	-

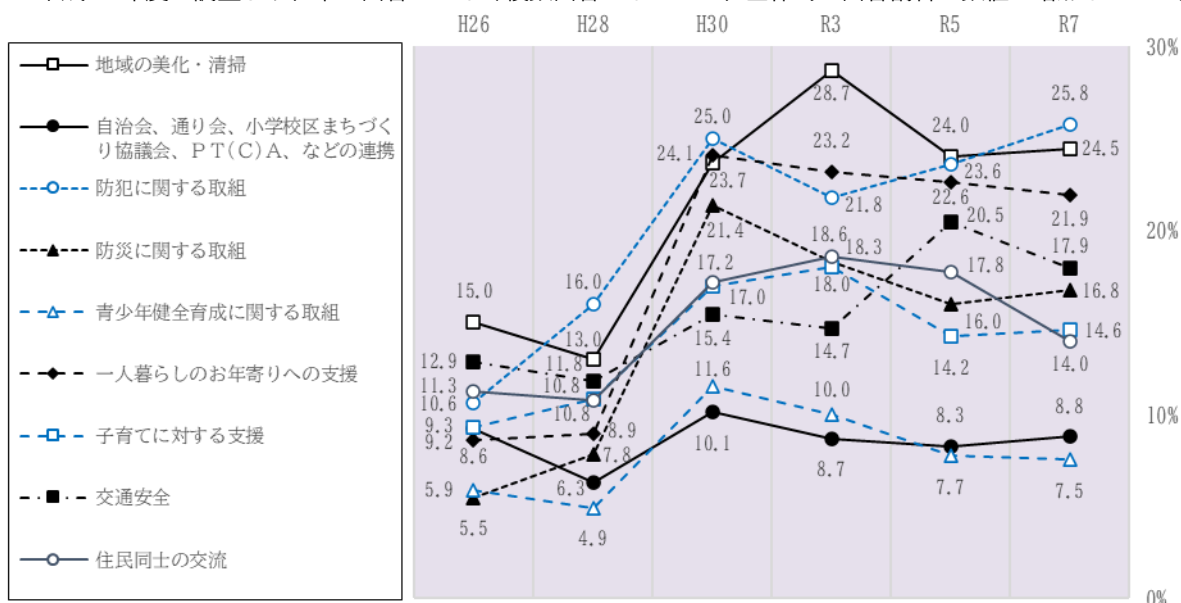


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化 (平成 26 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「防犯に関する取組」の割合が高くなっている。

※平成 30 年度の調査より、単一回答ではなく複数回答としたため、全体的に回答割合の数値が増加している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、40～60代では「防犯に関する取組」の割合が最も高くなっている。また、70代以上では「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が高くなっている。

居住地区別で見ると、本庁地区、真和志地区、小祿地区では「防犯に関する取組」の割合が最も高く、首里地区では「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		地域の美化・清掃	自治会、PTA、PT(C)A、などの連携	防犯に関する取組	防災に関する取組	青少年健全育成に関する取組	お一人暮らしへの支援	子育てに対する支援	交通安全	住民同士の交流	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)												
性別	男性 (n= 788)	211 26.8	70 8.9	191 24.2	109 13.8	69 8.8	168 21.3	109 13.8	159 20.2	108 13.7	50 6.3	79 10.0
	女性 (n= 1,090)	248 22.8	96 8.8	294 27.0	207 19.0	72 6.6	244 22.4	166 15.2	179 16.4	154 14.1	57 5.2	107 9.8
	その他 (n= 2)	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-
年代別	10代 (n= 10)	2 20.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	-	2 20.0	3 30.0	4 40.0	-	-	-
	20代 (n= 149)	32 21.5	11 7.4	38 25.5	16 10.7	9 6.0	15 10.1	34 22.8	42 28.2	19 12.8	10 6.7	11 7.4
	30代 (n= 222)	55 24.8	17 7.7	48 21.6	28 12.6	16 7.2	27 12.2	88 39.6	51 23.0	27 12.2	11 5.0	15 6.8
	40代 (n= 278)	53 19.1	19 6.8	86 30.9	51 18.3	38 13.7	37 13.3	61 21.9	73 26.3	32 11.5	15 5.4	14 5.0
	50代 (n= 366)	87 23.8	25 6.8	106 29.0	72 19.7	39 10.7	77 21.0	38 10.4	76 20.8	44 12.0	27 7.4	26 7.1
	60代 (n= 352)	95 27.0	35 9.9	108 30.7	66 18.8	23 6.5	107 30.4	31 8.8	51 14.5	48 13.6	18 5.1	27 7.7
	70代以上 (n= 502)	136 27.1	58 11.6	96 19.1	81 16.1	17 3.4	147 29.3	20 4.0	41 8.2	92 18.3	25 5.0	94 18.7
地区別	本庁地区 (n= 652)	170 26.1	43 6.6	189 29.0	111 17.0	35 5.4	122 18.7	89 13.7	127 19.5	92 14.1	33 5.1	78 12.0
	真和志地区 (n= 563)	127 22.6	50 8.9	147 26.1	91 16.2	51 9.1	137 24.3	88 15.6	92 16.3	80 14.2	37 6.6	52 9.2
	小祿地区 (n= 320)	76 23.8	39 12.2	78 24.4	57 17.8	29 9.1	61 19.1	52 16.3	64 20.0	43 13.4	19 5.9	23 7.2
	首里地区 (n= 337)	86 25.5	31 9.2	68 20.2	56 16.6	27 8.0	90 26.7	46 13.6	54 16.0	47 13.9	17 5.0	34 10.1
居住年数別	1年未満 (n= 64)	13 20.3	2 3.1	12 18.8	9 14.1	4 6.3	10 15.6	8 12.5	17 26.6	9 14.1	5 7.8	9 14.1
	1～2年 (n= 103)	32 31.1	3 2.9	30 29.1	12 11.7	10 9.7	16 15.5	18 17.5	28 27.2	13 12.6	6 5.8	7 6.8
	3～5年 (n= 160)	45 28.1	10 6.3	41 25.6	23 14.4	16 10.0	18 11.3	35 21.9	43 26.9	19 11.9	8 5.0	13 8.1
	6～10年 (n= 173)	39 22.5	10 5.8	48 27.7	32 18.5	16 9.2	30 17.3	31 17.9	32 18.5	25 14.5	15 8.7	11 6.4
	11～20年 (n= 263)	59 22.4	16 6.1	65 24.7	41 15.6	21 8.0	56 21.3	48 18.3	59 22.4	33 12.5	15 5.7	24 9.1
	21年以上 (n= 1,116)	270 24.2	125 11.2	289 25.9	198 17.7	75 6.7	281 25.2	135 12.1	159 14.2	163 14.6	58 5.2	124 11.1

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・道路整備 (14人) 女性-60代-首里地区・他
- ・交通網の整備 (11人) 男性-40代-真和志地区・他

（3）市政への市民参加について

質問 12. 市役所が行っている事業について、どれくらい関心がありますか。次の中から1つお選びください。

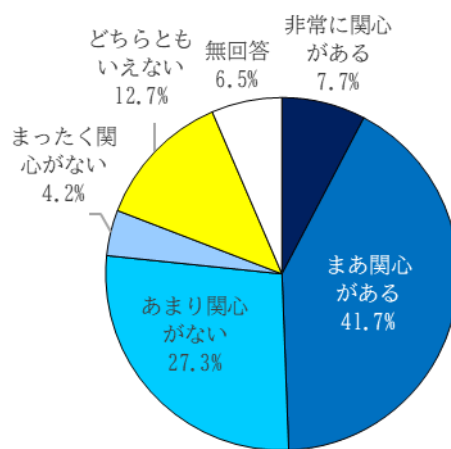
1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. あまり関心がない
4. まったく関心がない 5. どちらともいえない

市政への関心について「関心がある」の割合は49.4%、「関心がない」の割合は31.5%である。

市政への関心については、「まあ関心がある」の割合が41.7%で最も多く、次いで「あまり関心がない」の割合が27.3%、「どちらともいえない」の割合が12.7%の順となっている。

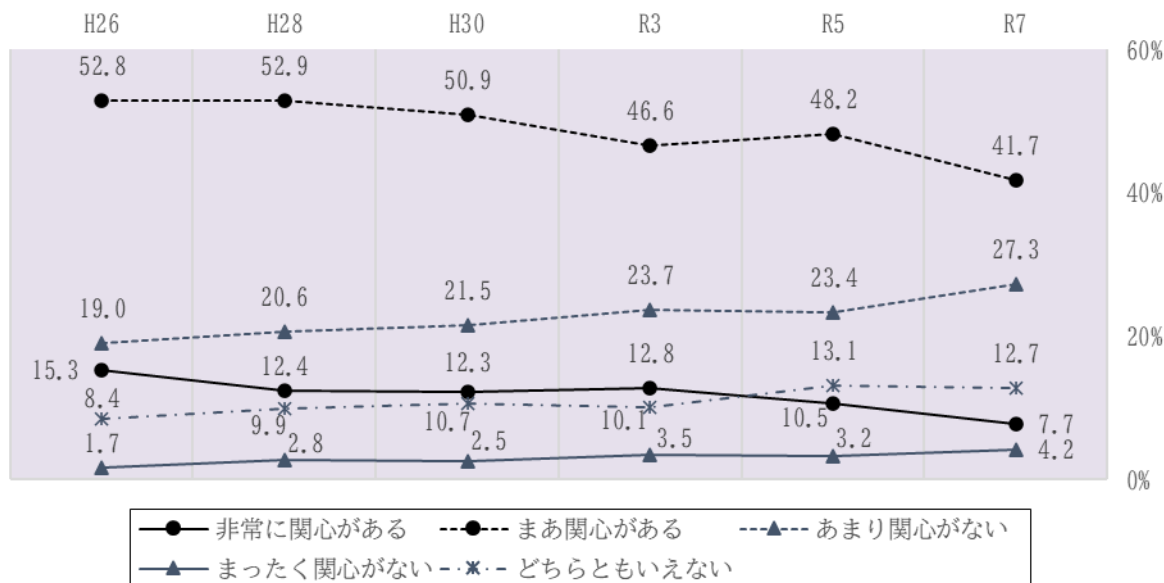
「非常に関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた割合は49.4%に対し、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた割合は31.5%となっている。

選択項目	回答数	割合
非常に関心がある	145	7.7%
まあ関心がある	786	41.7%
あまり関心がない	514	27.3%
まったく関心がない	79	4.2%
どちらともいえない	239	12.7%
無回答	122	6.5%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

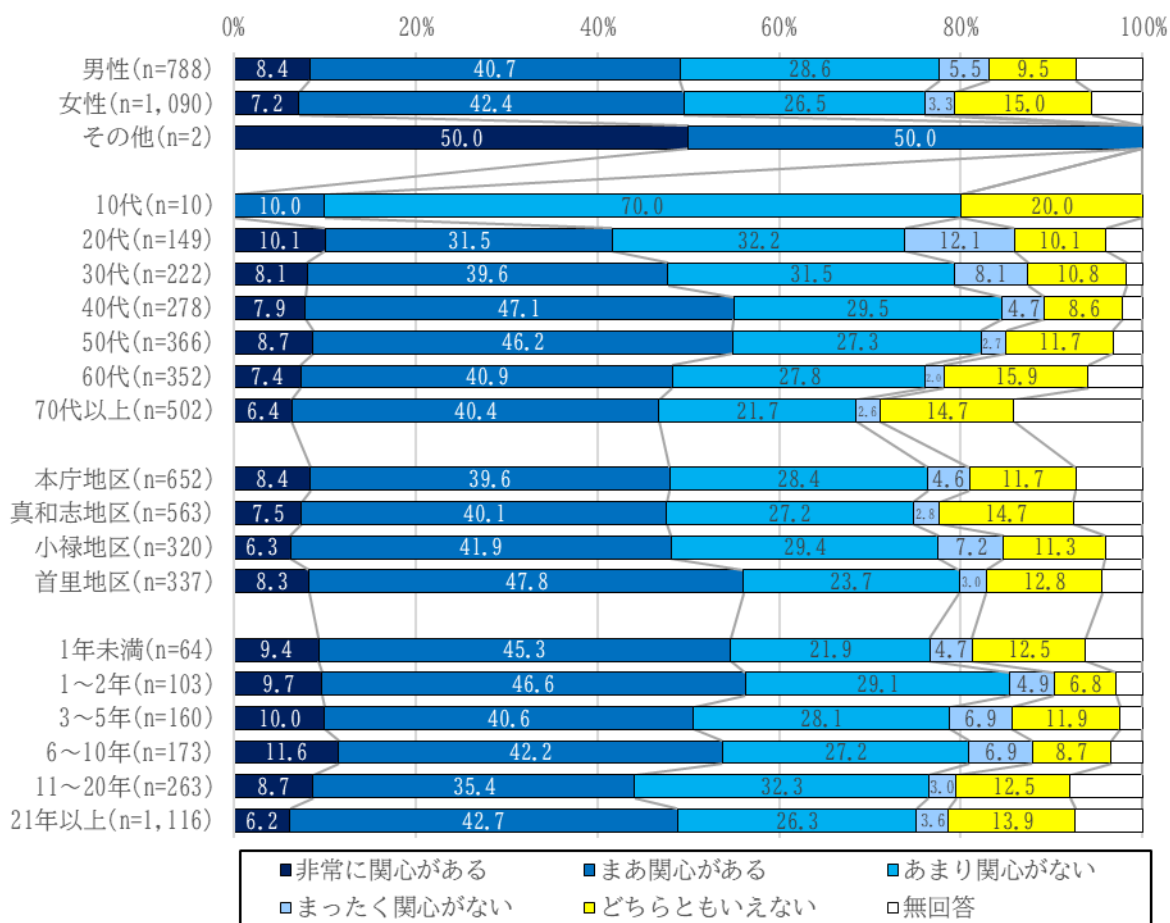
前回調査と比較すると、「非常に関心がある」の割合は2.8ポイント減少、「まあ関心がある」の割合は6.5ポイント減少しており、市政に対する関心は薄くなっている。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、40～50代で「非常に興味がある」「まあ興味がある」を合わせた割合が高い。
居住地区別でみると、首里地区で「非常に興味がある」「まあ興味がある」を合わせた割合が高い。

回答者属性(n=合計)		非常に 興味 がある	まあ 興味 がある	あ まり 関 心 が な い	ま た く 関 心 が な い	ど ち ら も い え な い	無 回 答
性別	男性 (n= 788)	66	321	225	43	75	58
	女性 (n= 1,090)	78	462	289	36	164	61
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	0	1	7	0	2	0
	20代 (n= 149)	15	47	48	18	15	6
	30代 (n= 222)	18	88	70	18	24	4
	40代 (n= 278)	22	131	82	13	24	6
	50代 (n= 366)	32	169	100	10	43	12
	60代 (n= 352)	26	144	98	7	56	21
	70代以上 (n= 502)	32	203	109	13	74	71
地区別	本庁地区 (n= 652)	55	258	185	30	76	48
	真和志地区 (n= 563)	42	226	153	16	83	43
	小禄地区 (n= 320)	20	134	94	23	36	13
	首里地区 (n= 337)	28	161	80	10	43	15
居住年数別	1年未満 (n= 64)	6	29	14	3	8	4
	1～2年 (n= 103)	10	48	30	5	7	3
	3～5年 (n= 160)	16	65	45	11	19	4
	6～10年 (n= 173)	20	73	47	12	15	6
	11～20年 (n= 263)	23	93	85	8	33	21
	21年以上 (n= 1,116)	69	476	293	40	155	83



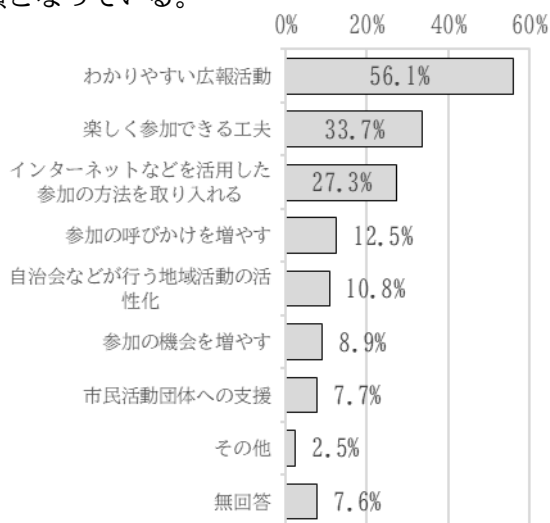
質問 13. 市役所の事業実施や計画立案に市民が参加するために、市に行ってほしいと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 参加の機会を増やす
2. わかりやすい広報活動
3. 楽しく参加できる工夫
4. 参加の呼びかけを増やす
5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
6. 自治会などが行う地域活動の活性化
7. 市民活動団体への支援
8. その他（ ）

市民の市政参加を促すために市がすべきだと思うことで最も多かったのは「わかりやすい広報活動」である。

市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことは、「わかりやすい広報活動」の割合が56.1%と最も高く、次いで「楽しく参加できる工夫」の割合が33.7%、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が27.3%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	わかりやすい広報活動	1,058	56.1%
2位	楽しく参加できる工夫	635	33.7%
3位	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	515	27.3%
4位	参加の呼びかけを増やす	236	12.5%
5位	自治会などが行う地域活動の活性化	203	10.8%
6位	参加の機会を増やす	167	8.9%
7位	市民活動団体への支援	146	7.7%
-	その他	47	2.5%
-	無回答	144	7.6%
合計		3,151	167.2%
回答者数		1,885	-

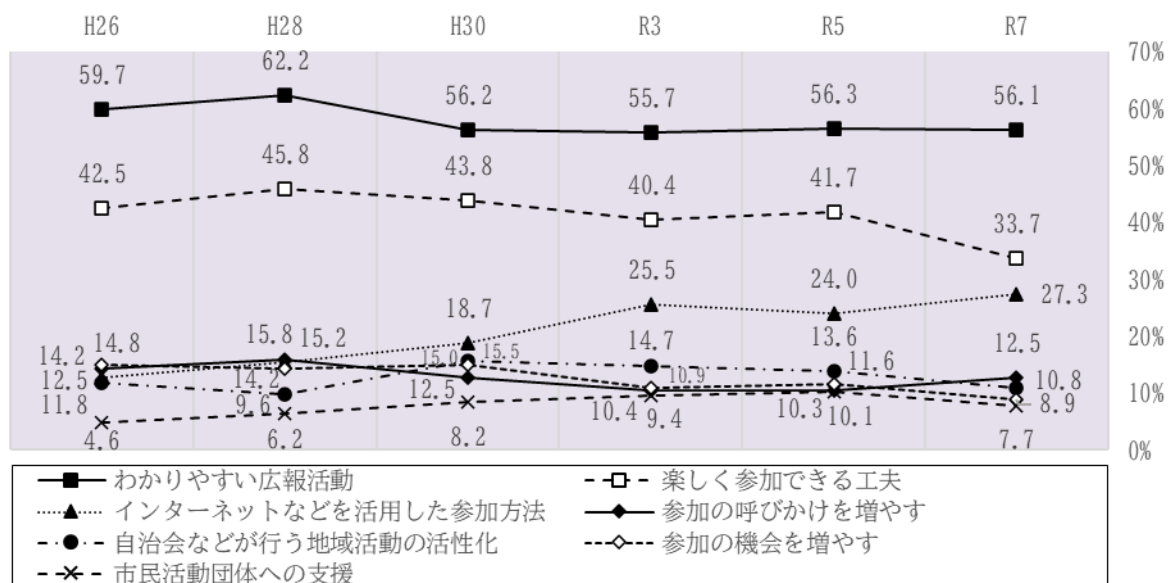


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が3.3ポイント増加している。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成26～28年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」について、60代以上では割合が低いものの、その他の年代での割合は高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		参加の機会を増やす	わかりやすい広報活動	楽しく参加できる工夫	参加の呼びかけを増やす	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	地域自治会などの活性化	市民活動団体への支援	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)										
性別	男性 (n= 788)	84 10.7	422 53.6	232 29.4	83 10.5	240 30.5	90 11.4	62 7.9	25 3.2	68 8.6
	女性 (n= 1,090)	82 7.5	636 58.3	402 36.9	152 13.9	273 25.0	112 10.3	82 7.5	22 2.0	73 6.7
	その他 (n= 2)	1 50.0	-	-	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-
年代別	10代 (n= 10)	-	4 40.0	3 30.0	2 20.0	7 70.0	1 10.0	-	-	-
	20代 (n= 149)	23 15.4	78 52.3	42 28.2	14 9.4	64 43.0	4 2.7	5 3.4	4 2.7	6 4.0
	30代 (n= 222)	20 9.0	138 62.2	77 34.7	18 8.1	95 42.8	18 8.1	10 4.5	4 1.8	4 1.8
	40代 (n= 278)	32 11.5	161 57.9	92 33.1	33 11.9	111 39.9	25 9.0	12 4.3	9 3.2	6 2.2
	50代 (n= 366)	28 7.7	223 60.9	120 32.8	41 11.2	125 34.2	34 9.3	33 9.0	10 2.7	14 3.8
	60代 (n= 352)	34 9.7	215 61.1	142 40.3	49 13.9	71 20.2	37 10.5	30 8.5	8 2.3	24 6.8
	70代以上 (n= 502)	30 6.0	238 47.4	157 31.3	77 15.3	41 8.2	83 16.5	55 11.0	12 2.4	88 17.5
地区別	本庁地区 (n= 652)	58 8.9	378 58.0	216 33.1	73 11.2	184 28.2	54 8.3	52 8.0	18 2.8	55 8.4
	真和志地区 (n= 563)	57 10.1	312 55.4	180 32.0	82 14.6	147 26.1	65 11.5	41 7.3	14 2.5	46 8.2
	小祿地区 (n= 320)	25 7.8	172 53.8	125 39.1	37 11.6	103 32.2	35 10.9	25 7.8	6 1.9	17 5.3
	首里地区 (n= 337)	26 7.7	191 56.7	110 32.6	42 12.5	78 23.1	48 14.2	25 7.4	9 2.7	24 7.1
居住年数別	1年未満 (n= 64)	9 14.1	29 45.3	22 34.4	7 10.9	29 45.3	3 4.7	1 1.6	1 1.6	5 7.8
	1～2年 (n= 103)	9 8.7	64 62.1	31 30.1	14 13.6	39 37.9	6 5.8	6 5.8	3 2.9	3 2.9
	3～5年 (n= 160)	19 11.9	81 50.6	54 33.8	18 11.3	67 41.9	14 8.8	5 3.1	4 2.5	5 3.1
	6～10年 (n= 173)	22 12.7	98 56.6	54 31.2	21 12.1	62 35.8	15 8.7	9 5.2	4 2.3	7 4.0
	11～20年 (n= 263)	24 9.1	144 54.8	88 33.5	27 10.3	77 29.3	22 8.4	16 6.1	6 2.3	23 8.7
	21年以上 (n= 1,116)	84 7.5	640 57.3	384 34.4	147 13.2	240 21.5	142 12.7	107 9.6	29 2.6	100 9.0

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 広報したほうがよい (4人)
- ・ インターネットでの中継 (3人)

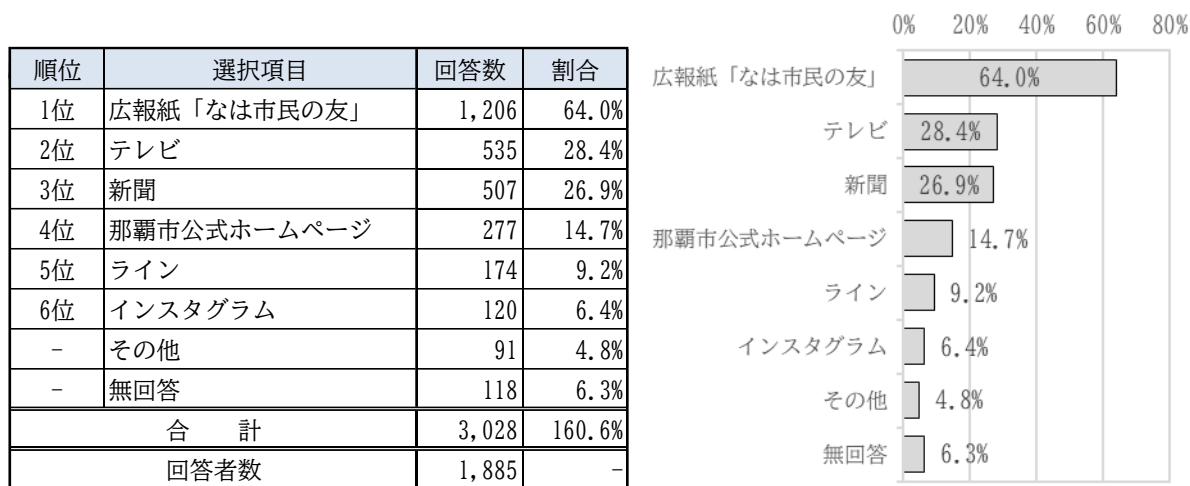
女性-40代-本庁地区・他
男性-20代-本庁地区・他

質問 14. あなたは普段那覇市の情報（施策やイベント等）をどの媒体から取得していますか。
次の中から2つまでお選びください。

- 1. 広報紙「なは市民の友」 2. 那覇市公式ホームページ 3. ライン
- 4. インスタグラム 5. 新聞 6. テレビ
- 7. その他（ _____ ）

那覇市の情報取得媒体について最も多かったのは「広報紙なは市民の友」である。

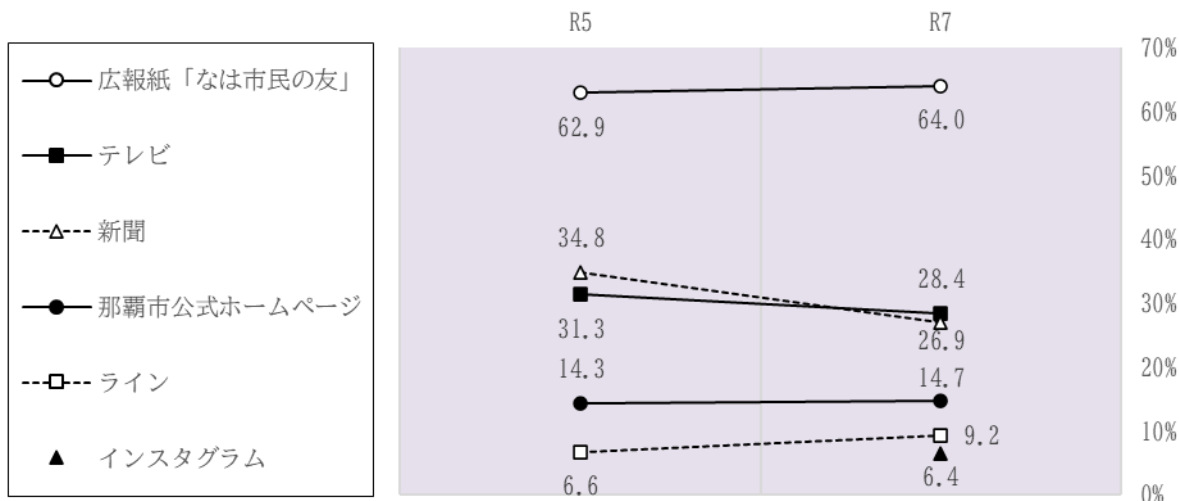
那覇市の情報を取得している媒体については、「広報紙なは市民の友」の割合が 64.0%で最も高く、次いで「テレビ」の割合が 28.4%、「新聞」の割合が 26.9%の順となっている。



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「ライン」の割合が 2.6 ポイント増加し、「新聞」の割合が 7.9 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、10代、20代は「テレビ」の割合が最も高く、30代以上では「広報紙なは市民の友」の割合が最も高くなっている。また、20～40代では「那覇市公式ホームページ」の割合も比較的高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		なは市民の友	那覇市公式ホームページ	ライン	インスタグラム	新聞	テレビ	その他	無回答
性別	男性 (n= 788)	466 59.1	120 15.2	69 8.8	34 4.3	224 28.4	216 27.4	50 6.3	61 7.7
	女性 (n= 1,090)	737 67.6	157 14.4	102 9.4	86 7.9	283 26.0	318 29.2	41 3.8	54 5.0
	その他 (n= 2)	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	1 10.0	-	3 30.0	4 40.0	-	6 60.0	-	-
	20代 (n= 149)	39 26.2	32 21.5	25 16.8	30 20.1	13 8.7	41 27.5	25 16.8	5 3.4
	30代 (n= 222)	107 48.2	54 24.3	33 14.9	40 18.0	22 9.9	64 28.8	18 8.1	4 1.8
	40代 (n= 278)	190 68.3	59 21.2	49 17.6	27 9.7	35 12.6	74 26.6	13 4.7	6 2.2
	50代 (n= 366)	262 71.6	75 20.5	38 10.4	13 3.6	80 21.9	96 26.2	13 3.6	14 3.8
	60代 (n= 352)	270 76.7	33 9.4	22 6.3	4 1.1	129 36.6	113 32.1	8 2.3	19 5.4
	70代以上 (n= 502)	335 66.7	24 4.8	3 0.6	1 0.2	228 45.4	138 27.5	14 2.8	68 13.5
地区別	本庁地区 (n= 652)	393 60.3	111 17.0	65 10.0	55 8.4	153 23.5	188 28.8	29 4.4	47 7.2
	真和志地区 (n= 563)	374 66.4	80 14.2	47 8.3	31 5.5	150 26.6	164 29.1	29 5.2	37 6.6
	小緑地区 (n= 320)	199 62.2	49 15.3	29 9.1	22 6.9	82 25.6	95 29.7	24 7.5	15 4.7
	首里地区 (n= 337)	234 69.4	36 10.7	31 9.2	11 3.3	119 35.3	83 24.6	9 2.7	17 5.0
居住年数別	1年未満 (n= 64)	28 43.8	15 23.4	13 20.3	11 17.2	3 4.7	17 26.6	4 6.3	4 6.3
	1～2年 (n= 103)	58 56.3	25 24.3	12 11.7	12 11.7	14 13.6	22 21.4	6 5.8	4 3.9
	3～5年 (n= 160)	100 62.5	37 23.1	17 10.6	19 11.9	17 10.6	39 24.4	9 5.6	6 3.8
	6～10年 (n= 173)	115 66.5	34 19.7	28 16.2	14 8.1	32 18.5	42 24.3	8 4.6	5 2.9
	11～20年 (n= 263)	159 60.5	45 17.1	29 11.0	22 8.4	53 20.2	70 26.6	14 5.3	22 8.4
	21年以上 (n= 1,116)	742 66.5	121 10.8	74 6.6	42 3.8	387 34.7	344 30.8	50 4.5	76 6.8

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・インターネット、SNS (23人)
- ・友人、家族から (8人)
- ・チラシ等 (7人)

男性-50代-小緑地区・他
女性-70代以上-真和志地区・他
男性-60代-真和志地区・他

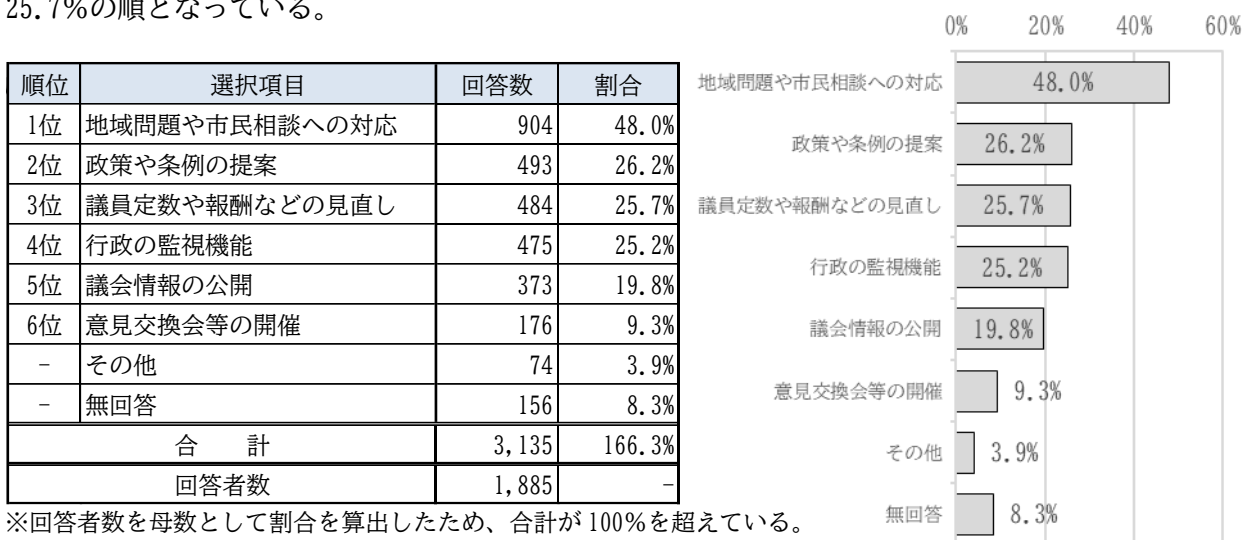
(4) 議会への市民参加について

質問 15. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

1. 行政の監視機能 2. 政策や条例の提案 3. 議会情報の公開
 4. 地域問題や市民相談への対応 5. 意見交換会等の開催
 6. 議員定数や報酬などの見直し 7. その他 (_____)

議会に求めることで最も多かったのは「地域問題や市民相談への対応」である。

市民が議会に求めることについては、「地域問題や市民相談への対応」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「政策や条例の提案」の割合が 26.2%、「議員定数や報酬などの見直し」の割合が 25.7%の順となっている。

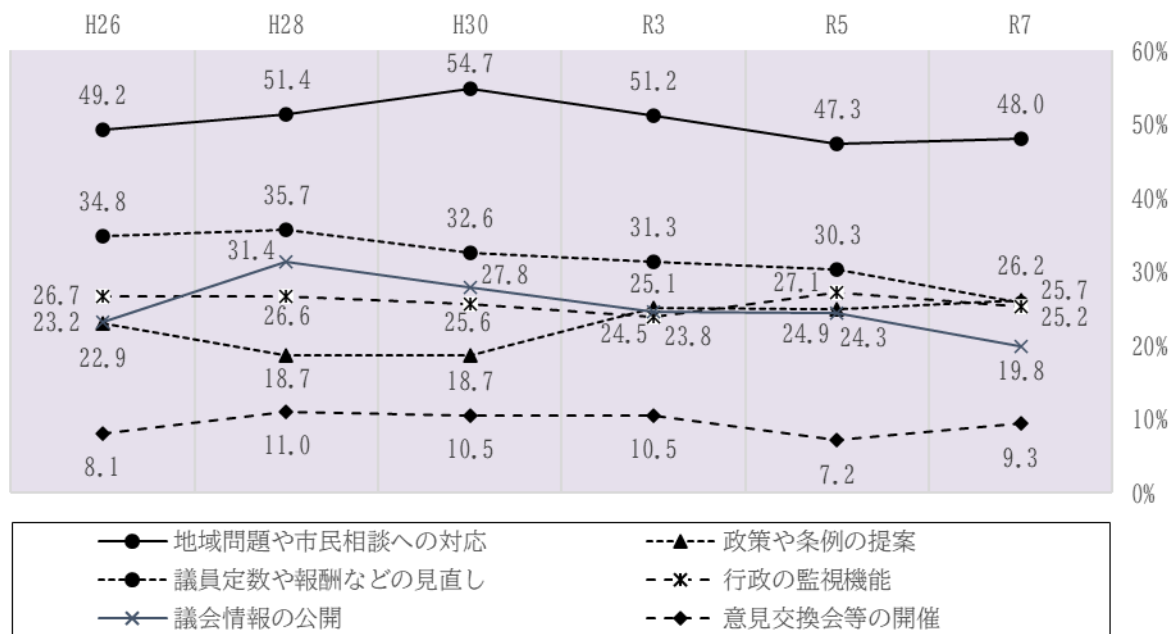


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化 (平成 26 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「意見交換会等の開催」の割合が 2.1 ポイント増加している。一方、「議員定数や報酬などの見直し」の割合は 4.6 ポイント減少している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

属性別にみると、すべての属性で「地域問題や市民相談への対応」の割合が最も高く、あまり大きな違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		行政の監視機能	政策や条例の提案	議会情報の公開	市民相談への対応	意見交換会等の開催	報酬などの見直し	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)									
性別	男性 (n= 788)	237 30.1	225 28.6	152 19.3	313 39.7	66 8.4	214 27.2	38 4.8	71 9.0
	女性 (n= 1,090)	237 21.7	268 24.6	220 20.2	587 53.9	110 10.1	269 24.7	35 3.2	82 7.5
	その他 (n= 2)	1 50.0	-	-	2 100.0	-	1 50.0	-	-
年代別	10代 (n= 10)	1 10.0	3 30.0	2 20.0	7 70.0	1 10.0	1 10.0	-	-
	20代 (n= 149)	35 23.5	53 35.6	31 20.8	64 43.0	15 10.1	34 22.8	7 4.7	6 4.0
	30代 (n= 222)	65 29.3	80 36.0	44 19.8	104 46.8	19 8.6	58 26.1	10 4.5	5 2.3
	40代 (n= 278)	73 26.3	88 31.7	54 19.4	138 49.6	26 9.4	70 25.2	15 5.4	8 2.9
	50代 (n= 366)	97 26.5	101 27.6	78 21.3	187 51.1	32 8.7	87 23.8	13 3.6	18 4.9
	60代 (n= 352)	92 26.1	82 23.3	74 21.0	174 49.4	31 8.8	120 34.1	12 3.4	25 7.1
	70代以上 (n= 502)	112 22.3	86 17.1	88 17.5	226 45.0	52 10.4	114 22.7	16 3.2	92 18.3
地区別	本庁地区 (n= 652)	166 25.5	190 29.1	132 20.2	276 42.3	63 9.7	177 27.1	26 4.0	57 8.7
	真和志地区 (n= 563)	139 24.7	143 25.4	111 19.7	286 50.8	53 9.4	143 25.4	18 3.2	50 8.9
	小祿地区 (n= 320)	86 26.9	81 25.3	53 16.6	154 48.1	30 9.4	82 25.6	15 4.7	20 6.3
	首里地区 (n= 337)	82 24.3	77 22.8	72 21.4	180 53.4	29 8.6	82 24.3	14 4.2	26 7.7
居住年数別	1年未満 (n= 64)	18 28.1	19 29.7	18 28.1	24 37.5	1 1.6	13 20.3	4 6.3	5 7.8
	1～2年 (n= 103)	27 26.2	36 35.0	16 15.5	54 52.4	9 8.7	18 17.5	7 6.8	5 4.9
	3～5年 (n= 160)	45 28.1	57 35.6	31 19.4	71 44.4	20 12.5	32 20.0	6 3.8	7 4.4
	6～10年 (n= 173)	42 24.3	53 30.6	37 21.4	85 49.1	19 11.0	36 20.8	9 5.2	6 3.5
	11～20年 (n= 263)	62 23.6	65 24.7	53 20.2	125 47.5	23 8.7	70 26.6	9 3.4	24 9.1
	21年以上 (n= 1,116)	278 24.9	263 23.6	217 19.4	543 48.7	104 9.3	313 28.0	38 3.4	108 9.7

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・市民の声の反映 (6人) 女性-40代-小祿地区・他
- ・議会情報の公開 (5人) 女性-40代-本庁地区・他
- ・議員への法令の遵守やコンプラの教育 (5人) 男性-30代-本庁地区・他

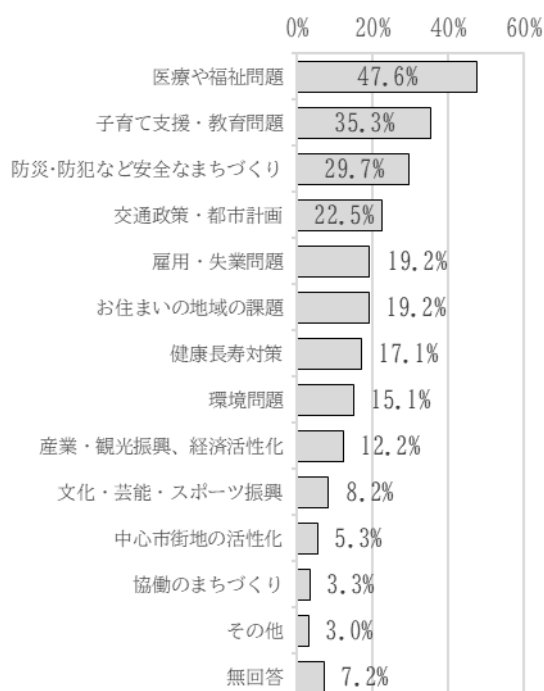
質問 16. 意見交換会等で取り上げてほしいテーマを次の中から3つまでお選びください。

1. 子育て支援・教育問題 2. 健康長寿対策 3. 医療や福祉問題
 4. 環境問題 5. お住まいの地域の課題 6. 産業・観光振興、経済活性化
 7. 雇用・失業問題 8. 中心市街地の活性化 9. 交通政策・都市計画
 10. 防災・防犯など安全なまちづくり 11. 協働のまちづくり 12. 文化・芸能・スポーツ振興
 13. その他 ()

意見交換会で取り上げてほしいテーマで最も多かったのは「医療や福祉問題」である。

意見交換会で取り上げてほしいテーマについては、「医療や福祉問題」の割合が47.6%で最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」の割合が35.3%、「防災・防犯など安全なまちづくり」の割合が29.7%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	897	47.6%
2位	子育て支援・教育問題	665	35.3%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	560	29.7%
4位	交通政策・都市計画	425	22.5%
5位	雇用・失業問題	362	19.2%
6位	お住まいの地域の課題	361	19.2%
7位	健康長寿対策	322	17.1%
8位	環境問題	284	15.1%
9位	産業・観光振興、経済活性化	230	12.2%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	155	8.2%
11位	中心市街地の活性化	100	5.3%
12位	協働のまちづくり	62	3.3%
-	その他	56	3.0%
-	無回答	135	7.2%
合 計		4,614	244.8%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 障害者などマイノリティに対する支援 (3人)
- ・ ひきこもり支援 (3人)
- ・ 防犯対策 (3人)

男性-50代-本庁地区・他
 女性-40代-真和志地区・他
 女性-70代以上-首里地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、20～40代では「子育て支援・教育問題」の割合が最も高くなっており、50代以上では「医療や福祉問題」の割合が最も高い。また、70代以上では「健康長寿対策」の割合も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

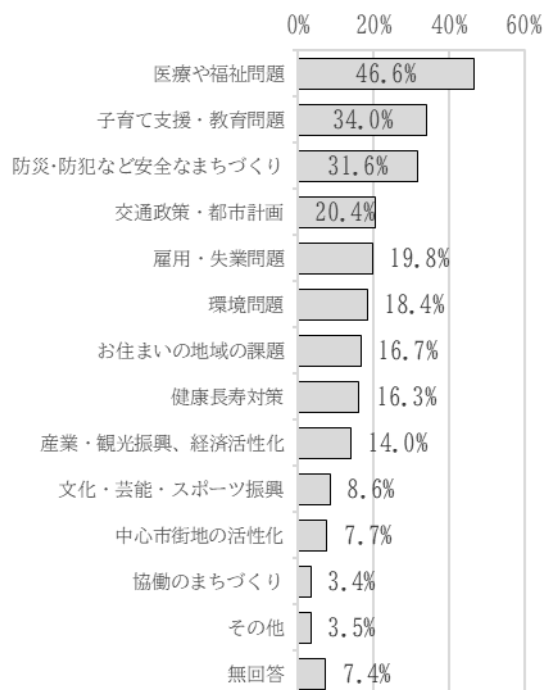
選択項目		子育て支援・教育問題	健康長寿対策	医療や福祉問題	環境問題	お住まいの地域の課題	産業・観光振興、経済活性化	雇用・失業問題	中心市街地の活性化	都市計画	交通安全政策・まちづくり	防災・防犯など	協働のまちづくり	文化・芸能・スポーツ振興	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)																
性別	男性 (n= 788)	261 33.1	118 15.0	337 42.8	107 13.6	175 22.2	117 14.8	157 19.9	44 5.6	206 26.1	209 26.5	24 3.0	67 8.5	24 3.0	66 8.4	
	女性 (n= 1,090)	402 36.9	204 18.7	560 51.4	175 16.1	186 17.1	112 10.3	204 18.7	56 5.1	219 20.1	348 31.9	38 3.5	87 8.0	31 2.8	66 6.1	
	その他 (n= 2)	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-
年代別	10代 (n= 10)	5 50.0	1 10.0	6 60.0	3 30.0	-	3 30.0	2 20.0	-	2 20.0	3 30.0	-	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	74 49.7	9 6.0	48 32.2	17 11.4	24 16.1	23 15.4	44 29.5	8 5.4	45 30.2	44 29.5	2 1.3	18 12.1	3 2.0	6 4.0	
	30代 (n= 222)	139 62.6	14 6.3	90 40.5	21 9.5	51 23.0	34 15.3	52 23.4	15 6.8	67 30.2	54 24.3	9 4.1	19 8.6	4 1.8	4 1.8	
	40代 (n= 278)	147 52.9	18 6.5	121 43.5	30 10.8	47 16.9	43 15.5	54 19.4	13 4.7	64 23.0	94 33.8	10 3.6	25 9.0	13 4.7	5 1.8	
	50代 (n= 366)	109 29.8	40 10.9	172 47.0	56 15.3	78 21.3	50 13.7	88 24.0	20 5.5	101 27.6	115 31.4	18 4.9	29 7.9	19 5.2	16 4.4	
	60代 (n= 352)	87 24.7	84 23.9	207 58.8	66 18.8	70 19.9	30 8.5	67 19.0	15 4.3	63 17.9	115 32.7	11 3.1	32 9.1	7 2.0	25 7.1	
	70代以上 (n= 502)	104 20.7	156 31.1	251 50.0	90 17.9	91 18.1	46 9.2	54 10.8	29 5.8	82 16.3	132 26.3	12 2.4	31 6.2	10 2.0	77 15.3	
地区別	本庁地区 (n= 652)	222 34.0	106 16.3	304 46.6	120 18.4	109 16.7	91 14.0	129 19.8	50 7.7	133 20.4	206 31.6	22 3.4	56 8.6	23 3.5	48 7.4	
	真和志地区 (n= 563)	200 35.5	92 16.3	267 47.4	72 12.8	106 18.8	66 11.7	114 20.2	26 4.6	143 25.4	165 29.3	18 3.2	43 7.6	12 2.1	48 8.5	
	小緑地区 (n= 320)	125 39.1	51 15.9	150 46.9	45 14.1	61 19.1	39 12.2	63 19.7	15 4.7	74 23.1	86 26.9	12 3.8	24 7.5	11 3.4	19 5.9	
	首里地区 (n= 337)	118 35.0	71 21.1	172 51.0	44 13.1	83 24.6	32 9.5	53 15.7	9 2.7	74 22.0	97 28.8	10 3.0	29 8.6	10 3.0	18 5.3	
居住年数別	1年未満 (n= 64)	24 37.5	6 9.4	26 40.6	12 18.8	11 17.2	8 12.5	6 9.4	4 6.3	19 29.7	13 20.3	-	3 4.7	1 1.6	5 7.8	
	1～2年 (n= 103)	43 41.7	6 5.8	39 37.9	11 10.7	18 17.5	22 21.4	20 19.4	5 4.9	39 37.9	26 25.2	3 2.9	13 12.6	5 4.9	5 4.9	
	3～5年 (n= 160)	68 42.5	16 10.0	59 36.9	23 14.4	32 20.0	25 15.6	36 22.5	10 6.3	54 33.8	47 29.4	8 5.0	19 11.9	5 3.1	6 3.8	
	6～10年 (n= 173)	69 39.9	20 11.6	74 42.8	28 16.2	37 21.4	29 16.8	38 22.0	8 4.6	43 24.9	52 30.1	7 4.0	10 5.8	7 4.0	8 4.6	
	11～20年 (n= 263)	105 39.9	31 11.8	119 45.2	40 15.2	45 17.1	38 14.4	47 17.9	7 2.7	61 23.2	79 30.0	11 4.2	20 7.6	6 2.3	22 8.4	
	21年以上 (n= 1,116)	356 31.9	242 21.7	578 51.8	167 15.0	177 19.4	106 9.5	214 19.2	66 5.9	209 18.7	339 30.4	33 3.0	89 8.0	32 2.9	88 7.9	

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

意見交換会で取り上げてほしいテーマについて、居住地区別に順位づけし、比較を行った。
すべての地区で「医療や福祉問題」の割合が最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」となっている。

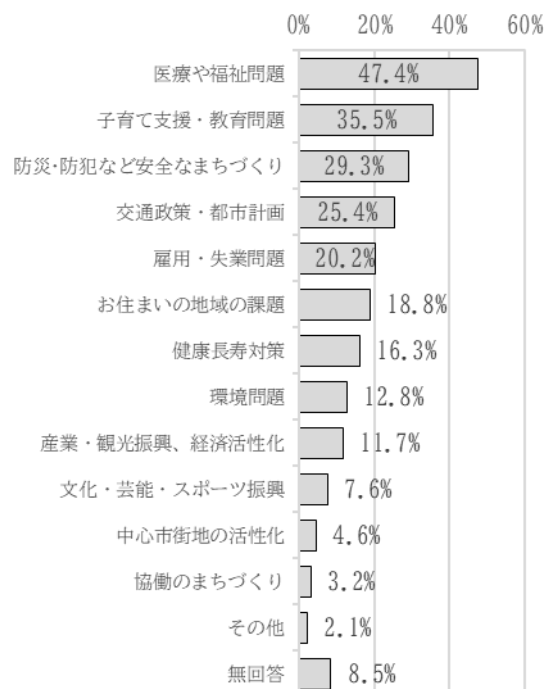
【本庁地区】

順位	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	304	46.6%
2位	子育て支援・教育問題	222	34.0%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	206	31.6%
4位	交通政策・都市計画	133	20.4%
5位	雇用・失業問題	129	19.8%
6位	環境問題	120	18.4%
7位	お住まいの地域の課題	109	16.7%
8位	健康長寿対策	106	16.3%
9位	産業・観光振興、経済活性化	91	14.0%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	56	8.6%
11位	中心市街地の活性化	50	7.7%
12位	協働のまちづくり	22	3.4%
-	その他	23	3.5%
-	無回答	48	7.4%
合 計		1,619	248.3%
回答者数		652	-



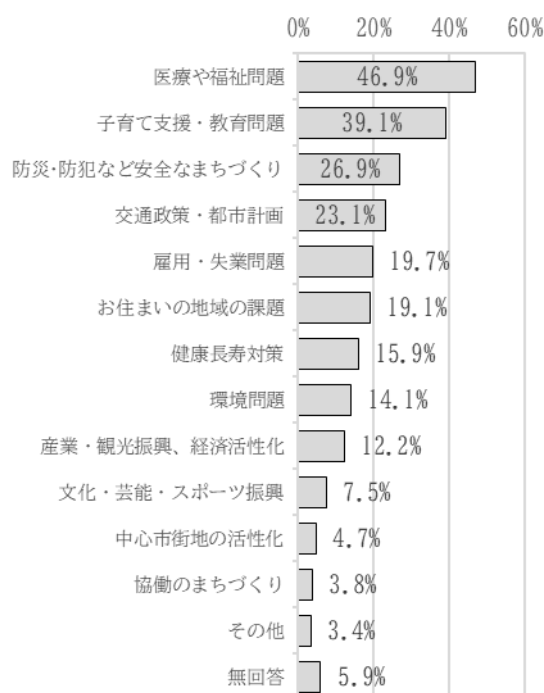
【真和志地区】

順位	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	267	47.4%
2位	子育て支援・教育問題	200	35.5%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	165	29.3%
4位	交通政策・都市計画	143	25.4%
5位	雇用・失業問題	114	20.2%
6位	お住まいの地域の課題	106	18.8%
7位	健康長寿対策	92	16.3%
8位	環境問題	72	12.8%
9位	産業・観光振興、経済活性化	66	11.7%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	43	7.6%
11位	中心市街地の活性化	26	4.6%
12位	協働のまちづくり	18	3.2%
-	その他	12	2.1%
-	無回答	48	8.5%
合 計		1,372	243.7%
回答者数		563	-



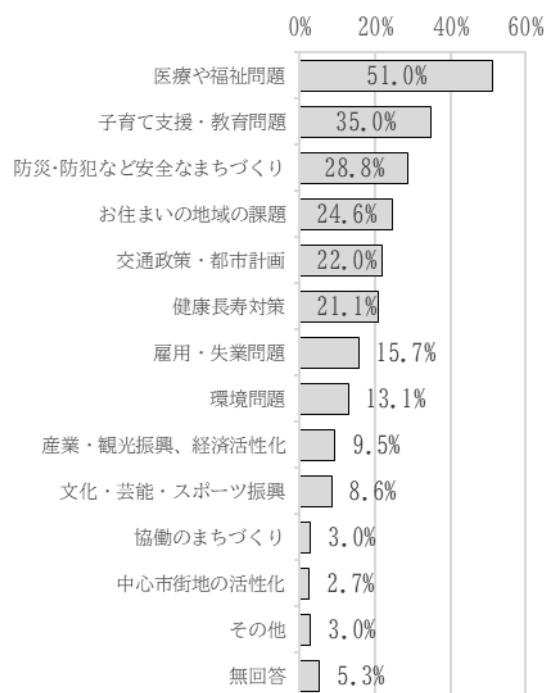
【小祿地区】

順位	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	150	46.9%
2位	子育て支援・教育問題	125	39.1%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	86	26.9%
4位	交通政策・都市計画	74	23.1%
5位	雇用・失業問題	63	19.7%
6位	お住まいの地域の課題	61	19.1%
7位	健康長寿対策	51	15.9%
8位	環境問題	45	14.1%
9位	産業・観光振興、経済活性化	39	12.2%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	24	7.5%
11位	中心市街地の活性化	15	4.7%
12位	協働のまちづくり	12	3.8%
-	その他	11	3.4%
-	無回答	19	5.9%
合 計		775	242.2%
回答者数		320	-



【首里地区】

順位	選択項目	回答数	割合
1位	医療や福祉問題	172	51.0%
2位	子育て支援・教育問題	118	35.0%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	97	28.8%
4位	お住まいの地域の課題	83	24.6%
5位	交通政策・都市計画	74	22.0%
6位	健康長寿対策	71	21.1%
7位	雇用・失業問題	53	15.7%
8位	環境問題	44	13.1%
9位	産業・観光振興、経済活性化	32	9.5%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	29	8.6%
11位	協働のまちづくり	10	3.0%
12位	中心市街地の活性化	9	2.7%
-	その他	10	3.0%
-	無回答	18	5.3%
合 計		820	243.3%
回答者数		337	-



（5）平和行政・男女共同参画について

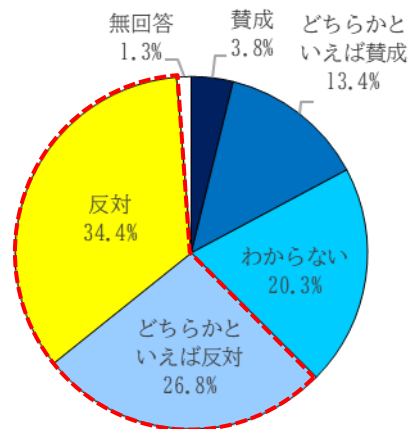
質問 17. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはごどう思いますか。
次の中から1つお選びください。
1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. わからない
4. どちらかといえば反対 5. 反対

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について「賛成」の割合は17.2%、「反対」の割合は61.2%である。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について「反対」の割合が34.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば反対」の割合が26.8%、「わからない」の割合が20.3%の順となっている。

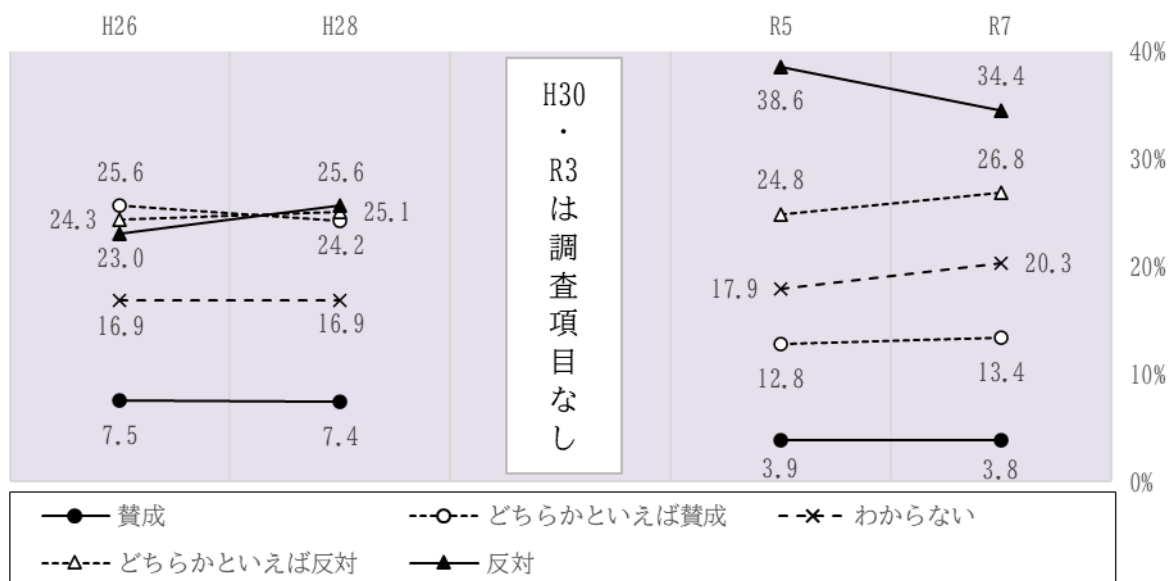
「賛成」・「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は17.2%、「反対」・「どちらかといえば反対」を合わせた割合は61.2%となっており、「反対」が「賛成」を大きく上回っている。

選択項目	回答数	割合
賛成	72	3.8%
どちらかといえば賛成	252	13.4%
わからない	382	20.3%
どちらかといえば反対	505	26.8%
反対	649	34.4%
無回答	25	1.3%
合 計	1,885	100.0%



【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

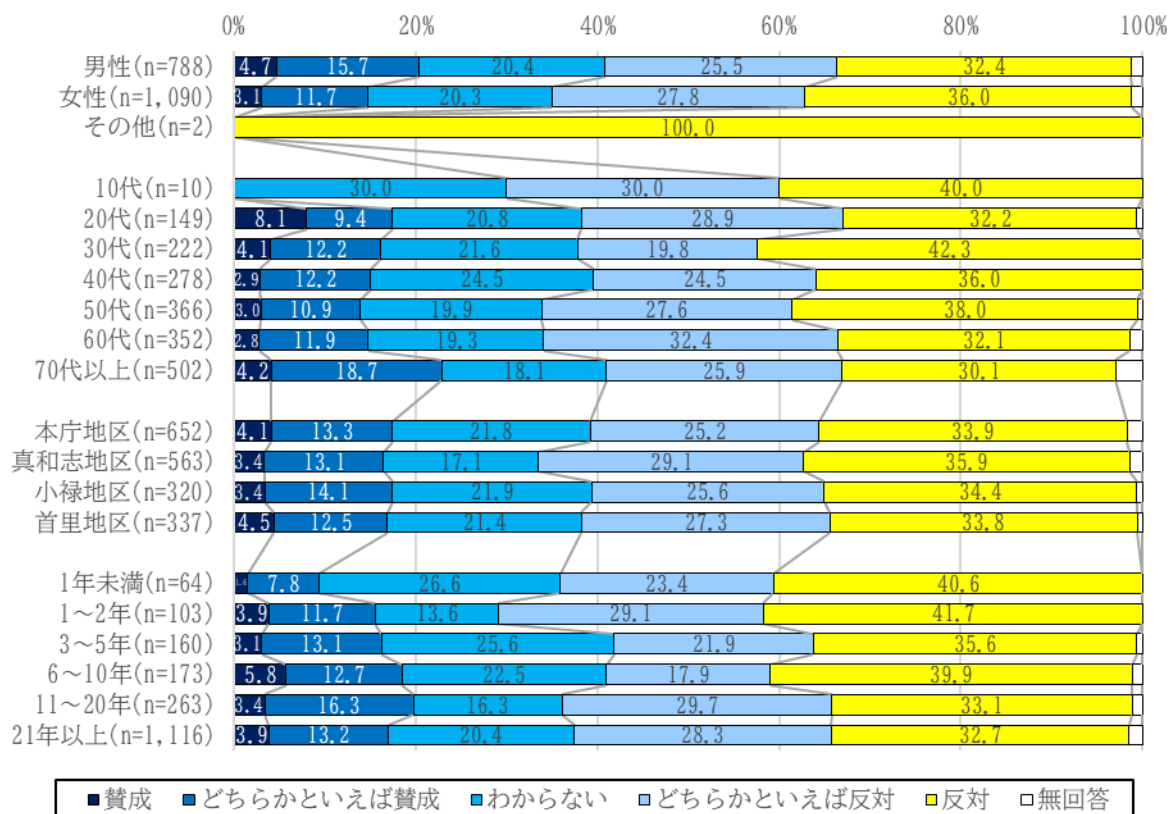
前回調査と比較すると、「どちらかといえば反対」の割合が2.0ポイント増加し、「反対」の割合が4.2ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

性別でみると、男性は女性に比べ、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。
 年代別でみると、70代以上で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が高くなっている。

選択項目		賛成	どちらかといえば賛成	わからない	どちらかといえば反対	反対	無回答
回答者属性(n=合計)							
性別	男性 (n= 788)	37	124	161	201	255	10
	女性 (n= 1,090)	34	127	221	303	392	13
	その他 (n= 2)	0	0	0	0	2	0
年代別	10代 (n= 10)	0	0	3	3	4	0
	20代 (n= 149)	12	14	31	43	48	1
	30代 (n= 222)	9	27	48	44	94	0
	40代 (n= 278)	8	34	68	68	100	0
	50代 (n= 366)	11	40	73	101	139	2
	60代 (n= 352)	10	42	68	114	113	5
	70代以上 (n= 502)	21	94	91	130	151	15
地区別	本庁地区 (n= 652)	27	87	142	164	221	11
	真和志地区 (n= 563)	19	74	96	164	202	8
	小禄地区 (n= 320)	11	45	70	82	110	2
	首里地区 (n= 337)	15	42	72	92	114	2
居住年数別	1年未満 (n= 64)	1	5	17	15	26	0
	1～2年 (n= 103)	4	12	14	30	43	0
	3～5年 (n= 160)	5	21	41	35	57	1
	6～10年 (n= 173)	10	22	39	31	69	2
	11～20年 (n= 263)	9	43	43	78	87	3
	21年以上 (n= 1,116)	43	147	228	316	365	17



質問 18. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。LGBTQ カップルの申請に基づく、那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

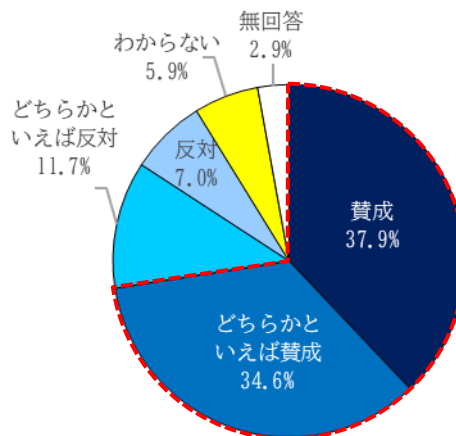
- 1. 賛成
 - 2. どちらかといえば賛成
 - 3. どちらかといえば反対
 - 4. 反対
 - 5. わからない
- ※システム上の都合により、ウェブ回答の選択肢に「5. わからない」を追加した。

「性の多様性」に関する取組について「賛成」の割合は 72.5%、「反対」の割合は 18.7%である。

「性の多様性」に関する取組については、「賛成」の割合が 37.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が 34.6%、「どちらかといえば反対」の割合が 11.7%の順となっている。

「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は 18.7%になっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

選択項目	回答数	割合
賛成	715	37.9%
どちらかといえば賛成	652	34.6%
どちらかといえば反対	220	11.7%
反対	132	7.0%
わからない	112	5.9%
無回答	54	2.9%
合計	1,885	100.0%

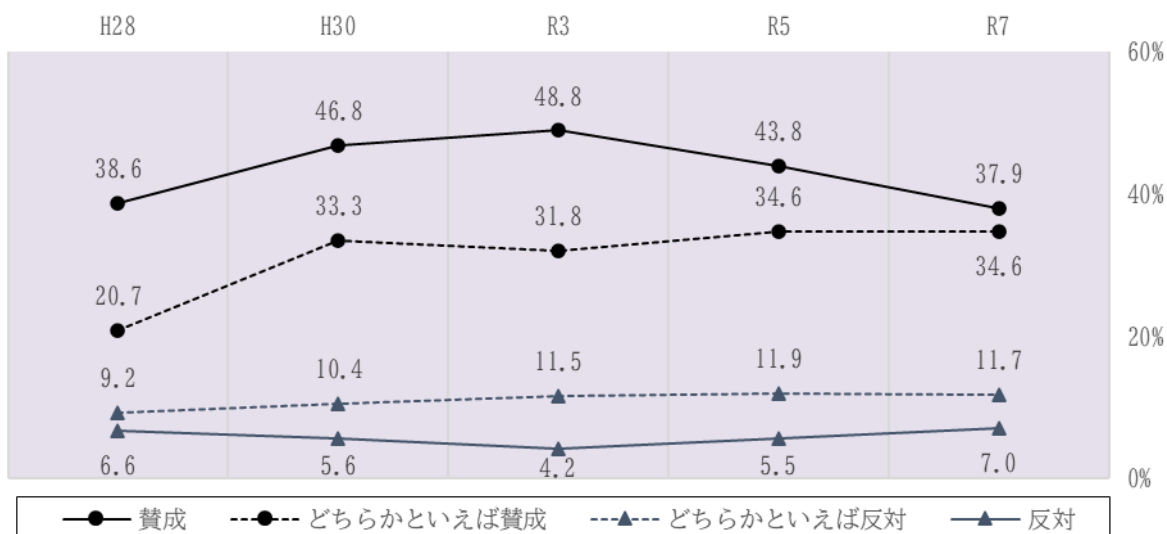


【那覇市の取組】

- 平成 27 年 7 月 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言
- 平成 28 年 7 月 「那覇市パートナーシップ登録」制度の開始
- 令和 4 年 10 月 「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」制度へ拡充

【経年変化（平成 28 年度～令和 7 年度）】

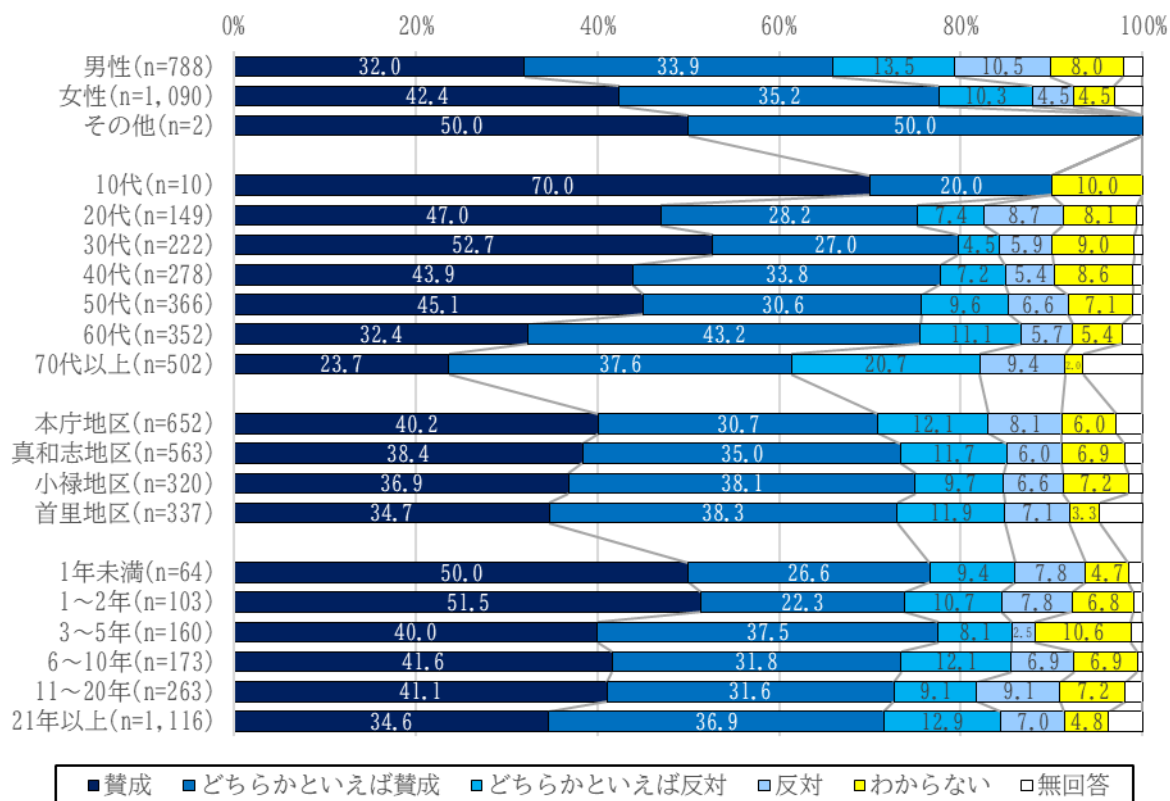
前回調査と比較すると、「賛成」の割合が 5.9 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

性別でみると、女性は男性に比べ、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。
 年代別でみると、年代が上がるにつれて、「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が高くなる傾向にあるが、いずれの年代も「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は6割を上回っている。

選択項目		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)							
性別	男性 (n= 788)	252	267	106	83	63	17
	女性 (n= 1,090)	462	384	112	49	49	34
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	7	2	0	0	1	0
	20代 (n= 149)	70	42	11	13	12	1
	30代 (n= 222)	117	60	10	13	20	2
	40代 (n= 278)	122	94	20	15	24	3
	50代 (n= 366)	165	112	35	24	26	4
	60代 (n= 352)	114	152	39	20	19	8
	70代以上 (n= 502)	119	189	104	47	10	33
地区別	本庁地区 (n= 652)	262	200	79	53	39	19
	真和志地区 (n= 563)	216	197	66	34	39	11
	小祿地区 (n= 320)	118	122	31	21	23	5
	首里地区 (n= 337)	117	129	40	24	11	16
居住年数別	1年未満 (n= 64)	32	17	6	5	3	1
	1～2年 (n= 103)	53	23	11	8	7	1
	3～5年 (n= 160)	64	60	13	4	17	2
	6～10年 (n= 173)	72	55	21	12	12	1
	11～20年 (n= 263)	108	83	24	24	19	5
	21年以上 (n= 1,116)	386	412	144	78	54	42



(6) 誰もが移動しやすいまちについて

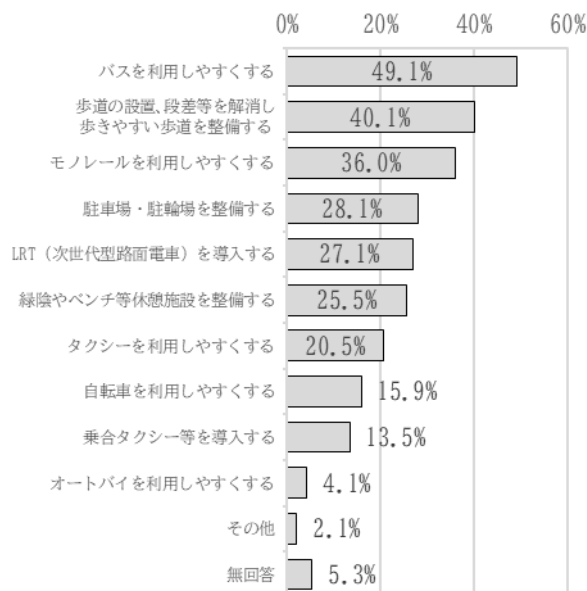
質問 19. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

1. 自転車を利用しやすくする
2. オートバイを利用しやすくする
3. タクシーを利用しやすくする
4. バスを利用しやすくする
5. モノレールを利用しやすくする
6. LRT (次世代型路面電車) を導入する
7. 乗合タクシー等を導入する
8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する
9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する
10. 駐車場・駐輪場を整備する
11. その他 ()

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものについて最も多かったのは「バスを利用しやすくする」である。

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「バスを利用しやすくする」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が40.1%、「モノレールを利用しやすくする」の割合が36.0%、の順となっている。

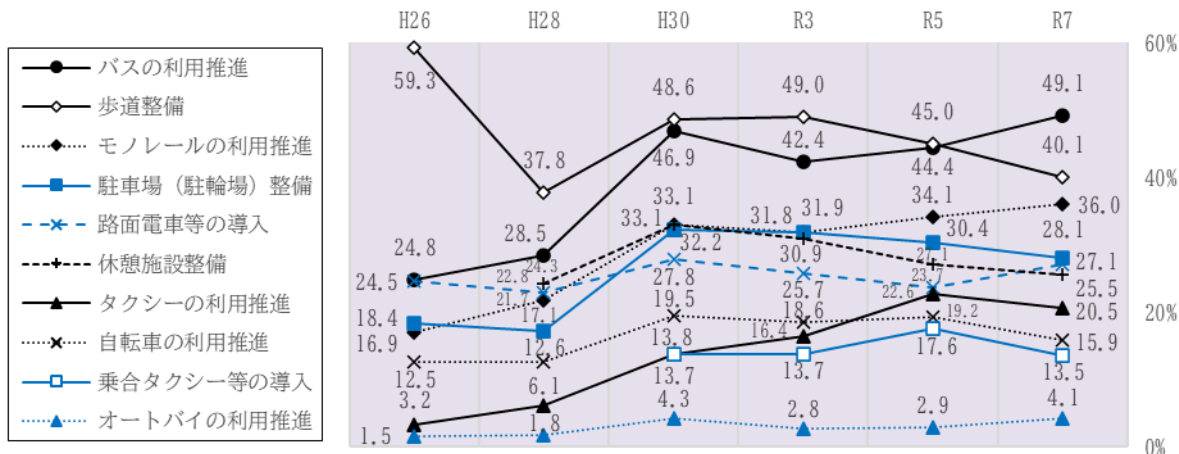
順位	選択項目	回答数	割合
1位	バスを利用しやすくする	926	49.1%
2位	歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する	755	40.1%
3位	モノレールを利用しやすくする	678	36.0%
4位	駐車場・駐輪場を整備する	530	28.1%
5位	LRT (次世代型路面電車) を導入する	510	27.1%
6位	緑陰やベンチ等休憩施設を整備する	481	25.5%
7位	タクシーを利用しやすくする	387	20.5%
8位	自転車を利用しやすくする	300	15.9%
9位	乗合タクシー等を導入する	254	13.5%
10位	オートバイを利用しやすくする	78	4.1%
-	その他	39	2.1%
-	無回答	100	5.3%
合計		5,038	267.3%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化 (平成 26 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「バスを利用しやすくする」の割合が4.7ポイント増加している。
 ※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代では「モノレールを利用しやすくする」の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、首里地区では「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		選択項目											
		利用 しやす くする 自 転 車 を	利用 しやす くする オ ー ト バ イ を	利用 しやす くする タ ク シ ー を	利用 しやす くする バ ス を	利用 しやす くする モ ノ レ ー ル を	(次 世 代 型 路 面 電 車) を 導 入 す る L R T	乗 合 タ ク シ ー 等 を 導 入 す る	解 消 し 歩 き や す い 歩 道 を 整 備 す る	歩 道 の 設 置 、 段 差 等 を 整 備 す る	休 憩 施 設 を 整 備 す る 緑 陰 や ベ ン チ 等	駐 車 場 ・ 駐 輪 場 を 整 備 す る	そ の 他
性別	男性 (n= 788)	163 20.7	65 8.2	147 18.7	375 47.6	287 36.4	238 30.2	84 10.7	261 33.1	163 20.7	238 30.2	20 2.5	45 5.7
	女性 (n= 1,090)	136 12.5	12 1.1	238 21.8	550 50.5	389 35.7	272 25.0	170 15.6	493 45.2	316 29.0	292 26.8	19 1.7	52 4.8
	その他 (n= 2)	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	2 100.0	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	2 20.0	1 10.0	-	7 70.0	5 50.0	2 20.0	-	3 30.0	5 50.0	3 30.0	-	-
	20代 (n= 149)	31 20.8	13 8.7	23 15.4	64 43.0	80 53.7	38 25.5	11 7.4	46 30.9	27 18.1	52 34.9	6 4.0	1 0.7
	30代 (n= 222)	47 21.2	8 3.6	46 20.7	120 54.1	105 47.3	75 33.8	13 5.9	66 29.7	43 19.4	71 32.0	5 2.3	6 2.7
	40代 (n= 278)	53 19.1	9 3.2	48 17.3	138 49.6	117 42.1	81 29.1	30 10.8	101 36.3	56 20.1	93 33.5	8 2.9	13 4.7
	50代 (n= 366)	72 19.7	18 4.9	71 19.4	181 49.5	132 36.1	100 27.3	56 15.3	144 39.3	80 21.9	118 32.2	12 3.3	11 3.0
	60代 (n= 352)	41 11.6	13 3.7	74 21.0	170 48.3	112 31.8	85 24.1	56 15.9	169 48.0	111 31.5	99 28.1	5 1.4	17 4.8
	70代以上 (n= 502)	52 10.4	15 3.0	123 24.5	245 48.8	127 25.3	129 25.7	87 17.3	226 45.0	158 31.5	93 18.5	3 0.6	49 9.8
地区別	本庁地区 (n= 652)	117 17.9	33 5.1	120 18.4	342 52.5	225 34.5	188 28.8	81 12.4	254 39.0	166 25.5	165 25.3	16 2.5	38 5.8
	真和志地区 (n= 563)	86 15.3	25 4.4	116 20.6	235 50.6	191 33.9	162 28.8	78 13.9	221 39.3	144 25.6	170 30.2	8 1.4	27 4.8
	小緑地区 (n= 320)	51 15.9	6 1.9	59 18.4	152 47.5	135 42.2	71 22.2	48 15.0	128 40.0	68 21.3	101 31.6	11 3.4	14 4.4
	首里地区 (n= 337)	44 13.1	12 3.6	87 25.8	142 42.1	125 37.1	87 25.8	47 13.9	146 43.3	101 30.0	93 27.6	4 1.2	18 5.3
居住年数別	1年未満 (n= 64)	16 25.0	5 7.8	15 23.4	32 50.0	31 48.4	21 32.8	6 9.4	17 26.6	12 18.8	15 23.4	1 1.6	-
	1~2年 (n= 103)	22 21.4	3 2.9	17 16.5	54 52.4	45 43.7	31 30.1	8 7.8	34 33.0	20 19.4	37 35.9	3 2.9	4 3.9
	3~5年 (n= 160)	37 23.1	7 4.4	22 13.8	84 52.5	66 41.3	47 29.4	17 10.6	54 33.8	29 18.1	56 35.0	6 3.8	6 3.8
	6~10年 (n= 173)	33 19.1	6 3.5	33 19.1	83 48.0	69 39.9	46 26.6	27 15.6	64 37.0	39 22.5	47 27.2	3 1.7	8 4.6
	11~20年 (n= 263)	57 21.7	17 6.5	48 18.3	125 47.5	111 42.2	79 30.0	37 14.1	92 35.0	56 21.3	65 24.7	9 3.4	11 4.2
	21年以上 (n= 1,116)	134 12.0	39 3.5	249 22.3	546 48.9	356 31.9	285 25.5	159 14.2	492 44.1	324 29.0	310 27.8	17 1.5	69 6.2

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・バスの運用を整備する (7人) 女性-50代-本庁地区・他
- ・道路のメンテナンスと拡幅 (6人) 男性-50代-真和志地区・他
- ・渋滞の解消 (5人) 女性-60代-真和志地区・他

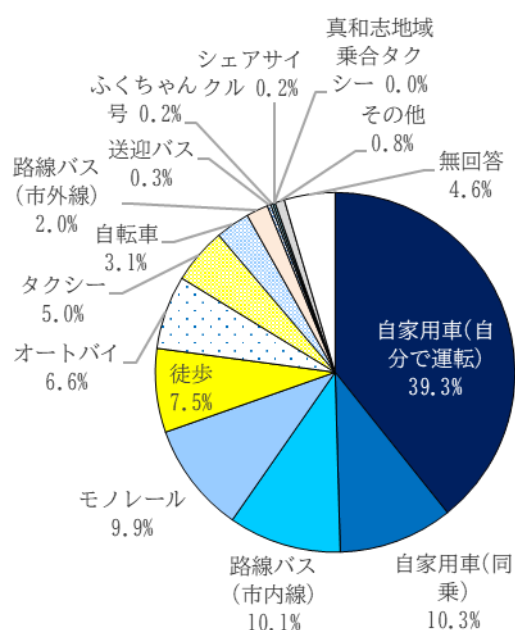
質問 20. あなたが現在、平日に最も多く利用する交通手段を次の中から1つお選びください。

- 1.モノレール 2.路線バス(市内線) 3.路線バス(市外線) 4.ふくちゃん号
 5.真和志地域乗合タクシー 6.タクシー 7.自転車 8.シェアサイクル
 9.オートバイ 10.徒歩 11.送迎バス
 12.自家用車(自分で運転) 13.自家用車(同乗)
 14.その他 ()

平日に最も多く利用する交通手段は「自家用車(自分で運転)」である。

平日に最も多く利用する交通手段は「自家用車(自分で運転)」の割合が39.3%と最も高く、次いで「自家用車(同乗)」の割合が10.3%、「路線バス(市内線)」の割合が10.1%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	自家用車(自分で運転)	740	39.3%
2位	自家用車(同乗)	194	10.3%
3位	路線バス(市内線)	191	10.1%
4位	モノレール	187	9.9%
5位	徒歩	142	7.5%
6位	オートバイ	125	6.6%
7位	タクシー	95	5.0%
8位	自転車	58	3.1%
9位	路線バス(市外線)	37	2.0%
10位	送迎バス	6	0.3%
11位	ふくちゃん号	4	0.2%
11位	シェアサイクル	4	0.2%
13位	真和志地域乗合タクシー	0	0.0%
-	その他	16	0.8%
-	無回答	86	4.6%
	合計	1,885	100.0%



【経年変化(令和5年度～令和7年度)】

前回調査と比較すると、「自家用車(同乗)」の割合が2.8ポイント増加している。

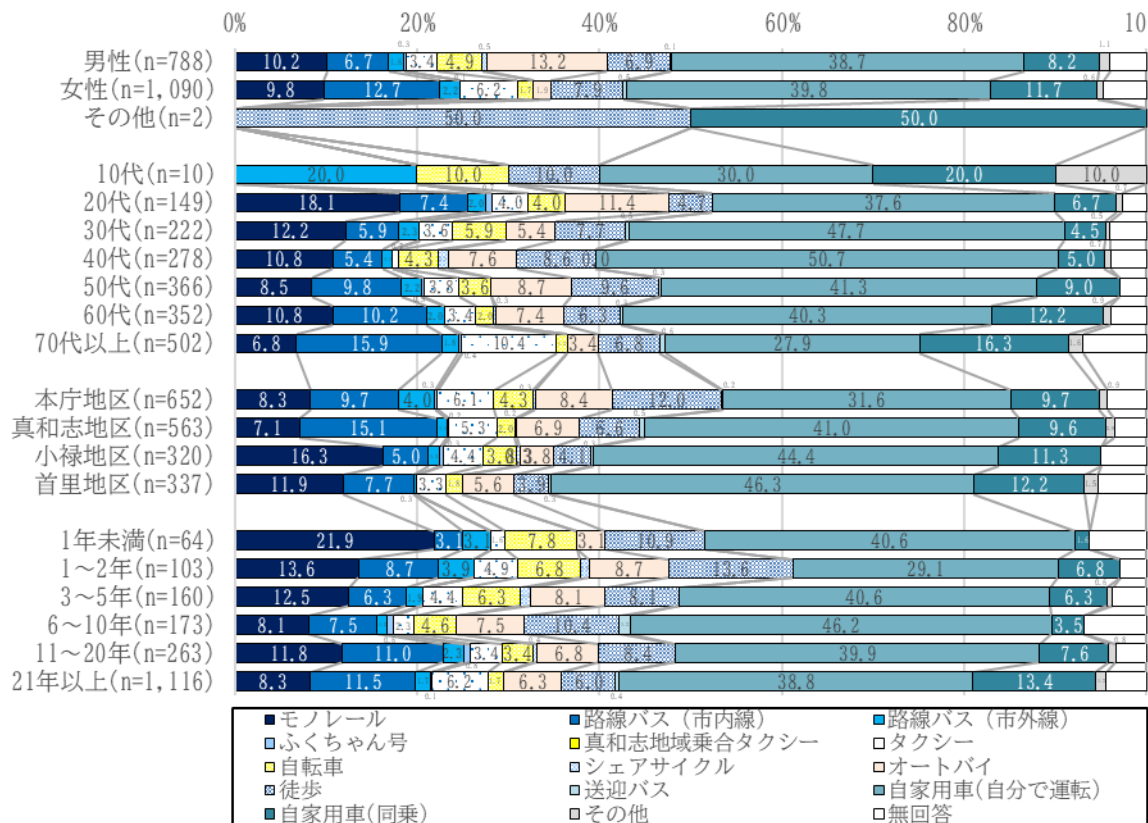
※令和5年度は路線バスを市内線と市外線を区別せずに調査を実施した。

選択項目	R5		R7	
モノレール	136	10.0%	187	9.9%
路線バス(市内線)	148	10.9%	191	10.1%
路線バス(市外線)			37	2.0%
ふくちゃん号	3	0.2%	4	0.2%
真和志地域乗合タクシー	0	0.0%	0	0.0%
タクシー	70	5.2%	95	5.0%
自転車	54	4.0%	58	3.1%
シェアサイクル	2	0.1%	4	0.2%
オートバイ	89	6.6%	125	6.6%
徒歩	137	10.1%	142	7.5%
送迎バス	10	0.7%	6	0.3%
自家用車(自分で運転)	573	42.3%	740	39.3%
自家用車(同乗)	105	7.7%	194	10.3%
その他	5	0.4%	16	0.8%
無回答	24	1.8%	86	4.6%
合計	1,356	100.0%	1,885	100.0%
回答者数	1,356	-	1,885	-

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、20代で「モノレール」の割合が高く、70代以上で「路線バス (市内線)」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)		選択項目														
		モノレール	路線バス (市内線)	路線バス (市外線)	ふくちゃん号	真和志地域 乗合タクシー	タクシー	自転車	シェアサイクル	オートバイ	徒歩	送迎バス	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (同乗)	その他	無回答
性別	男性 (n= 788)	80	53	13	2	0	27	39	4	104	54	1	305	65	9	32
	女性 (n= 1,090)	107	138	24	1	0	68	19	0	21	86	5	434	128	7	52
	その他 (n= 2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
年代別	10代 (n= 10)	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	3	2	1	0
	20代 (n= 149)	27	11	3	1	0	6	6	0	17	7	0	56	10	1	4
	30代 (n= 222)	27	13	5	0	0	8	13	0	12	17	1	106	10	1	9
	40代 (n= 278)	30	15	3	0	0	2	12	3	21	24	0	141	14	2	11
	50代 (n= 366)	31	36	8	1	0	14	13	0	32	35	1	151	33	0	11
	60代 (n= 352)	38	36	7	0	0	12	7	1	26	22	1	142	43	3	14
	70代以上 (n= 502)	34	80	9	2	0	52	6	0	17	34	3	140	82	8	35
地区別	本庁地区 (n= 652)	54	63	26	2	0	40	28	2	55	78	1	206	63	6	28
	真和志地区 (n= 563)	40	85	6	1	0	30	11	1	39	37	3	231	54	5	20
	小祿地区 (n= 320)	52	16	4	1	0	14	12	1	12	13	1	142	36	0	16
	首里地区 (n= 337)	40	26	1	0	0	11	6	0	19	13	1	156	41	5	18
居住年数別	1年未満 (n= 64)	14	2	2	0	0	1	5	0	2	7	0	26	1	0	4
	1~2年 (n= 103)	14	9	4	0	0	5	7	1	9	14	0	30	7	0	3
	3~5年 (n= 160)	20	10	3	0	0	7	10	2	13	13	0	65	10	1	6
	6~10年 (n= 173)	14	13	2	1	0	4	8	0	13	18	2	80	6	0	12
	11~20年 (n= 263)	31	29	6	2	0	9	9	1	18	22	0	105	20	2	9
	21年以上 (n= 1,116)	93	128	19	1	0	69	19	0	70	67	4	433	150	13	50



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・社用車
 - ・市内・市外の乗り換え (路線バス)
- 男性-30代-真和志地区
女性-60代-真和志地区

質問 21. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から1つお選びください。

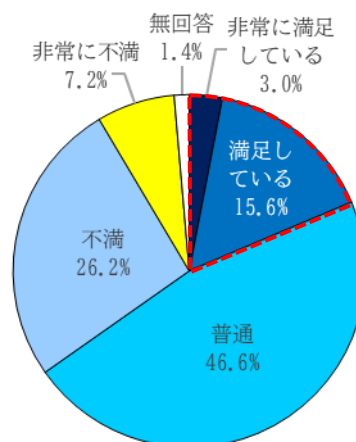
1. 非常に満足している 2. 満足している 3. 普通
4. 不満 5. 非常に不満

各公共交通について「満足」の割合は 18.6%、「不満」の割合は 33.4%である。

バス、モノレール、タクシーの各公共交通について、満足しているかについては、「普通」の割合が 46.6%と最も多く、次いで「不満」の割合が 26.2%、「満足している」の割合が 15.6%の順となっている。

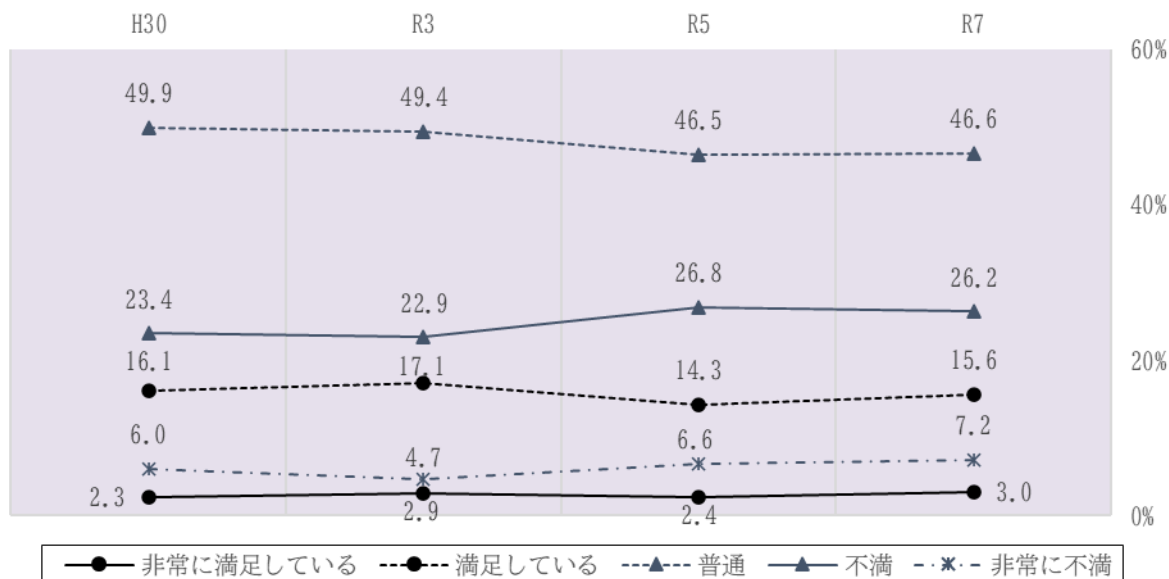
「非常に満足している」と「満足している」を合わせた割合 18.6%に対し、「不満」と「非常に不満」を合わせた割合は 33.4%であり、各公共交通に対して、「不満」を感じている市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	割合
非常に満足している	57	3.0%
満足している	294	15.6%
普通	879	46.6%
不満	494	26.2%
非常に不満	135	7.2%
無回答	26	1.4%
合 計	1,885	100.0%



【経年変化（平成 30 年度～令和 7 年度）】

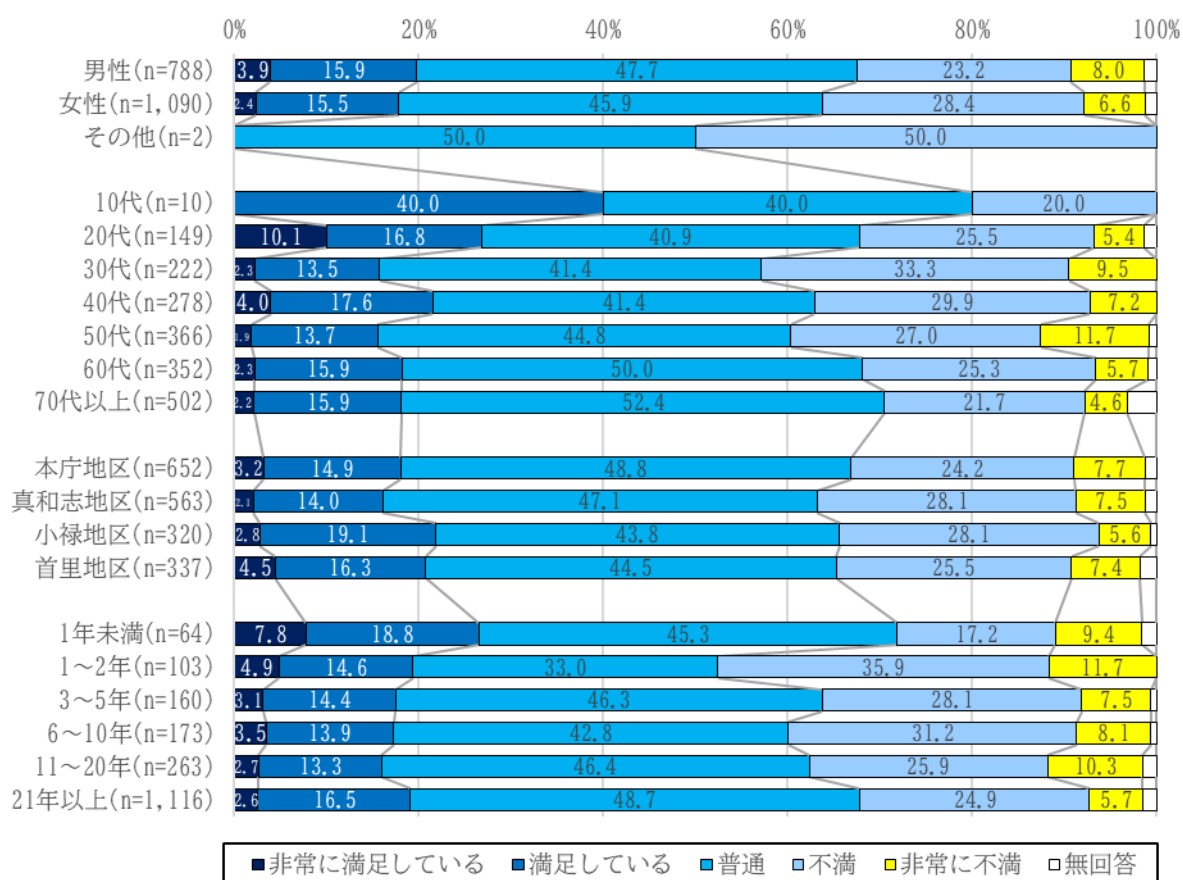
前回調査と比較すると、「満足している」の割合が 1.3 ポイント増加し、「不満」の割合が 0.6 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住地区別でみると、「非常に満足している」「満足している」を合わせた割合は小祿地区で最も高く2割以上の人々が満足している。

回答者属性(n=合計)		選択項目	非常に満足している	満足している	普通	不満	非常に不満	無回答
性別	男性 (n= 788)		31	125	376	183	63	10
	女性 (n= 1,090)		26	169	500	310	72	13
	その他 (n= 2)		0	0	1	1	0	0
年代別	10代 (n= 10)		0	4	4	2	0	0
	20代 (n= 149)		15	25	61	38	8	2
	30代 (n= 222)		5	30	92	74	21	0
	40代 (n= 278)		11	49	115	83	20	0
	50代 (n= 366)		7	50	164	99	43	3
	60代 (n= 352)		8	56	176	89	20	3
	70代以上 (n= 502)		11	80	263	109	23	16
地区別	本庁地区 (n= 652)		21	97	318	158	50	8
	真和志地区 (n= 563)		12	79	265	158	42	7
	小祿地区 (n= 320)		9	61	140	90	18	2
	首里地区 (n= 337)		15	55	150	86	25	6
居住年数別	1年未満 (n= 64)		5	12	29	11	6	1
	1～2年 (n= 103)		5	15	34	37	12	0
	3～5年 (n= 160)		5	23	74	45	12	1
	6～10年 (n= 173)		6	24	74	54	14	1
	11～20年 (n= 263)		7	35	122	68	27	4
	21年以上 (n= 1,116)		29	184	544	278	64	17



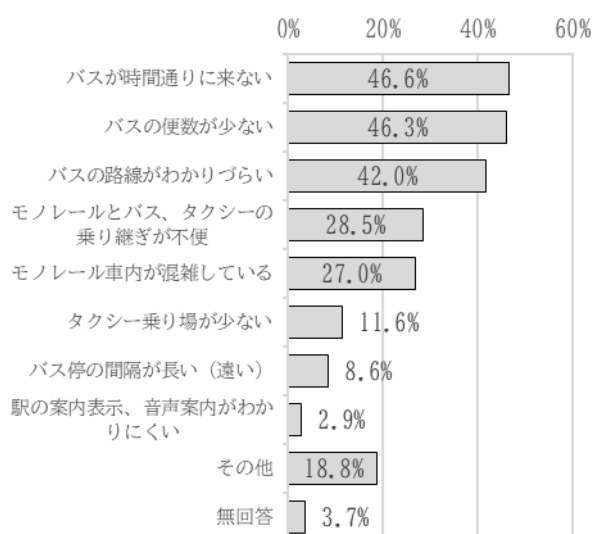
質問 21-1. 質問 21 で「4. 不満」又は「5. 非常に不満」を選択した方に伺います。不満を感じていることを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. バスが時間通りに来ない | 2. バスの便数が少ない |
| 3. バスの路線がわかりづらい | 4. バス停の間隔が長い（遠い） |
| 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 | 6. タクシー乗り場が少ない |
| 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい | 8. モノレール車内が混雑している |
| 9. その他（ ） | |

公共交通の不満を感じていることで最も多かったのは「バスが時間通りに来ない」である。

質問 21 で、各公共交通に対し「不満」を感じている理由について、「バスが時間通りに来ない」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「バスの便数が少ない」の割合が 46.3%、「バスの路線がわかりづらい」の割合が 42.0%の順となっている。

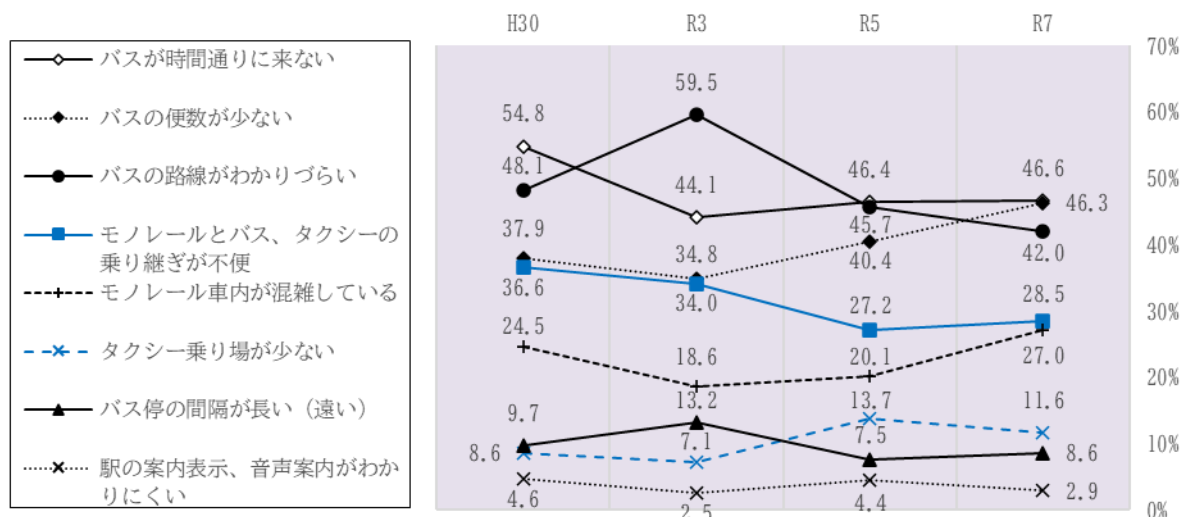
順位	選択項目	回答数	割合
1位	バスが時間通りに来ない	293	46.6%
2位	バスの便数が少ない	291	46.3%
3位	バスの路線がわかりづらい	264	42.0%
4位	モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	179	28.5%
5位	モノレール車内が混雑している	170	27.0%
6位	タクシー乗り場が少ない	73	11.6%
7位	バス停の間隔が長い（遠い）	54	8.6%
8位	駅の案内表示、音声案内がわかりにくい	18	2.9%
-	その他	118	18.8%
-	無回答	23	3.7%
合計		1,483	235.8%
回答者数		629	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成30年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「バスの路線がわかりづらい」の割合が 3.7ポイント減少し、「バスの便数が少ない」の割合が 5.9ポイント増加している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住地区別でみると、本庁地区、小祿地区では「バスが時間通りに来ない」、真和志地区、首里地区では「バスの便数が少ない」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		バスが時間通りに来ない	バスの便数が少ない	バスの路線がわかりづらい	バス停の間隔が長い(遠い)	モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	タクシー乗り場が少ない	音声案内がわかりにくい	駅の案内表示、案内がわかりにくい	モノレール車内が混雑している	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)												
性別	男性 (n= 246)	110 44.7	101 41.1	112 45.5	18 7.3	78 31.7	30 12.2	11 4.5	65 26.4	42 17.1	6 2.4	
	女性 (n= 382)	183 47.9	190 49.7	152 39.8	36 9.4	100 26.2	43 11.3	7 1.8	105 27.5	76 19.9	17 4.5	
	その他 (n= 1)	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 2)	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-
	20代 (n= 46)	24 52.2	17 37.0	13 28.3	2 4.3	12 26.1	5 10.9	2 4.3	19 41.3	9 19.6	1 2.2	
	30代 (n= 95)	60 63.2	39 41.1	41 43.2	8 8.4	24 25.3	6 6.3	3 3.2	28 29.5	22 23.2	1 1.1	
	40代 (n= 103)	45 43.7	37 35.9	45 43.7	7 6.8	28 27.2	14 13.6	1 1.0	31 30.1	24 23.3	2 1.9	
	50代 (n= 142)	56 39.4	60 42.3	68 47.9	9 6.3	44 31.0	11 7.7	7 4.9	48 33.8	34 23.9	2 1.4	
	60代 (n= 109)	40 36.7	63 57.8	50 45.9	11 10.1	40 36.7	15 13.8	2 1.8	27 24.8	19 17.4	4 3.7	
	70代以上 (n= 132)	66 50.0	74 56.1	46 34.8	17 12.9	30 22.7	22 16.7	3 2.3	16 12.1	10 7.6	13 9.8	
地区別	本庁地区 (n= 208)	103 49.5	88 42.3	102 49.0	17 8.2	57 27.4	20 9.6	7 3.4	57 27.4	36 17.3	8 3.8	
	真和志地区 (n= 200)	100 50.0	109 54.5	78 39.0	17 8.5	65 32.5	25 12.5	4 2.0	36 18.0	40 20.0	6 3.0	
	小祿地区 (n= 108)	48 44.4	41 38.0	44 40.7	9 8.3	28 25.9	11 10.2	4 3.7	36 33.3	23 21.3	4 3.7	
	首里地区 (n= 111)	41 36.9	51 45.9	40 36.0	11 9.9	29 26.1	17 15.3	3 2.7	41 36.9	19 17.1	5 4.5	
居住年数別	1年未満 (n= 17)	7 41.2	5 29.4	5 29.4	-	2 11.8	1 5.9	-	8 47.1	3 17.6	-	
	1~2年 (n= 49)	26 53.1	18 36.7	28 57.1	3 6.1	12 24.5	6 12.2	3 6.1	11 22.4	11 22.4	4 8.2	
	3~5年 (n= 57)	28 49.1	24 42.1	27 47.4	5 8.8	16 28.1	5 8.8	2 3.5	20 35.1	13 22.8	-	
	6~10年 (n= 68)	31 45.6	24 35.3	36 52.9	3 4.4	20 29.4	5 7.4	3 4.4	27 39.7	10 14.7	1 1.5	
	11~20年 (n= 95)	44 46.3	38 40.0	42 44.2	7 7.4	28 29.5	6 6.3	1 1.1	27 28.4	18 18.9	4 4.2	
	21年以上 (n= 342)	156 45.6	181 52.9	125 36.5	36 10.5	101 29.5	50 14.6	9 2.6	77 22.5	63 18.4	14 4.1	

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・運転手のマナーが悪い (17人) 女性-70代以上-真和志地区・他
- ・タクシーがつかまらない (17人) 女性-40代-真和志地区・他
- ・料金が安い (16人) 男性-50代-本庁地区・他
- ・モノレールが利用できる地域が限られている (16人) 女性-40代-真和志地区・他

（7）緑のまちについて

質問 22. あなたは、住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足していますか。次の中から1つお選びください。

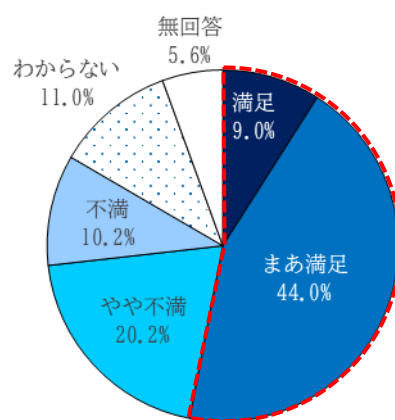
- 1. 満足
- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. わからない

住んでいる地域の花や緑について「満足」の割合は 53.0%、「不満」の割合は 30.4%である。

住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足しているかについては、「まあ満足」の割合が 44.0%で最も多く、次いで「やや不満」の割合が 20.2%、「わからない」の割合が 11.0%の順となっている。

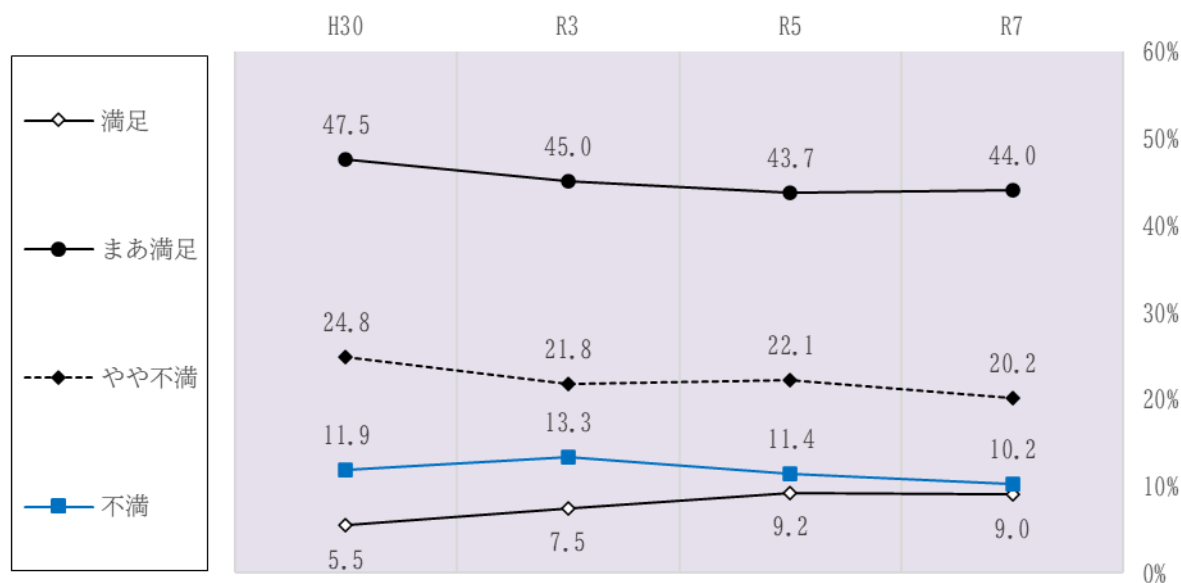
「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が 53.0%に対し、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が 30.4%であり、居住地域の花や緑に対して、「満足」している市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	割合
満足	170	9.0%
まあ満足	830	44.0%
やや不満	380	20.2%
不満	192	10.2%
わからない	208	11.0%
無回答	105	5.6%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（平成 30 年度～令和 7 年度）】

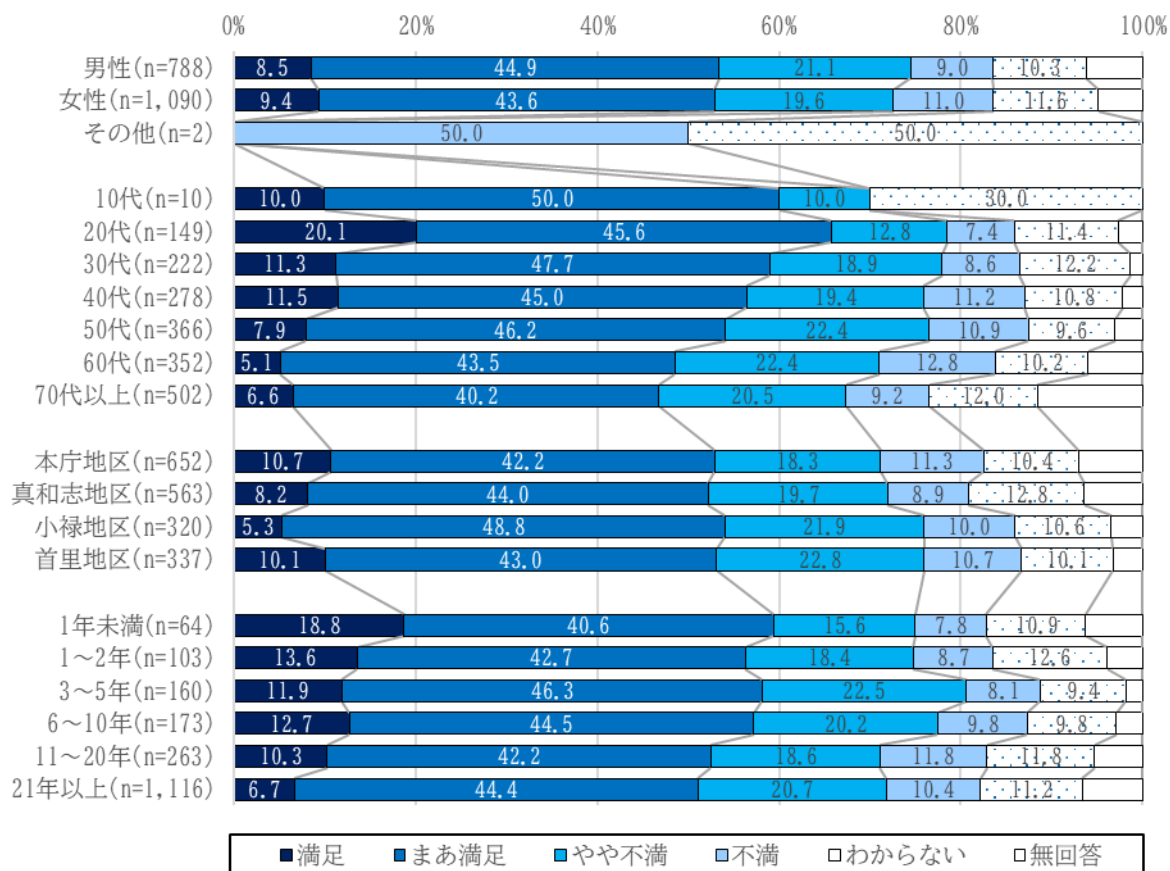
前回調査と比較すると、「まあ満足」の割合が 0.3 ポイント増加し、「やや不満」が 1.9 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別では、年代が下がるにつれて「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が高く、年代が上がるにつれて「不満」と「やや不満」を合わせた割合が高くなっている。

選択項目 回答者属性 (n=合計)		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
		性別	男性 (n= 788)	67	354	166	71
	女性 (n= 1,090)	102	475	214	120	126	53
	その他 (n= 2)	0	0	0	1	1	0
年代別	10代 (n= 10)	1	5	1	0	3	0
	20代 (n= 149)	30	68	19	11	17	4
	30代 (n= 222)	25	106	42	19	27	3
	40代 (n= 278)	32	125	54	31	30	6
	50代 (n= 366)	29	169	82	40	35	11
	60代 (n= 352)	18	153	79	45	36	21
	70代以上 (n= 502)	33	202	103	46	60	58
地区別	本庁地区 (n= 652)	70	275	119	74	68	46
	真和志地区 (n= 563)	46	248	111	50	72	36
	小祿地区 (n= 320)	17	156	70	32	34	11
	首里地区 (n= 337)	34	145	77	36	34	11
居住年数別	1年未満 (n= 64)	12	26	10	5	7	4
	1～2年 (n= 103)	14	44	19	9	13	4
	3～5年 (n= 160)	19	74	36	13	15	3
	6～10年 (n= 173)	22	77	35	17	17	5
	11～20年 (n= 263)	27	111	49	31	31	14
	21年以上 (n= 1,116)	75	495	231	116	125	74



(8) 中心市街地活性化について

質問 23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ1つお選びください。

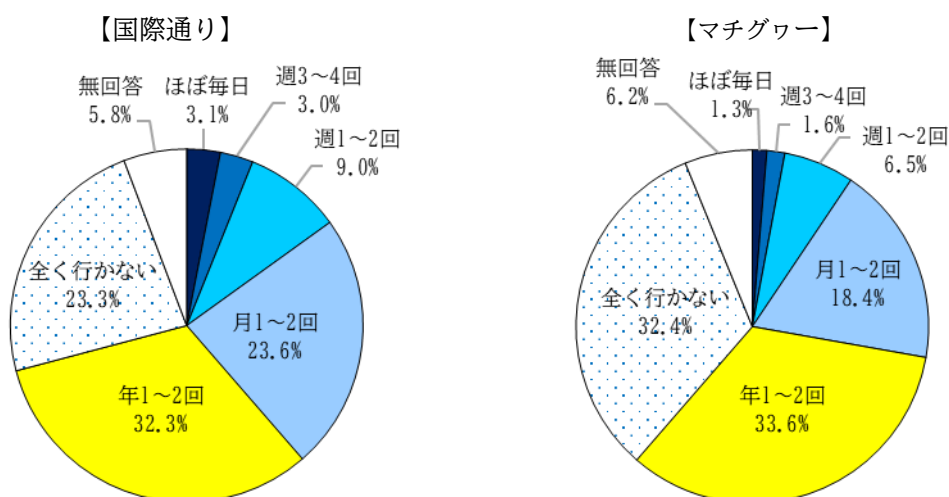
- 【国際通り】 { 1. ほぼ毎日 2. 週3~4回 3. 週1~2回
 4. 月1~2回 5. 年1~2回 6. 全く行かない
- 【マチグラー】 { 1. ほぼ毎日 2. 週3~4回 3. 週1~2回
 4. 月1~2回 5. 年1~2回 6. 全く行かない

「国際通り」へ行く回数で最も多かったのは「年1~2回」、「マチグラー」へ行く回数で最も多かったのは「年1~2回」である。

中心市街地を、国際通りとマチグラーに分類し、行く回数について、それぞれ集計を行った。国際通りへ行く回数は、「年1~2回」の割合が32.3%と最も高く、次いで「月1~2回」の割合が23.6%、「全く行かない」の割合が23.3%、の順となっている。

マチグラーについては、「年1~2回」の割合が33.6%と最も高く、次いで「全く行かない」の割合が32.4%、「月1~2回」の割合が18.4%の順となっている。

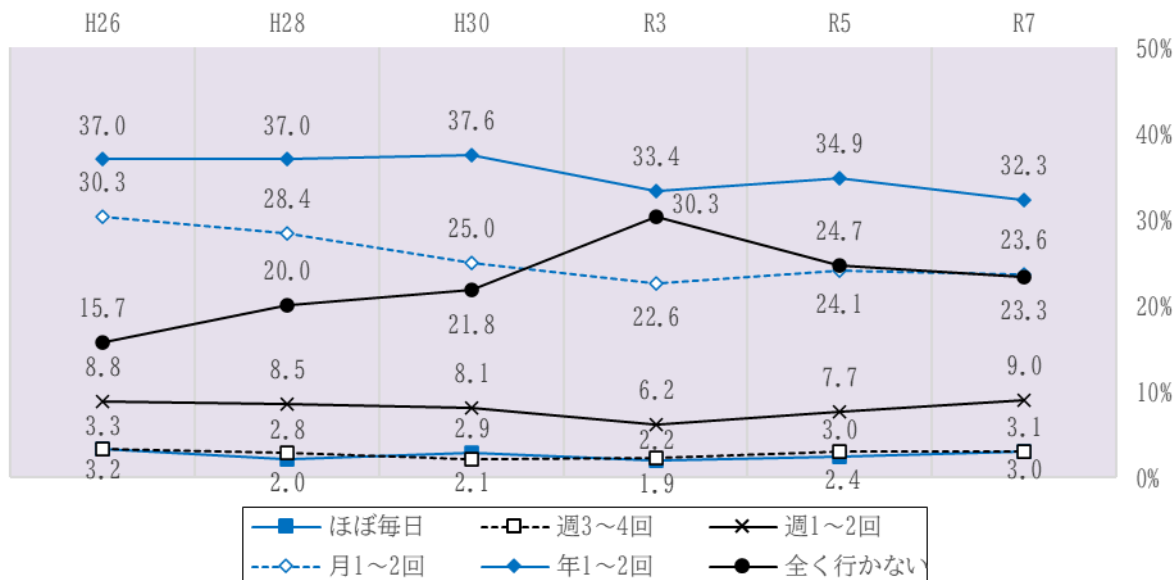
選択項目	国際通り		マチグラー	
	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日	58	3.1%	25	1.3%
週3~4回	57	3.0%	31	1.6%
週1~2回	169	9.0%	122	6.5%
月1~2回	444	23.6%	346	18.4%
年1~2回	608	32.3%	633	33.6%
全く行かない	440	23.3%	611	32.4%
無回答	109	5.8%	117	6.2%
合計	1,885	100.0%	1,885	100.0%



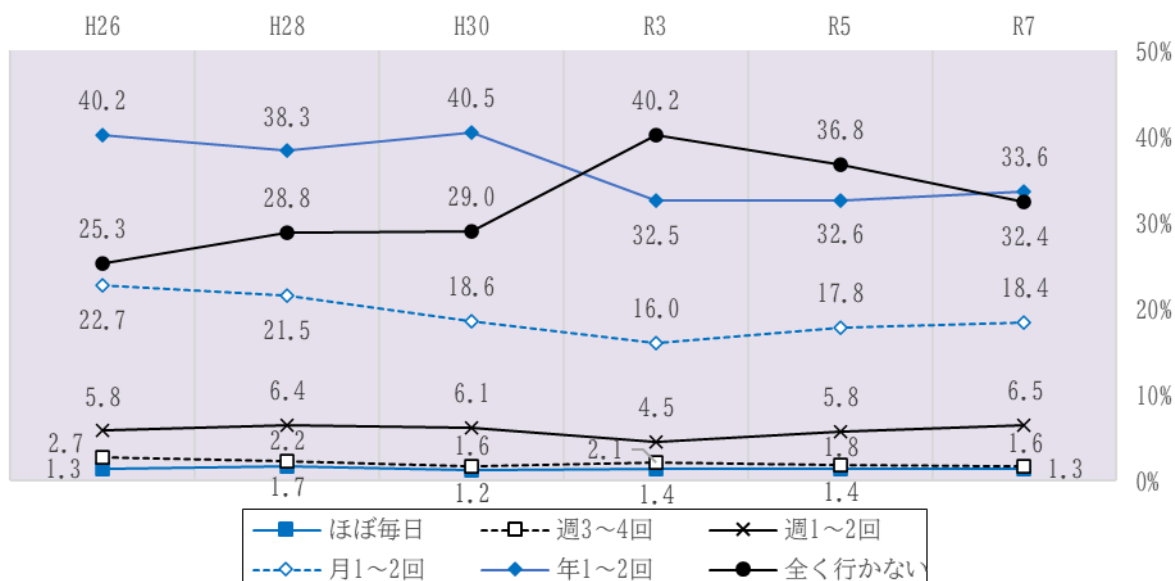
【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

国際通りについて前回調査と比較すると、「全く行かない」の割合が1.4ポイント減少している。
 マチグラーについて前回調査と比較すると、「全く行かない」の割合が4.4ポイント減少している。

【国際通り】



【マチグラー】



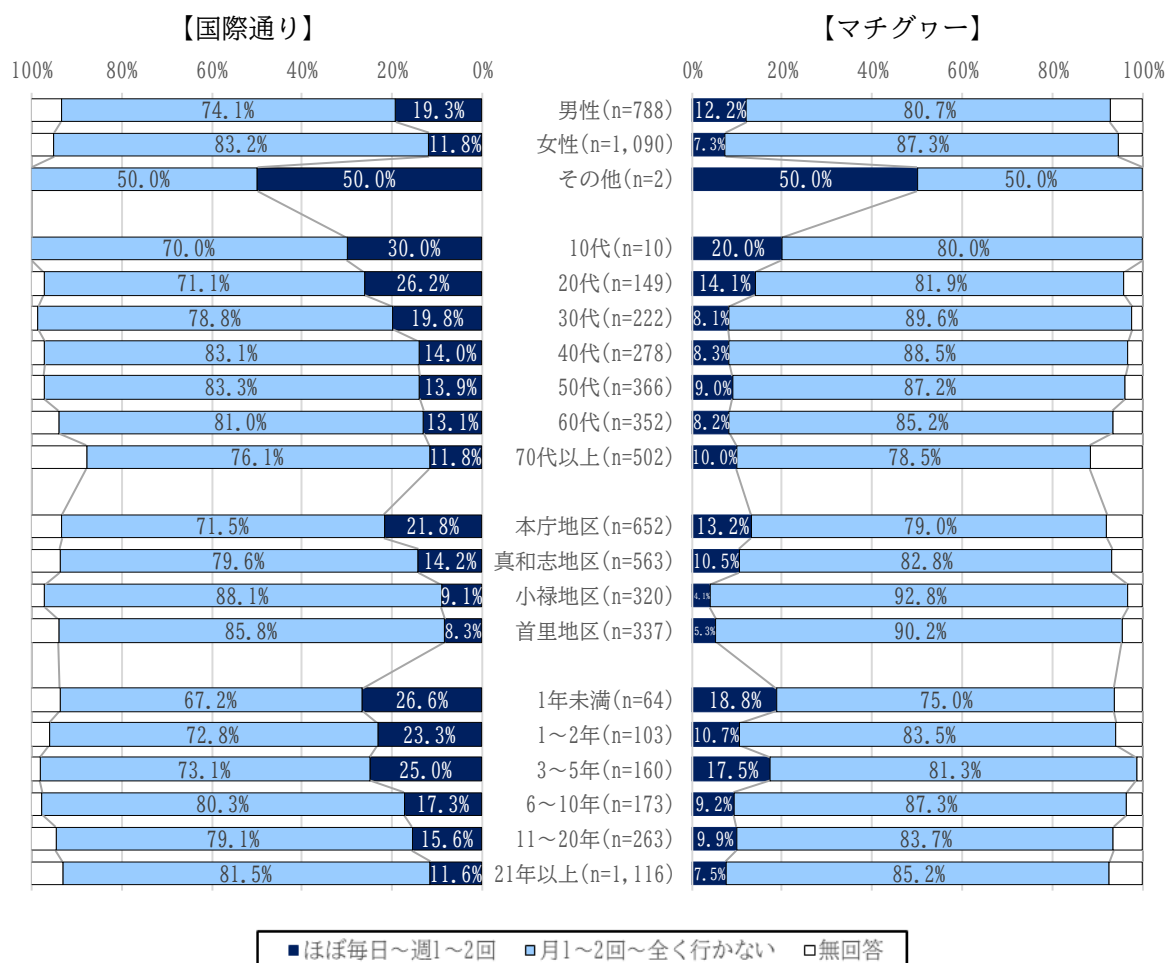
【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

属性別では、通う頻度が高い（「ほぼ毎日」「週3~4日」「週1~2回」を合わせた割合）と、相対する通う頻度が低い（「月1~2回」「年1~2回」「全く行かない」を合わせた割合）に分けて、比較した。

年代別では、若い年代ほど国際通り、マチグラーに通う頻度が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区と真和志地区は、国際通り、マチグラーともに通う頻度が高くなっているが、小緑地区と首里地区は頻度が低くなっている。本庁地区と真和志地区は、国際通りやマチグラーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。

無回答	国際通り						選択項目 回答者属性(n=合計)	マチグラー						無回答
	全く行かない	年1〜2回	月1〜2回	週1〜2回	週3〜4回	ほぼ毎日		ほぼ毎日	週3〜4回	週1〜2回	月1〜2回	年1〜2回	全く行かない	
52	165	230	189	97	27	28	男性 (n= 788)	18	10	68	159	258	219	56
54	274	378	255	72	28	29	女性 (n= 1,090)	7	19	54	187	374	391	58
0	1	0	0	0	1	0	その他 (n= 2)	0	1	0	0	0	1	0
0	2	2	3	2	1	0	10代 (n= 10)	0	1	1	2	2	4	0
4	17	37	52	18	10	11	20代 (n= 149)	6	4	11	39	40	43	6
3	61	60	54	30	9	5	30代 (n= 222)	2	3	13	46	73	80	5
8	53	104	74	24	7	8	40代 (n= 278)	3	3	17	54	99	93	9
10	75	145	85	26	13	12	50代 (n= 366)	2	8	23	73	134	112	14
21	79	122	84	32	7	7	60代 (n= 352)	4	4	21	67	139	94	23
61	153	138	91	37	8	14	70代以上 (n= 502)	8	6	36	65	144	185	58
44	130	164	172	75	29	38	本庁地区 (n= 652)	15	17	54	156	186	173	51
35	136	182	130	52	17	11	真和志地区 (n= 563)	7	9	43	104	181	181	38
9	82	127	73	20	5	4	小禄地区 (n= 320)	1	1	11	47	128	122	10
20	89	132	68	19	5	4	首里地区 (n= 337)	2	3	13	39	133	132	15
4	9	14	20	9	7	1	1年未満 (n= 64)	1	4	7	15	18	15	4
4	21	20	34	16	2	6	1〜2年 (n= 103)	2	2	7	27	26	33	6
3	30	48	39	24	9	7	3〜5年 (n= 160)	4	7	17	31	53	46	2
4	35	56	48	17	7	6	6〜10年 (n= 173)	1	1	14	41	55	55	6
14	49	99	60	18	13	10	11〜20年 (n= 263)	6	7	13	58	84	78	17
77	296	370	243	85	18	27	21年以上 (n= 1,116)	11	9	64	174	394	383	81



質問 24. 国際通りやマチグラー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。(実施主体は行政・民間を問いません)

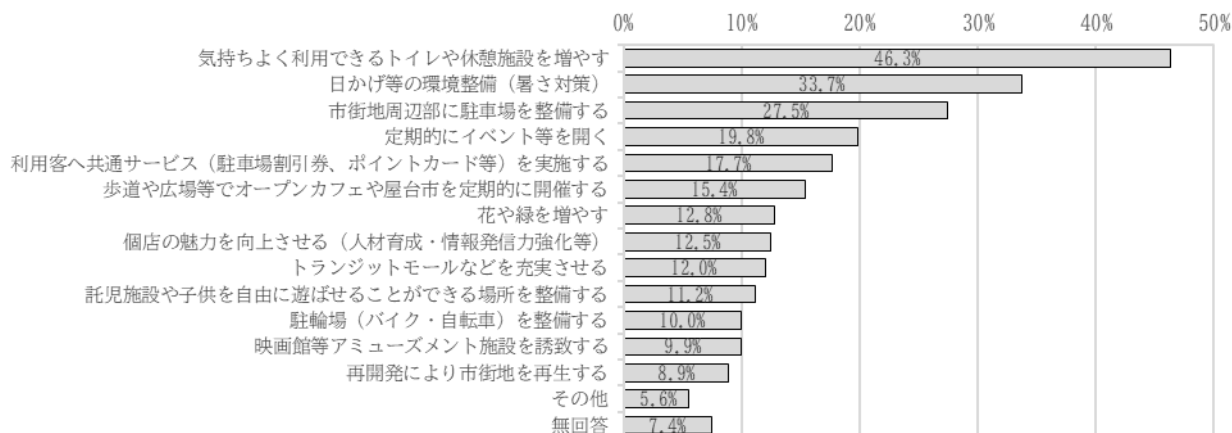
1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備 (暑さ対策)
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモールなどを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場 (バイク・自転車) を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる (人材育成・情報発信力強化等)
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用者へ共通サービス (駐車場割引券、ポイントカード等) を実施する
14. その他 ()

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策について最も多かったのは「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」である。

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策については、「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の割合が46.3%で最も高く、次いで「日かげ等の環境整備 (暑さ対策)」の割合が33.7%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」の割合が27.5%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	873	46.3%
2位	日かげ等の環境整備 (暑さ対策)	635	33.7%
3位	市街地周辺部に駐車場を整備する	518	27.5%
4位	定期的にイベント等を開く	374	19.8%
5位	利用者へ共通サービス (駐車場割引券、ポイントカード等) を実施する	334	17.7%
6位	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	291	15.4%
7位	花や緑を増やす	241	12.8%
8位	個店の魅力を向上させる (人材育成・情報発信力強化等)	235	12.5%
9位	トランジットモールなどを充実させる	226	12.0%
10位	託児施設や子供を自由に遊ばせることができる場所を整備する	211	11.2%
11位	駐輪場 (バイク・自転車) を整備する	189	10.0%
12位	映画館等アミューズメント施設を誘致する	187	9.9%
13位	再開発により市街地を再生する	168	8.9%
-	その他	105	5.6%
-	無回答	140	7.4%
合 計		4,727	250.8%
回答者数		1,885	-

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

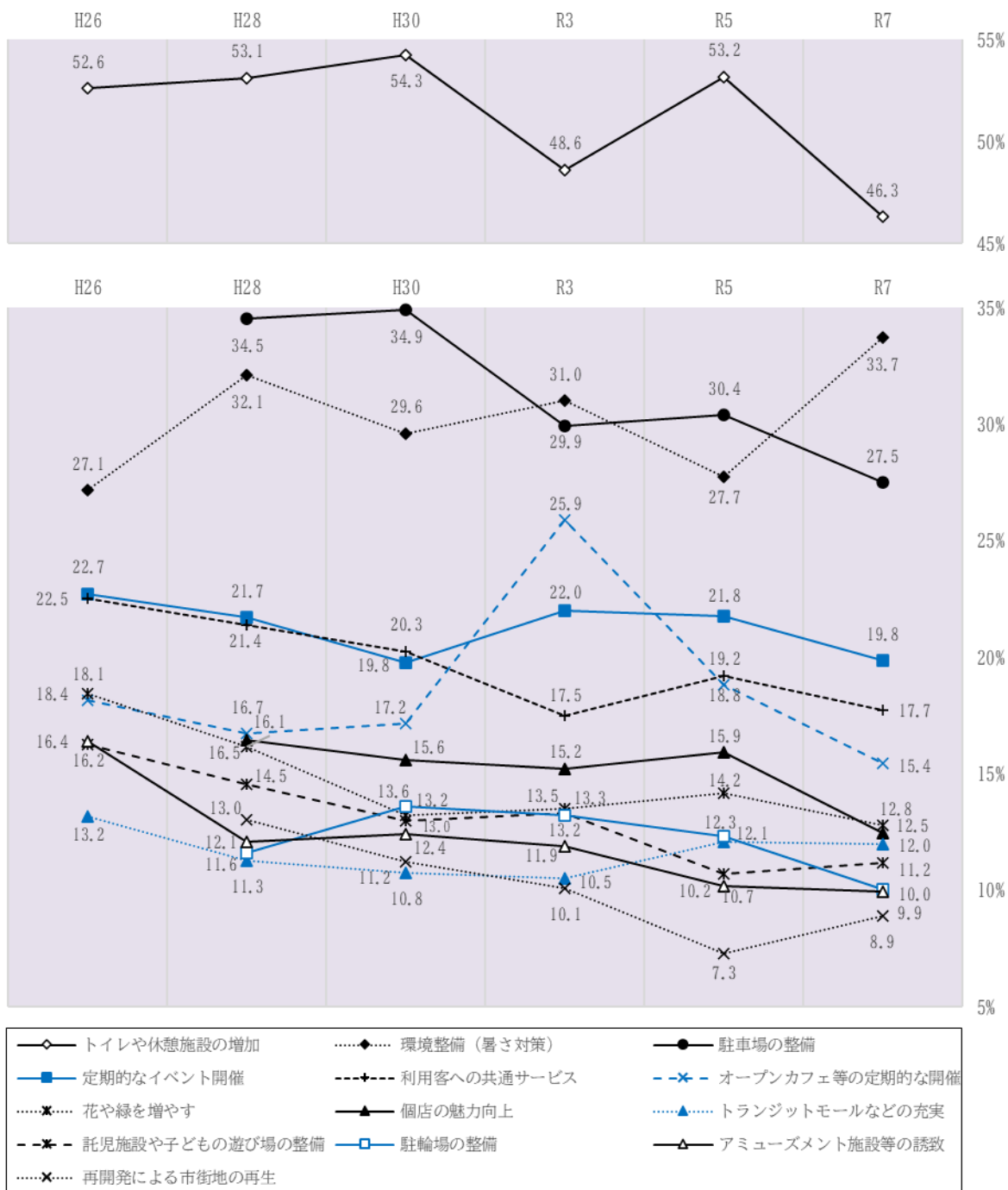


【経年変化 (平成 26 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「トイレや休憩施設の増加」の割合が6.9ポイント減少している。

2位は、「環境整備 (暑さ対策)」となっており、6.0ポイント増加している。3位は、「市街地周辺部に駐車場を整備する」となっており、2.9ポイント減少となっている。また、「オープンカフェ等の定期的な開催」、「個店の魅力向上」の割合が3.4ポイント減少している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に割合を算出。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光客向けなのでいく必要を感じられない (25 人) 女性-20 代-本庁地区・他
- ・地元が行けるお店を増やす、守る (13 人) 女性-50 代-本庁地区・他
- ・駐車場を安くする (6 人) 女性-50 代-本庁地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

すべての属性で「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、20代以下で「定期的にイベント等を開く」の割合が高くなっており、30代以上で「日かげ等の環境整備 (暑さ対策)」の割合が高くなっている。

居住年数別で見ると、1年未満で「花や緑を増やす」の割合が高く、1~2年で「定期的にイベント等を開く」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		花や緑を増やす	日かげ等の環境整備 (暑さ対策)	定期的にイベント等を開く	トランジットモールなどを充実させる	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	再開発により市街地を再生する	市街地周辺部に駐車場を整備する	駐輪場 (バイク・自転車) を整備する	遊ばせることができる場所を整備する	(人材育成・情報発信力強化等)	映画館等アミューズメント施設を誘致する	(駐車場割引券、ポイントカード等) を実施する	利用客へ共通サービス	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人) : 下段(%)																	
性別	男性 (n= 788)	95 12.1	254 32.2	158 20.1	107 13.6	342 43.4	137 17.4	78 9.9	199 25.3	116 14.7	75 9.5	103 13.1	83 10.5	108 13.7	46 5.8	63 8.0	
	女性 (n= 1,090)	144 13.2	378 34.7	215 19.7	119 10.9	529 48.5	153 14.0	90 8.3	319 29.3	73 6.7	134 12.3	132 12.1	104 9.5	225 20.6	59 5.4	74 6.8	
	その他 (n= 2)	-	1 50.0	1 50.0	-	2 100.0	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	-	5 50.0	4 40.0	-	4 40.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	-	2 20.0	2 20.0	-	-	
	20代 (n= 149)	29 19.5	34 22.8	48 32.2	12 8.1	70 47.0	22 14.8	11 7.4	24 16.1	12 8.1	17 11.4	18 12.1	31 20.8	26 17.4	12 8.1	5 3.4	
	30代 (n= 222)	22 9.9	66 29.7	54 24.3	25 11.3	86 38.7	35 15.8	22 9.9	62 27.9	29 13.1	49 22.1	22 9.9	31 14.0	39 17.6	13 5.9	6 2.7	
	40代 (n= 278)	29 10.4	83 29.9	67 24.1	34 12.2	119 42.8	64 23.0	23 8.3	80 28.8	31 11.2	36 12.9	35 12.6	41 14.7	47 16.9	15 5.4	8 2.9	
	50代 (n= 366)	39 10.7	120 32.8	78 21.3	54 14.8	172 47.0	58 15.8	47 12.8	85 23.2	46 12.6	30 8.2	50 13.7	47 12.8	78 21.3	27 7.4	16 4.4	
	60代 (n= 352)	45 12.8	137 38.9	57 16.2	45 12.8	163 46.3	53 15.1	24 6.8	127 36.1	33 9.4	30 8.5	64 18.2	22 6.3	70 19.9	20 5.7	22 6.3	
	70代以上 (n= 502)	74 14.7	187 37.3	66 13.1	56 11.2	258 51.4	56 11.2	40 8.0	136 27.1	35 7.0	47 9.4	46 9.2	12 2.4	71 14.1	18 3.6	81 16.1	
地区別	本庁地区 (n= 652)	88 13.5	226 34.7	138 21.2	78 12.0	275 42.2	114 17.5	73 11.2	147 22.5	67 10.3	72 11.0	82 12.6	74 11.3	88 13.5	49 7.5	55 8.4	
	真和志地区 (n= 563)	72 12.8	188 33.4	109 19.4	59 10.5	290 51.5	62 11.0	38 6.7	158 28.1	65 11.5	74 13.1	73 13.0	52 9.2	113 20.1	26 4.6	46 8.2	
	小祿地区 (n= 320)	31 9.7	110 34.4	68 21.3	42 13.1	137 42.8	52 16.3	33 10.3	102 31.9	28 8.8	31 9.7	34 10.6	40 12.5	60 18.8	13 4.1	15 4.7	
	首里地区 (n= 337)	46 13.6	108 32.0	58 17.2	45 13.4	164 48.7	61 18.1	23 6.8	106 31.5	29 8.6	31 9.2	45 13.4	21 6.2	70 20.8	17 5.0	22 6.5	
居住年数別	1年未満 (n= 64)	15 23.4	19 29.7	12 18.8	7 10.9	25 39.1	8 12.5	5 7.8	13 20.3	5 7.8	8 12.5	8 12.5	6 9.4	6 9.4	3 4.7	5 7.8	
	1~2年 (n= 103)	19 18.4	34 33.0	28 27.2	15 14.6	39 37.9	14 13.6	11 10.7	21 20.4	7 6.8	7 6.8	13 12.6	21 20.4	14 13.6	10 9.7	5 4.9	
	3~5年 (n= 160)	18 11.3	51 31.9	46 28.8	22 13.8	67 41.9	30 18.8	14 8.8	48 30.0	20 12.5	23 14.4	23 14.4	19 11.9	27 16.9	9 5.6	3 1.9	
	6~10年 (n= 173)	23 13.3	51 29.5	42 24.3	23 13.3	58 33.5	32 18.5	19 11.0	50 28.9	22 12.7	21 12.1	24 13.9	17 9.8	28 16.2	13 7.5	9 5.2	
	11~20年 (n= 263)	23 8.7	79 30.0	53 20.2	30 11.4	131 49.8	47 17.9	22 8.4	55 20.9	36 13.7	33 12.5	37 14.1	23 8.7	43 16.3	16 6.1	23 8.7	
	21年以上 (n= 1,116)	140 12.5	399 35.8	193 17.3	128 11.5	552 49.5	160 14.3	97 8.7	330 29.6	99 8.9	118 10.6	130 11.6	101 9.1	214 19.2	54 4.8	94 8.4	

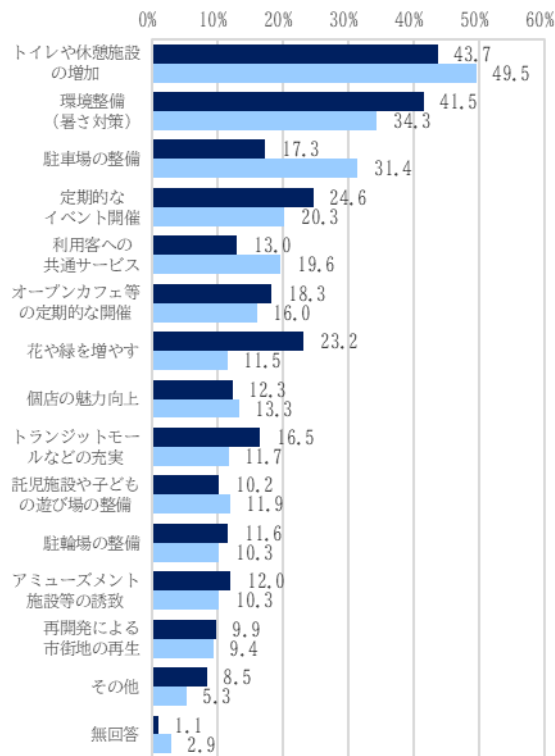
【属性別集計 (回答者属性[中心市街地商店街への訪問頻度別]無回答除く)】

質問 23 で、国際通り、マチグラーに通う頻度の高い市民と頻度の低い市民で、それぞれの選択項目について比較を行ったところ、いずれも「トイレや休憩施設の増加」の割合が最も高くなっている。

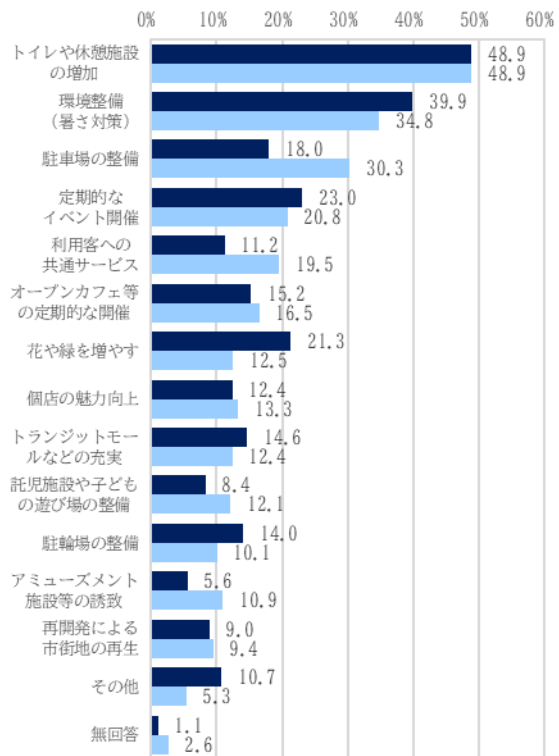
また、国際通り、マチグラーともに、通う頻度の低い市民は、通う頻度の高い市民に比べ、特に「駐車場の整備」の割合が高くなっており、「花や緑を増やす」の割合が低くなっている。

回答者属性(n=合計)		選択項目														
		トイレや休憩施設の増加	環境整備(暑さ対策)	駐車場の整備	定期的なイベント開催	利用客への共通サービス	オープンカフェ等の定期的な開催	花や緑を増やす	個店の魅力向上	トランジットモールなどの充実	託児施設や子どもの遊び場の整備	駐輪場の整備	アミューズメント施設等の誘致	再開発による市街地の再生	その他	無回答
国際通り	合計	863	630	517	373	330	291	238	233	222	207	187	187	168	103	47
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 284)	124	118	49	70	37	52	66	35	47	29	33	34	28	24	3
	月1～2回～全く行かない (n= 1,492)	739	512	468	303	293	239	172	198	175	178	154	153	140	79	44
マチグラー	合計	865	625	514	372	330	289	237	233	223	208	185	183	166	104	44
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 178)	87	71	32	41	20	27	38	22	26	15	25	10	16	19	2
	月1～2回～全く行かない (n= 1,590)	778	554	482	331	310	262	199	211	197	193	160	173	150	85	42

【国際通り】



【マチグラー】



（9）子育て支援について

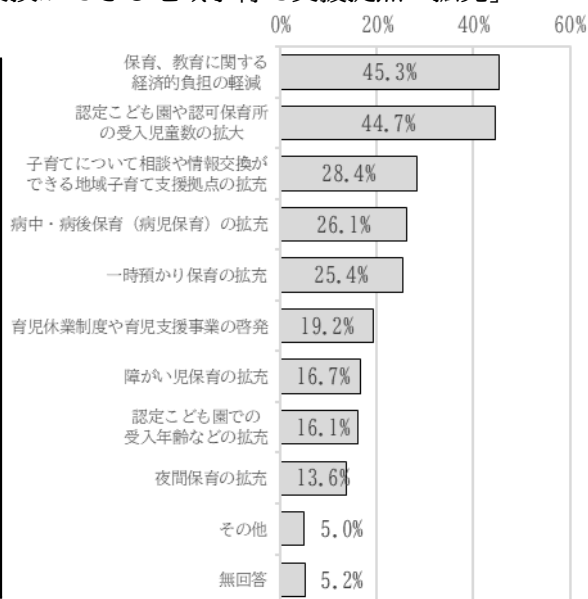
質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 認定子ども園や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 認定子ども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 夜間保育の拡充
7. 一時預かり保育の拡充
8. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
9. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
10. その他（ ）

子育て支援策のうち優先的に取り組んでほしい施策について最も多かったのは、「保育、教育に関する経済的負担の軽減」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が45.3%で最も高く、次いで「認定子ども園や認可保育所の受入児童数の拡大」の割合が44.7%、「子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充」の割合が28.4%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	保育、教育に関する経済的負担の軽減	853	45.3%
2位	認定子ども園や認可保育所の受入児童数の拡大	842	44.7%
3位	子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	535	28.4%
4位	病中・病後保育（病児保育）の拡充	492	26.1%
5位	一時預かり保育の拡充	478	25.4%
6位	育児休業制度や育児支援事業の啓発	362	19.2%
7位	障がい児保育の拡充	314	16.7%
8位	認定子ども園での受入年齢などの拡充	304	16.1%
9位	夜間保育の拡充	256	13.6%
-	その他	94	5.0%
-	無回答	98	5.2%
合 計		4,628	245.5%
回答者数		1,885	-

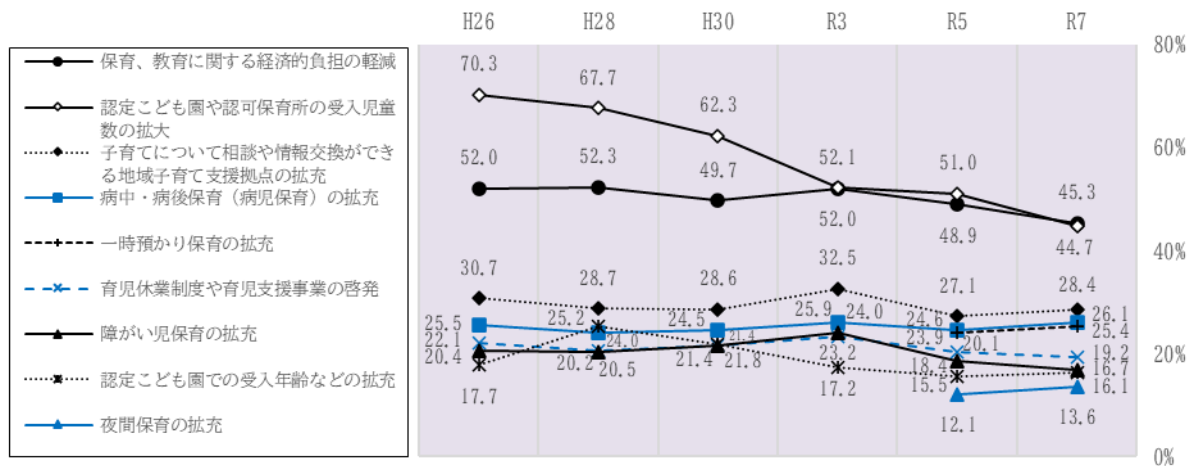


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

令和7年度は「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が「認定子ども園や認可保育所の受入児童数の拡大」の割合をやや上回った。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成26～28年度も同様に割合を算出。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

性別でみると、男性は「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」の割合が高く、女性は「病中・病後保育(病児保育)の拡充」の割合が高くなっている。

年代別でみると、30～50代で「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が高くなっており、子育て世代における経済的支援に対する要望が高い。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区で「認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大	認定こども園での受入年齢などの拡充	子育て支援拠点の拡充	子育てについて相談や情報交換ができる地域	(病中・病後保育(病児保育)の拡充)	障がい児保育の拡充	夜間保育の拡充	一時預かり保育の拡充	育児休業制度や育児支援事業の啓発	保育、教育に関する経済的負担の軽減	その他	無回答
回答者属性(n=合計)													
性別	男性 (n= 788)	383 48.6	152 19.3	203 25.8	157 19.9	123 15.6	133 16.9	194 24.6	144 18.3	363 46.1	44 5.6	27 3.4	
	女性 (n= 1,090)	459 42.1	151 13.9	331 30.4	335 30.7	189 17.3	122 11.2	282 25.9	217 19.9	490 45.0	50 4.6	67 6.1	
	その他 (n= 2)	-	-	1 50.0	-	1 50.0	-	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	5 50.0	1 10.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	6 60.0	-	-	
	20代 (n= 149)	86 57.7	33 22.1	32 21.5	27 18.1	20 13.4	19 12.8	25 16.8	42 28.2	71 47.7	10 6.7	1 0.7	
	30代 (n= 222)	111 50.0	36 16.2	42 18.9	58 26.1	26 11.7	38 17.1	61 27.5	58 26.1	118 53.2	16 7.2	2 0.9	
	40代 (n= 278)	115 41.4	33 11.9	71 25.5	94 33.8	47 16.9	34 12.2	95 34.2	43 15.5	125 45.0	14 5.0	5 1.8	
	50代 (n= 366)	151 41.3	56 15.3	95 26.0	115 31.4	61 16.7	71 19.4	101 27.6	66 18.0	173 47.3	17 4.6	9 2.5	
	60代 (n= 352)	166 47.2	59 16.8	119 33.8	105 29.8	70 19.9	42 11.9	92 26.1	59 16.8	151 42.9	13 3.7	14 4.0	
	70代以上 (n= 502)	206 41.0	84 16.7	175 34.9	89 17.7	86 17.1	48 9.6	101 20.1	91 18.1	207 41.2	24 4.8	65 12.9	
地区別	本庁地区 (n= 652)	287 44.0	106 16.3	189 29.0	161 24.7	101 15.5	101 15.5	165 25.3	121 18.6	276 42.3	40 6.1	31 4.8	
	真和志地区 (n= 563)	260 46.2	79 14.0	161 28.6	152 27.0	96 17.1	87 15.5	158 28.1	106 18.8	260 46.2	26 4.6	25 4.4	
	小祿地区 (n= 320)	155 48.4	46 14.4	94 29.4	79 24.7	59 18.4	33 10.3	70 21.9	67 20.9	159 49.7	14 4.4	9 2.8	
	首里地区 (n= 337)	138 40.9	69 20.5	88 26.1	96 28.5	56 16.6	34 10.1	83 24.6	66 19.6	152 45.1	14 4.2	29 8.6	
居住年数別	1年未満 (n= 64)	32 50.0	12 18.8	15 23.4	16 25.0	13 20.3	12 18.8	16 25.0	6 9.4	23 35.9	6 9.4	2 3.1	
	1～2年 (n= 103)	49 47.6	17 16.5	31 30.1	21 20.4	11 10.7	13 12.6	26 25.2	26 25.2	45 43.7	6 5.8	2 1.9	
	3～5年 (n= 160)	73 45.6	31 19.4	44 27.5	47 29.4	19 11.9	25 15.6	39 24.4	36 22.5	75 46.9	9 5.6	1 0.6	
	6～10年 (n= 173)	70 40.5	30 17.3	39 22.5	46 26.6	28 16.2	23 13.3	49 28.3	37 21.4	69 39.9	11 6.4	6 3.5	
	11～20年 (n= 263)	107 40.7	40 15.2	73 27.8	73 27.8	42 16.0	39 14.8	76 28.9	45 17.1	119 45.2	12 4.6	12 4.6	
	21年以上 (n= 1,116)	510 45.7	172 15.4	332 29.7	288 25.8	199 17.8	142 12.7	271 24.3	212 19.0	521 46.7	50 4.5	73 6.5	

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・保育士などの従事者の待遇向上 (6人) 女性-50代-本庁地区・他
- ・子供を遊ばせる場所を作ってほしい (3人) 女性-30代-小祿地区・他

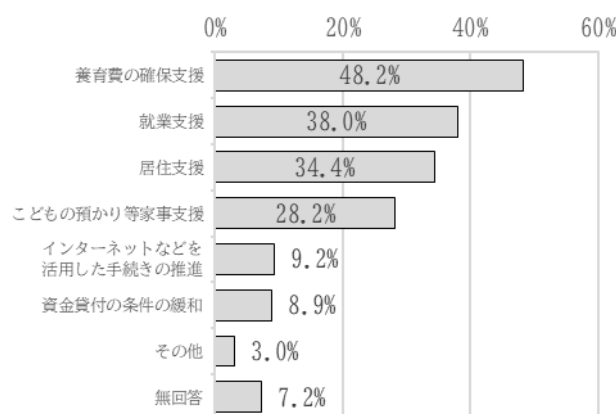
質問 26. ひとり親世帯への子育て支援策について、市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 養育費の確保支援
2. 就業支援
3. 居住支援
4. 資金貸付の条件の緩和
5. インターネットなどを活用した手続きの推進
6. こどもの預かり等家事支援
7. その他（ ）

ひとり親世帯への子育て支援策のうち市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことについて最も多かったのは、「養育費の確保支援」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「養育費の確保支援」の割合が48.2%で最も高く、次いで「就業支援」の割合が38.0%、「居住支援」の割合が34.4%の順となっている。

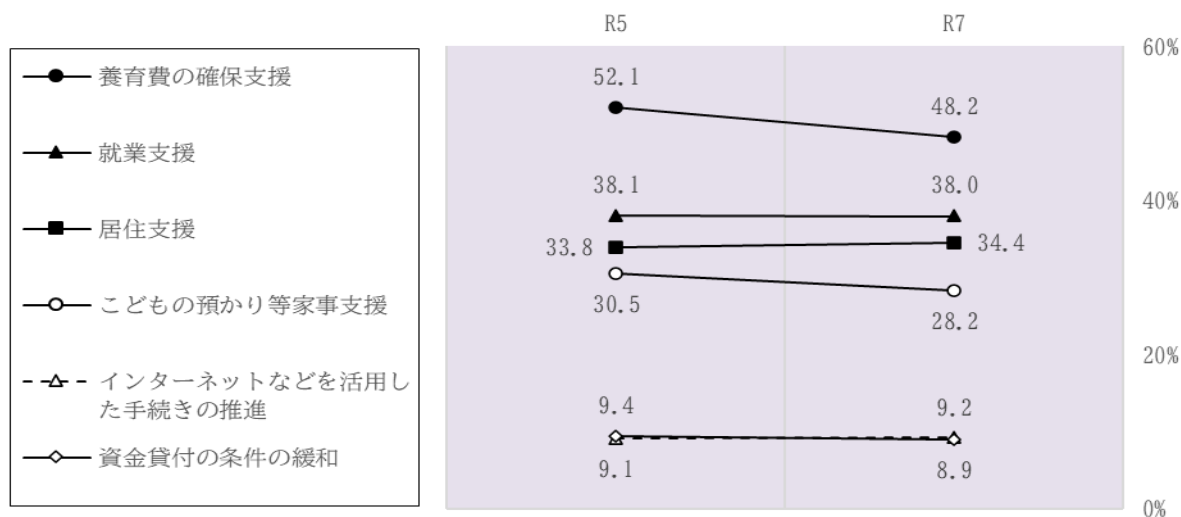
順位	選択項目	回答数	割合
1位	養育費の確保支援	909	48.2%
2位	就業支援	717	38.0%
3位	居住支援	649	34.4%
4位	こどもの預かり等家事支援	532	28.2%
5位	インターネットなどを活用した手続きの推進	173	9.2%
6位	資金貸付の条件の緩和	168	8.9%
-	その他	56	3.0%
-	無回答	136	7.2%
合 計		3,340	177.2%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「居住支援」の割合が0.6ポイント増加し、「養育費の確保支援」の割合が3.9ポイント減少している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・親に対する教育（3人）
 - ・精神的サポート情報の提供（2人）
- 男性-50代-小祿地区・他
女性-40代-首里地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ほぼすべての属性において、「養育費の確保支援」の割合が高い。

年代別で見ると、50代、60代で「就業支援」の割合が4割を上回っている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		養育費の確保支援	就業支援	居住支援	資金貸付の条件の緩和	活用したインターネット手続きの推進	こどもの預かり等家事支援	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)									
性別	男性 (n= 788)	408 51.8	302 38.3	273 34.6	80 10.2	78 9.9	191 24.2	23 2.9	42 5.3
	女性 (n= 1,090)	501 46.0	414 38.0	375 34.4	88 8.1	95 8.7	340 31.2	32 2.9	89 8.2
	その他 (n= 2)	-	1 50.0	1 50.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-
年代別	10代 (n= 10)	7 70.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	-	-
	20代 (n= 149)	84 56.4	49 32.9	46 30.9	16 10.7	30 20.1	30 20.1	6 4.0	4 2.7
	30代 (n= 222)	104 46.8	68 30.6	73 32.9	20 9.0	42 18.9	68 30.6	13 5.9	8 3.6
	40代 (n= 278)	127 45.7	110 39.6	99 35.6	27 9.7	28 10.1	88 31.7	6 2.2	10 3.6
	50代 (n= 366)	142 38.8	162 44.3	133 36.3	27 7.4	37 10.1	127 34.7	15 4.1	14 3.8
	60代 (n= 352)	182 51.7	143 40.6	132 37.5	34 9.7	22 6.3	96 27.3	3 0.9	25 7.1
	70代以上 (n= 502)	262 52.2	181 36.1	161 32.1	42 8.4	12 2.4	121 24.1	13 2.6	71 14.1
地区別	本庁地区 (n= 652)	304 46.6	258 39.6	219 33.6	64 9.8	57 8.7	177 27.1	25 3.8	44 6.7
	真和志地区 (n= 563)	276 49.0	198 35.2	218 38.7	53 9.4	47 8.3	162 28.8	14 2.5	42 7.5
	小祿地区 (n= 320)	152 47.5	132 41.3	110 34.4	26 8.1	38 11.9	84 26.3	8 2.5	16 5.0
	首里地区 (n= 337)	172 51.0	125 37.1	98 29.1	23 6.8	30 8.9	108 32.0	9 2.7	30 8.9
居住年数別	1年未満 (n= 64)	26 40.6	16 25.0	15 23.4	18 28.1	10 15.6	17 26.6	3 4.7	2 3.1
	1～2年 (n= 103)	50 48.5	37 35.9	33 32.0	10 9.7	12 11.7	24 23.3	3 2.9	7 6.8
	3～5年 (n= 160)	74 46.3	58 36.3	55 34.4	13 8.1	22 13.8	50 31.3	6 3.8	6 3.8
	6～10年 (n= 173)	78 45.1	61 35.3	58 33.5	14 8.1	18 10.4	56 32.4	10 5.8	6 3.5
	11～20年 (n= 263)	126 47.9	97 36.9	104 39.5	16 6.1	28 10.6	72 27.4	7 2.7	17 6.5
	21年以上 (n= 1,116)	554 49.6	447 40.1	381 34.1	96 8.6	83 7.4	313 28.0	27 2.4	95 8.5

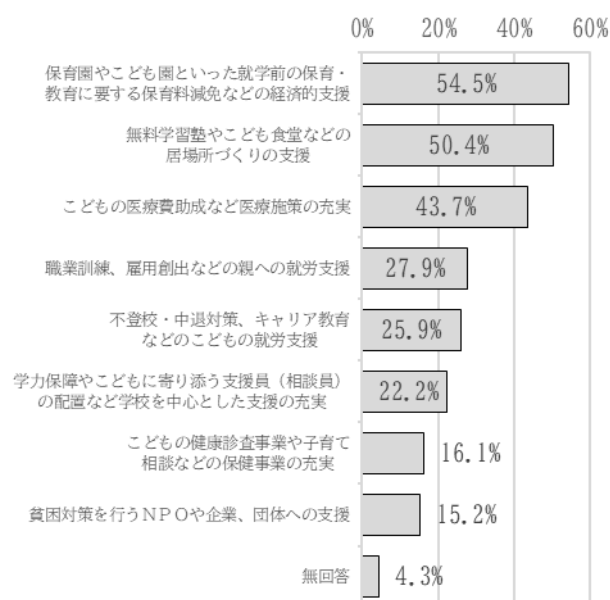
質問 27. こどもの貧困を解消し、こどもの未来を応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

こどもの未来を応援する取組として効果的だと思う施策について最も多かったのは、「保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」である。

こどもの貧困を解消し、こどもの未来を応援する取組として、効果的だと思う施策については、「保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が54.5%と最も高く、次いで「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」の割合が50.4%、「こどもの医療費助成など医療施策の充実」の割合が43.7%の順となっている。

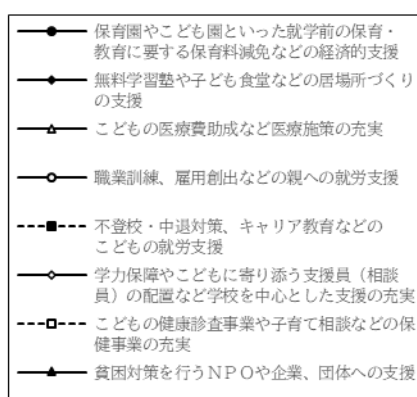
順位	選択項目	回答数	割合
1位	保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	1,027	54.5%
2位	無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援	950	50.4%
3位	こどもの医療費助成など医療施策の充実	823	43.7%
4位	職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	526	27.9%
5位	不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援	489	25.9%
6位	学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実	419	22.2%
7位	こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	304	16.1%
8位	貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	287	15.2%
-	無回答	81	4.3%
	合計	4,906	260.3%
	回答者数	1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成30年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実」の割合が1.5ポイント増加し、「保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が3.1ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、40～60代で「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」の割合が最も高く、その他の年代では「保育園や子ども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	保育園や子ども園といった保育料減免などの経済的支援	こどもの医療費助成など医療施策の充実	こどもの健康診断事業や子育て相談などの保健事業の充実	無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援	学校を支援した配置の充実	学費保障や子どもに寄り添った支援員(相談員)の配置	不登校・中退対策、キャリア教育などの就労支援	職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	無回答
回答者属性(n=合計)												
性別	男性 (n= 788)	452 57.4	372 47.2	143 18.1	396 50.3	134 17.0	175 22.2	222 28.2	118 15.0	27 3.4		
	女性 (n= 1,090)	575 52.8	450 41.3	161 14.8	552 50.6	283 26.0	312 28.6	302 27.7	169 15.5	51 4.7		
	その他 (n= 2)	-	-	-	-	1 50.0	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	7 70.0	3 30.0	4 40.0	5 50.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	93 62.4	73 49.0	27 18.1	59 39.6	23 15.4	38 25.5	30 20.1	24 16.1	3 2.0		
	30代 (n= 222)	138 62.2	110 49.5	48 21.6	102 45.9	39 17.6	50 22.5	71 32.0	22 9.9	4 1.8		
	40代 (n= 278)	130 46.8	121 43.5	40 14.4	137 49.3	79 28.4	97 34.9	83 29.9	29 10.4	3 1.1		
	50代 (n= 366)	182 49.7	174 47.5	55 15.0	182 49.7	85 23.2	110 30.1	115 31.4	56 15.3	7 1.9		
	60代 (n= 352)	188 53.4	150 42.6	57 16.2	194 55.1	76 21.6	91 25.9	107 30.4	67 19.0	11 3.1		
	70代以上 (n= 502)	288 57.4	191 38.0	72 14.3	269 53.6	113 22.5	99 19.7	119 23.7	89 17.7	50 10.0		
地区別	本庁地区 (n= 652)	340 52.1	286 43.9	115 17.6	333 51.1	122 18.7	166 25.5	187 28.7	102 15.6	27 4.1		
	真和志地区 (n= 563)	312 55.4	256 45.5	95 16.9	293 52.0	145 25.8	133 23.6	153 27.2	77 13.7	26 4.6		
	小祿地区 (n= 320)	181 56.6	136 42.5	46 14.4	144 45.0	75 23.4	94 29.4	92 28.8	54 16.9	7 2.2		
	首里地区 (n= 337)	188 55.8	142 42.1	46 13.6	173 51.3	77 22.8	91 27.0	91 27.0	50 14.8	19 5.6		
居住年数別	1年未満 (n= 64)	35 54.7	25 39.1	11 17.2	27 42.2	12 18.8	18 28.1	19 29.7	9 14.1	2 3.1		
	1～2年 (n= 103)	66 64.1	49 47.6	17 16.5	54 52.4	14 13.6	27 26.2	21 20.4	10 9.7	1 1.0		
	3～5年 (n= 160)	93 58.1	79 49.4	37 23.1	67 41.9	33 20.6	46 28.8	51 31.9	18 11.3	2 1.3		
	6～10年 (n= 173)	72 41.6	62 35.8	29 16.8	92 53.2	43 24.9	50 28.9	47 27.2	32 18.5	4 2.3		
	11～20年 (n= 263)	136 51.7	107 40.7	37 14.1	133 50.6	67 25.5	75 28.5	84 31.9	32 12.2	12 4.6		
	21年以上 (n= 1,116)	623 55.8	499 44.7	173 15.5	574 51.4	250 22.4	271 24.3	304 27.2	185 16.6	58 5.2		

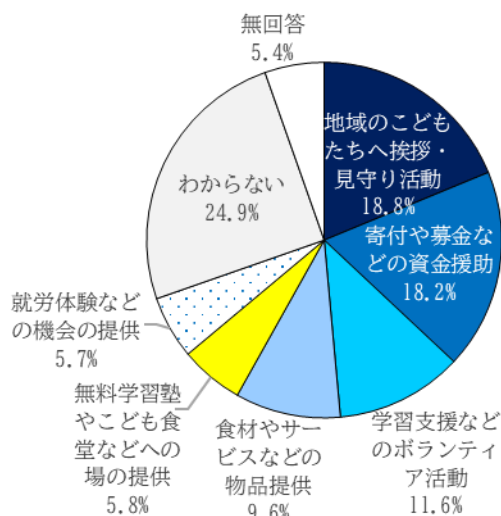
質問 28. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

- 1. 学習支援などのボランティア活動
- 2. 寄付や募金などの資金援助
- 3. 食材やサービスなどの物品提供
- 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供
- 5. 就労体験などの機会の提供
- 6. 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動
- 7. わからない

こどもの未来を応援する取組として市民ができると思うことについて最も多かったのは「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」である。

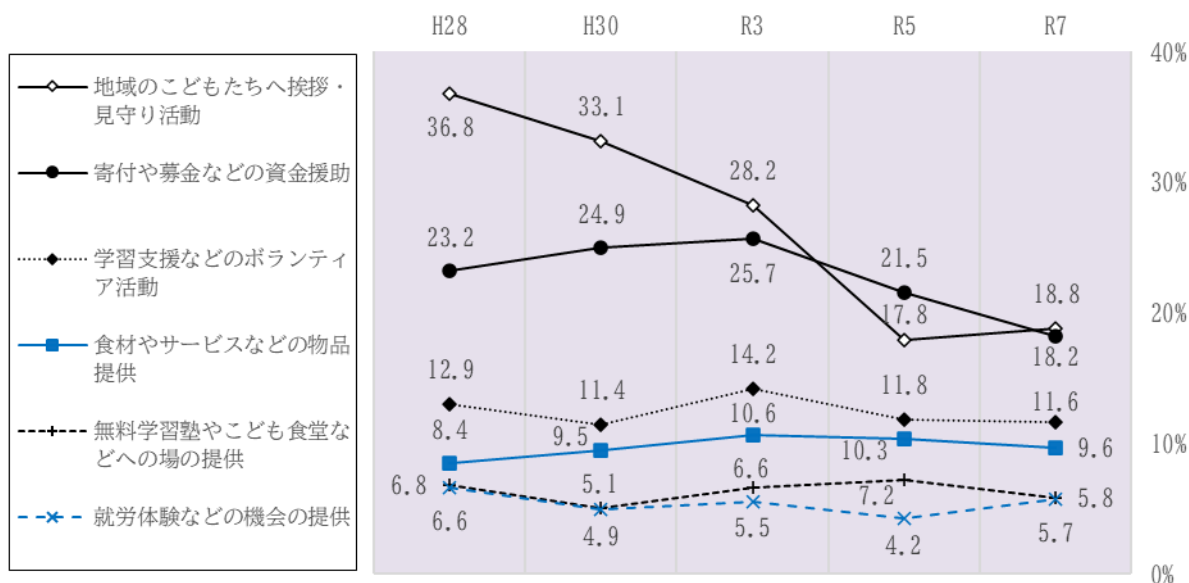
こどもの未来を応援する取組として、市民ができると思うことについては、「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」の割合が18.8%と最も高く、次いで「寄付や募金などの資金援助」の割合が18.2%、「学習支援などのボランティア活動」の割合が11.6%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動	354	18.8%
2位	寄付や募金などの資金援助	343	18.2%
3位	学習支援などのボランティア活動	218	11.6%
4位	食材やサービスなどの物品提供	181	9.6%
5位	無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供	109	5.8%
6位	就労体験などの機会の提供	108	5.7%
-	わからない	470	24.9%
-	無回答	102	5.4%
合計		1,885	100.0%



【経年変化 (平成 28 年度～令和 7 年度)】

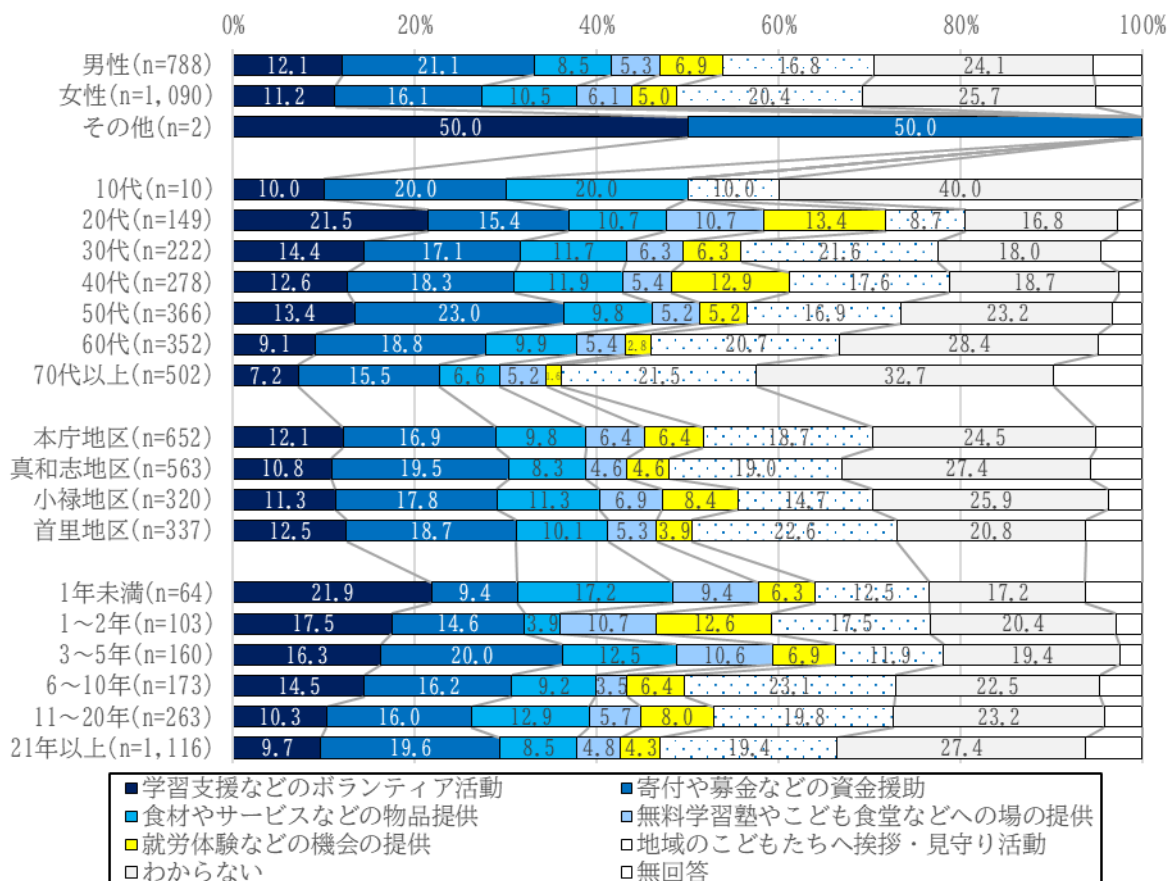
前回調査と比較すると、「就労体験などの機会の提供」の割合が1.5ポイント増加し、「寄付や募金などの資金援助」の割合が3.3ポイント減少している。また、平成30年度から減少が続いていた「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」の割合が1.0ポイント増加した。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代では「学習支援などのボランティア活動」の割合が最も高くなっている。
居住年数別でみると、1年未満では「学習支援などのボランティア活動」の割合が最も高くなっている。

選択項目		ボランティア活動 学習支援などの	寄付や募金などの 資金援助	食料やサービス などの物品提供	無料学習塾や 子ども食堂など への場の提供	就労体験などの 機会の提供	地域の子ども たちへ挨拶・ 見守り活動	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)									
性別	男性 (n= 788)	95	166	67	42	54	132	190	42
	女性 (n= 1,090)	122	176	114	66	54	222	280	56
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	1	2	2	0	0	1	4	0
	20代 (n= 149)	32	23	16	16	20	13	25	4
	30代 (n= 222)	32	38	26	14	14	48	40	10
	40代 (n= 278)	35	51	33	15	36	49	52	7
	50代 (n= 366)	49	84	36	19	19	62	85	12
	60代 (n= 352)	32	66	35	19	10	73	100	17
	70代以上 (n= 502)	36	78	33	26	8	108	164	49
地区別	本庁地区 (n= 652)	79	110	64	42	42	122	160	33
	真和志地区 (n= 563)	61	110	47	26	26	107	154	32
	小祿地区 (n= 320)	36	57	36	22	27	47	83	12
	首里地区 (n= 337)	42	63	34	18	13	76	70	21
居住年数別	1年未満 (n= 64)	14	6	11	6	4	8	11	4
	1～2年 (n= 103)	18	15	4	11	13	18	21	3
	3～5年 (n= 160)	26	32	20	17	11	19	31	4
	6～10年 (n= 173)	25	28	16	6	11	40	39	8
	11～20年 (n= 263)	27	42	34	15	21	52	61	11
	21年以上 (n= 1,116)	108	219	95	54	48	217	306	69



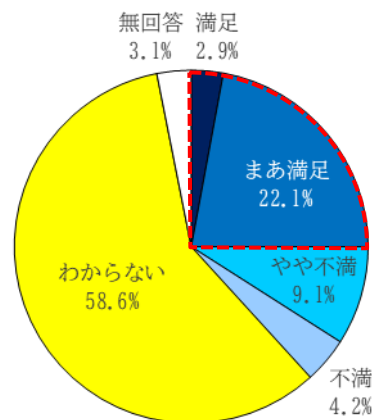
質問 29. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

本市の子育て支援の取組に「満足」の割合は25.0%、「不満」の割合は13.3%である。

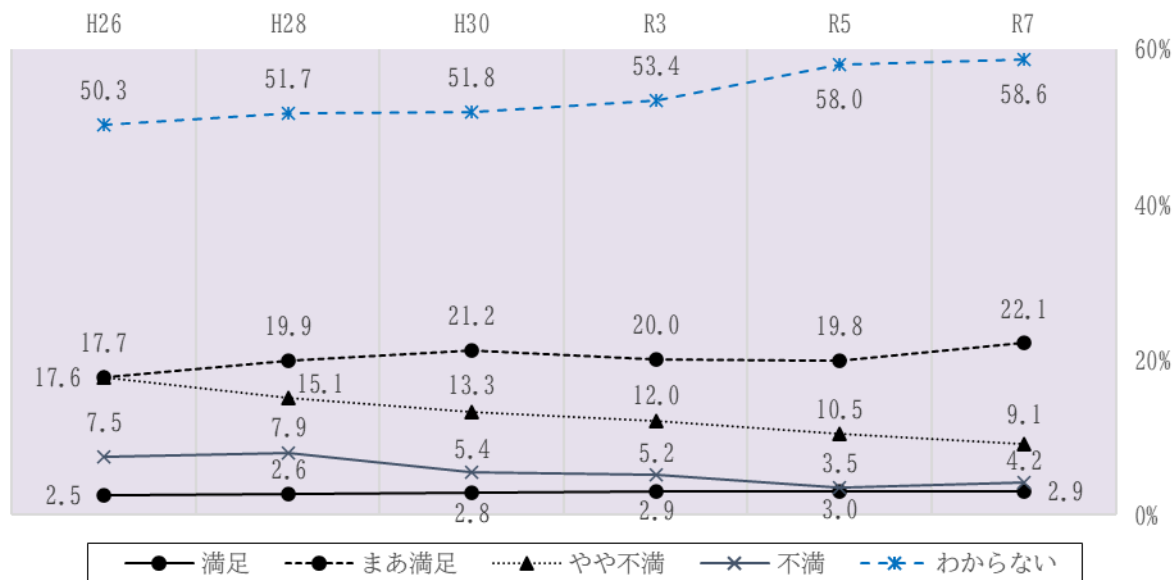
子育て支援の取組について満足しているかについては、「わからない」の割合が58.6%と最も多く、次いで「まあ満足」の割合が22.1%、「やや不満」の割合が9.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
満足	55	2.9%
まあ満足	416	22.1%
やや不満	171	9.1%
不満	79	4.2%
わからない	1,105	58.6%
無回答	59	3.1%
合 計	1,885	100.0%



【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

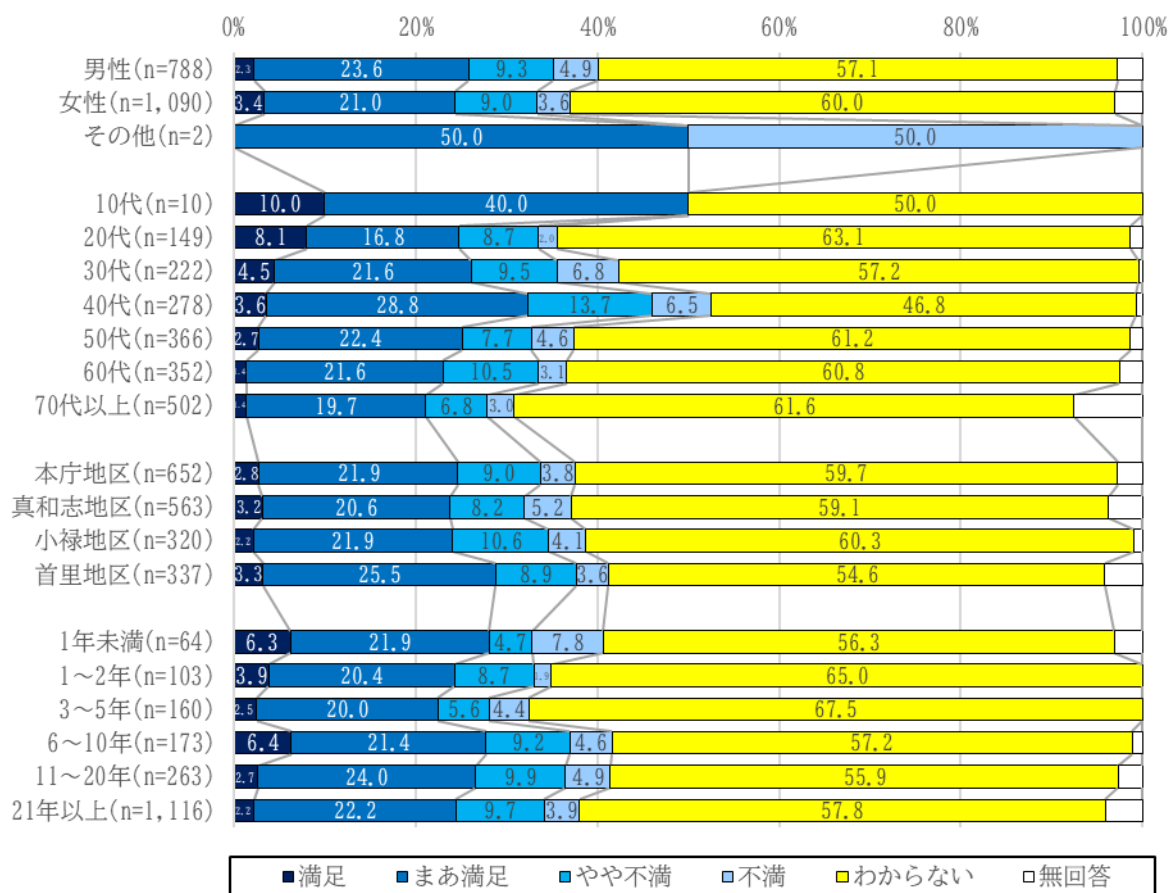
前回調査と比較すると、「満足」の割合が0.1ポイント減少し、「まあ満足」の割合が2.3ポイント増加している一方、「不満」の割合が0.7ポイント増加し、「やや不満」の割合が1.4ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、40代は「満足」「まあ満足」を合わせた割合は3割弱となっており、ほかの世代よりも高くなっている。

選択項目		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)							
性別	男性 (n= 788)	18	186	73	39	450	22
	女性 (n= 1,090)	37	229	98	39	654	33
	その他 (n= 2)	0	1	0	1	0	0
年代別	10代 (n= 10)	1	4	0	0	5	0
	20代 (n= 149)	12	25	13	3	94	2
	30代 (n= 222)	10	48	21	15	127	1
	40代 (n= 278)	10	80	38	18	130	2
	50代 (n= 366)	10	82	28	17	224	5
	60代 (n= 352)	5	76	37	11	214	9
	70代以上 (n= 502)	7	99	34	15	309	38
地区別	本庁地区 (n= 652)	18	143	59	25	389	18
	真和志地区 (n= 563)	18	116	46	29	333	21
	小禄地区 (n= 320)	7	70	34	13	193	3
	首里地区 (n= 337)	11	86	30	12	184	14
居住年数別	1年未満 (n= 64)	4	14	3	5	36	2
	1~2年 (n= 103)	4	21	9	2	67	0
	3~5年 (n= 160)	4	32	9	7	108	0
	6~10年 (n= 173)	11	37	16	8	99	2
	11~20年 (n= 263)	7	63	26	13	147	7
	21年以上 (n= 1,116)	25	248	108	44	645	46



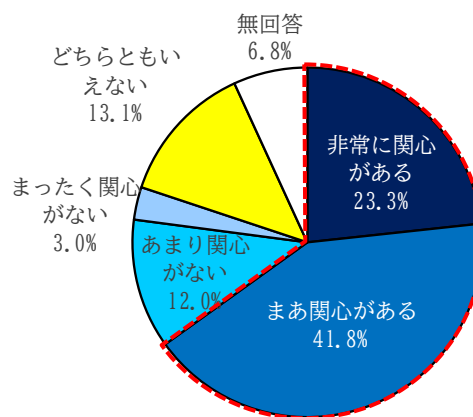
質問 30. 令和5年4月に制定された「こども基本法」に規定されている「こどもの権利（生きる、育つ、守られる、参加する権利）」について、あなたの関心度を、次の中から1つお選びください。

1. 非常に関心がある 2. まあ関心がある 3. あまり関心がない
 4. まったく関心がない 5. どちらともいえない

こどもの権利の関心度について、「関心がある」の割合は 65.1%、「関心がない」の割合は 15.0% である。

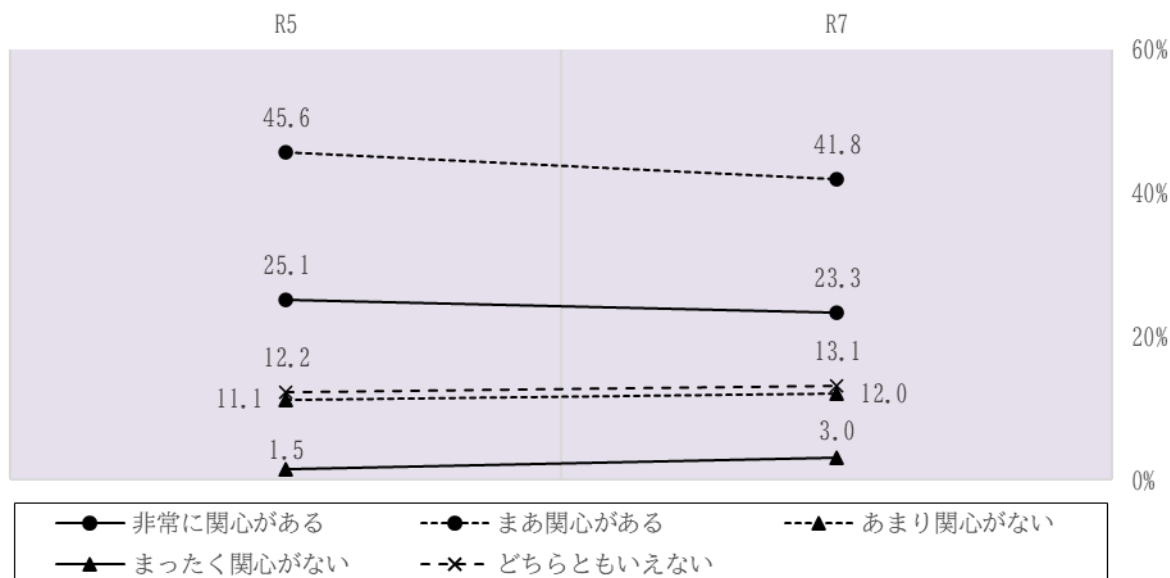
こどもの権利の関心度については、「まあ関心がある」の割合が 41.8%と最も多く、次いで「非常に関心がある」の割合が 23.3%、「どちらともいえない」の割合が 13.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
非常に関心がある	439	23.3%
まあ関心がある	788	41.8%
あまり関心がない	226	12.0%
まったく関心がない	57	3.0%
どちらともいえない	246	13.1%
無回答	129	6.8%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

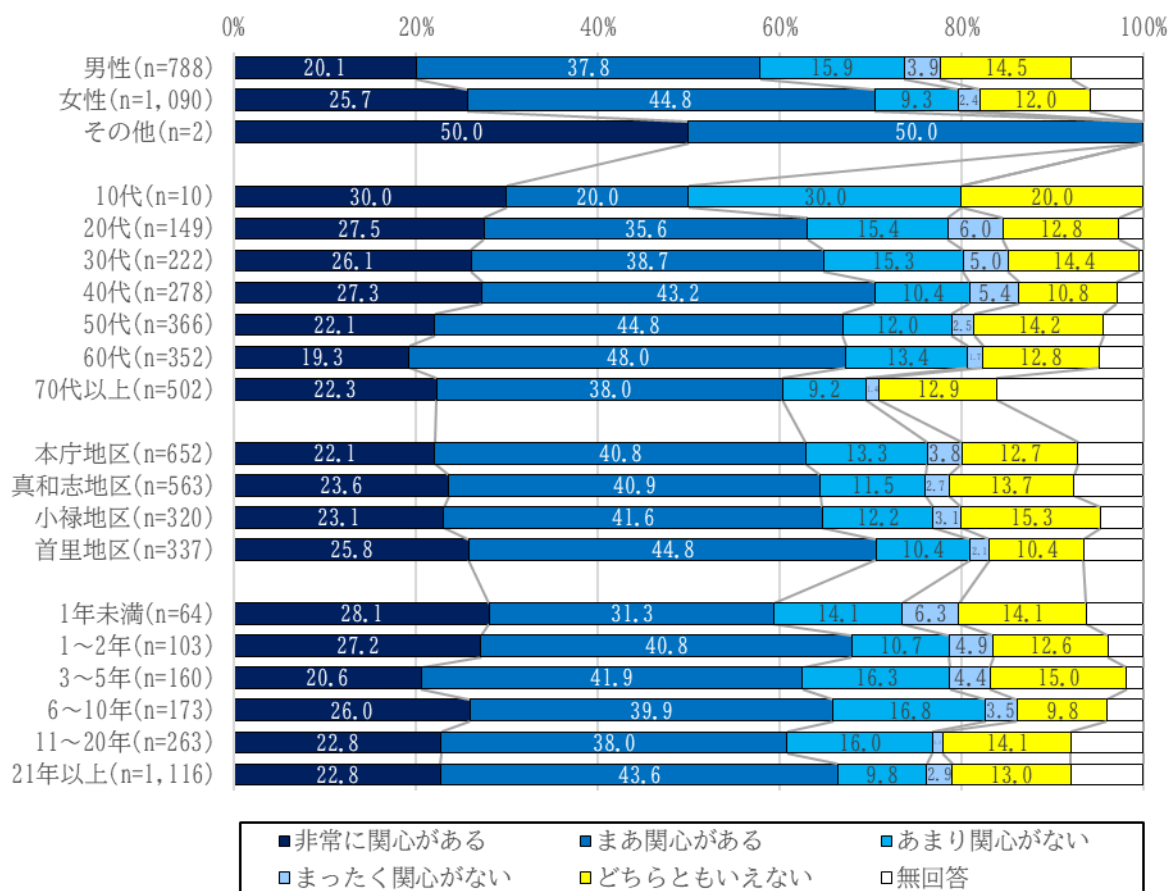
前回調査と比較すると、「まったく関心がない」の割合が 1.5 ポイント増加し、「まあ関心がある」の割合が 3.8 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、40代は「非常に興味がある」「まあ興味がある」を合わせた割合は7割弱となっており、ほかの世代よりも高くなっている。

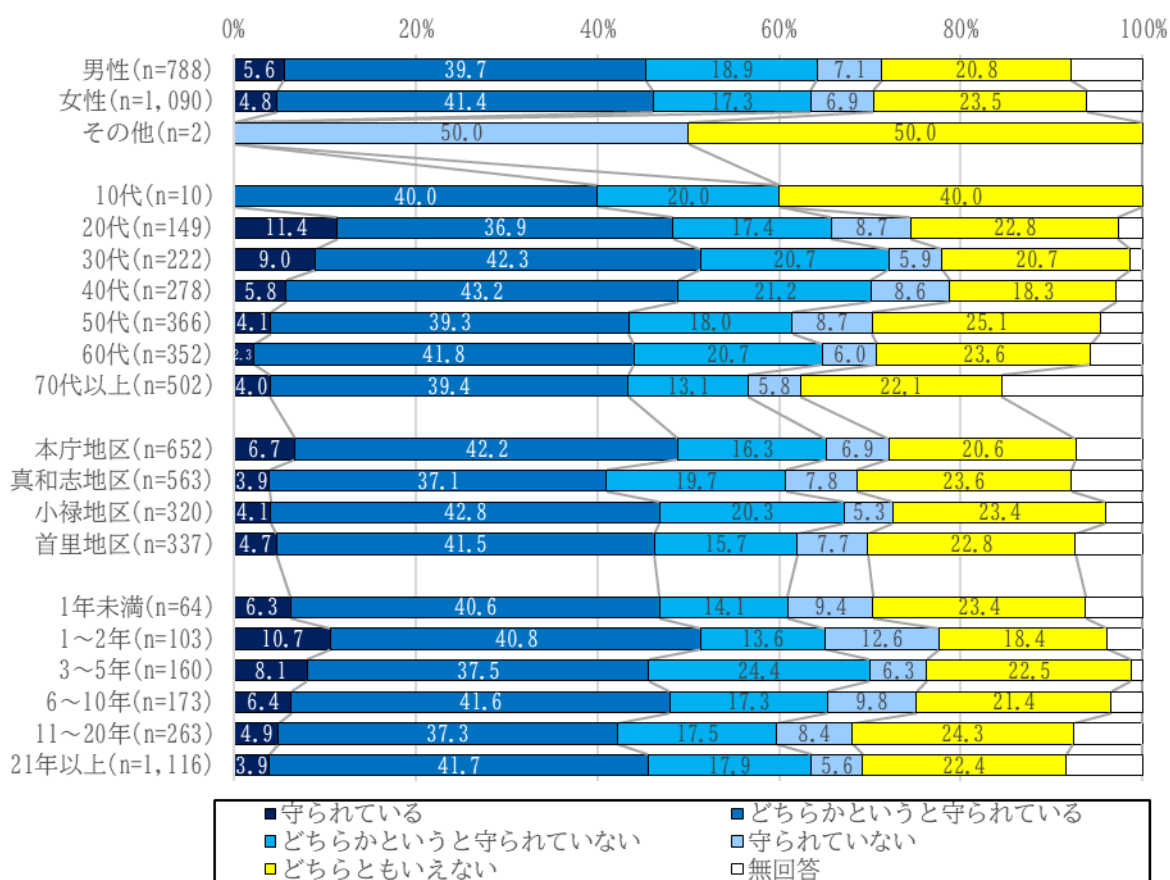
回答者属性(n=合計)		非常に 興味 がある	まあ 興味 がある	あ ま り 関 心 が な い	関 心 が な い ま っ た く	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
性別	男性 (n= 788)	158	298	125	31	114	62
	女性 (n= 1,090)	280	488	101	26	131	64
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	3	2	3	0	2	0
	20代 (n= 149)	41	53	23	9	19	4
	30代 (n= 222)	58	86	34	11	32	1
	40代 (n= 278)	76	120	29	15	30	8
	50代 (n= 366)	81	164	44	9	52	16
	60代 (n= 352)	68	169	47	6	45	17
	70代以上 (n= 502)	112	191	46	7	65	81
地区別	本庁地区 (n= 652)	144	266	87	25	83	47
	真和志地区 (n= 563)	133	230	65	15	77	43
	小祿地区 (n= 320)	74	133	39	10	49	15
	首里地区 (n= 337)	87	151	35	7	35	22
居住年数別	1年未満 (n= 64)	18	20	9	4	9	4
	1～2年 (n= 103)	28	42	11	5	13	4
	3～5年 (n= 160)	33	67	26	7	24	3
	6～10年 (n= 173)	45	69	29	6	17	7
	11～20年 (n= 263)	60	100	42	3	37	21
	21年以上 (n= 1,116)	254	487	109	32	145	89



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住地区別でみると、真和志地区では「守られている」「どちらかというと守られている」を合わせた割合が最も低く、約4割となっている。

選択項目		守られている	どちらかという と守られている	どちらか という と守られて いない	守られて いない	どちらとも いえない	無回答
回答者属性(n=合計)							
性別	男性 (n= 788)	44	313	149	56	164	62
	女性 (n= 1,090)	52	451	189	75	256	67
	その他 (n= 2)	0	0	0	1	1	0
年代別	10代 (n= 10)	0	4	2	0	4	0
	20代 (n= 149)	17	55	26	13	34	4
	30代 (n= 222)	20	94	46	13	46	3
	40代 (n= 278)	16	120	59	24	51	8
	50代 (n= 366)	15	144	66	32	92	17
	60代 (n= 352)	8	147	73	21	83	20
	70代以上 (n= 502)	20	198	66	29	111	78
地区別	本庁地区 (n= 652)	44	275	106	45	134	48
	真和志地区 (n= 563)	22	209	111	44	133	44
	小祿地区 (n= 320)	13	137	65	17	75	13
	首里地区 (n= 337)	16	140	53	26	77	25
居住年数別	1年未満 (n= 64)	4	26	9	6	15	4
	1~2年 (n= 103)	11	42	14	13	19	4
	3~5年 (n= 160)	13	60	39	10	36	2
	6~10年 (n= 173)	11	72	30	17	37	6
	11~20年 (n= 263)	13	98	46	22	64	20
	21年以上 (n= 1,116)	44	465	200	63	250	94



(10) 福祉について

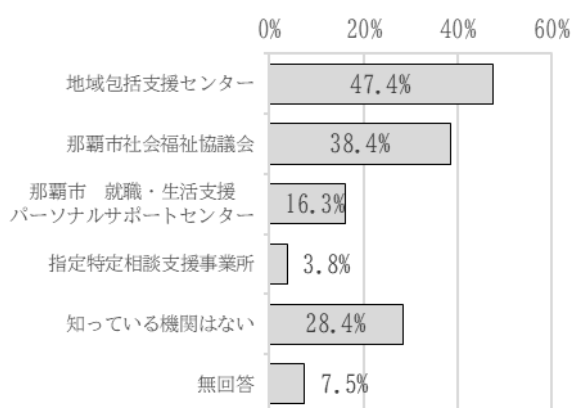
質問 32. 那覇市内には、生活や福祉制度等でのお困り事に対する相談支援機関があります。知っているまたは利用したことがある相談支援機関があれば、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. 那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター 2. 那覇市社会福祉協議会
3. 地域包括支援センター 4. 指定特定相談支援事業所 5. 知っている機関はない

知っているまたは利用したことがある相談支援機関で最も多かったのは、「地域包括支援センター」である。

知っているまたは利用したことがある相談支援機関については、「地域包括支援センター」の割合が47.4%で最も高く、次いで「那覇市社会福祉協議会」の割合が38.4%、「那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター」の割合が16.3%の順となっている。

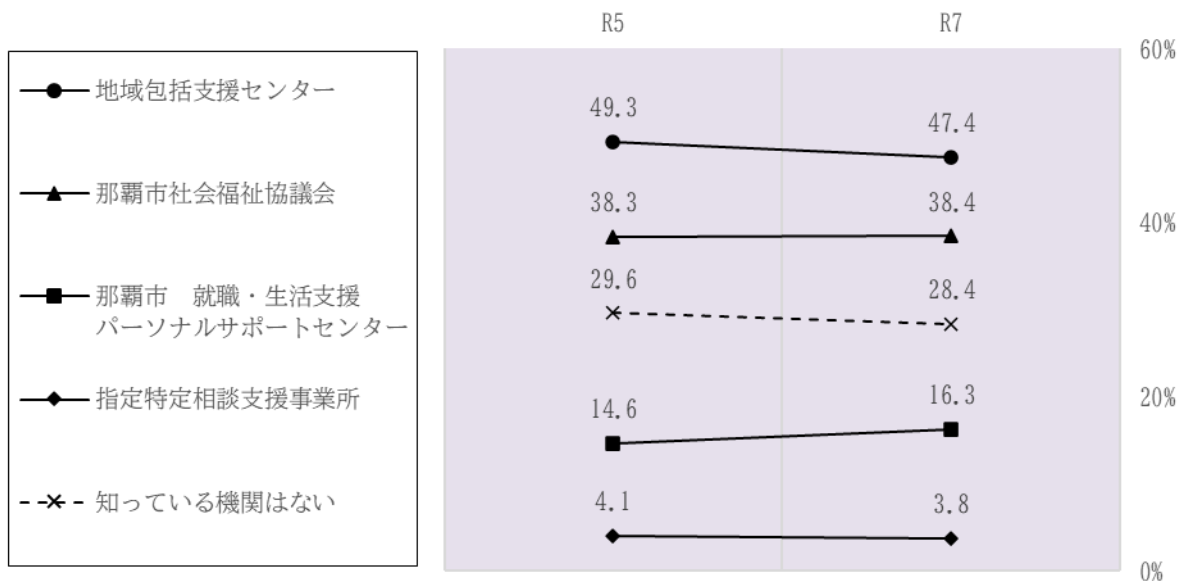
順位	選択項目	回答数	割合
1位	地域包括支援センター	894	47.4%
2位	那覇市社会福祉協議会	724	38.4%
3位	那覇市 就職・生活支援 パーソナルサポートセンター	307	16.3%
4位	指定特定相談支援事業所	71	3.8%
-	知っている機関はない	535	28.4%
-	無回答	141	7.5%
合 計		2,672	141.8%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター」の割合が1.7ポイント増加し、「地域包括支援センター」の割合が1.9ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ほとんどの属性において、「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。
 年代別にみると、30代以下で「知っている機関はない」の割合が高い
 居住年数別にみると、5年以下で「知っている機関はない」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		サ活那 ポ支覇 ー援市 セー就 ンソ職 タナ・ ール生	那 覇市 協 議 会 社 会 福 祉	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	指 定 特 定 相 談 支 援 事 業 所	知 っ て い る 機 関 は な い	無 回 答
性別	男性 (n= 788)	108 13.7	273 34.6	308 39.1	26 3.3	279 35.4	69 8.8
	女性 (n= 1,090)	197 18.1	449 41.2	584 53.6	45 4.1	256 23.5	69 6.3
	その他 (n= 2)	1 50.0	1 50.0	2 100.0	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	-	4 40.0	3 30.0	-	6 60.0	-
	20代 (n= 149)	28 18.8	38 25.5	42 28.2	6 4.0	72 48.3	4 2.7
	30代 (n= 222)	33 14.9	66 29.7	82 36.9	9 4.1	106 47.7	3 1.4
	40代 (n= 278)	51 18.3	117 42.1	128 46.0	17 6.1	89 32.0	10 3.6
	50代 (n= 366)	81 22.1	161 44.0	186 50.8	18 4.9	90 24.6	18 4.9
	60代 (n= 352)	69 19.6	157 44.6	197 56.0	12 3.4	74 21.0	21 6.0
	70代以上 (n= 502)	44 8.8	180 35.9	256 51.0	9 1.8	96 19.1	83 16.5
地区別	本庁地区 (n= 652)	113 17.3	212 32.5	287 44.0	22 3.4	210 32.2	53 8.1
	真和志地区 (n= 563)	93 16.5	224 39.8	278 49.4	21 3.7	145 25.8	48 8.5
	小禄地区 (n= 320)	40 12.5	138 43.1	148 46.3	7 2.2	104 32.5	14 4.4
	首里地区 (n= 337)	59 17.5	145 43.0	179 53.1	21 6.2	72 21.4	23 6.8
居住年数別	1年未満 (n= 64)	14 21.9	17 26.6	21 32.8	2 3.1	25 39.1	4 6.3
	1～2年 (n= 103)	14 13.6	28 27.2	33 32.0	2 1.9	49 47.6	5 4.9
	3～5年 (n= 160)	30 18.8	48 30.0	57 35.6	6 3.8	71 44.4	3 1.9
	6～10年 (n= 173)	28 16.2	70 40.5	74 42.8	9 5.2	62 35.8	7 4.0
	11～20年 (n= 263)	48 18.3	101 38.4	113 43.0	10 3.8	85 32.3	21 8.0
	21年以上 (n= 1,116)	172 15.4	458 41.0	594 53.2	42 3.8	243 21.8	100 9.0

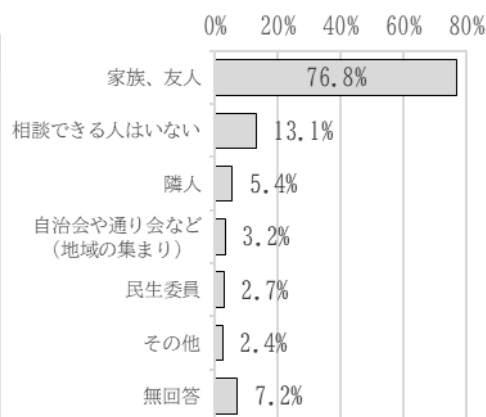
質問 33. 質問 32 の相談支援機関以外に身近で相談できる方はいますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- 1. 家族、友人
- 2. 隣人
- 3. 自治会や通里会など (地域の集まり)
- 4. 民生委員
- 5. 相談できる人はいない
- 6. その他 (_____)

相談支援機関以外に身近で相談できる方として最も多かったのは「家族、友人」である。

相談支援機関以外に身近で相談できる方については、「家族、友人」の割合が 76.8%で最も高く、次いで「相談できる人はいない」の割合が 13.1%、「隣人」の割合が 5.4%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	家族、友人	1,448	76.8%
2位	相談できる人はいない	247	13.1%
3位	隣人	101	5.4%
4位	自治会や通里会など (地域の集まり)	60	3.2%
5位	民生委員	51	2.7%
-	その他	46	2.4%
-	無回答	135	7.2%
合 計		2,088	110.8%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・職場の人 (9人)
- ・福祉の職員 (5人)
- ・恋人 (2人)

- 女性-30代-真和志地区・他
- 男性-60代-本庁地区・他
- 女性-20代-本庁地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

すべての属性において、「家族、友人」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		家族、友人	隣人	(地域の集まり) 自治会や 通り会など	民生委員	相談できる人は いない	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)								
性別	男性 (n= 788)	561 71.2	38 4.8	27 3.4	15 1.9	129 16.4	19 2.4	69 8.8
	女性 (n= 1,090)	884 81.1	62 5.7	33 3.0	36 3.3	117 10.7	27 2.5	63 5.8
	その他 (n= 2)	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	9 90.0	-	-	-	1 10.0	-	-
	20代 (n= 149)	120 80.5	8 5.4	5 3.4	4 2.7	18 12.1	3 2.0	6 4.0
	30代 (n= 222)	180 81.1	9 4.1	2 0.9	1 0.5	35 15.8	7 3.2	2 0.9
	40代 (n= 278)	238 85.6	13 4.7	3 1.1	3 1.1	27 9.7	3 1.1	9 3.2
	50代 (n= 366)	294 80.3	13 3.6	6 1.6	3 0.8	50 13.7	7 1.9	17 4.6
	60代 (n= 352)	267 75.9	15 4.3	12 3.4	7 2.0	53 15.1	7 2.0	26 7.4
	70代以上 (n= 502)	338 67.3	42 8.4	32 6.4	33 6.6	62 12.4	19 3.8	73 14.5
地区別	本庁地区 (n= 652)	489 75.0	29 4.4	18 2.8	15 2.3	93 14.3	16 2.5	50 7.7
	真和志地区 (n= 563)	428 76.0	31 5.5	19 3.4	18 3.2	69 12.3	17 3.0	44 7.8
	小祿地区 (n= 320)	251 78.4	17 5.3	6 1.9	7 2.2	45 14.1	5 1.6	14 4.4
	首里地区 (n= 337)	273 81.0	24 7.1	17 5.0	11 3.3	37 11.0	7 2.1	24 7.1
居住年数別	1年未満 (n= 64)	49 76.6	3 4.7	4 6.3	-	7 10.9	1 1.6	4 6.3
	1~2年 (n= 103)	76 73.8	3 2.9	-	2 1.9	20 19.4	3 2.9	4 3.9
	3~5年 (n= 160)	126 78.8	12 7.5	3 1.9	2 1.3	25 15.6	2 1.3	3 1.9
	6~10年 (n= 173)	133 76.9	8 4.6	3 1.7	2 1.2	27 15.6	7 4.0	7 4.0
	11~20年 (n= 263)	201 76.4	13 4.9	3 1.1	3 1.1	33 12.5	4 1.5	23 8.7
	21年以上 (n= 1,116)	859 77.0	61 5.5	47 4.2	42 3.8	134 12.0	29 2.6	93 8.3

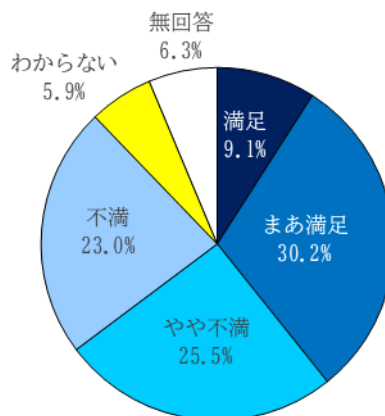
質問 34. あなたは、ご自身およびご家族の所得や家計の状況に満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

所得や家計の状況について、「満足」の割合は39.3%、「不満」の割合は48.5%である。

所得や家計の状況については、「まあ満足」の割合が30.2%で最も高く、次いで「やや不満」の割合が25.5%、「不満」の割合が23.0%の順となっている。

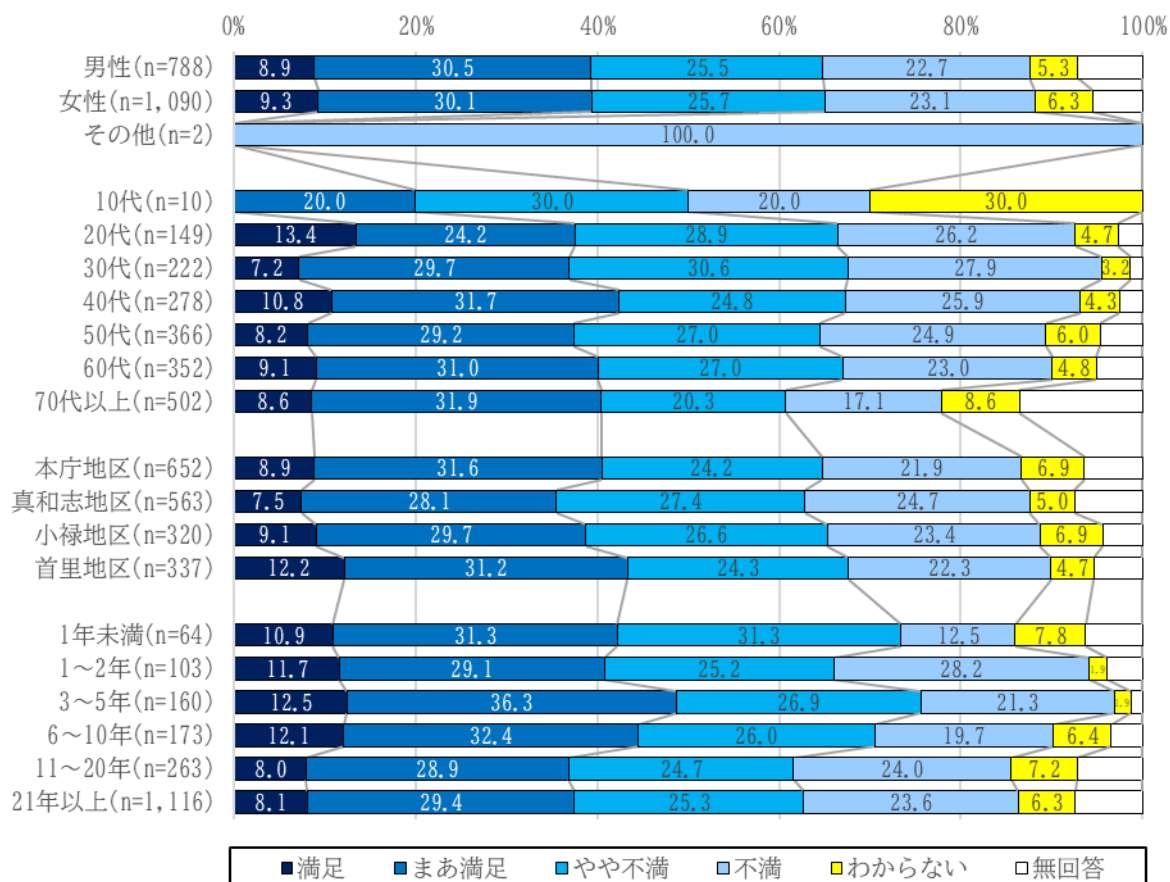
選択項目	回答数	割合
満足	171	9.1%
まあ満足	569	30.2%
やや不満	481	25.5%
不満	434	23.0%
わからない	111	5.9%
無回答	119	6.3%
合 計	1,885	100.0%



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、40代は「満足」「まあ満足」を合わせた割合は4割弱となっており、ほかの世代よりも高くなっている。

選択項目		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)							
性別	男性 (n= 788)	70	240	201	179	42	56
	女性 (n= 1,090)	101	328	280	252	69	60
	その他 (n= 2)	0	0	0	2	0	0
年代別	10代 (n= 10)	0	2	3	2	3	0
	20代 (n= 149)	20	36	43	39	7	4
	30代 (n= 222)	16	66	68	62	7	3
	40代 (n= 278)	30	88	69	72	12	7
	50代 (n= 366)	30	107	99	91	22	17
	60代 (n= 352)	32	109	95	81	17	18
	70代以上 (n= 502)	43	160	102	86	43	68
地区別	本庁地区 (n= 652)	58	206	158	143	45	42
	真和志地区 (n= 563)	42	158	154	139	28	42
	小禄地区 (n= 320)	29	95	85	75	22	14
	首里地区 (n= 337)	41	105	82	75	16	18
居住年数別	1年未満 (n= 64)	7	20	20	8	5	4
	1~2年 (n= 103)	12	30	26	29	2	4
	3~5年 (n= 160)	20	58	43	34	3	2
	6~10年 (n= 173)	21	56	45	34	11	6
	11~20年 (n= 263)	21	76	65	63	19	19
	21年以上 (n= 1,116)	90	328	282	263	70	83



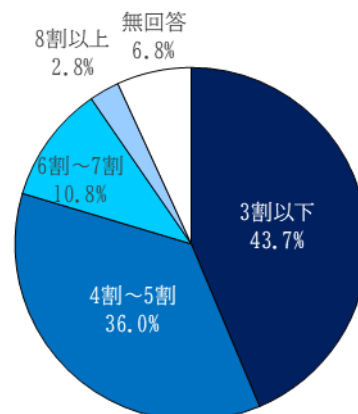
質問 35. 現在のご自身の収入（所得）に対する食費にかけている割合はどれくらいですか。次の中から1つお選びください。

1. 3割以下 2. 4割～5割 3. 6割～7割 4. 8割以上

収入に対する食費にかけている割合について最も多かったのは「3割以下」である。

収入に対する食費にかけている割合については、「3割以下」の割合が43.7%で最も高く、次いで「4割～5割」の割合が36.0%、「6割～7割」の割合が10.8%の順となっている。

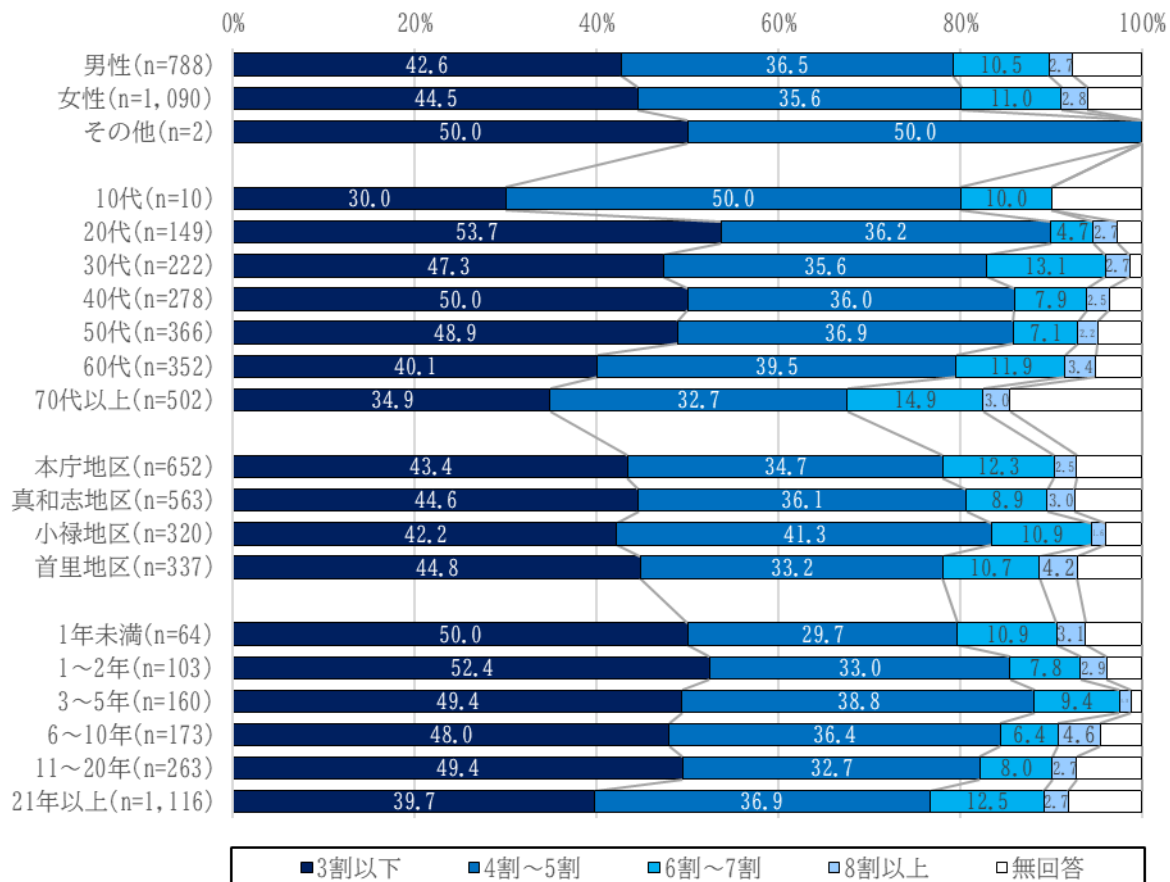
選択項目	回答数	割合
3割以下	823	43.7%
4割～5割	678	36.0%
6割～7割	203	10.8%
8割以上	52	2.8%
無回答	129	6.8%
合 計	1,885	100.0%



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代は「3割以下」の割合が最も高くなっている。また年代が上がるほど「3割以下」の割合が低くなる傾向がみられる。

選択項目		3割以下	4割～5割	6割～7割	8割以上	無回答
性別	男性 (n= 788)	336	288	83	21	60
	女性 (n= 1,090)	485	388	120	31	66
	その他 (n= 2)	1	1	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	3	5	1	0	1
	20代 (n= 149)	80	54	7	4	4
	30代 (n= 222)	105	79	29	6	3
	40代 (n= 278)	139	100	22	7	10
	50代 (n= 366)	179	135	26	8	18
	60代 (n= 352)	141	139	42	12	18
	70代以上 (n= 502)	175	164	75	15	73
地区別	本庁地区 (n= 652)	283	226	80	16	47
	真和志地区 (n= 563)	251	203	50	17	42
	小祿地区 (n= 320)	135	132	35	5	13
	首里地区 (n= 337)	151	112	36	14	24
居住年数別	1年未満 (n= 64)	32	19	7	2	4
	1～2年 (n= 103)	54	34	8	3	4
	3～5年 (n= 160)	79	62	15	2	2
	6～10年 (n= 173)	83	63	11	8	8
	11～20年 (n= 263)	130	86	21	7	19
	21年以上 (n= 1,116)	443	412	140	30	91



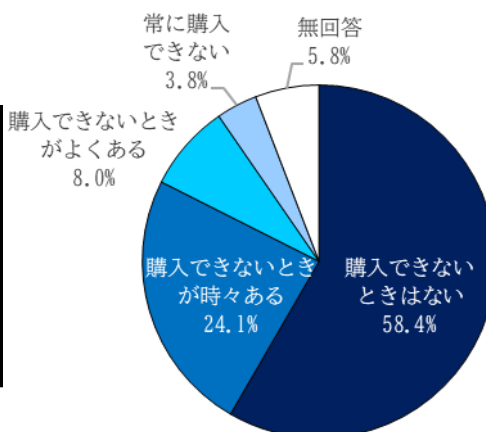
質問 36. 現在のご家庭で食料や衣服、こどもの学用品などの最低限度の生活必需品の購入がどの程度難しいですか。次の中からもっとも近いものを1つお選びください。

1. 購入できないときはない
2. 購入できないときが時々ある
3. 購入できないときがよくある
4. 常に購入できない

最低限度の生活必需品の購入がどの程度難しいかについて最も多かったのは「購入できないときはない」である。

最低限度の生活必需品の購入がどの程度難しいかについては、「購入できないときはない」の割合が58.4%で最も高く、次いで「購入できないときが時々ある」の割合が24.1%、「購入できないときがよくある」の割合が8.0%の順となっている。

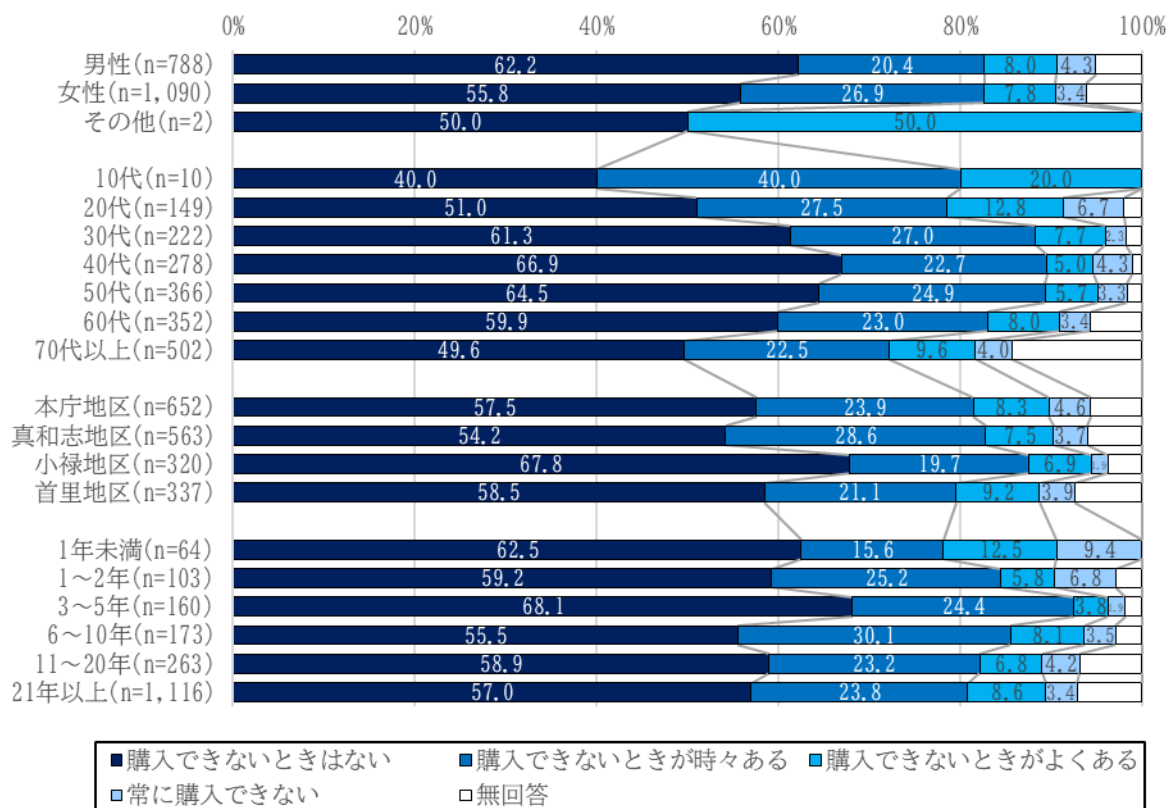
選択項目	回答数	割合
購入できないときはない	1,100	58.4%
購入できないときが時々ある	454	24.1%
購入できないときがよくある	150	8.0%
常に購入できない	71	3.8%
無回答	110	5.8%
合計	1,885	100.0%



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、40代は「購入できないときはない」の割合が最も高くなっている。また、20代以下では「購入できないときがよくある」の割合が高くなっている。

選択項目		購入できないときはない	購入できないときが時々ある	購入できないときがよくある	常に購入できない	無回答
回答者属性(n=合計)						
性別	男性 (n= 788)	490	161	63	34	40
	女性 (n= 1,090)	608	293	85	37	67
	その他 (n= 2)	1	0	1	0	0
年代別	10代 (n= 10)	4	4	2	0	0
	20代 (n= 149)	76	41	19	10	3
	30代 (n= 222)	136	60	17	5	4
	40代 (n= 278)	186	63	14	12	3
	50代 (n= 366)	236	91	21	12	6
	60代 (n= 352)	211	81	28	12	20
	70代以上 (n= 502)	249	113	48	20	72
地区別	本庁地区 (n= 652)	375	156	54	30	37
	真和志地区 (n= 563)	305	161	42	21	34
	小祿地区 (n= 320)	217	63	22	6	12
	首里地区 (n= 337)	197	71	31	13	25
居住年数別	1年未満 (n= 64)	40	10	8	6	0
	1～2年 (n= 103)	61	26	6	7	3
	3～5年 (n= 160)	109	39	6	3	3
	6～10年 (n= 173)	96	52	14	6	5
	11～20年 (n= 263)	155	61	18	11	18
	21年以上 (n= 1,116)	636	266	96	38	80



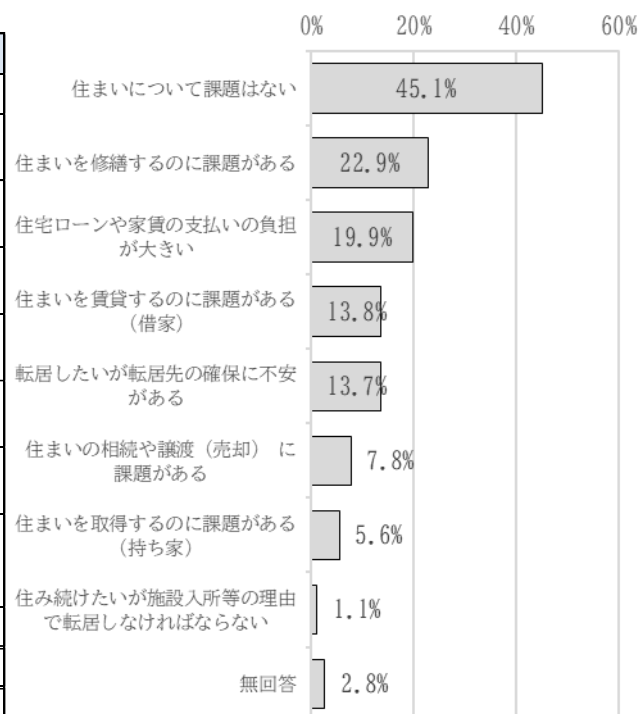
質問 37. 現在のご家庭で住まいに課題はありますか。次の中からもっとも近いものを2つまでお選びください。

1. 住まいについて課題はない
2. 住まいを賃貸するのに課題がある (借家)
3. 転居したいが転居先の確保に不安がある
4. 住み続けたいが施設入所等の理由で転居しなければならない
5. 住まいを取得するのに課題がある (持ち家)
6. 住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい
7. 住まいを修繕するのに課題がある
8. 住まいの相続や譲渡 (売却) に課題がある

住まいの課題について最も多かったのは「住まいについて課題はない」である。

住まいの課題については、「住まいについて課題はない」の割合が 45.1%で最も高く、次いで「住まいを修繕するのに課題がある」の割合が 22.9%、「住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい」の割合が 19.9%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	住まいについて課題はない	851	45.1%
2位	住まいを修繕するのに課題がある	432	22.9%
3位	住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい	375	19.9%
4位	住まいを賃貸するのに課題がある (借家)	260	13.8%
5位	転居したいが転居先の確保に不安がある	259	13.7%
6位	住まいの相続や譲渡 (売却) に課題がある	147	7.8%
7位	住まいを取得するのに課題がある (持ち家)	105	5.6%
8位	住み続けたいが施設入所等の理由で転居しなければならない	21	1.1%
-	無回答	52	2.8%
合 計		2,502	132.7%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ほとんどの属性において、「住まいについて課題はない」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、40代以下では「住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい」の割合が最も高く、50代以上では「住まいを修繕するのに課題がある」の割合が高くなっている。

居住年数別で見ると20年以下では「住宅ローンや家賃の支払いの負担が大きい」の割合が最も高く、21年以上では「住まいを修繕するのに課題がある」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		住まいについて 課題はない	課題がある(借家) 賃貸するの に	転居先が不安 がある	転居したいが 転居しなけれ ばならない	転居施設等 の理由がない	住み続けたい 理由がある (持ち家)	住まい取得す るのに課題が ある	住宅ローンや 家賃の支払い の負担が大きい	修繕するの に課題がある	住まいを 譲渡(売却) に課題がある	住まいの相 続や	無回答
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
性別	男性 (n= 788)	380	105	114	9	48	147	175	61	17			
		48.2	13.3	14.5	1.1	6.1	18.7	22.2	7.7	2.2			
	女性 (n= 1,090)	469	154	144	12	55	226	257	86	34			
		43.0	14.1	13.2	1.1	5.0	20.7	23.6	7.9	3.1			
	その他 (n= 2)	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	6	-	2	-	-	5	-	-	-	-	-	-
		60.0	-	20.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	83	20	18	3	4	35	17	5	1			
		55.7	13.4	12.1	2.0	2.7	23.5	11.4	3.4	0.7			
	30代 (n= 222)	95	41	36	1	22	67	20	10	-			
		42.8	18.5	16.2	0.5	9.9	30.2	9.0	4.5	-			
	40代 (n= 278)	118	35	41	1	32	85	41	14	2			
	42.4	12.6	14.7	0.4	11.5	30.6	14.7	5.0	0.7				
50代 (n= 366)	149	49	53	5	13	88	98	18	7				
	40.7	13.4	14.5	1.4	3.6	24.0	26.8	4.9	1.9				
60代 (n= 352)	155	53	51	1	16	54	112	31	11				
	44.0	15.1	14.5	0.3	4.5	15.3	31.8	8.8	3.1				
70代以上 (n= 502)	243	60	57	10	17	39	144	69	30				
	48.4	12.0	11.4	2.0	3.4	7.8	28.7	13.7	6.0				
地区別	本庁地区 (n= 652)	299	103	83	6	37	137	128	47	21			
		45.9	15.8	12.7	0.9	5.7	21.0	19.6	7.2	3.2			
	真和志地区 (n= 563)	235	82	100	5	39	107	135	46	16			
		41.7	14.6	17.8	0.9	6.9	19.0	24.0	8.2	2.8			
小祿地区 (n= 320)	155	40	45	1	16	66	66	17	2				
	48.4	12.5	14.1	0.3	5.0	20.6	20.6	5.3	0.6				
首里地区 (n= 337)	158	32	27	7	12	64	100	35	12				
	46.9	9.5	8.0	2.1	3.6	19.0	29.7	10.4	3.6				
居住年数別	1年未満 (n= 64)	37	8	8	1	2	16	6	1	1			
		57.8	12.5	12.5	1.6	3.1	25.0	9.4	1.6	1.6			
	1～2年 (n= 103)	49	15	12	1	11	29	7	1	1			
		47.6	14.6	11.7	1.0	10.7	28.2	6.8	1.0	1.0			
	3～5年 (n= 160)	74	27	26	2	10	45	21	9	-			
		46.3	16.9	16.3	1.3	6.3	28.1	13.1	5.6	-			
6～10年 (n= 173)	73	29	29	4	9	46	18	8	1				
	42.2	16.8	16.8	2.3	5.2	26.6	10.4	4.6	0.6				
11～20年 (n= 263)	116	45	45	4	19	55	45	12	7				
	44.1	17.1	17.1	1.5	7.2	20.9	17.1	4.6	2.7				
21年以上 (n= 1,116)	499	134	138	9	54	184	334	116	41				
	44.7	12.0	12.4	0.8	4.8	16.5	29.9	10.4	3.7				

(11) 健康について

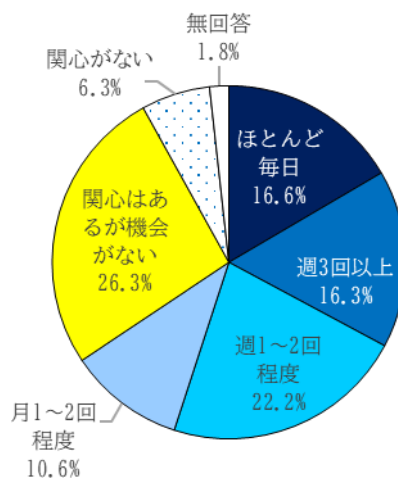
質問 38. あなたは、1回30分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。次の中から1つお選びください。

1. ほとんど毎日 2. 週3回以上 3. 週1～2回程度
 4. 月1～2回程度 5. 関心はあるが機会がない 6. 関心がない

1回30分以上の運動への取組で最も多かったのは「関心はあるが機会がない」である。

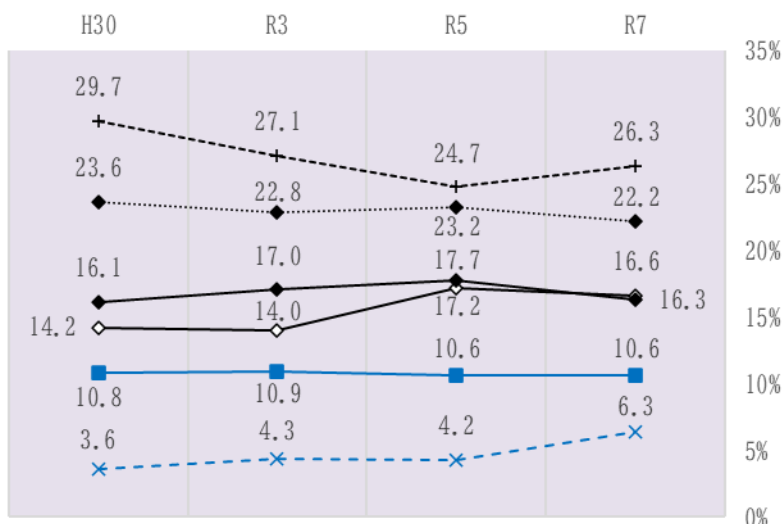
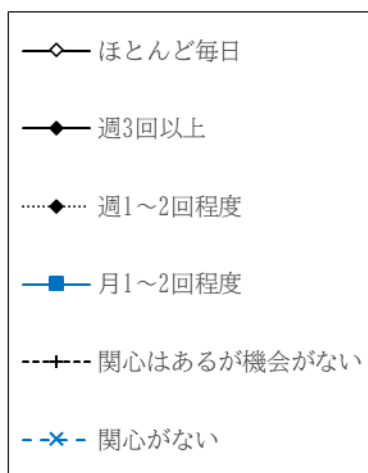
1回30分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいるかについては、「関心はあるが機会がない」の割合が26.3%で最も多く、次いで「週1～2回程度」の割合が22.2%、「ほとんど毎日」の割合が16.6%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
ほとんど毎日	312	16.6%
週3回以上	307	16.3%
週1～2回程度	418	22.2%
月1～2回程度	200	10.6%
関心はあるが機会がない	496	26.3%
関心がない	119	6.3%
無回答	33	1.8%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（平成30年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「関心がない」の割合が2.1ポイント増加し、「週3回以上」の割合が1.4ポイント減少している。

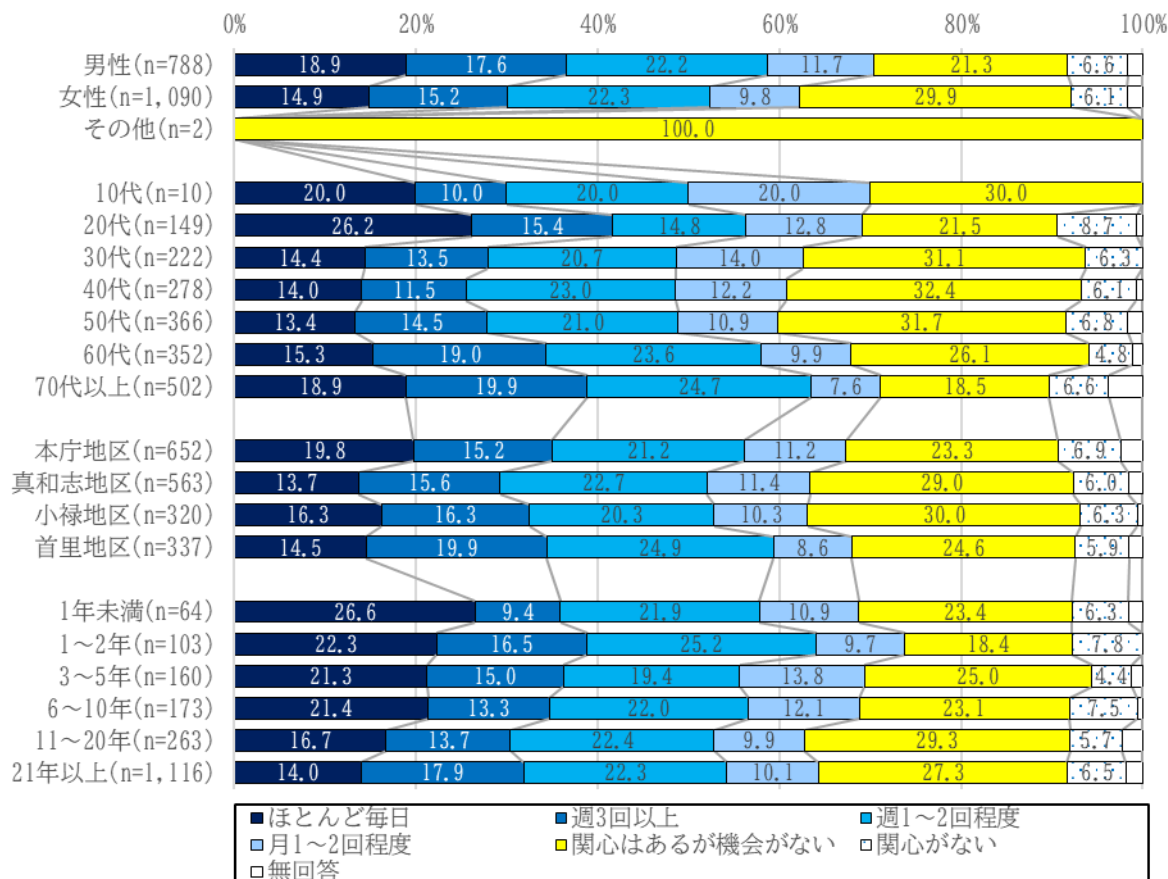


【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、20代以下では「ほとんど毎日」の割合が高い。30代以上では年齢上がるにつれて「ほとんど毎日」の割合が高くなる傾向がある。

居住年数別でみると、1年未満では「ほとんど毎日」の割合が最も高くなっている。

選択項目		ほとんど毎日	週3回以上	週1~2回程度	月1~2回程度	関心はあるが機会がない	関心がない	無回答
回答者属性(n=合計)								
性別	男性 (n= 788)	149	139	175	92	168	52	13
	女性 (n= 1,090)	162	166	243	107	326	67	19
	その他 (n= 2)	0	0	0	0	2	0	0
年代別	10代 (n= 10)	2	1	2	2	3	0	0
	20代 (n= 149)	39	23	22	19	32	13	1
	30代 (n= 222)	32	30	46	31	69	14	0
	40代 (n= 278)	39	32	64	34	90	17	2
	50代 (n= 366)	49	53	77	40	116	25	6
	60代 (n= 352)	54	67	83	35	92	17	4
	70代以上 (n= 502)	95	100	124	38	93	33	19
地区別	本庁地区 (n= 652)	129	99	138	73	152	45	16
	真和志地区 (n= 563)	77	88	128	64	163	34	9
	小祿地区 (n= 320)	52	52	65	33	96	20	2
	首里地区 (n= 337)	49	67	84	29	83	20	5
居住年数別	1年未満 (n= 64)	17	6	14	7	15	4	1
	1~2年 (n= 103)	23	17	26	10	19	8	0
	3~5年 (n= 160)	34	24	31	22	40	7	2
	6~10年 (n= 173)	37	23	38	21	40	13	1
	11~20年 (n= 263)	44	36	59	26	77	15	6
	21年以上 (n= 1,116)	156	200	249	113	305	72	21



質問 39. あなたは、主食^(※1)、主菜^(※2)、副菜^(※3)の3つを組み合わせる食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日程度 4. ほとんどない

※1 ごはん、パン、麺類などの料理

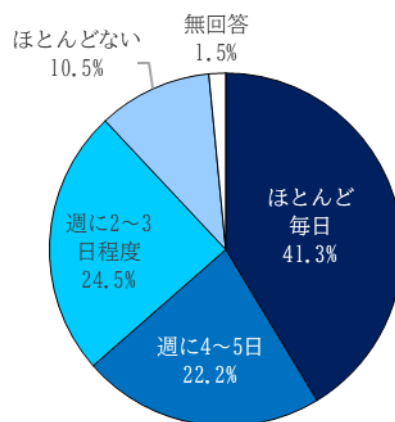
※2 魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理

※3 野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上のあると答えた市民のうち最も多かったのは「ほとんど毎日」である。

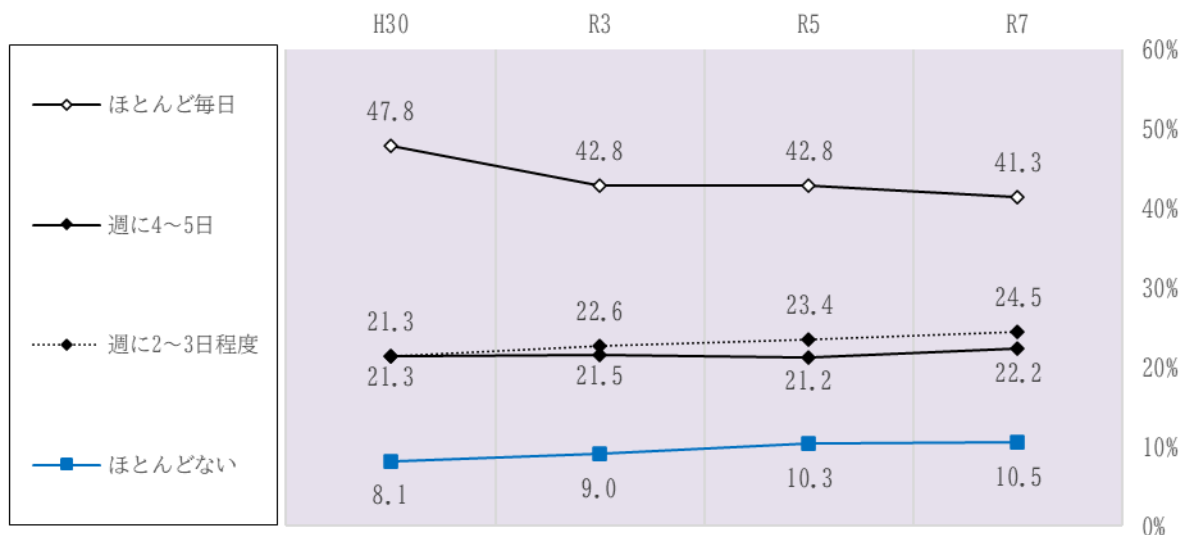
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が「ほとんど毎日」の割合は41.3%、次いで「週に2～3日」の割合が24.5%、「週に4～5日」の割合が22.2%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
ほとんど毎日	779	41.3%
週に4～5日	419	22.2%
週に2～3日程度	461	24.5%
ほとんどない	197	10.5%
無回答	29	1.5%
合計	1,885	100.0%



【経年変化 (平成30年度～令和7年度)】

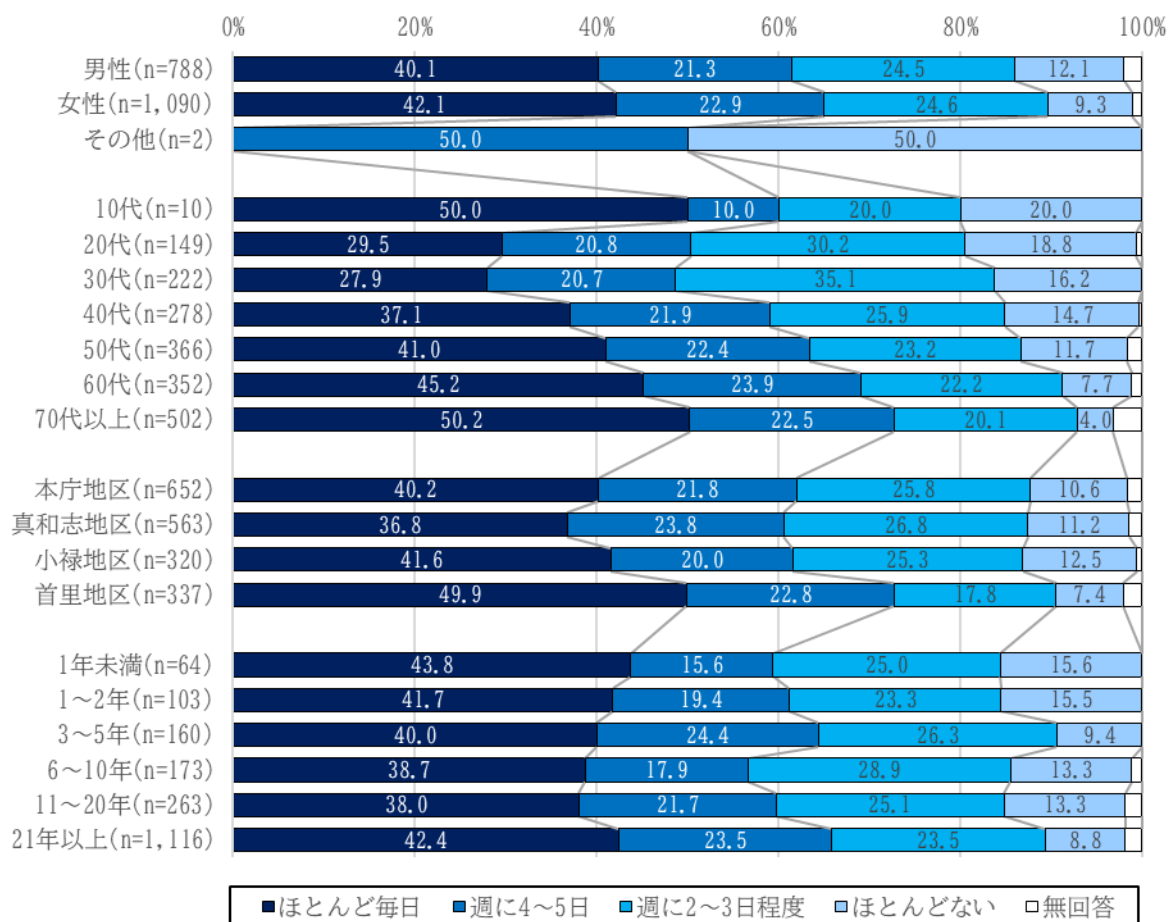
前回調査と比較すると、「ほとんど毎日」の割合が1.5ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、70代以上で「ほとんど毎日」の割合が最も高く5割を超えている。

回答者属性(n=合計)		選択項目	ほとんど毎日	4〜週に5日	2〜週に3日程度	ほとんどない	無回答
性別	男性 (n= 788)		316	168	193	95	16
	女性 (n= 1,090)		459	250	268	101	12
	その他 (n= 2)		0	1	0	1	0
年代別	10代 (n= 10)		5	1	2	2	0
	20代 (n= 149)		44	31	45	28	1
	30代 (n= 222)		62	46	78	36	0
	40代 (n= 278)		103	61	72	41	1
	50代 (n= 366)		150	82	85	43	6
	60代 (n= 352)		159	84	78	27	4
	70代以上 (n= 502)		252	113	101	20	16
地区別	本庁地区 (n= 652)		262	142	168	69	11
	真和志地区 (n= 563)		207	134	151	63	8
	小祿地区 (n= 320)		133	64	81	40	2
	首里地区 (n= 337)		168	77	60	25	7
居住年数別	1年未満 (n= 64)		28	10	16	10	0
	1〜2年 (n= 103)		43	20	24	16	0
	3〜5年 (n= 160)		64	39	42	15	0
	6〜10年 (n= 173)		67	31	50	23	2
	11〜20年 (n= 263)		100	57	66	35	5
	21年以上 (n= 1,116)		473	262	262	98	21



(12) 文化・芸術について

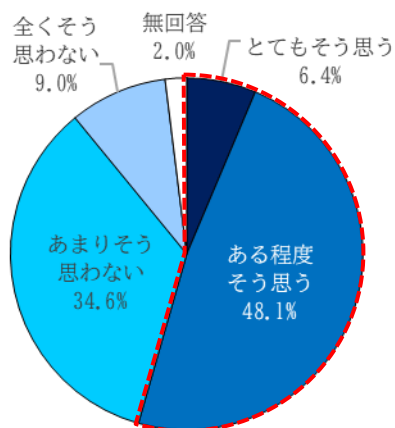
質問 40. 本市において文化芸術を鑑賞したり、習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会が充実していると思いますか。次の中から1つお選びください。

1. とてもそう思う 2. ある程度そう思う
3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

本市内での文化的な環境にふれる機会が充実しているかについて「そう思う」の割合は 54.4%、「そう思わない」の割合は 43.6%である。

本市内での文化的な環境にふれる機会が充実しているかについては、「ある程度そう思う」が 48.1%で最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 34.6%、「全くそう思わない」が 9.0%の順となっている。

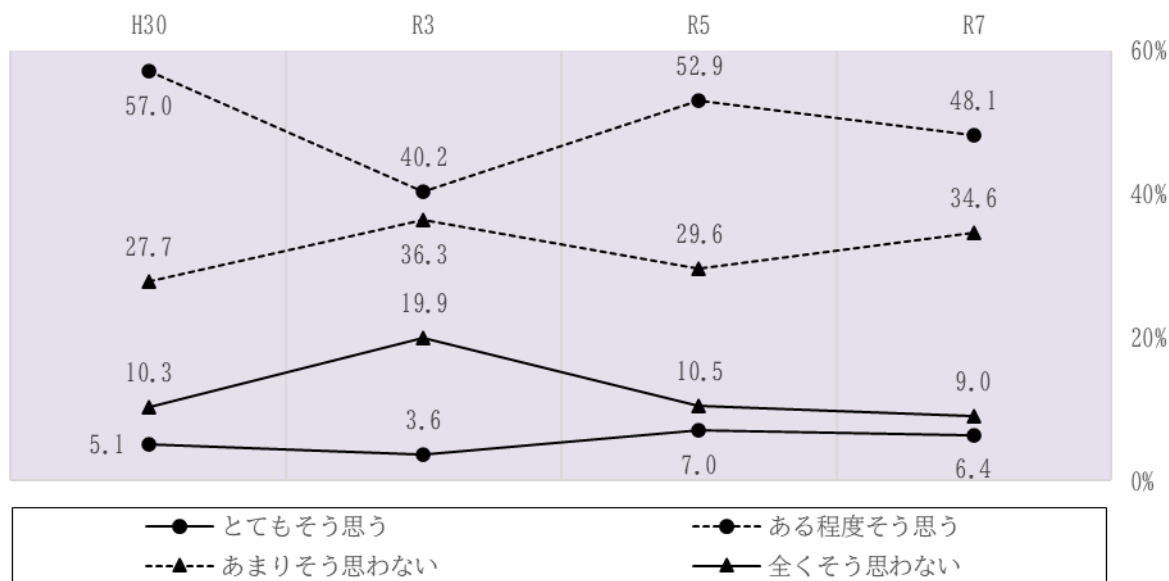
選択項目	回答数	割合
とてもそう思う	120	6.4%
ある程度そう思う	906	48.1%
あまりそう思わない	653	34.6%
全くそう思わない	169	9.0%
無回答	37	2.0%
合計	1,885	100.0%



【経年変化 (平成 30 年度～令和 7 年度)】

令和 5 年度までは満足度を問う設問であったため、「満足」を「とてもそう思う」、「まあ満足」を「ある程度そう思う」、「やや不満」を「あまりそう思わない」、「不満」を「全くそう思わない」として再集計した。

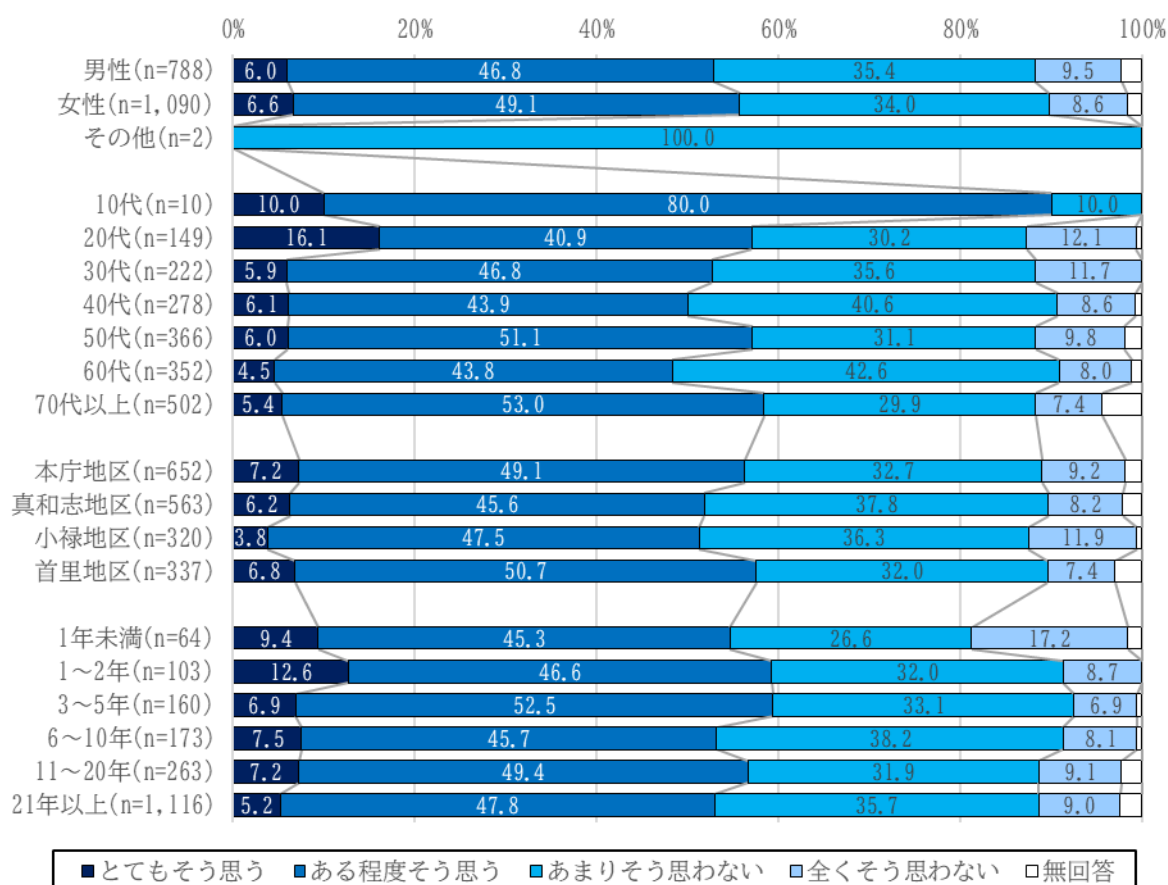
前回調査と比較すると、「あまりそう思わない」の割合が 5.0 ポイント増加し、「ある程度そう思う」の割合が 4.8 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住地区別でみると、本庁地区、首里地区では「とてもそう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合が高くなっている

選択項目		とても そう 思う	ある 程度 そう 思う	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない	無 回 答
回答者属性(n=合計)						
性別	男性 (n= 788)	47	369	279	75	18
	女性 (n= 1,090)	72	535	371	94	18
	その他 (n= 2)	0	0	2	0	0
年代別	10代 (n= 10)	1	8	1	0	0
	20代 (n= 149)	24	61	45	18	1
	30代 (n= 222)	13	104	79	26	0
	40代 (n= 278)	17	122	113	24	2
	50代 (n= 366)	22	187	114	36	7
	60代 (n= 352)	16	154	150	28	4
	70代以上 (n= 502)	27	266	150	37	22
地区別	本庁地区 (n= 652)	47	320	213	60	12
	真和志地区 (n= 563)	35	257	213	46	12
	小禄地区 (n= 320)	12	152	116	38	2
	首里地区 (n= 337)	23	171	108	25	10
居住年数別	1年未満 (n= 64)	6	29	17	11	1
	1～2年 (n= 103)	13	48	33	9	0
	3～5年 (n= 160)	11	84	53	11	1
	6～10年 (n= 173)	13	79	66	14	1
	11～20年 (n= 263)	19	130	84	24	6
	21年以上 (n= 1,116)	58	533	398	100	27

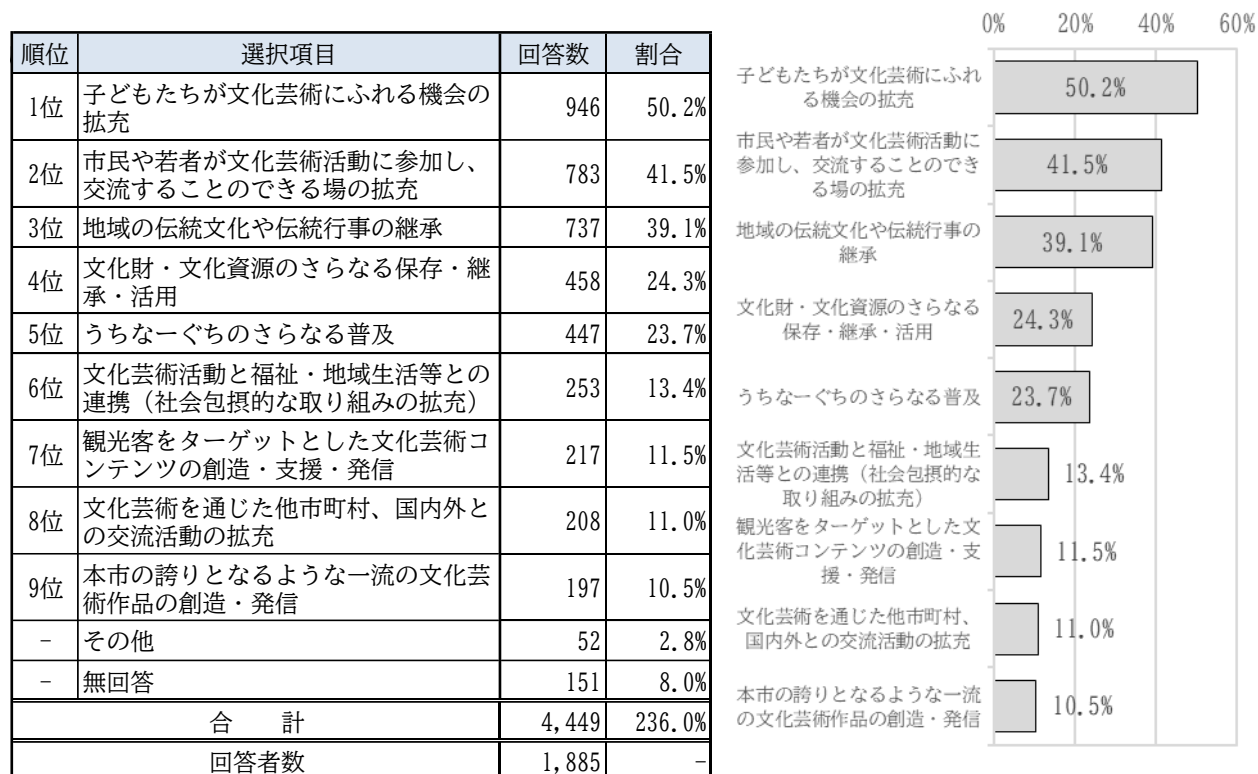


質問 41. 本市における文化芸術活動や伝統芸能を含むエンターテインメントなどをより多様で豊かなものにする取り組みとして、あなたが必要だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充
2. 子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充
3. うちなーぐちのさらなる普及
4. 地域の伝統文化や伝統行事の継承
5. 本市の誇りとなるような一流の文化芸術作品の創造・発信
6. 文化財・文化資源のさらなる保存・継承・活用
7. 文化芸術活動と福祉・地域生活等との連携（社会包摂的な取り組みの拡充）
8. 観光客をターゲットとした文化芸術コンテンツの創造・支援・発信
9. 文化芸術を通じた他市町村、国内外との交流活動の拡充
10. その他（ ）

エンターテインメントなどをより多様で豊かなものにする取組として必要だと思う施策について最も多かったのは「子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充」である。

エンターテインメントなどをより多様で豊かなものにする取組として必要だと思う施策については、「子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充」が 50.2%で最も多く、次いで「市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充」が 41.5%、「地域の伝統文化や伝統行事の継承」が 39.1%の順となっている。



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・情報発信（4人）
 - ・イベントの開催（4人）
 - ・エンタメのレベルをあげる（3人）
- 女性-60代-小禄地区・他
男性-40代-首里地区・他
男性-30代-真和志地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、20代は「市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		選択項目	市民や若者が文化芸術活動に参加し、交流することのできる場の拡充	子どもたちが文化芸術にふれる機会の拡充	うちなごちのさらなる普及	地域の伝統文化や伝統行事の継承	本市の誇りとなるような一流の文化芸術作品の創造・発信	さらなる保存・継承・活用	文化財・文化資源の	文化芸術活動と福祉・包摂的な取り組みの拡充(地域生活等との連携(社会)	観光客をターゲットとした文化芸術コンテンツの創造・支援・発信	他市町村、国内外との交流活動の拡充	文化芸術を通じた他市町村、国内外との交流活動の拡充	その他	無回答
性別	男性 (n= 788)	336 42.6	359 45.6	179 22.7	289 36.7	83 10.5	179 22.7	96 12.2	116 14.7	91 11.5	24 3.0	74 9.4			
	女性 (n= 1,090)	445 40.8	584 53.6	268 24.6	448 41.1	113 10.4	279 25.6	155 14.2	101 9.3	117 10.7	28 2.6	73 6.7			
	その他 (n= 2)	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	4 40.0	8 80.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	72 48.3	67 45.0	37 24.8	46 30.9	15 10.1	32 21.5	14 9.4	30 20.1	18 12.1	5 3.4	6 4.0			
	30代 (n= 222)	94 42.3	141 63.5	52 23.4	72 32.4	28 12.6	43 19.4	22 9.9	41 18.5	26 11.7	5 2.3	4 1.8			
	40代 (n= 278)	110 39.6	162 58.3	71 25.5	98 35.3	25 9.0	62 22.3	35 12.6	43 15.5	24 8.6	12 4.3	9 3.2			
	50代 (n= 366)	136 37.2	196 53.6	79 21.6	164 44.8	35 9.6	103 28.1	50 13.7	41 11.2	43 11.7	8 2.2	17 4.6			
	60代 (n= 352)	159 45.2	162 46.0	96 27.3	150 42.6	31 8.8	96 27.3	60 17.0	29 8.2	47 13.4	7 2.0	28 8.0			
	70代以上 (n= 502)	206 41.0	208 41.4	111 22.1	203 40.4	60 12.0	120 23.9	69 13.7	31 6.2	50 10.0	15 3.0	84 16.7			
地区別	本庁地区 (n= 652)	259 39.7	304 46.6	143 21.9	244 37.4	68 10.4	145 22.2	85 13.0	85 13.0	77 11.8	24 3.7	57 8.7			
	真和志地区 (n= 563)	233 41.4	284 50.4	144 25.6	231 41.0	67 11.9	138 24.5	81 14.4	63 11.2	62 11.0	9 1.6	48 8.5			
	小祿地区 (n= 320)	139 43.4	179 55.9	78 24.4	115 35.9	25 7.8	82 25.6	43 13.4	37 11.6	33 10.3	11 3.4	15 4.7			
	首里地区 (n= 337)	148 43.9	175 51.9	80 23.7	142 42.1	34 10.1	92 27.3	41 12.2	31 9.2	33 9.8	8 2.4	27 8.0			
居住年数別	1年未満 (n= 64)	28 43.8	29 45.3	14 21.9	18 28.1	10 15.6	12 18.8	9 14.1	10 15.6	4 6.3	2 3.1	4 6.3			
	1~2年 (n= 103)	44 42.7	52 50.5	23 22.3	36 35.0	8 7.8	27 26.2	10 9.7	21 20.4	17 16.5	2 1.9	5 4.9			
	3~5年 (n= 160)	66 41.3	82 51.3	37 23.1	67 41.9	12 7.5	31 19.4	25 15.6	25 15.6	16 10.0	3 1.9	9 5.6			
	6~10年 (n= 173)	65 37.6	89 51.4	32 18.5	65 37.6	24 13.9	33 19.1	17 9.8	34 19.7	21 12.1	7 4.0	6 3.5			
	11~20年 (n= 263)	94 35.7	133 50.6	57 21.7	92 35.0	32 12.2	69 26.2	31 11.8	32 12.2	24 9.1	8 3.0	22 8.4			
	21年以上 (n= 1,116)	484 43.4	559 50.1	283 25.4	457 40.9	110 9.9	286 25.6	158 14.2	95 8.5	126 11.3	30 2.7	103 9.2			

(13) 観光意識について

質問 42. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

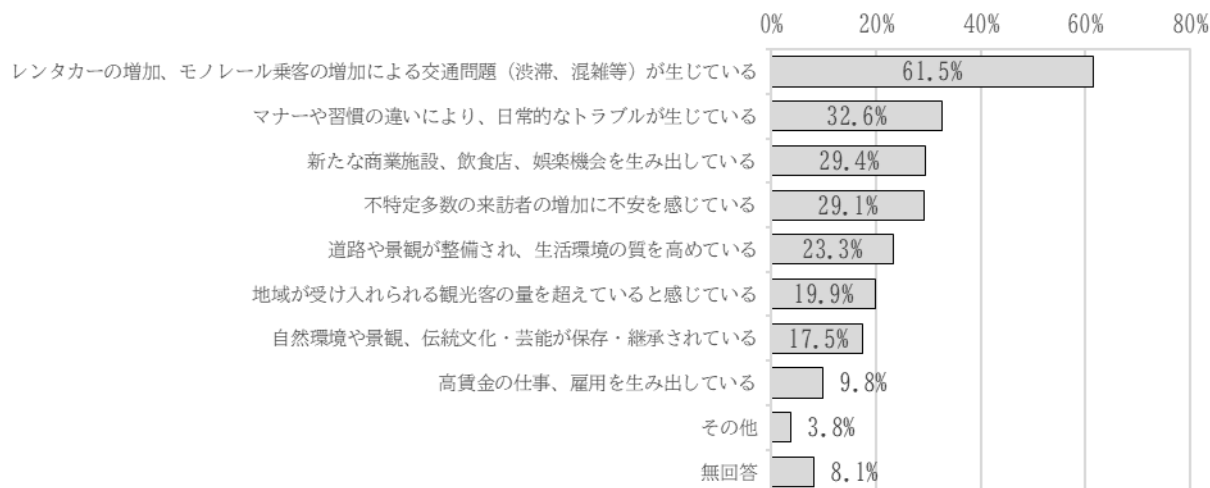
1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ ）

観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化に対する感想について最も多かったのは「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」である。

那覇市内における生活環境の変化についてどう思うかについては、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」の割合が61.5%と最も高く、次いで「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」の割合が32.6%、「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」の割合が29.4%の順となっている。

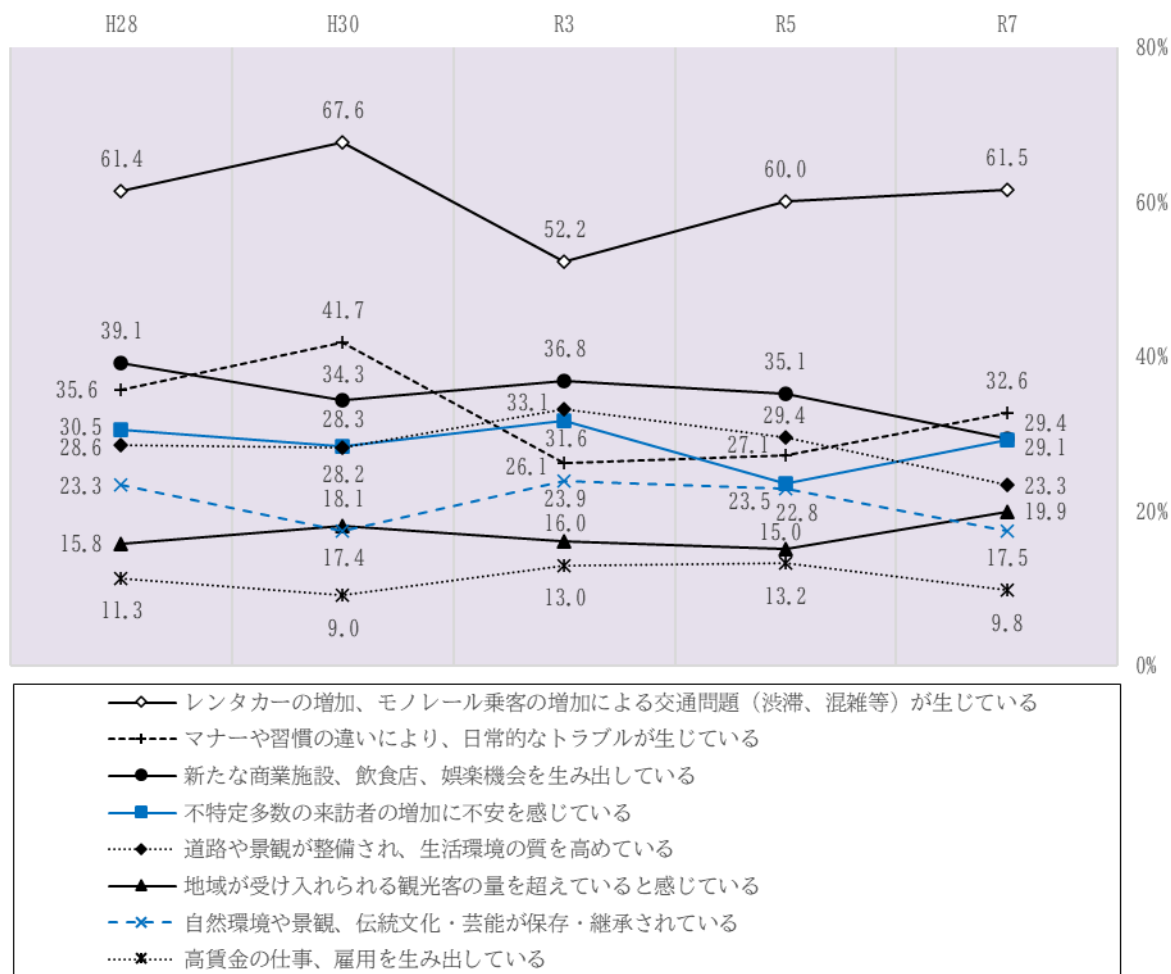
順位	選択項目	回答数	割合
1位	レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている	1,160	61.5%
2位	マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている	614	32.6%
3位	新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	554	29.4%
4位	不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている	549	29.1%
5位	道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている	439	23.3%
6位	地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている	376	19.9%
7位	自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている	329	17.5%
8位	高賃金の仕事、雇用を生み出している	184	9.8%
-	その他	71	3.8%
-	無回答	152	8.1%
合 計		4,428	234.9%
回答者数		1,885	-

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【経年変化 (平成 28 年度～令和 7 度)】

前回調査と比較すると、「不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている」の割合が 5.6 ポイント増加し、「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」の割合が 6.1 ポイント減少している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光地としての整備が進んでいない (7 人) 女性-50 代-小祿地区・他
- ・マナーの悪さ (6 人) 男性-60 代-本庁地区・他
- ・外国人の運転が怖い (4 人) 女性-30 代-本庁地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ほとんどの属性において、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」の割合が最も高くなっている。

年代別では、60代以下で「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」の割合が高く、70代以上で「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		保存・継承されている 自然環境や景観、 伝統文化・芸能が	道路や景観が整備され、 生活環境の質を高めている	高賃金の仕事、雇用を 生み出している	新たな商業施設、 飲食店、娯楽機会を 生み出している	レンタカーの増加、モノレール (波滞、混雑等)が生じている	日常的なトラブルが生じている マナーや習慣の違いにより、	地域が受け入れられる観光客の 量を超えていると感じている	不特定多数の来訪者の増加に 不安を感じている	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)											
性別	男性 (n= 788)	148 18.8	201 25.5	86 10.9	241 30.6	459 58.2	252 32.0	149 18.9	216 27.4	26 3.3	71 9.0
	女性 (n= 1,090)	180 16.5	237 21.7	97 8.9	313 28.7	700 64.2	360 33.0	226 20.7	333 30.6	44 4.0	77 7.1
	その他 (n= 2)	-	-	-	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-
年代別	10代 (n= 10)	1 10.0	3 30.0	2 20.0	6 60.0	5 50.0	5 50.0	3 30.0	1 10.0	-	-
	20代 (n= 149)	32 21.5	31 20.8	20 13.4	41 27.5	84 56.4	61 40.9	35 23.5	42 28.2	4 2.7	6 4.0
	30代 (n= 222)	33 14.9	42 18.9	33 14.9	77 34.7	147 66.2	85 38.3	46 20.7	70 31.5	8 3.6	3 1.4
	40代 (n= 278)	28 10.1	66 23.7	32 11.5	73 26.3	194 69.8	102 36.7	48 17.3	91 32.7	10 3.6	10 3.6
	50代 (n= 366)	52 14.2	74 20.2	32 8.7	92 25.1	253 69.1	130 35.5	85 23.2	111 30.3	19 5.2	17 4.6
	60代 (n= 352)	65 18.5	79 22.4	22 6.3	114 32.4	235 66.8	124 35.2	80 22.7	108 30.7	13 3.7	25 7.1
	70代以上 (n= 502)	117 23.3	142 28.3	41 8.2	149 29.7	241 48.0	106 21.1	79 15.7	126 25.1	17 3.4	88 17.5
地区別	本庁地区 (n= 652)	103 15.8	127 19.5	67 10.3	189 29.0	401 61.5	231 35.4	146 22.4	186 28.5	22 3.4	56 8.6
	真和志地区 (n= 563)	87 15.5	143 25.4	48 8.5	181 32.1	326 57.9	196 34.8	112 19.9	166 29.5	23 4.1	50 8.9
	小禄地区 (n= 320)	49 15.3	68 21.3	42 13.1	81 25.3	225 70.3	100 31.3	64 20.0	101 31.6	10 3.1	15 4.7
	首里地区 (n= 337)	88 26.1	96 28.5	25 7.4	102 30.3	201 59.6	84 24.9	54 16.0	94 27.9	16 4.7	26 7.7
居住年数別	1年未満 (n= 64)	15 23.4	15 23.4	11 17.2	17 26.6	31 48.4	19 29.7	11 17.2	12 18.8	1 1.6	5 7.8
	1~2年 (n= 103)	17 16.5	23 22.3	10 9.7	34 33.0	59 57.3	40 38.8	20 19.4	21 20.4	5 4.9	6 5.8
	3~5年 (n= 160)	22 13.8	34 21.3	23 14.4	43 26.9	120 75.0	57 35.6	33 20.6	46 28.8	8 5.0	4 2.5
	6~10年 (n= 173)	25 14.5	30 17.3	27 15.6	47 27.2	109 63.0	62 35.8	34 19.7	56 32.4	8 4.6	8 4.6
	11~20年 (n= 263)	32 12.2	64 24.3	27 10.3	79 30.0	162 61.6	91 34.6	55 20.9	68 25.9	9 3.4	23 8.7
	21年以上 (n= 1,116)	216 19.4	272 24.4	85 7.6	332 29.7	678 60.8	344 30.8	223 20.0	346 31.0	39 3.5	104 9.3

(14) 生涯学習について

質問 43. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

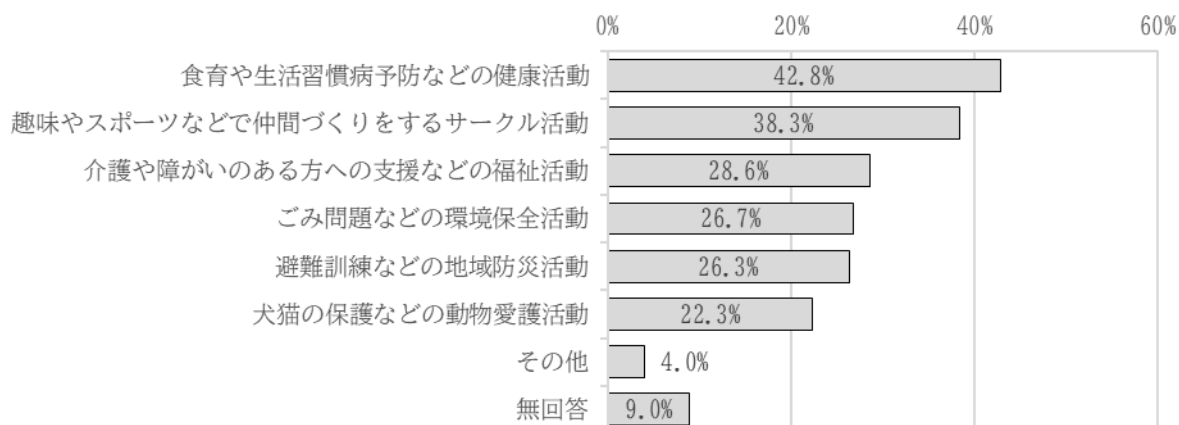
1. 犬猫の保護などの動物愛護活動
2. ごみ問題などの環境保全活動
3. 食育や生活習慣病予防などの健康活動
4. 避難訓練などの地域防災活動
5. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動
6. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動
7. その他（ _____ ）

興味があり学んでみたいと思う活動について最も多かったのは「食育や生活習慣病予防などの健康活動」である。

興味があり学んでみたい活動については、「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が42.8%で最も高く、次いで「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」の割合が38.3%、「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が28.6%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	食育や生活習慣病予防などの健康活動	807	42.8%
2位	趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動	722	38.3%
3位	介護や障がいのある方への支援などの福祉活動	539	28.6%
4位	ごみ問題などの環境保全活動	504	26.7%
5位	避難訓練などの地域防災活動	496	26.3%
6位	犬猫の保護などの動物愛護活動	420	22.3%
-	その他	75	4.0%
-	無回答	169	9.0%
合 計		3,732	198.0%
回答者数		1,885	-

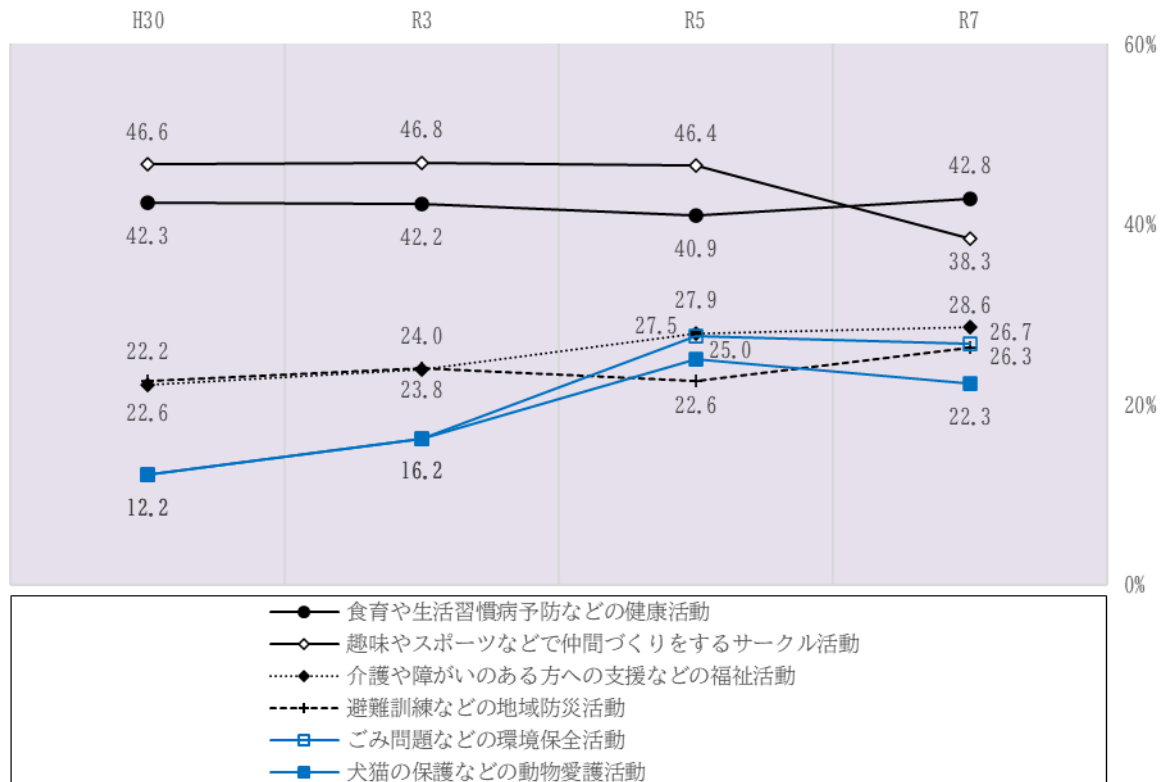
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【経年変化（平成30年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「避難訓練などの地域防災活動」の割合が3.7ポイント増加し、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」の割合が8.1ポイント減少している。

※令和3年度調査までは「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」としていたが、令和5年度から「犬猫の保護などの動物愛護活動」と「ごみ問題などの環境保全活動」に分けたため、平成30年度と令和3年度については案分して再集計した。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 沖縄の文化に触れる体験（3人） 女性-20代-真和志地区・他
- ・ 子どもをサポートする活動（3人） 女性-60代-本庁地区・他

【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

居住年数別でみると、1～5年では「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		犬猫の保護などの 動物愛護活動	ごみ問題などの 環境保全活動	食育や生活習慣病予防 などの健康活動	避難訓練などの 地域防災活動	介護や障がいのある方へ の支援などの福祉活動	趣味やスポーツなどで 仲間づくりをする サークル活動	その他	無回答
性別	男性 (n= 788)	154 19.5	238 30.2	264 33.5	177 22.5	194 24.6	310 39.3	43 5.5	77 9.8
	女性 (n= 1,090)	263 24.1	264 24.2	542 49.7	318 29.2	344 31.6	412 37.8	32 2.9	88 8.1
	その他 (n= 2)	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	4 40.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	-	-
	20代 (n= 149)	57 38.3	36 24.2	62 41.6	34 22.8	28 18.8	61 40.9	6 4.0	4 2.7
	30代 (n= 222)	62 27.9	53 23.9	110 49.5	61 27.5	44 19.8	93 41.9	3 1.4	8 3.6
	40代 (n= 278)	64 23.0	71 25.5	124 44.6	100 36.0	77 27.7	110 39.6	12 4.3	12 4.3
	50代 (n= 366)	98 26.8	108 29.5	154 42.1	110 30.1	113 30.9	139 38.0	16 4.4	18 4.9
	60代 (n= 352)	72 20.5	110 31.3	147 41.8	90 25.6	120 34.1	147 41.8	14 4.0	33 9.4
	70代以上 (n= 502)	62 12.4	124 24.7	205 40.8	98 19.5	156 31.1	168 33.5	24 4.8	91 18.1
地区別	本庁地区 (n= 652)	166 25.5	169 25.9	258 39.6	171 26.2	175 26.8	245 37.6	29 4.4	61 9.4
	真和志地区 (n= 563)	121 21.5	160 28.4	250 44.4	142 25.2	159 28.2	222 39.4	20 3.6	55 9.8
	小祿地区 (n= 320)	70 21.9	81 25.3	137 42.8	88 27.5	86 26.9	122 38.1	14 4.4	18 5.6
	首里地区 (n= 337)	59 17.5	89 26.4	157 46.6	90 26.7	114 33.8	129 38.3	12 3.6	31 9.2
居住年数別	1年未満 (n= 64)	12 18.8	11 17.2	25 39.1	15 23.4	11 17.2	19 29.7	2 3.1	7 10.9
	1～2年 (n= 103)	22 21.4	31 30.1	37 35.9	27 26.2	24 23.3	47 45.6	4 3.9	5 4.9
	3～5年 (n= 160)	41 25.6	45 28.1	69 43.1	57 35.6	32 20.0	73 45.6	4 2.5	7 4.4
	6～10年 (n= 173)	48 27.7	49 28.3	74 42.8	45 26.0	42 24.3	63 36.4	9 5.2	9 5.2
	11～20年 (n= 263)	69 26.2	72 27.4	108 41.1	69 26.2	77 29.3	94 35.7	11 4.2	24 9.1
	21年以上 (n= 1,116)	225 20.2	294 26.3	493 44.2	281 25.2	352 31.5	423 37.9	45 4.0	115 10.3

(15) 防災対策について

質問 44. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

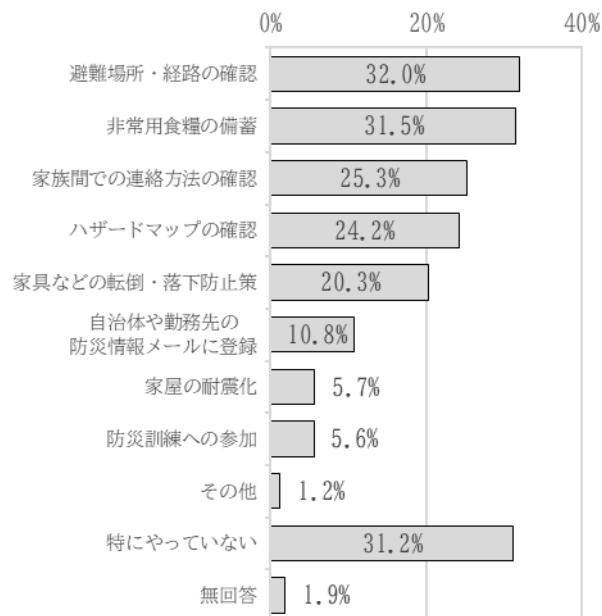
1. 非常用食糧の備蓄	2. 家具などの転倒・落下防止策
3. 避難場所・経路の確認	4. ハザードマップの確認
5. 家族間での連絡方法の確認	6. 防災訓練への参加
7. 家屋の耐震化	8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録
9. その他 ()	10. 特にやっていない

市民が実施している防災対策について最も多かったのは「避難場所・経路の確認」である。

市民が実施している防災対策については、「避難場所・経路の確認」の割合が 32.0%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」の割合が 31.5%、「家族間での連絡方法の確認」の割合が 25.3%の順となっている。

また、「特にやっていない」と回答した市民は 31.2%で、約3割を占めている。

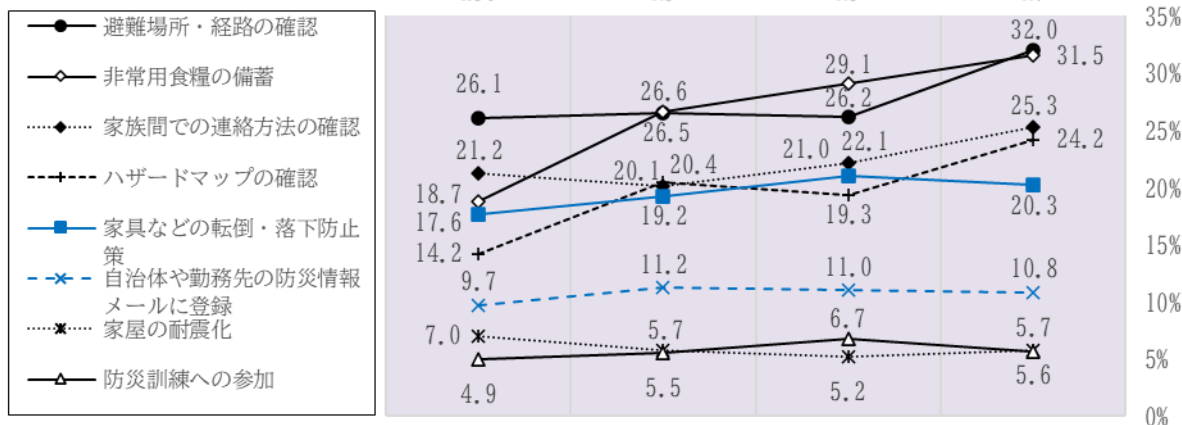
順位	選択項目	回答数	割合
1位	避難場所・経路の確認	603	32.0%
2位	非常用食糧の備蓄	594	31.5%
3位	家族間での連絡方法の確認	477	25.3%
4位	ハザードマップの確認	456	24.2%
5位	家具などの転倒・落下防止策	382	20.3%
6位	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	204	10.8%
7位	家屋の耐震化	107	5.7%
8位	防災訓練への参加	106	5.6%
-	その他	23	1.2%
-	特にやっていない	588	31.2%
-	無回答	35	1.9%
合計		3,575	189.7%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化 (平成 30 年度～令和 7 年度)】

前回調査と比較すると、「避難場所・経路の確認」の割合が 5.8 ポイント増加し、「ハザードマップの確認」の割合も 4.9 ポイント増加している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別で見ると、20～40年代では「非常用食料の備蓄」の割合が最も高く、50代では「避難場所・経路の確認」の割合が最も高い。一方で、10代、60代以上では「特にやっていない」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)		非常用食糧の備蓄	家具などの転倒・落下防止策	避難場所・経路の確認	ハザードマップの確認	家族間での連絡方法の確認	防災訓練への参加	家屋の耐震化	防災自治体やメール勤務先の録	その他	特にやっていない	無回答
性別	男性 (n= 788)	229 29.1	162 20.6	243 30.8	204 25.9	179 22.7	46 5.8	53 6.7	86 10.9	11 1.4	264 33.5	14 1.8
	女性 (n= 1,090)	364 33.4	220 20.2	358 32.8	252 23.1	297 27.2	59 5.4	54 5.0	117 10.7	12 1.1	322 29.5	19 1.7
	その他 (n= 2)	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	3 30.0	-	3 30.0	1 10.0	-	1 10.0	-	-	-	6 60.0	-
	20代 (n= 149)	49 32.9	30 20.1	35 23.5	32 21.5	29 19.5	12 8.1	5 3.4	19 12.8	3 2.0	47 31.5	1 0.7
	30代 (n= 222)	78 35.1	38 17.1	68 30.6	61 27.5	53 23.9	11 5.0	10 4.5	35 15.8	-	62 27.9	-
	40代 (n= 278)	106 38.1	54 19.4	104 37.4	83 29.9	83 29.9	15 5.4	13 4.7	45 16.2	1 0.4	69 24.8	1 0.4
	50代 (n= 366)	114 31.1	66 18.0	139 38.0	116 31.7	107 29.2	25 6.8	16 4.4	63 17.2	6 1.6	93 25.4	7 1.9
	60代 (n= 352)	113 32.1	80 22.7	112 31.8	80 22.7	86 24.4	13 3.7	17 4.8	33 9.4	5 1.4	114 32.4	5 1.4
	70代以上 (n= 502)	129 25.7	114 22.7	141 28.1	81 16.1	118 23.5	29 5.8	46 9.2	8 1.6	8 1.6	195 38.8	19 3.8
地区別	本庁地区 (n= 652)	224 34.4	124 19.0	238 36.5	171 26.2	168 25.8	46 7.1	34 5.2	66 10.1	7 1.1	181 27.8	14 2.1
	真和志地区 (n= 563)	155 27.5	120 21.3	177 31.4	135 24.0	145 25.8	30 5.3	30 5.3	63 11.2	9 1.6	193 34.3	10 1.8
	小祿地区 (n= 320)	104 32.5	68 21.3	101 31.6	90 28.1	76 23.8	15 4.7	21 6.6	42 13.1	3 0.9	96 30.0	2 0.6
	首里地区 (n= 337)	109 32.3	68 20.2	85 25.2	59 17.5	84 24.9	13 3.9	21 6.2	32 9.5	4 1.2	114 33.8	7 2.1
居住年数別	1年未満 (n= 64)	20 31.3	14 21.9	14 21.9	16 25.0	12 18.8	6 9.4	4 6.3	10 15.6	1 1.6	20 31.3	-
	1～2年 (n= 103)	40 38.8	15 14.6	30 29.1	26 25.2	19 18.4	6 5.8	4 3.9	17 16.5	-	25 24.3	1 1.0
	3～5年 (n= 160)	53 33.1	31 19.4	62 38.8	55 34.4	38 23.8	13 8.1	5 3.1	25 15.6	2 1.3	43 26.9	2 1.3
	6～10年 (n= 173)	76 43.9	34 19.7	59 34.1	49 28.3	45 26.0	14 8.1	5 2.9	29 16.8	1 0.6	49 28.3	-
	11～20年 (n= 263)	85 32.3	52 19.8	89 33.8	74 28.1	71 27.0	21 8.0	15 5.7	28 10.6	3 1.1	67 25.5	7 2.7
	21年以上 (n= 1,116)	319 28.6	234 21.0	349 31.3	236 21.1	291 26.1	46 4.1	74 6.6	95 8.5	16 1.4	382 34.2	23 2.1

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・非常用バッグの準備 (5人) 女性-20代-真和志地区・他
- ・飲料の備蓄 (2人) 女性-50代-真和志地区・他

質問 45. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

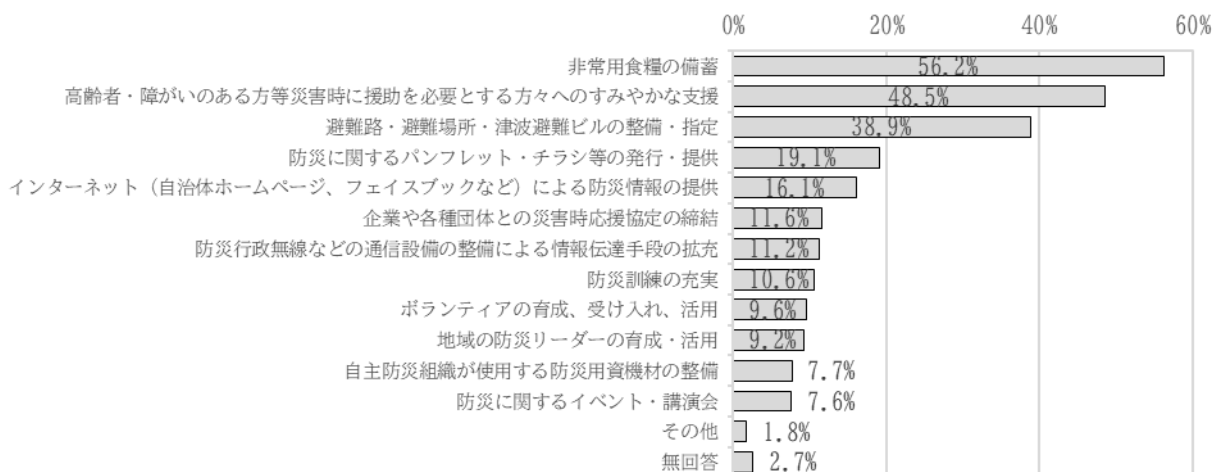
1. 非常用食糧の備蓄
2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援
3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供
4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定
5. 地域の防災リーダーの育成・活用
6. 防災訓練の充実
7. 防災に関するイベント・講演会
8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供
9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充
10. ボランティアの育成、受け入れ、活用
11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結
13. その他（ _____ ）

市民が特に力を入れてほしい災害対策として最も多かったのは「非常用食糧の備蓄」である。

那覇市に特に力を入れてほしい災害対策は、「非常用食糧の備蓄」の割合が56.2%で最も高く、次いで「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が48.5%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」の割合が38.9%の順となっている。

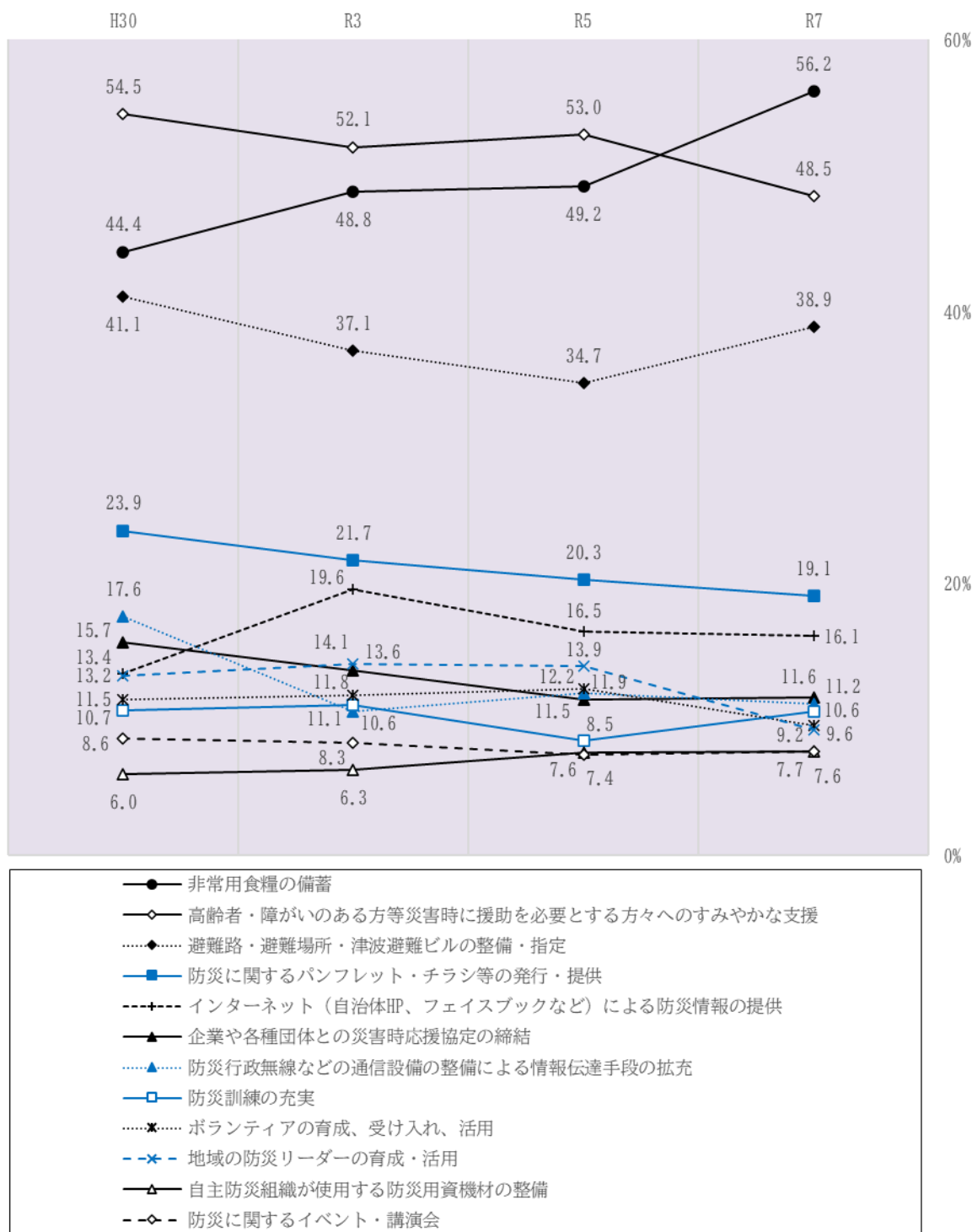
順位	選択項目	回答数	割合
1位	非常用食糧の備蓄	1,059	56.2%
2位	高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	914	48.5%
3位	避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定	733	38.9%
4位	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	360	19.1%
5位	インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供	304	16.1%
6位	企業や各種団体との災害時応援協定の締結	219	11.6%
7位	防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	211	11.2%
8位	防災訓練の充実	200	10.6%
9位	ボランティアの育成、受け入れ、活用	181	9.6%
10位	地域の防災リーダーの育成・活用	174	9.2%
11位	自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	145	7.7%
12位	防災に関するイベント・講演会	144	7.6%
-	その他	33	1.8%
-	無回答	50	2.7%
合 計		4,727	250.8%
回答者数		1,885	-

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【経年変化（平成30年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「非常用食糧の備蓄」の割合が7.0ポイント増加し、「地域の防災リーダーの育成・活用」の割合が4.7ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、10代、70代以上では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」、20～60代では「非常用食糧の備蓄」の割合が最も高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区、小禄地区では「非常用食糧の備蓄」、首里地区では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		非常用食糧の備蓄	高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	津波避難ビル・避難場所・指定	地域の防災リーダーの育成・活用	防災訓練の充実	防災に関するイベント・講演会	防災に関するイベント・講演会	ホームページ、フェイスブックなど)による防災情報の提供	インターネット(自治体)	防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	ボランティアの育成、受け入れ、活用	自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	企業や各種団体との災害時応援協定の締結	その他	無回答
性別	男性 (n= 788)	419 53.2	345 43.8	143 18.1	322 40.9	65 8.2	69 8.8	61 7.7	144 18.3	93 11.8	72 9.1	63 8.0	88 11.2	14 1.8	24 3.0		
	女性 (n= 1,090)	638 58.5	566 51.9	217 19.9	409 37.5	108 9.9	130 11.9	83 7.6	160 14.7	118 10.8	108 9.9	82 7.5	131 12.0	19 1.7	24 2.2		
	その他 (n= 2)	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	5 50.0	7 70.0	4 40.0	5 50.0	-	1 10.0	-	2 20.0	-	1 10.0	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	91 61.1	37 24.8	26 17.4	62 41.6	8 5.4	18 12.1	11 7.4	41 27.5	10 6.7	12 8.1	10 6.7	11 7.4	3 2.0	2 1.3		
	30代 (n= 222)	145 65.3	67 30.2	41 18.5	95 42.8	17 7.7	24 10.8	19 8.6	57 25.7	29 13.1	16 7.2	16 7.2	23 10.4	3 1.4	-		
	40代 (n= 278)	162 58.3	110 39.6	48 17.3	94 33.8	16 5.8	34 12.2	21 7.6	57 20.5	36 12.9	23 8.3	31 11.2	47 16.9	7 2.5	5 1.8		
	50代 (n= 366)	207 56.6	182 49.7	69 18.9	138 37.7	38 10.4	30 8.2	34 9.3	72 19.7	40 10.9	34 9.3	33 9.0	49 13.4	10 2.7	5 1.4		
	60代 (n= 352)	198 56.3	193 54.8	73 20.7	149 42.3	39 11.1	36 10.2	17 4.8	47 13.4	41 11.6	41 11.6	24 6.8	43 12.2	4 1.1	6 1.7		
	70代以上 (n= 502)	249 49.6	316 62.9	98 19.5	188 37.5	56 11.2	57 11.4	41 8.2	28 5.6	55 11.0	54 10.8	30 6.0	46 9.2	6 1.2	30 6.0		
地区別	本庁地区 (n= 652)	368 56.4	313 48.0	119 18.3	253 38.8	56 8.6	69 10.6	55 8.4	107 16.4	64 9.8	74 11.3	53 8.1	60 9.2	11 1.7	16 2.5		
	真和志地区 (n= 563)	329 58.4	265 47.1	110 19.5	217 38.5	56 9.9	55 9.8	46 8.2	89 15.8	71 12.6	54 9.6	44 7.8	71 12.6	12 2.1	20 3.6		
	小禄地区 (n= 320)	175 54.7	141 44.1	62 19.4	129 40.3	29 9.1	40 12.5	20 6.3	64 20.0	32 10.0	22 6.9	19 5.9	42 13.1	6 1.9	4 1.3		
	首里地区 (n= 337)	184 54.6	189 56.1	69 20.5	130 38.6	30 8.9	35 10.4	20 5.9	44 13.1	42 12.5	29 8.6	28 8.3	43 12.8	4 1.2	8 2.4		
居住年数別	1年未満 (n= 64)	34 53.1	24 37.5	9 14.1	28 43.8	5 7.8	6 9.4	3 4.7	15 23.4	5 7.8	10 15.6	6 9.4	3 4.7	-	1 1.6		
	1～2年 (n= 103)	53 51.5	43 41.7	20 19.4	42 40.8	9 8.7	12 11.7	9 8.7	25 24.3	9 8.7	8 7.8	8 7.8	10 9.7	3 2.9	1 1.0		
	3～5年 (n= 160)	95 59.4	57 35.6	25 15.6	66 41.3	13 8.1	19 11.9	15 9.4	36 22.5	26 16.3	13 8.1	11 6.9	17 10.6	7 4.4	4 2.5		
	6～10年 (n= 173)	97 56.1	56 32.4	29 16.8	58 33.5	11 6.4	20 11.6	18 10.4	35 20.2	24 13.9	14 8.1	23 13.3	19 11.0	1 0.6	4 2.3		
	11～20年 (n= 263)	156 59.3	110 41.8	53 20.2	103 39.2	18 6.8	28 10.6	17 6.5	38 14.4	29 11.0	28 10.6	30 11.4	33 12.5	4 1.5	7 2.7		
	21年以上 (n= 1,116)	621 55.6	620 55.6	224 20.1	435 39.0	118 10.6	115 10.3	82 7.3	154 13.8	118 10.6	107 9.6	67 6.0	137 12.3	18 1.6	31 2.8		

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・情報発信 (3人) 女性-40代-小禄地区・他
- ・ペットの避難場所 (3人) 女性-40代-真和志地区・他

(16) 環境について

質問 46. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

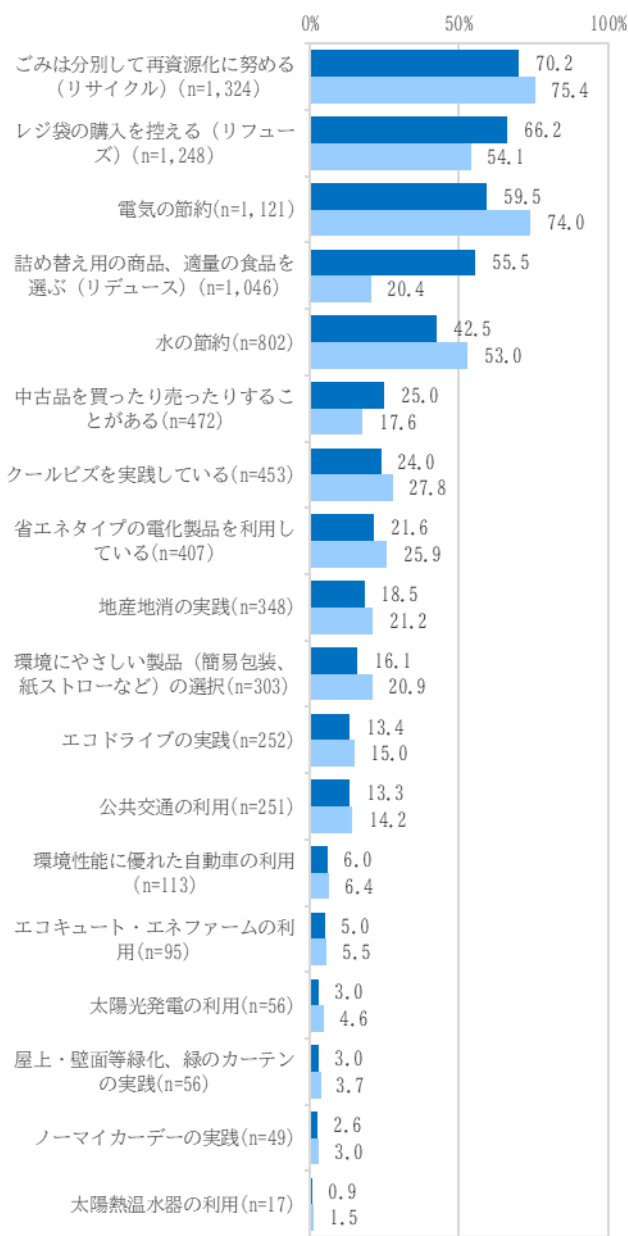
1. 電気の節約（LED への交換、こまめな消灯など）
2. 水の節約（節水シャワーヘッドの利用など）
3. スーパー、コンビニでレジ袋の購入を控える（リフューズ）
4. 詰め替え用の商品、適量の食品を選ぶ（リデュース）
5. 中古品を買ったり売ったりすることがある（フリマアプリ、リサイクルショップ、フリーマーケットなど）
6. ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）
7. エコドライブの実践
8. 公共交通の利用（パークアンドライド含む）
9. ノーマイカーデーの実践（相乗り出勤含む）
10. 地産地消の実践
11. 環境性能に優れた自動車（プラグインハイブリッド車（PHV）・電気自動車（EV）など）の利用
12. 太陽光発電の利用
13. 太陽熱温水器の利用
14. エコキュート・エネファーム（電気による給湯システム）の利用
15. 環境にやさしい製品（簡易包装、紙ストローなど）の選択
16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
17. 省エネタイプの電化製品を利用（買い替えの際は省エネタイプのものを選択）している
18. クールビズ（かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど）を実践している

地球環境保護のため実践していることで最も多かったものは「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」である。

地球環境保護のため実践していることでは、「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」の割合が 70.2%と最も高く、次いで「レジ袋の購入を控える（リフューズ）」の割合が 66.2%、「電気の節約」の割合が 59.5%、「詰め替え用の商品、適量の食品を選ぶ（リデュース）」の割合が 55.5%の順となっている。

前回の調査と比較すると、「詰め替え用の商品、適量の食品を選ぶ（リデュース）」の割合が 35.1 ポイント、「レジ袋の購入を控える（リフューズ）」の割合が 12.1 ポイント、それぞれ増加する一方で、「電気の節約」の割合が 14.5 ポイント、「水の節約」の割合が 10.5 ポイント、それぞれ減少している。

順位	選択項目	回答数	R5比較
1位	ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）	1,324	↓
2位	レジ袋の購入を控える（リフューズ）	1,248	↑
3位	電気の節約	1,121	↓
4位	詰め替え用の商品、適量の食品を選ぶ（リデュース）	1,046	↑
5位	水の節約	802	↓
6位	中古品を買ったり売ったりすることがある	472	↑
7位	クールビズを実践している	453	↓
8位	省エネタイプの電化製品を利用している	407	↓
9位	地産地消の実践	348	↓
10位	環境にやさしい製品（簡易包装、紙ストローなど）の選択	303	↓
11位	エコドライブの実践	252	↓
12位	公共交通の利用	251	↓
13位	環境性能に優れた自動車の利用	113	↓
14位	エコキュート・エネファームの利用	95	↓
15位	太陽光発電の利用	56	↓
15位	屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践	56	↓
17位	ノーマイカーデーの実践	49	↓
18位	太陽熱温水器の利用	17	↓



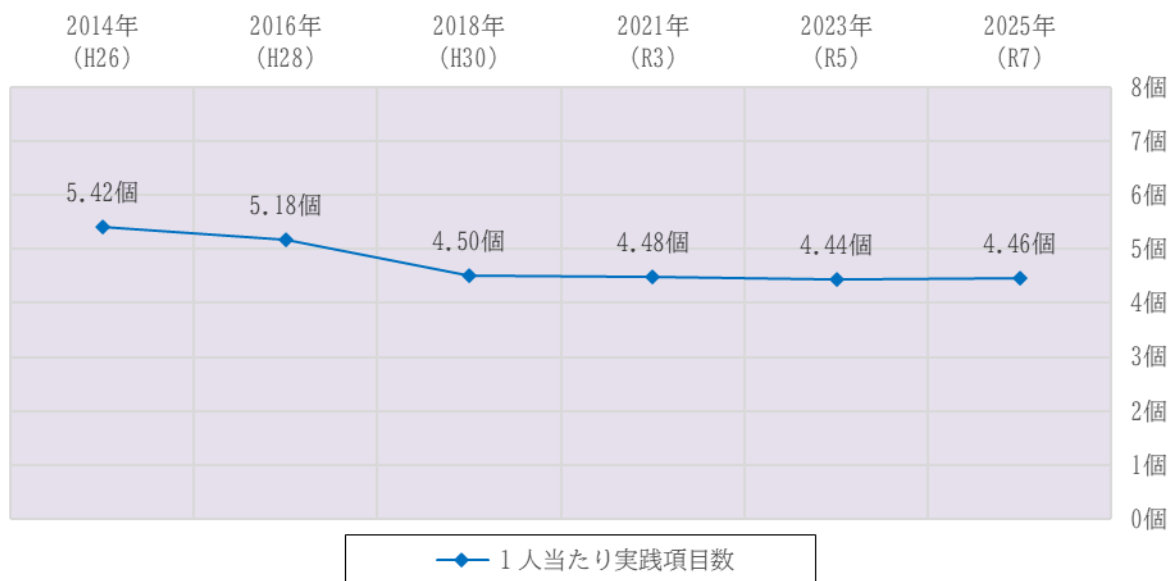
【経年変化（平成26年度～令和7年度）】

当該調査では、選択個数の総和を、1つも回答しなかった133人（実施個数0とみなす）を含めた1,885人で割り、一人当たりの実践個数を算出したところ、前回調査よりも0.02個増加した。

1人当たりの実践項目数(平均) =

$$\text{実践項目の選択総数 } 8,413 \text{ 個} \div \text{回答者数 } 1,885 \div 4.46 \text{ (前回 } 4.44)$$

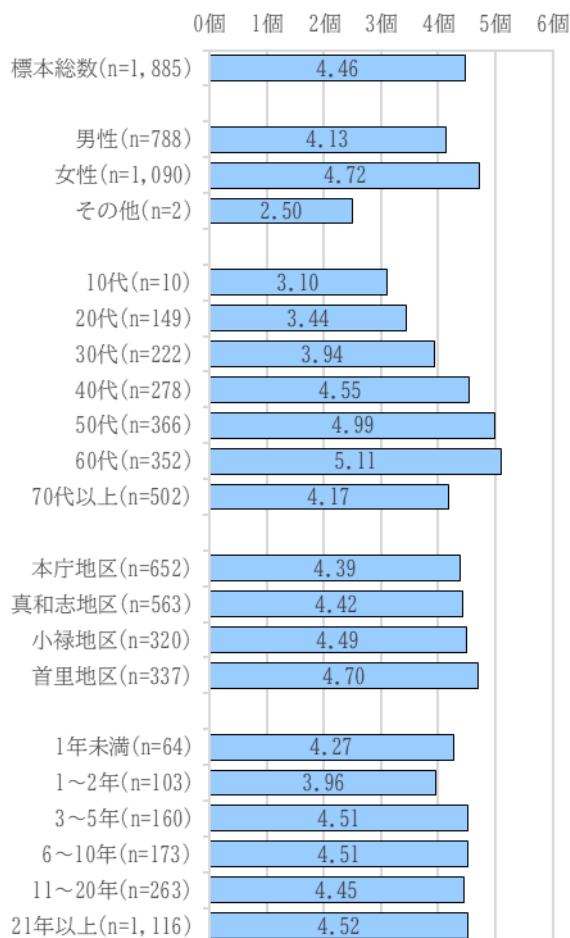
実践項目の 選択個数	回答者数	1人当たり実践項目数	前回の1人当たり 実施個数	(前回調査比)
8,413個	1,885人	4.46個	4.44個	(+0.02個)



■属性別集計表・グラフ (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)

年代別で見ると、60代の1人当たりの実践個数が最も多い。また、居住地区別で見ると、首里地区の実践個数が最も多かった。

選択項目		実践個数 (個)	実践個数 /人 (個)
標本総数 (n= 1,885)		8,413	4.46
性別	男性☒ (n= 788)	3,258	4.13
	女性 (n= 1,090)	5,149	4.72
	その他 (n= 2)	5	2.50
年代別	10代 (n= 10)	31	3.10
	20代 (n= 149)	512	3.44
	30代 (n= 222)	874	3.94
	40代 (n= 278)	1,264	4.55
	50代 (n= 366)	1,828	4.99
	60代 (n= 352)	1,797	5.11
	70代以上 (n= 502)	2,095	4.17
地区別	本庁地区 (n= 652)	2,862	4.39
	真和志地区 (n= 563)	2,490	4.42
	小禄地区 (n= 320)	1,437	4.49
	首里地区 (n= 337)	1,584	4.70
居住年数別	1年未満 (n= 64)	273	4.27
	1~2年 (n= 103)	408	3.96
	3~5年 (n= 160)	721	4.51
	6~10年 (n= 173)	780	4.51
	11~20年 (n= 263)	1,170	4.45
	21年以上 (n= 1,116)	5,041	4.52



(17) 行政手続きのデジタル化について

質問 47. 本市における行政手続きのオンライン化、情報発信等の行政サービスのデジタル化の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

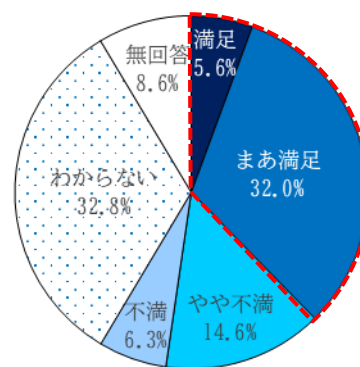
- 1. 満足
- 2. まあ満足
- 3. やや不満
- 4. 不満
- 5. わからない

行政手続きのデジタル化について「満足」の割合は 37.7%、「不満」の割合は 20.9%である。

行政手続きのデジタル化に満足しているかについては、「わからない」の割合が 32.8%で最も多く、次いで「まあ満足」の割合が 32.0%、「やや不満」の割合が 14.6%の順となっている。

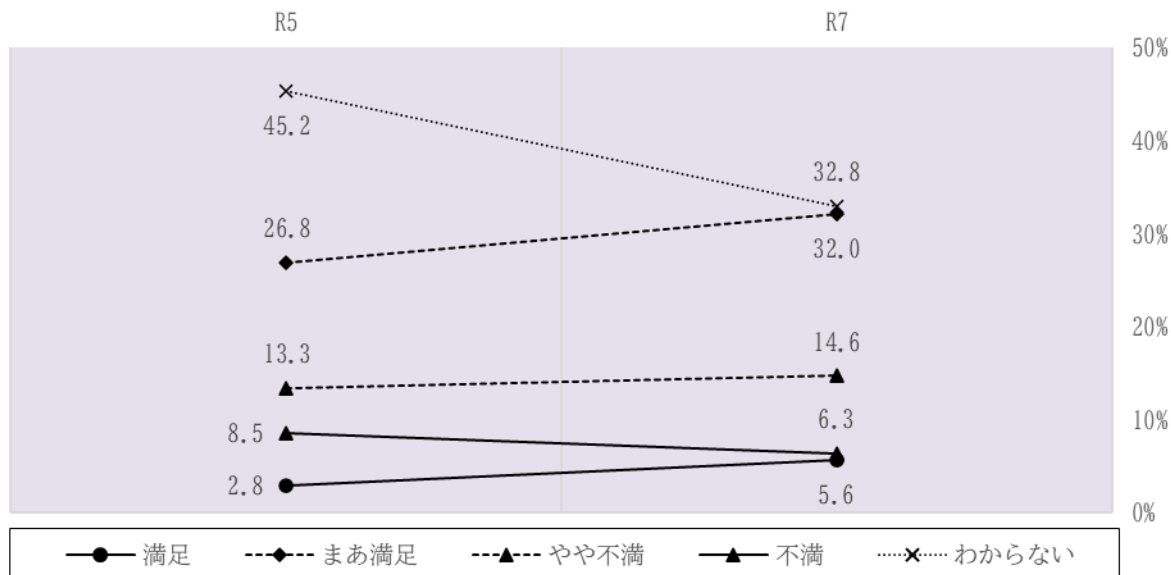
「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が 37.7%に対し、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が 20.9%である。

選択項目	回答数	割合
満足	106	5.6%
まあ満足	604	32.0%
やや不満	276	14.6%
不満	118	6.3%
わからない	619	32.8%
無回答	162	8.6%
合計	1,885	100.0%



【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

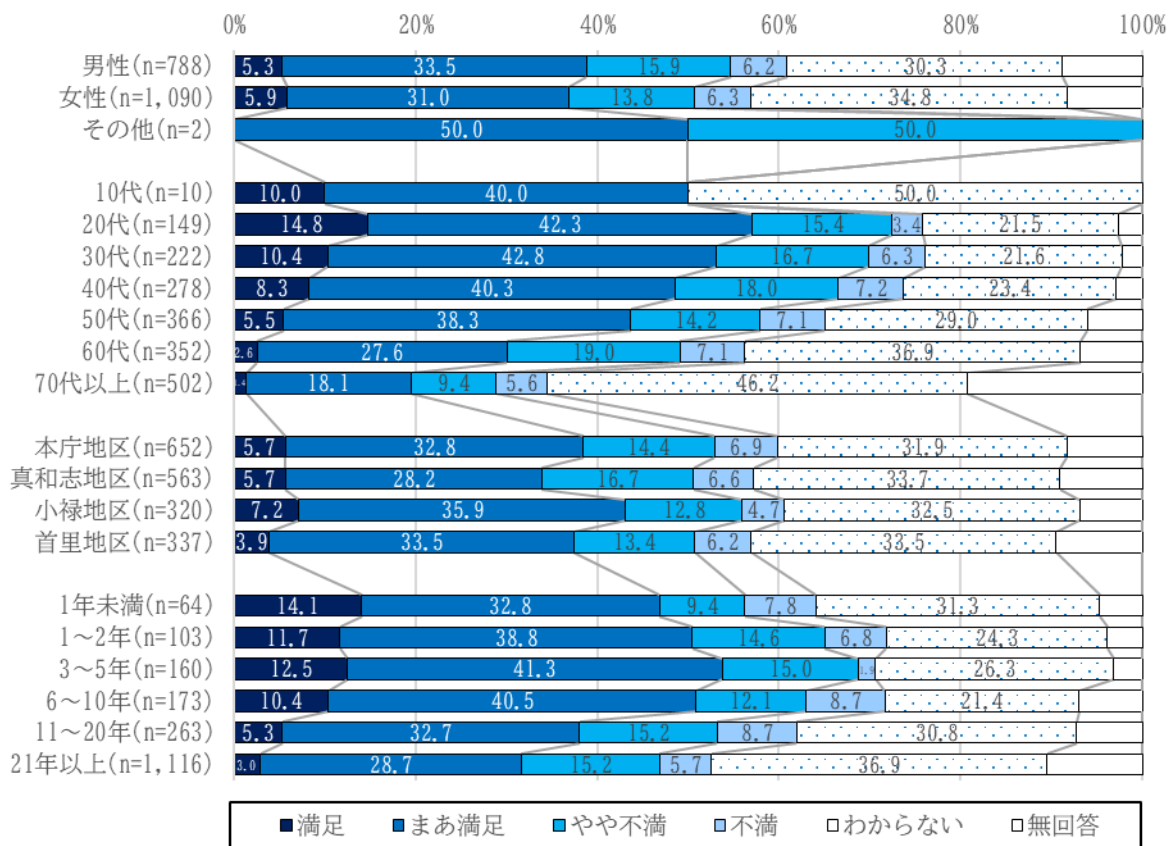
前回調査と比較すると、「まあ満足」の割合が 5.2 ポイント増加し、「不満」の割合が 2.2 ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別では、年代が上がるにつれて「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が低くなっている。60代以上では「わからない」の割合が高く、4割を上回っている。

選択項目 回答者属性(n=合計)		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
性別	男性 (n= 788)	42	264	125	49	239	69
	女性 (n= 1,090)	64	338	150	69	379	90
	その他 (n= 2)	0	1	1	0	0	0
年代別	10代 (n= 10)	1	4	0	0	5	0
	20代 (n= 149)	22	63	23	5	32	4
	30代 (n= 222)	23	95	37	14	48	5
	40代 (n= 278)	23	112	50	20	65	8
	50代 (n= 366)	20	140	52	26	106	22
	60代 (n= 352)	9	97	67	25	130	24
	70代以上 (n= 502)	7	91	47	28	232	97
地区別	本庁地区 (n= 652)	37	214	94	45	208	54
	真和志地区 (n= 563)	32	159	94	37	190	51
	小祿地区 (n= 320)	23	115	41	15	104	22
	首里地区 (n= 337)	13	113	45	21	113	32
居住年数別	1年未満 (n= 64)	9	21	6	5	20	3
	1~2年 (n= 103)	12	40	15	7	25	4
	3~5年 (n= 160)	20	66	24	3	42	5
	6~10年 (n= 173)	18	70	21	15	37	12
	11~20年 (n= 263)	14	86	40	23	81	19
	21年以上 (n= 1,116)	33	320	170	64	412	117

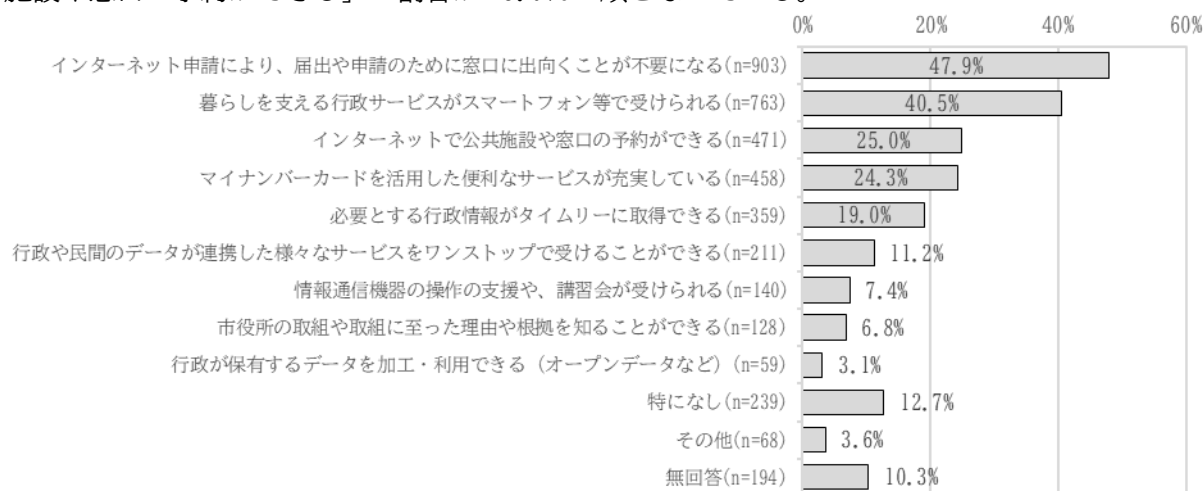


質問 48. 那覇市が行うデジタル化について、今後、特に力を入れてほしいと思う取り組みは何ですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる
2. マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している
3. インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる
4. インターネットで公共施設や窓口の予約ができる
5. 必要とする行政情報がタイムリーに取得できる
6. 情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる
7. 市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる
8. 行政が保有するデータを加工・利用できる (オープンデータなど)
9. 行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受けられることができる
10. 特になし
11. その他 ()

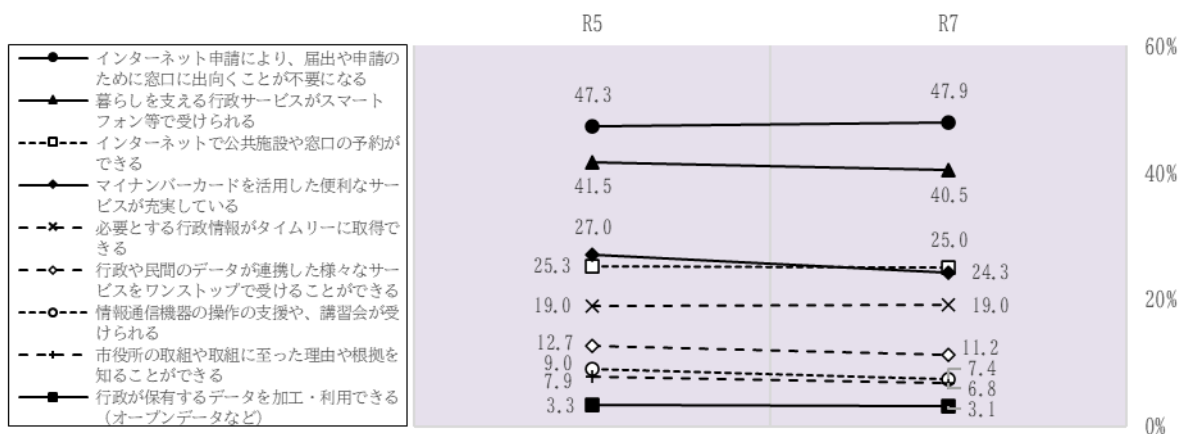
那覇市に特に力を入れてほしいデジタル化施策は「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」である。

デジタル化で今後特に力を入れてほしい取組については、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」の割合が47.9%と最も高く、次いで「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」の割合が40.5%、「インターネットで公共施設や窓口の予約ができる」の割合が25.0%の順となっている。



【経年変化 (令和5年度～令和7年度)】

前回調査と比較すると、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」の割合が0.6ポイント増加し、「マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している」の割合が2.7ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

年代別でみると、10代、70代以上では「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」、20～60代では「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に向くことが不要になる」の割合が最も高くなっている。

性別、居住地区別、居住年数別では、あまり大きな変化は見られない。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる	マイナ番号カードを活用した便利なサービスが充実している	インターネット申請により、届出や申請のために窓口に向くことが不要になる	インターネットで公共施設や窓口の予約ができる	必要とする行政情報がタイムリーに取得できる	情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる	市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる	行政が保有するデータを加工・利用できる (オープンデータなど)	行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受け取ることができる	特になし	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)													
性別	男性 (n= 788)	329 41.8	226 28.7	389 49.4	191 24.2	157 19.9	46 5.8	61 7.7	36 4.6	94 11.9	85 10.8	28 3.6	80 10.2
	女性 (n= 1,090)	432 39.6	231 21.2	511 46.9	280 25.7	200 18.3	94 8.6	65 6.0	23 2.1	117 10.7	154 14.1	40 3.7	111 10.2
	その他 (n= 2)	1 50.0	-	2 100.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	5 50.0	3 30.0	4 40.0	4 40.0	3 30.0	-	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 149)	70 47.0	41 27.5	87 58.4	63 42.3	28 18.8	9 6.0	8 5.4	6 4.0	12 8.1	10 6.7	1 0.7	5 3.4
	30代 (n= 222)	108 48.6	61 27.5	157 70.7	78 35.1	34 15.3	5 2.3	17 7.7	9 4.1	29 13.1	11 5.0	6 2.7	7 3.2
	40代 (n= 278)	146 52.5	80 28.8	187 67.3	81 29.1	63 22.7	12 4.3	18 6.5	11 4.0	36 12.9	13 4.7	7 2.5	9 3.2
	50代 (n= 366)	161 44.0	98 26.8	210 57.4	112 30.6	83 22.7	17 4.6	23 6.3	11 3.0	56 15.3	34 9.3	8 2.2	21 5.7
	60代 (n= 352)	143 40.6	73 20.7	148 42.0	78 22.2	76 21.6	39 11.1	23 6.5	10 2.8	43 12.2	62 17.6	14 4.0	31 8.8
	70代以上 (n= 502)	129 25.7	100 19.9	109 21.7	55 11.0	70 13.9	56 11.2	37 7.4	12 2.4	35 7.0	109 21.7	32 6.4	119 23.7
地区別	本庁地区 (n= 652)	254 39.0	176 27.0	304 46.6	160 24.5	118 18.1	40 6.1	43 6.6	24 3.7	62 9.5	80 12.3	26 4.0	71 10.9
	真和志地区 (n= 563)	239 42.5	113 20.1	255 45.3	139 24.7	120 21.3	45 8.0	45 8.0	13 2.3	67 11.9	73 13.0	19 3.4	61 10.8
	小緑地区 (n= 320)	138 43.1	82 25.6	183 57.2	95 29.7	60 18.8	24 7.5	16 5.0	14 4.4	33 10.3	37 11.6	10 3.1	18 5.6
	首里地区 (n= 337)	126 37.4	85 25.2	156 46.3	75 22.3	58 17.2	28 8.3	22 6.5	7 2.1	47 13.9	48 14.2	13 3.9	41 12.2
居住年数別	1年未満 (n= 64)	24 37.5	25 39.1	34 53.1	22 34.4	8 12.5	3 4.7	7 10.9	1 1.6	2 3.1	8 12.5	-	3 4.7
	1～2年 (n= 103)	43 41.7	35 34.0	66 64.1	33 32.0	14 13.6	4 3.9	8 7.8	3 2.9	10 9.7	9 8.7	2 1.9	4 3.9
	3～5年 (n= 160)	81 50.6	48 30.0	96 60.0	50 31.3	30 18.8	7 4.4	9 5.6	8 5.0	24 15.0	10 6.3	2 1.3	9 5.6
	6～10年 (n= 173)	70 40.5	48 27.7	103 59.5	62 35.8	28 16.2	5 2.9	10 5.8	4 2.3	21 12.1	19 11.0	7 4.0	9 5.2
	11～20年 (n= 263)	115 43.7	64 24.3	139 52.9	59 22.4	49 18.6	8 3.0	21 8.0	15 5.7	38 14.4	24 9.1	10 3.8	25 9.5
	21年以上 (n= 1,116)	427 38.3	236 21.1	463 41.5	244 21.9	229 20.5	113 10.1	71 6.4	28 2.5	116 10.4	169 15.1	47 4.2	143 12.8

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・高齢の為理解できない (9人)
- ・ネットなどの操作ができない (8人)
- ・スマートフォン等を所持していない (4人)

女性-70代以上-小緑地区・他
女性-70代以上-真和志地区・他
男性-70代以上-本庁地区・他

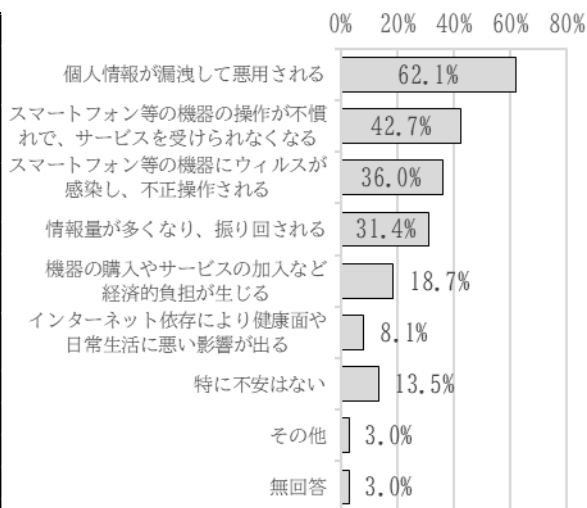
質問 49. 行政サービスのデジタル化が進むことに対して、どのような不安を感じますか。特に不安と感じるものを次の中から3つまでお選びください。

1. スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる
2. 個人情報が漏洩して悪用される
3. スマートフォン等の機器にウイルスが感染し、不正操作される
4. インターネット依存により健康面や日常生活に悪い影響が出る
5. 情報量が多くなり、振り回される
6. 機器の購入やサービスの加入など経済的負担が生じる
7. 特に不安はない
8. その他（ ）

行政サービスのデジタル化に不安を感じるものとして最も多かったのは「個人情報が漏洩して悪用される」である。

行政サービスのデジタル化に不安を感じるものについては、「個人情報が漏洩して悪用される」の割合が62.1%と最も高く、次いで「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」の割合が42.7%、「スマートフォン等の機器にウイルスが感染し、不正操作される」の割合が36.0%の順となっている。

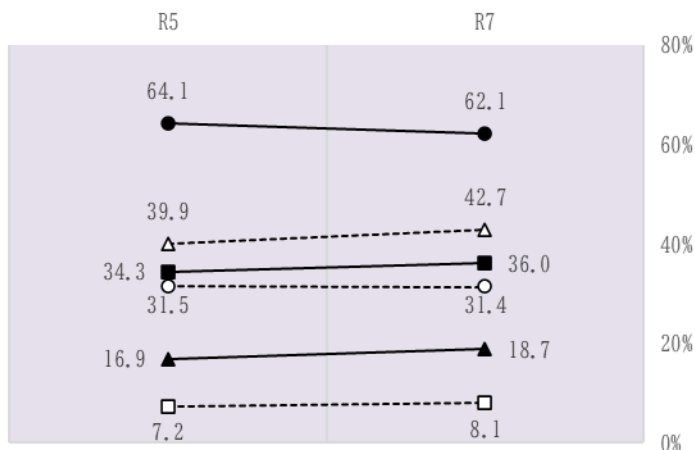
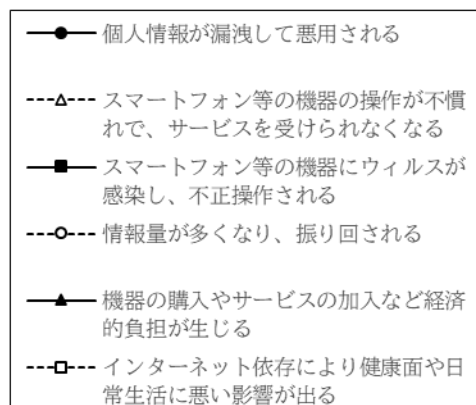
順位	選択項目	回答数	割合
1位	個人情報が漏洩して悪用される	1,171	62.1%
2位	スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる	805	42.7%
3位	スマートフォン等の機器にウイルスが感染し、不正操作される	679	36.0%
4位	情報量が多くなり、振り回される	591	31.4%
5位	機器の購入やサービスの加入など経済的負担が生じる	353	18.7%
6位	インターネット依存により健康面や日常生活に悪い影響が出る	153	8.1%
-	特に不安はない	254	13.5%
-	その他	57	3.0%
-	無回答	56	3.0%
合 計		4,119	218.5%
回答者数		1,885	-



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（令和5年度～令和7年度）】

前回調査と比較すると、「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」の割合が2.8ポイント増加し、「個人情報が漏洩して悪用される」の割合が2.0ポイント減少している。



【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

ほとんどの属性で「個人情報漏洩して悪用される」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、70代以上で「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」の割合が高くなっており6割を上回っている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		スマートフォンの操作を受けられなくなる	個人情報が漏洩して悪用される	スマートフォン等の機器にウイルスが感染し、不正操作される	インターネット依存により健康面や日常生活に悪い影響が出る	情報量が多くなり、振り回される	サービスの購入や経済的負担が生じる	特に不安はない	その他	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人)：下段(%)										
性別	男性 (n= 788)	284 36.0	459 58.2	276 35.0	73 9.3	242 30.7	138 17.5	143 18.1	25 3.2	18 2.3
	女性 (n= 1,090)	520 47.7	710 65.1	403 37.0	80 7.3	347 31.8	213 19.5	110 10.1	32 2.9	34 3.1
	その他 (n= 2)	-	2	-	-	1	2	-	-	-
年代別	10代 (n= 10)	1 10.0	8 80.0	5 50.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	-	-
	20代 (n= 149)	27 18.1	92 61.7	54 36.2	19 12.8	42 28.2	14 9.4	31 20.8	6 4.0	1 0.7
	30代 (n= 222)	52 23.4	140 63.1	91 41.0	13 5.9	64 28.8	27 12.2	51 23.0	4 1.8	-
	40代 (n= 278)	64 23.0	208 74.8	129 46.4	19 6.8	84 30.2	45 16.2	34 12.2	10 3.6	2 0.7
	50代 (n= 366)	131 35.8	248 67.8	149 40.7	27 7.4	103 28.1	64 17.5	58 15.8	9 2.5	6 1.6
	60代 (n= 352)	198 56.3	229 65.1	136 38.6	22 6.3	137 38.9	76 21.6	27 7.7	8 2.3	8 2.3
	70代以上 (n= 502)	329 65.5	245 48.8	115 22.9	52 10.4	156 31.1	123 24.5	50 10.0	20 4.0	37 7.4
地区別	本庁地区 (n= 652)	253 38.8	389 59.7	212 32.5	46 7.1	184 28.2	122 18.7	102 15.6	22 3.4	20 3.1
	真和志地区 (n= 563)	261 46.4	360 63.9	205 36.4	57 10.1	195 34.6	115 20.4	55 9.8	16 2.8	15 2.7
	小祿地区 (n= 320)	120 37.5	213 66.6	132 41.3	27 8.4	106 33.1	52 16.3	47 14.7	8 2.5	5 1.6
	首里地区 (n= 337)	164 48.7	204 60.5	128 38.0	21 6.2	100 29.7	64 19.0	49 14.5	9 2.7	13 3.9
居住年数別	1年未満 (n= 64)	17 26.6	41 64.1	24 37.5	7 10.9	15 23.4	8 12.5	17 26.6	-	-
	1~2年 (n= 103)	26 25.2	68 66.0	38 36.9	13 12.6	25 24.3	8 7.8	18 17.5	3 2.9	1 1.0
	3~5年 (n= 160)	55 34.4	106 66.3	64 40.0	10 6.3	44 27.5	21 13.1	31 19.4	3 1.9	1 0.6
	6~10年 (n= 173)	46 26.6	109 63.0	55 31.8	17 9.8	63 36.4	27 15.6	30 17.3	9 5.2	-
	11~20年 (n= 263)	98 37.3	151 57.4	98 37.3	15 5.7	84 31.9	57 21.7	35 13.3	11 4.2	8 3.0
	21年以上 (n= 1,116)	561 50.3	693 62.1	398 35.7	90 8.1	358 32.1	231 20.7	122 10.9	31 2.8	44 3.9

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 高齢者が情報入手できなくなる (6人) 女性-50代-本庁地区・他
- ・ 案内がわかりづらい時に確認できなくなる (5人) 男性-50代-真和志地区・他

(18) 幸福度

質問 50. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。次の中から1つだけ点数をお選びください。

とても不幸 ← 0点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10点 → とても幸せ

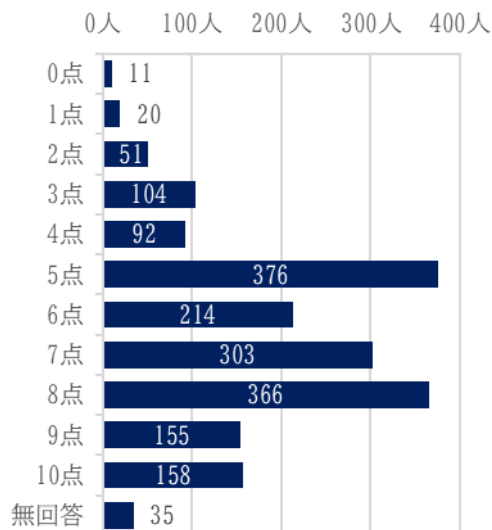
市民の平均幸福度は10点満点中6.48点である。

当該質問による平均点は、次の式により算出した。

$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{有意回答数の合計}} = \frac{11,990 \text{ (点)}}{1,850 \text{ (人)}} \div 6.48 \text{ 点}$$

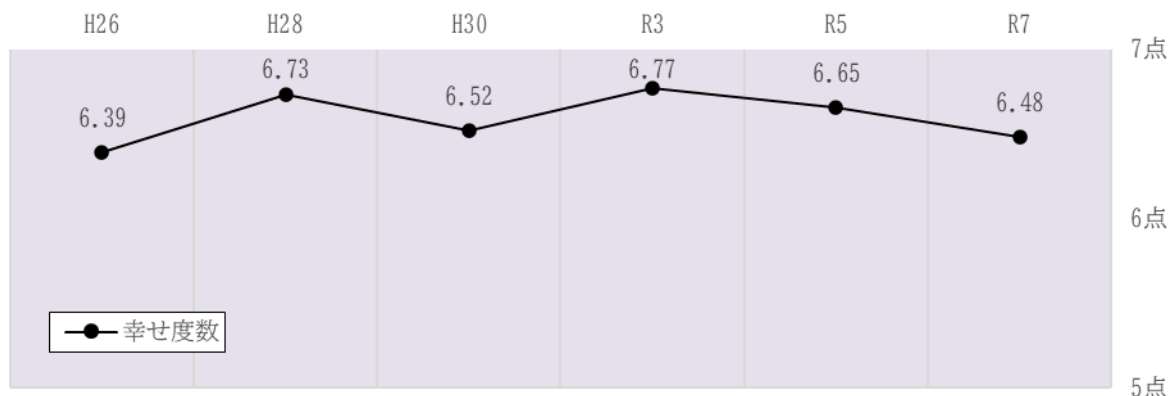
那覇市民の平均幸福度は6.48点となった。今回の回答では「5点」をつけた376人が最も多く、次いで「8点」をつけた366人、「7点」をつけた303人の順となっている。

選択項目	回答数	各点数計	有意回答数	平均点
0点	11人	0点	1,850人	6.48点
1点	20人	20点		
2点	51人	102点		
3点	104人	312点		
4点	92人	368点		
5点	376人	1,880点		
6点	214人	1,284点		
7点	303人	2,121点		
8点	366人	2,928点		
9点	155人	1,395点		
10点	158人	1,580点		
無回答	35人	-		
合計	1,885人	11,990点		



【経年変化 (平成26年度～令和7年度)】

前回調査と比較すると、幸福度は0.17ポイント減少したものの、過去10年間ほぼ横ばいの状態にある。

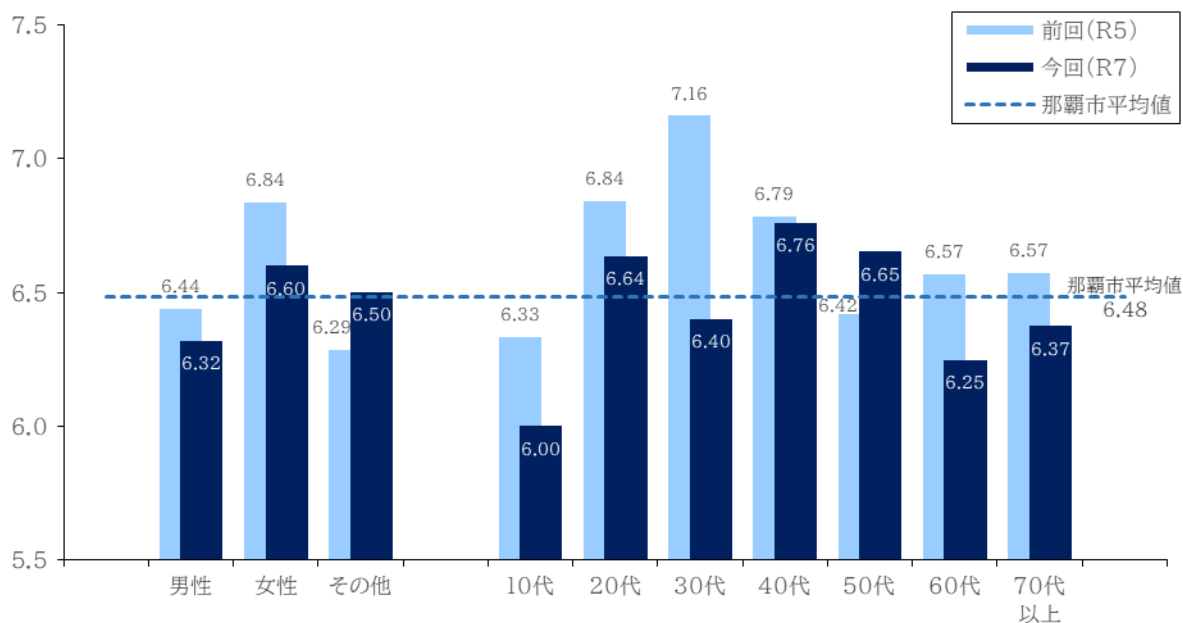


【属性別集計 (回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く)】

那覇市民の幸福度を前回調査と比較すると、年代別では50代、居住地区別では小禄地区が前回調査を上回ったが、その他の属性で前回調査を下回る結果となった。

市民の幸福度を、性別、年代別にみると、性別では男性、年代別では10代、30代、60代以上で那覇市の平均以下となっている。

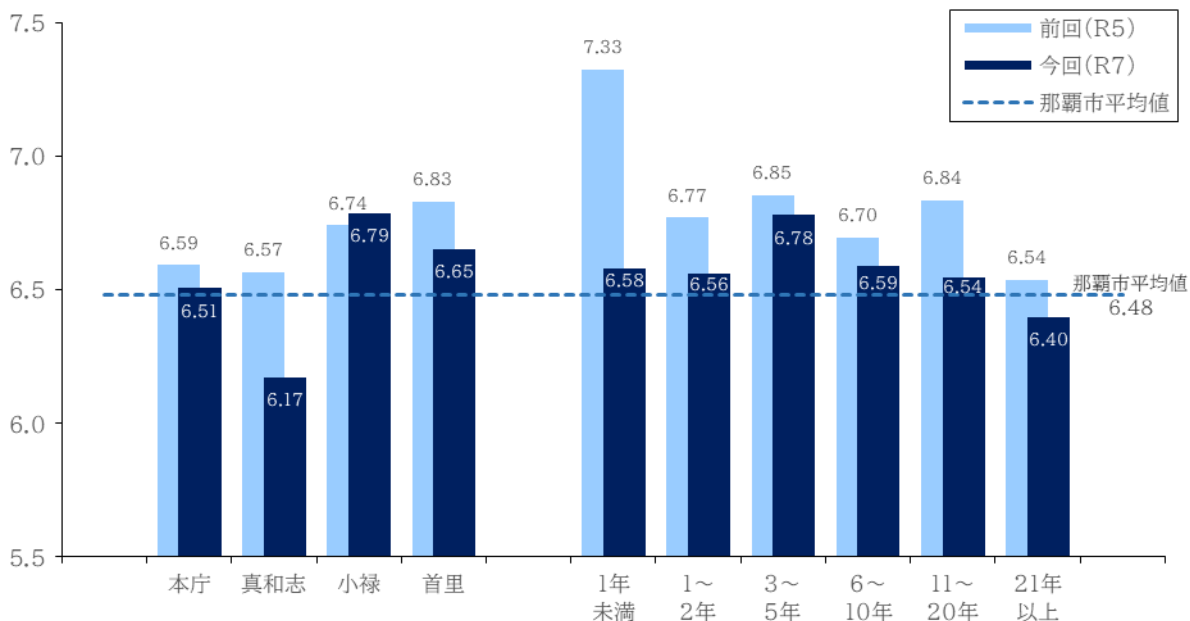
選択項目 回答者属性(n=合計)		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	今回 平均値	那覇市 令和5年 平均値
		性別	男性 (n= 788)	5	6	24	48	43	168	95	131	148	54	53	13
	女性 (n= 1,090)	6	14	27	55	49	207	118	171	218	101	104	20	6.60	6.84
	その他 (n= 2)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	6.50	6.29
年代別	10代 (n= 10)	0	0	0	1	0	3	2	2	2	0	0	0	6.00	6.33
	20代 (n= 149)	1	0	5	7	5	29	20	22	35	8	16	1	6.64	6.84
	30代 (n= 222)	3	3	12	13	13	35	22	39	38	21	23	0	6.40	7.16
	40代 (n= 278)	3	2	6	16	11	41	33	48	59	28	31	0	6.76	6.79
	50代 (n= 366)	3	4	7	14	17	64	45	70	76	28	34	4	6.65	6.42
	60代 (n= 352)	0	4	11	23	26	73	44	61	62	21	24	3	6.25	6.57
	70代以上 (n= 502)	1	7	10	29	20	130	46	61	94	49	30	25	6.37	6.57
地区別	本庁地区 (n= 652)	4	7	22	32	32	123	73	117	120	53	60	9	6.51	6.59
	真和志地区 (n= 563)	3	8	15	38	31	139	63	84	104	36	32	10	6.17	6.57
	小禄地区 (n= 320)	1	1	4	17	18	51	40	50	73	26	35	4	6.79	6.74
	首里地区 (n= 337)	3	4	10	16	10	63	37	48	67	39	31	9	6.65	6.83
居住年数別	1年未満 (n= 64)	0	1	2	4	1	16	3	12	14	4	7	0	6.58	7.33
	1~2年 (n= 103)	3	1	1	9	4	14	10	19	21	11	10	0	6.56	6.77
	3~5年 (n= 160)	0	1	6	7	7	29	13	20	46	15	15	1	6.78	6.85
	6~10年 (n= 173)	2	1	6	7	13	25	22	28	38	13	18	0	6.59	6.70
	11~20年 (n= 263)	1	3	5	13	13	54	32	45	43	23	25	6	6.54	6.84
	21年以上 (n= 1,116)	5	13	31	62	54	237	134	178	204	89	83	26	6.40	6.54



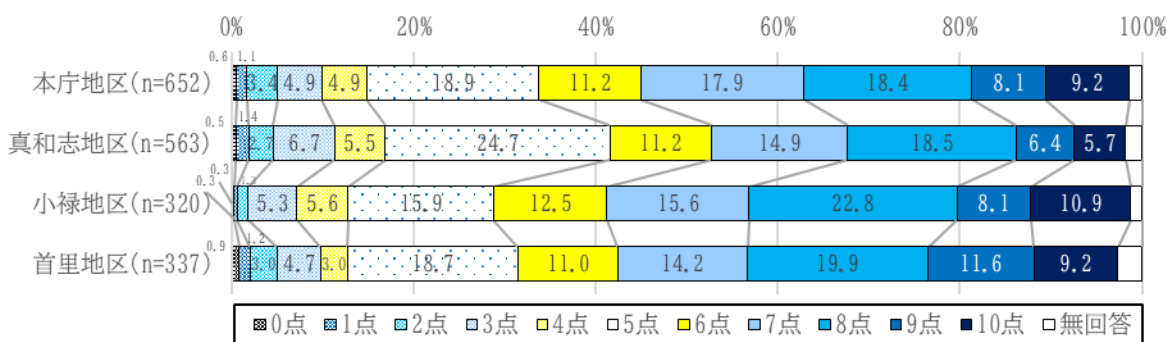
那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区でみると、小禄地区が最も高く、那覇市平均値を 0.31 ポイント上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは真和志地区で、那覇市平均値との差は 0.31 ポイントとなっている。

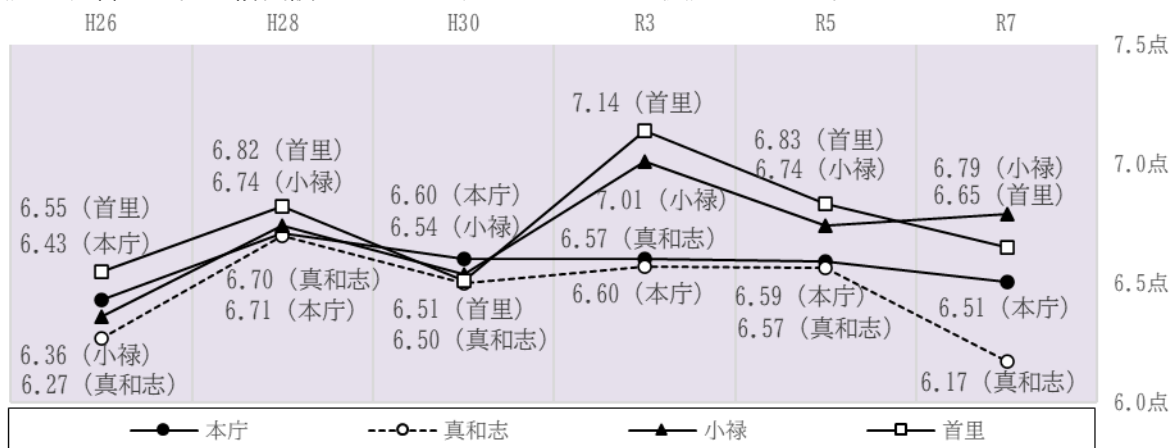
居住年数では、幸福度が最も高いのは 21 年以上となっており、那覇市平均値を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認したところ、本庁地区、真和志地区では「5点」をつけた市民の割合が最も高く、小禄地区、首里地区では「8点」をつけた市民の割合が最も高い。



居住地区ごとの経年変化をみると、真和志地区の幸福度が前回調査と比べて 0.40 ポイント減少し、首里地区も前回調査と比べて、0.18 ポイント減少している。



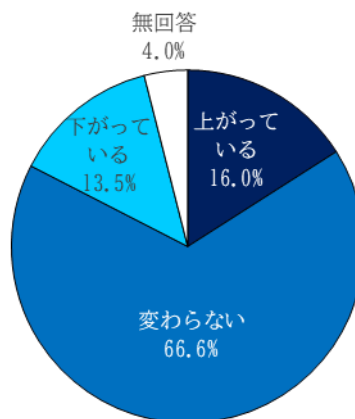
質問 50-1. 質問 50 で答えていただいた点数は、昨年（2024 年）と比べて変化していますか。
次の中から1つお選びください。

1. 上がっている 2. 変わらない 3. 下がっている

昨年と比べて幸福感が「上がっている」市民は 16.0%、「下がっている」市民は 13.5%である。

昨年と比べて幸福感が「変わらない」の割合が 66.6%で最も高く、次いで「上がっている」の割合が 16.0%、「下がっている」の割合が 13.5%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
上がっている	301	16.0%
変わらない	1,255	66.6%
下がっている	254	13.5%
無回答	75	4.0%
合計	1,885	100.0%



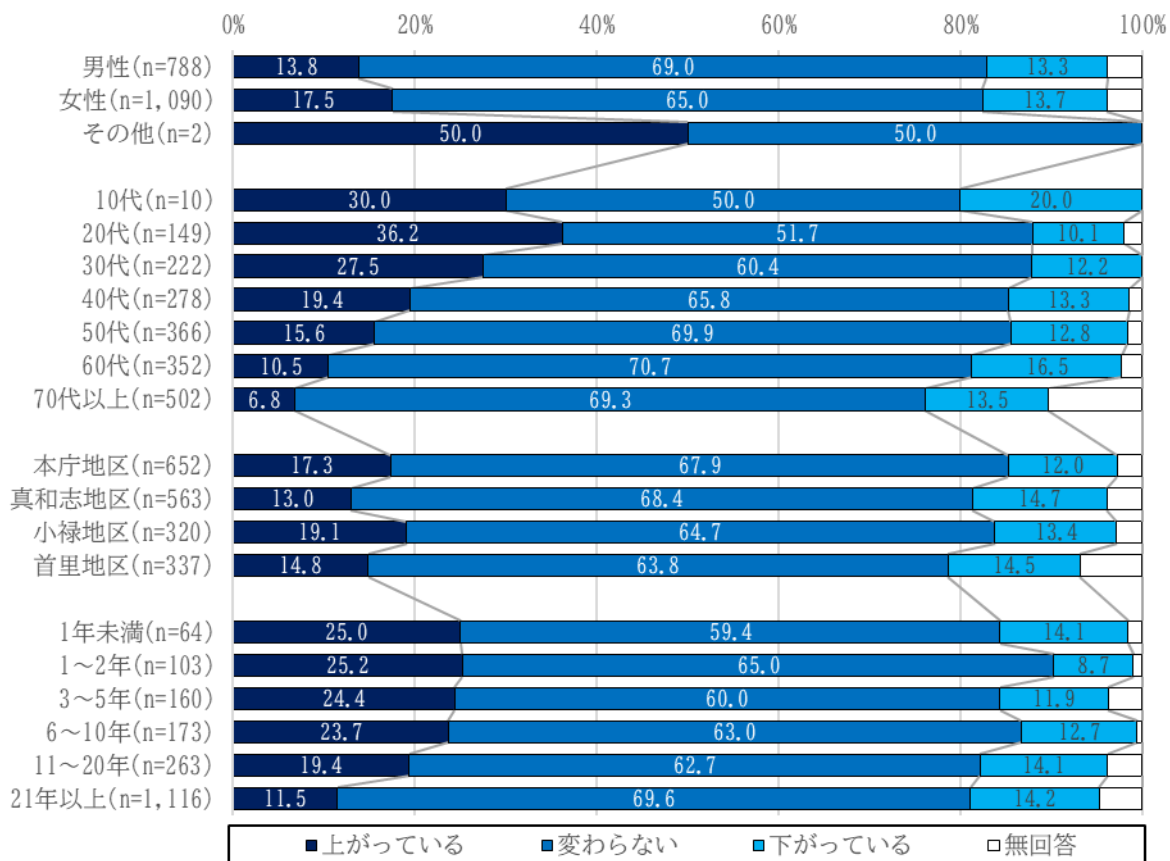
【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

いずれの属性においても「変わらない」の割合が最も高い。また、幸福感が「上がっている」割合は 20 代が最も高く、「下がっている」の割合は 10 代が最も高い。

居住年数別でみると、20 年以下で「上がっている」の割合が高くなっている。

選択項目		上がっている	変わらない	下がっている	無回答
回答者属性(n=合計)					
性別	男性☑ (n= 788)	109	544	105	30
	女性 (n= 1,090)	191	708	149	42
	その他 (n= 2)	1	1	0	0
年代別	10代 (n= 10)	3	5	2	0
	20代 (n= 149)	54	77	15	3
	30代 (n= 222)	61	134	27	0
	40代 (n= 278)	54	183	37	4
	50代 (n= 366)	57	256	47	6
	60代 (n= 352)	37	249	58	8
	70代以上 (n= 502)	34	348	68	52
地区別	本庁地区 (n= 652)	113	443	78	18
	真和志地区 (n= 563)	73	385	83	22
	小祿地区 (n= 320)	61	207	43	9
	首里地区 (n= 337)	50	215	49	23
居住年数別	1年未満 (n= 64)	16	38	9	1
	1～2年 (n= 103)	26	67	9	1
	3～5年 (n= 160)	39	96	19	6
	6～10年 (n= 173)	41	109	22	1
	11～20年 (n= 263)	51	165	37	10
	21年以上 (n= 1,116)	128	777	158	53

Ⅲ. 調査結果 (項目別)



質問 51. その他、那覇市の事業実施や計画立案に関するご意見やご提言があれば、ご記入をお願いします。

有効回答は 445 件、大まかな内訳は子育て支援・子どもの貧困、観光施策・観光産業、市政、市職員、環境問題などに分類できる。代表的な回答は以下のとおり。

〔子育て支援・子どもの貧困について〕

- ・医療費を 18 歳まで無料にして下さい。昨今の物価高のなか、子供まで医療費がかかると、ただでさえ圧迫されている家計が更に圧迫されます。ご検討よろしくお願い致します。(男性・40 代)
- ・子どもが無料で遊べる子育て支援センターのような場所を大型商業施設内に作ってほしい。(女性・40 代)
- ・子育て支援の拡充を願います。(公園の整備、保育料の減額) (女性・30 代)
- ・ひとり親への支援（修学支援等）(女性・60 代)
- ・子ども食堂などの充実ではなく、自分の家族と一緒に食事ができるように助けてほしい(男性・40 代)
- ・無料か、安い価格で習い事が出来るといいと思います。(女性・50 代)

〔観光施策・観光産業について〕

- ・観光立県なので道路の雑草等は常に美化してほしい。街が汚い。(男性・60 代)
- ・日常使いしている近所のスーパーに観光客が多すぎます。近所の外食先も観光客の行列で行かなくなりました。オーバーツーリズム対策をして欲しいと思います。(男性・50 代)
- ・観光客増加により、国際通りなどの中心市街地が混雑し歩道が歩きづらい。歩道の拡大と、歩道に看板や物を置いている物の撤去をお願いしたい。(男性・50 代)

〔高齢者支援について〕

- ・高齢者が運転をしなくて済むような取り組みをして欲しい。生活圏内のスーパーや病院などに無料タクシーを使って通えるようにできたら良いと思う。(女性・20 代)
- ・色々デジタル化してスムーズにするのは良いことですが、外食でのタブレット化やその他のデジタル化でお年寄りが外に出るのも億劫になっているのを痛感しています。行政サービスもデジタルにしても、サポートは今より大切にしてほしいです。(女性・20 代)
- ・シニアの就労支援を増やして働きやすい環境を増やしてほしい(女性・60 代)

〔市政について〕

- ・地域活性化等に取り組むこともよいが、今ある課題解決に目を向けて欲しい。所得水準の低さや、労働環境の改善、街のゴミ問題、駐車スペースの改善など。(女性・30 代)
- ・生活の困りごとをワンストップで相談できる窓口を一本化して、そこから必要な機関につながるというシステムにしてほしい。(女性・40 代)
- ・市民の所得や生活水準を上げる政策を実現し、貧困解消を強く望みます。また、市内の公園にスケートパーク場を増やしてほしいです。(男性・30 代)

〔市職員について〕

- ・市会議員と市役所の経費見直しと削減と透明化と公開と毎年の外部監査（男性・60代）
- ・防災に関する情報をなほ市民の友等に載せる時は、普段スマホを使い慣れていない高齢の方が、ぱっと見て情報を受け取れる位の大きき字で（または図）記載されている方が役立つかと思ひます。ページ数とってしまひますが（女性・40代）
- ・那覇市にとても愛着がありいつも行政サービス受けられてありがたいです。よりよくなるように頑張ってください。応援してひます。（女性・70代以上）
- ・市役所も民間企業みたいに土日祝開いてひると助かると思ひます。市民も活用しやすひ。（女性・50代）

〔環境問題・動物愛護〕

- ・街路樹や花壇等の雑草対策をもう少しやってほしい。草ぼうぼうは見苦しい。（女性・70代以上）
- ・空き家対策。手入れの行き届いてひない隣家からの迷惑事例（劣化したコンクリート破片落下や草木侵入）への指導。（男性・60代）
- ・ゴミのポイ捨てや放置を厳正に取り締まってほしい。（女性・40代）
- ・公園の清掃がいき届いてひないので、清掃回数を増やしてほしい（女性・30代）
- ・保護犬や猫のボランティア等に対する、手厚い支援。動物の殺処分をゼロにしてほしい。地域猫をみんなで守ってひく取り組みを強くする（女性・50代）
- ・猫の放し飼ひがまだまだあり、駐車場の糞害に困ってひます。猫の放し飼ひの対策をお願いしまひます。（女性・40代）

〔道路の整備・交通安全〕

- ・自転車歩行者や電動車椅子が安全に走れる道を整備してください（女性・60代）
- ・道路整備、道路の草刈り、道路の保守、凸凹が多い、道路の白線が消えて解らひない（男性・60代）
- ・バスレーン時間帯の取り締まり（男性・50代）
- ・バスで他の交通系カードも利用できるようにしてください。（女性・20代）
- ・路面電車やモノレール等の交通網が広がってほしい。車（自家用車）が無くても遊びに行けるようになると生活が楽しくなる。（男性・70代以上）

〔様々な要望〕

- ・もっと那覇市の事業実施状況などの情報発信を希望しまひます。ラジオ・テレビ・ネットで情報発信を！（男性・40代）
- ・国際通りは観光地。県民が遊びたがる場所にしてほしい。（男性・30代）
- ・那覇市の手話通訳者の育成にもっと予算をかけてほしい。予算がないためにギリギリのことしかできないため育成にも限度が生じてひる。（男性・50代）
- ・災害が起こる恐れのある場所の改善支援（男性・50代）

IV. 「市の政策に対する満足度・重要度」 の調査結果

IV. 「市の政策に対する満足度・重要度」の調査結果

1. 満足度・重要度調査について

那覇市では、2018年度から10年間のまちづくりの指針となる「第5次那覇市総合計画」を策定し、『なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA ～みんなでつながろう市民力～』を将来像に掲げ、まちづくりの姿勢として、その担い手一人ひとりを結びつける【5つの絆】を示している。

満足度・重要度調査は、23の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取組に反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査であるため、前回調査と同様、全体として「わからない」の回答比率が高かったため、考察では「わからない」と「無回答」を除く、有意回答をもとに分析した。

2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

(1) 回答者数について

今回調査における全回答者数1,885名のうち、満足度の回答者数は1,043名、重要度の回答者数は1,239名と、半数以上が回答している。

満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策について（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）重要度のみ回答したことによるものと考えられる。

(2) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

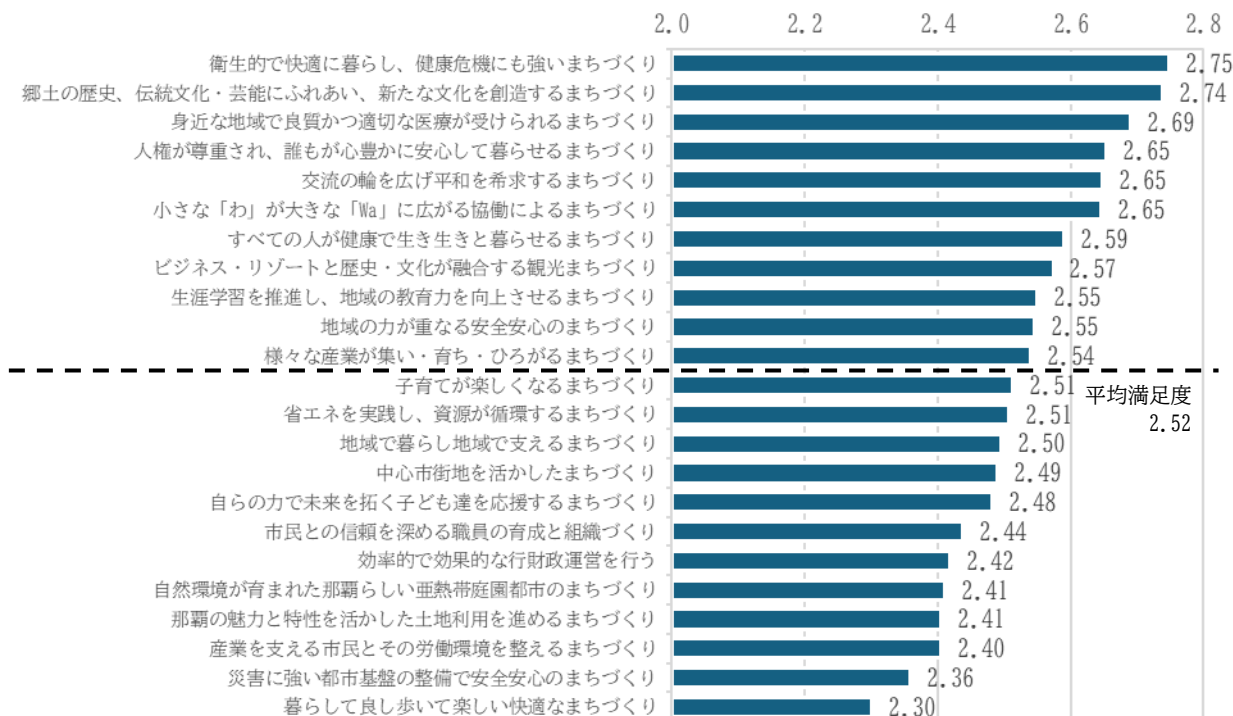
満足度・重要度調査の結果は、政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。(※「わからない」「無回答」は加点から除いてある。)

満足度：「満足」＝4点、「まあ満足」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点
重要度：「高い」＝4点、「まあ高い」＝3点、「やや低い」＝2点、「低い」＝1点

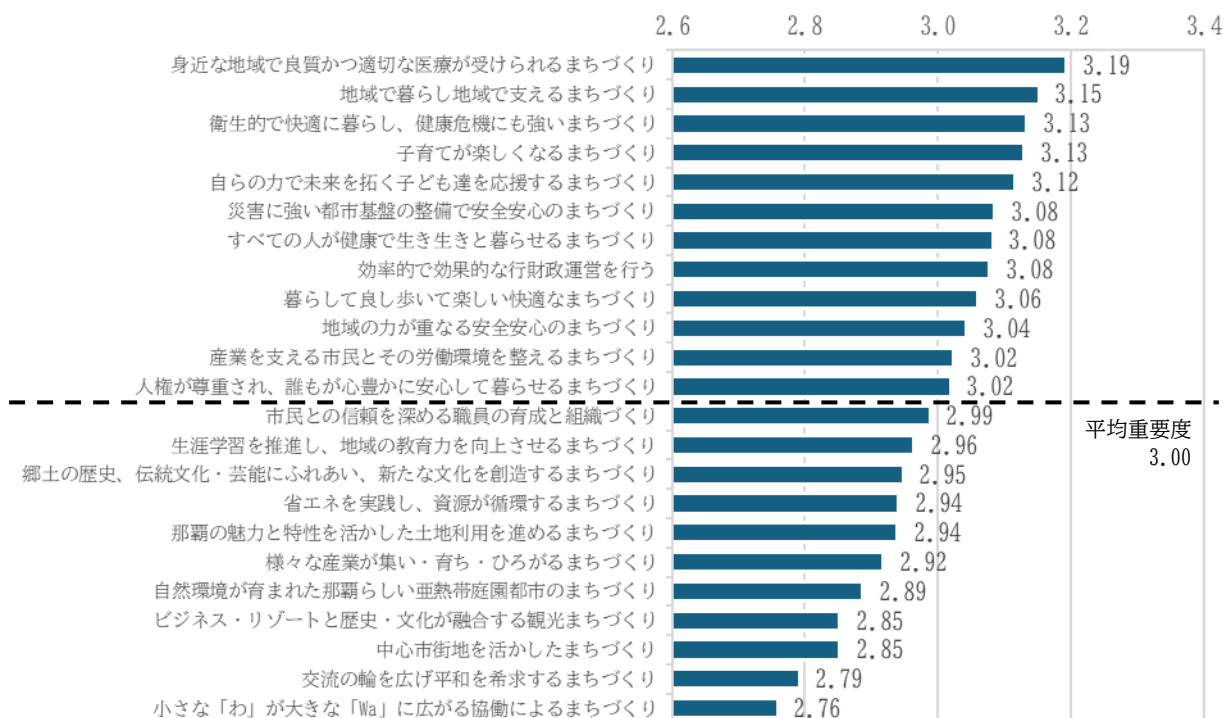
政 策	満足度			重要度		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA						
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	1,937	732	2.65	2,828	1,025	2.76
地域の力が重なる安全安心のまちづくり	2,546	1,000	2.55	3,709	1,219	3.04
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2,315	874	2.65	3,138	1,124	2.79
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	2,744	1,034	2.65	3,671	1,216	3.02
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA						
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	2,581	1,034	2.50	3,908	1,240	3.15
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	2,702	1,043	2.59	3,847	1,248	3.08
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	3,183	1,183	2.69	4,131	1,294	3.19
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	3,064	1,115	2.75	3,936	1,256	3.13
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA						
子育てが楽しくなるまちづくり	2,302	916	2.51	3,708	1,185	3.13
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	2,266	913	2.48	3,680	1,181	3.12
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	2,412	946	2.55	3,525	1,189	2.96
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	2,758	1,007	2.74	3,543	1,202	2.95
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA						
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2,888	1,122	2.57	3,614	1,267	2.85
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	2,494	982	2.54	3,559	1,220	2.92
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	2,448	1,018	2.40	3,747	1,239	3.02
中心市街地を活かしたまちづくり	2,792	1,121	2.49	3,668	1,286	2.85
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA						
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	2,693	1,074	2.51	3,740	1,272	2.94
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	2,823	1,171	2.41	3,793	1,314	2.89
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2,988	1,298	2.30	4,184	1,367	3.06
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	2,828	1,199	2.36	4,109	1,332	3.08
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	2,543	1,057	2.41	3,712	1,263	2.94
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う						
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	2,658	1,090	2.44	3,804	1,273	2.99
効率的で効果的な行財政運営を行う	2,547	1,053	2.42	3,937	1,279	3.08
平均値	2,631	1,043	2.52	3,717	1,239	3.00

(3) 満足度・重要度のランキング

各政策を満足度調査の平均評価点でランク付けすると、下記のとおりとなった。全政策の平均評価点は 2.52 点で、全政策 23 項目のうち 11 項目が平均評価点を上回る結果となった。



各政策を重要度調査の平均評価点でランク付けすると、下記のとおりとなった。全政策の平均評価点は 3.00 点で、全政策 23 項目のうち 12 項目が平均評価点を上回る結果となった。



(4) 満足度・重要度ランキングの経年変化

各政策の満足度および重要度調査の平均評価点のランク付けについて、平成30年度から令和7年度までの上位10政策をまとめた。前回調査と比較すると、満足度ランキングの上位3政策の順位に変化はなかった。一方で、重要度ランキングは「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」と「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の順位が上昇した。

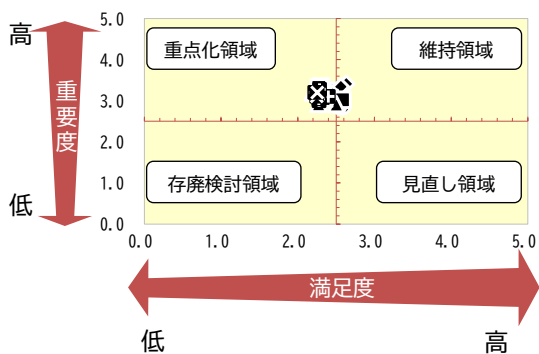
満足度ランキングの経年変化

	第23回(平成30年)	第24回(令和3年)	第25回(令和5年)	第26回(令和7年)
1位	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.73	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.63	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.62	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.75
2位	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.62	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.58	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.62	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.74
3位	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.60	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.58	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.60	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.69
4位	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.56	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.56	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.58	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.65
5位	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.55	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.53	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.57	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.65
6位	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 2.50	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.52	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.55	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.65
7位	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり 2.49	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり 2.50	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり 2.48	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 2.59
8位	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.46	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 2.48	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 2.46	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり 2.57
9位	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり 2.45	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 2.47	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 2.45	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり 2.55
10位	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 2.41	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり 2.42	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり 2.41	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 2.55

重要度ランキングの経年変化

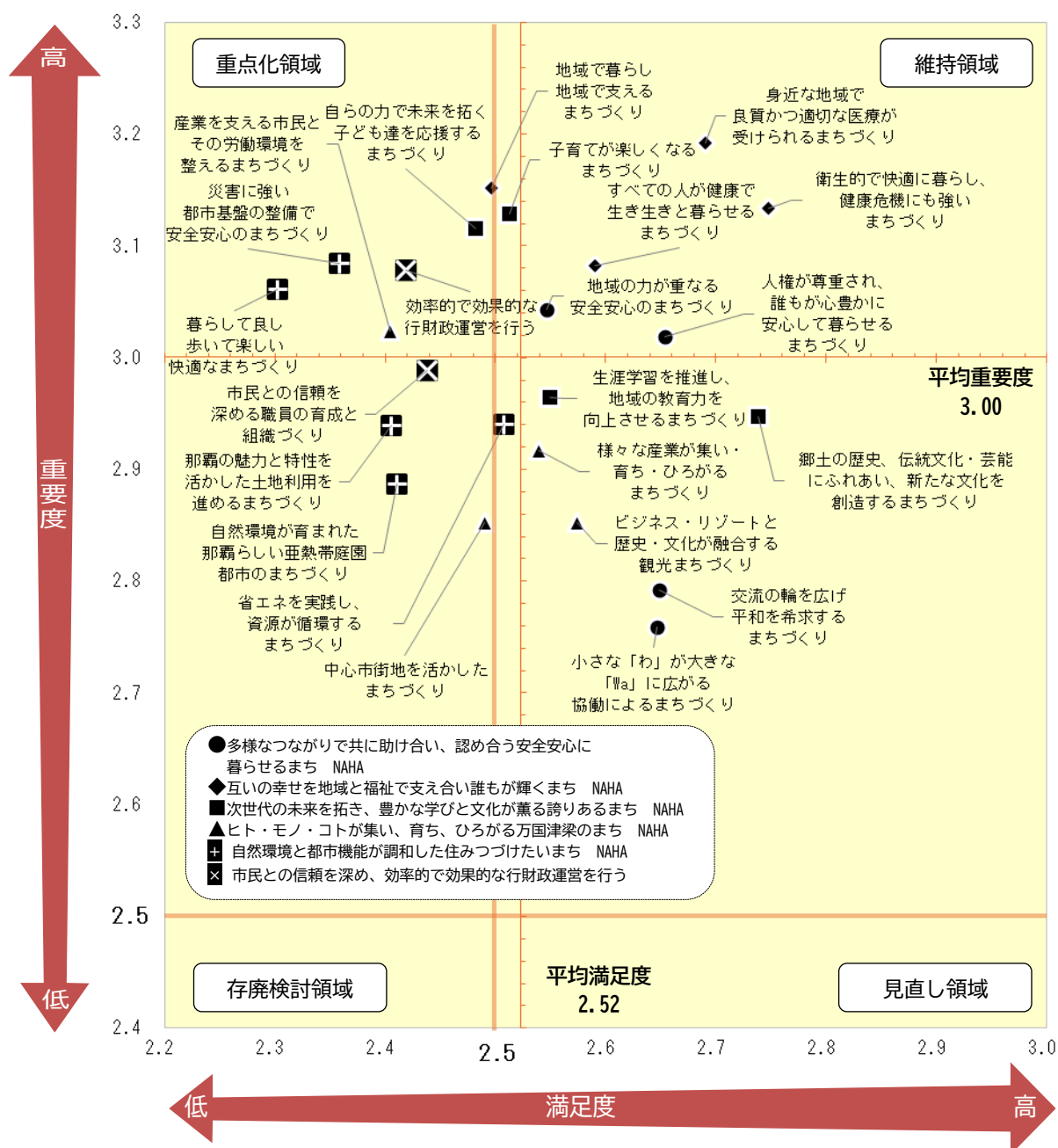
	第23回(平成30年)	第24回(令和3年)	第25回(令和5年)	第26回(令和7年)
1位	子育てが楽しくなるまちづくり 3.39	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.41	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.34	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.19
2位	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.38	子育てが楽しくなるまちづくり 3.35	子育てが楽しくなるまちづくり 3.31	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.15
3位	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.33	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.34	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.30	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.13
4位	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.31	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.32	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.28	子育てが楽しくなるまちづくり 3.13
5位	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.30	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.31	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.25	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.12
6位	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 3.27	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.28	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.24	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.08
7位	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 3.24	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 3.24	効率的で効果的な行財政運営を行う 3.24	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 3.08
8位	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり 3.24	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 3.22	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 3.22	効率的で効果的な行財政運営を行う 3.08
9位	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.24	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり 3.21	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり 3.22	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり 3.06
10位	効率的で効果的な行財政運営を行う 3.21	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり 3.21	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 3.31	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 3.04

(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。分類領域は、加点评価の平均 2.5 点を基準とする。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした個々の政策分布図は以下のとおりとなった。なお、23 の政策は「めざすまちの姿」ごとに区分している。



【重点化領域とされる政策】 ※（計：満足度平均+重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

- ・地域で暮らし地域で支えるまちづくり (計:5.65 満:2.50 重:3.15)
- ・自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (計:5.60 満:2.48 重:3.12)
- ・効率的で効果的な行財政運営を行う (計:5.50 満:2.42 重:3.08)
- ・災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (計:5.44 満:2.36 重:3.08)
- ・産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (計:5.42 満:2.40 重:3.02)
- ・市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (計:5.43 満:2.44 重:2.99)
- ・暮らしてよし歩いて楽しい快適なまちづくり (計:5.36 満:2.30 重:3.06)
- ・那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (計:5.35 満:2.41 重:2.94)
- ・中心市街地を活かしたまちづくり (計:5.34 満:2.49 重:2.85)
- ・自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (計:5.30 満:2.41 重:2.89)

【維持領域とされる政策】 ※（計：満足度平均+重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

- ・身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (計:5.88 満:2.69 重:3.19)
- ・衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (計:5.88 満:2.75 重:3.13)
- ・郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (計:5.69 満:2.74 重:2.95)
- ・すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (計:5.67 満:2.59 重:3.08)
- ・人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (計:5.67 満:2.65 重:3.02)
- ・子育てが楽しくなるまちづくり (計:5.64 満:2.51 重:3.13)
- ・地域の力が重なる安全安心のまちづくり (計:5.59 満:2.55 重:3.04)
- ・生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (計:5.51 満:2.55 重:2.96)
- ・様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (計:5.46 満:2.54 重:2.92)
- ・省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (計:5.45 満:2.51 重:2.94)
- ・交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (計:5.44 満:2.65 重:2.79)
- ・ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (計:5.42 満:2.57 重:2.85)
- ・小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (計:5.41 満:2.65 重:2.76)

【存廃検討領域とされる政策】
なし

【見直し領域とされる政策】
なし

「第5次総合計画」における23の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものではなく、今後とも維持継続、あるいは更に力をいれていくことが求められている。

3. 各政策に対する満足度・重要度の評価

めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政策 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
 (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)

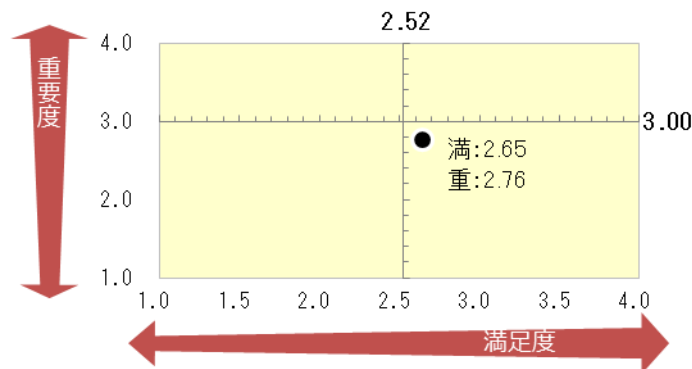
「小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が67.5%、重要度では「まあ高い」以上が70.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値より低くみている。

〔満足度〕			〔重要度〕		
選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	31人 (1.6%)	494人 (67.5%)	高い	132人 (7.0%)	717人 (70.0%)
まあ満足	463人 (24.6%)		まあ高い	585人 (31.0%)	
やや不満	186人 (9.9%)	238人 (32.5%)	やや低い	237人 (12.6%)	308人 (30.0%)
不満	52人 (2.8%)		低い	71人 (3.8%)	
有意回答 計	732人 (38.8%)	732人 (100.0%)	有意回答 計	1,025人 (54.4%)	1,025人 (100.0%)
わからない	914人 (48.5%)		わからない	584人 (31.0%)	
無回答	239人 (12.7%)		無回答	276人 (14.6%)	
合 計	1,885人 (100.0%)		合 計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

政策 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
(防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)

「地域の力が重なる安全安心のまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が60.8%、重要度では「まあ高い」以上が81.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

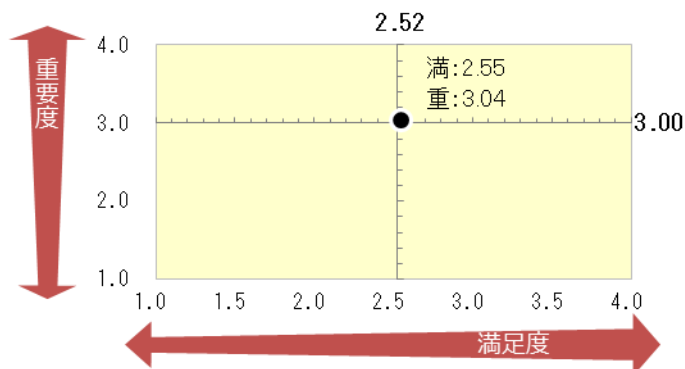
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	40人 (2.1%)	608人 (60.8%)
まあ満足	568人 (30.1%)	
やや不満	290人 (15.4%)	392人 (39.2%)
不満	102人 (5.4%)	
有意回答 計	1,000人 (53.1%)	1,000人 (100.0%)
わからない	649人 (34.4%)	
無回答	236人 (12.5%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	332人 (17.6%)	991人 (81.3%)
まあ高い	659人 (35.0%)	
やや低い	176人 (9.3%)	228人 (18.7%)
低い	52人 (2.8%)	
有意回答 計	1,219人 (64.7%)	1,219人 (100.0%)
わからない	392人 (20.8%)	
無回答	274人 (14.5%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政策 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
 (平和・国際交流の推進等)

「交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が67.8%、重要度では「まあ高い」以上が70.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値より低くみている。

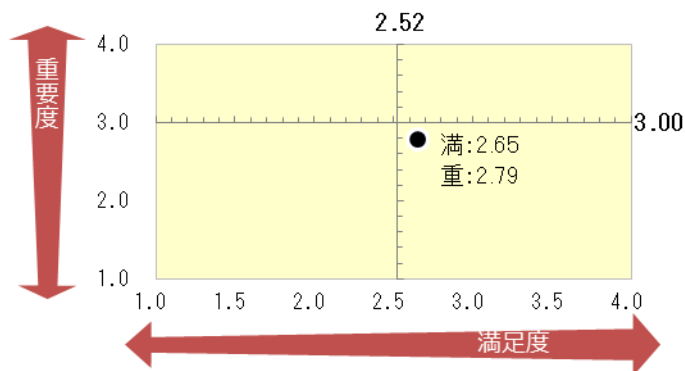
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	51人 (2.7%)	593人 (67.8%)
まあ満足	542人 (28.8%)	
やや不満	204人 (10.8%)	281人 (32.2%)
不満	77人 (4.1%)	
有意回答 計	874人 (46.4%)	874人 (100.0%)
わからない	772人 (41.0%)	
無回答	239人 (12.7%)	
合 計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	184人 (9.8%)	791人 (70.4%)
まあ高い	607人 (32.2%)	
やや低い	248人 (13.2%)	333人 (29.6%)
低い	85人 (4.5%)	
有意回答 計	1,124人 (59.6%)	1,124人 (100.0%)
わからない	482人 (25.6%)	
無回答	279人 (14.8%)	
合 計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA
 政策 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
 (人権尊重、男女共同参画推進等)

「人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が66.5%、重要度では「まあ高い」以上が78.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値程度とみている。

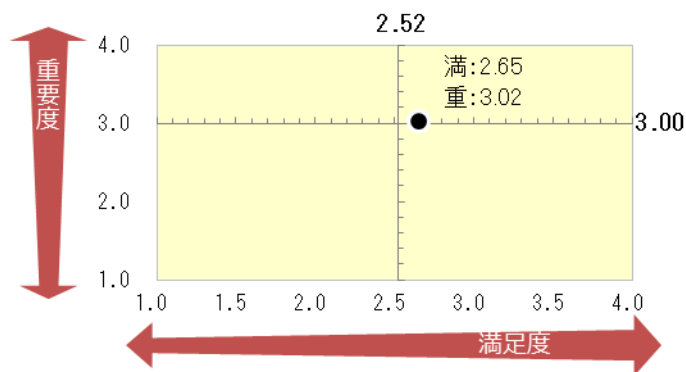
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	70人 (3.7%)	688人 (66.5%)
まあ満足	618人 (32.8%)	
やや不満	264人 (14.0%)	346人 (33.5%)
不満	82人 (4.4%)	
有意回答 計	1,034人 (54.9%)	1,034人 (100.0%)
わからない	610人 (32.4%)	
無回答	241人 (12.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	361人 (19.2%)	949人 (78.0%)
まあ高い	588人 (31.2%)	
やや低い	196人 (10.4%)	267人 (22.0%)
低い	71人 (3.8%)	
有意回答 計	1,216人 (64.5%)	1,216人 (100.0%)
わからない	394人 (20.9%)	
無回答	275人 (14.6%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
(福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)

「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が56.3%、重要度では「まあ高い」以上が81.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや高くみている。

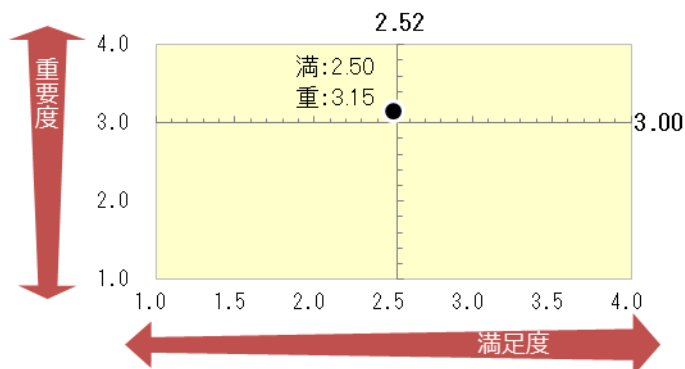
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	53人 (2.8%)	582人 (56.3%)
まあ満足	529人 (28.1%)	
やや不満	330人 (17.5%)	452人 (43.7%)
不満	122人 (6.5%)	
有意回答 計	1,034人 (54.9%)	1,034人 (100.0%)
わからない	607人 (32.2%)	
無回答	244人 (12.9%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	472人 (25.0%)	1,014人 (81.8%)
まあ高い	542人 (28.8%)	
やや低い	168人 (8.9%)	226人 (18.2%)
低い	58人 (3.1%)	
有意回答 計	1,240人 (65.8%)	1,240人 (100.0%)
わからない	368人 (19.5%)	
無回答	277人 (14.7%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策 すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
(健康づくりの実践、こころの健康維持等)

「すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61.9%、重要度では「まあ高い」以上が81.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

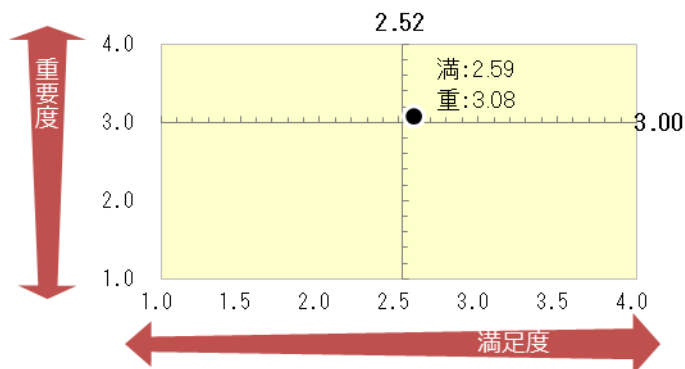
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	60人 (3.2%)	646人 (61.9%)
まあ満足	586人 (31.1%)	
やや不満	307人 (16.3%)	397人 (38.1%)
不満	90人 (4.8%)	
有意回答 計	1,043人 (55.3%)	1,043人 (100.0%)
わからない	602人 (31.9%)	
無回答	240人 (12.7%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	377人 (20.0%)	1,021人 (81.8%)
まあ高い	644人 (34.2%)	
やや低い	180人 (9.5%)	227人 (18.2%)
低い	47人 (2.5%)	
有意回答 計	1,248人 (66.2%)	1,248人 (100.0%)
わからない	365人 (19.4%)	
無回答	272人 (14.4%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
(地域医療の充実等)

「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が68.0%、重要度では「まあ高い」以上が85.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりやや高くみている。

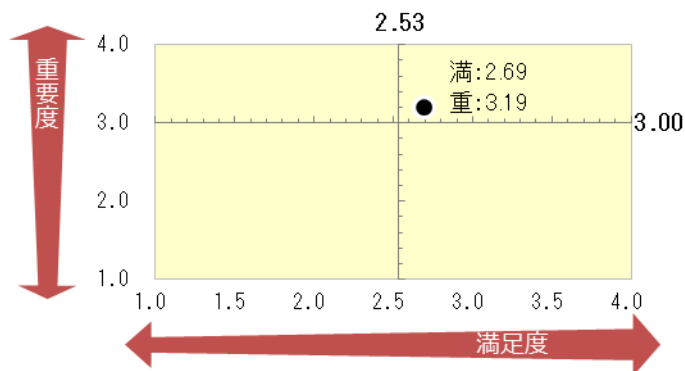
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	109人 (5.8%)	805人 (68.0%)
まあ満足	696人 (36.9%)	
やや不満	281人 (14.9%)	378人 (32.0%)
不満	97人 (5.1%)	
有意回答 計	1,183人 (62.8%)	1,183人 (100.0%)
わからない	460人 (24.4%)	
無回答	242人 (12.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	477人 (25.3%)	1,105人 (85.4%)
まあ高い	628人 (33.3%)	
やや低い	150人 (8.0%)	189人 (14.6%)
低い	39人 (2.1%)	
有意回答 計	1,294人 (68.6%)	1,294人 (100.0%)
わからない	315人 (16.7%)	
無回答	276人 (14.6%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
(生活衛生・食品衛生・感染症対策等)

「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が72.7%、重要度では「まあ高い」以上が84.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より高く、重要度は平均値よりやや高くみている。

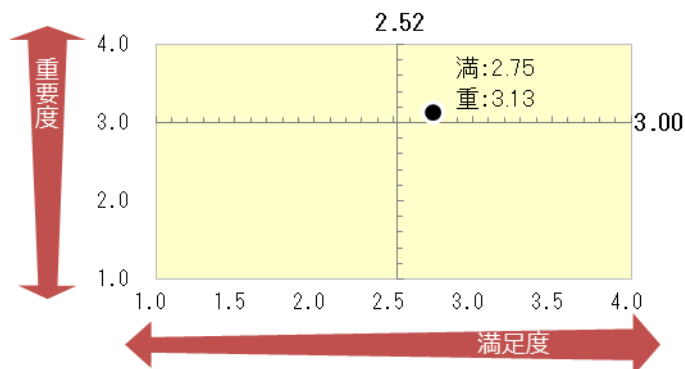
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	102人 (5.4%)	811人 (72.7%)
まあ満足	709人 (37.6%)	
やや不満	225人 (11.9%)	304人 (27.3%)
不満	79人 (4.2%)	
有意回答 計	1,115人 (59.2%)	1,115人 (100.0%)
わからない	527人 (28.0%)	
無回答	243人 (12.9%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	399人 (21.2%)	1,057人 (84.2%)
まあ高い	658人 (34.9%)	
やや低い	167人 (8.9%)	199人 (15.8%)
低い	32人 (1.7%)	
有意回答 計	1,256人 (66.6%)	1,256人 (100.0%)
わからない	353人 (18.7%)	
無回答	276人 (14.6%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政策 子育てが楽しくなるまちづくり
(子育て支援、待機児童対策等)

「子育てが楽しくなるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が56.0%、重要度では「まあ高い」以上が81.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや高くみている。

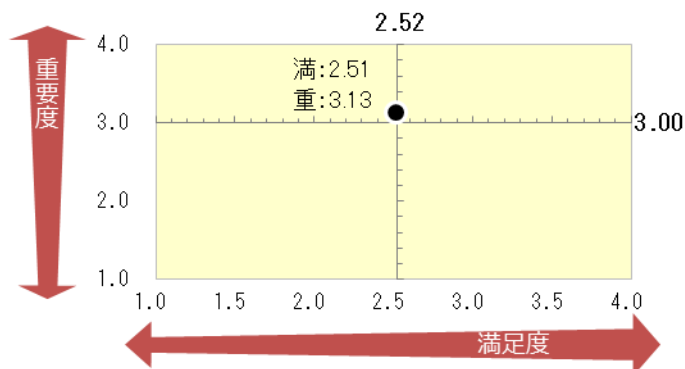
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	57人 (3.0%)	513人 (56.0%)
まあ満足	456人 (24.2%)	
やや不満	303人 (16.1%)	403人 (44.0%)
不満	100人 (5.3%)	
有意回答 計	916人 (48.6%)	916人 (100.0%)
わからない	717人 (38.0%)	
無回答	252人 (13.4%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	435人 (23.1%)	962人 (81.2%)
まあ高い	527人 (28.0%)	
やや低い	164人 (8.7%)	223人 (18.8%)
低い	59人 (3.1%)	
有意回答 計	1,185人 (62.9%)	1,185人 (100.0%)
わからない	414人 (22.0%)	
無回答	286人 (15.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政策 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
(学力向上、教育環境の整備等)

「自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が53.3%、重要度では「まあ高い」以上が81.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや高くみている。

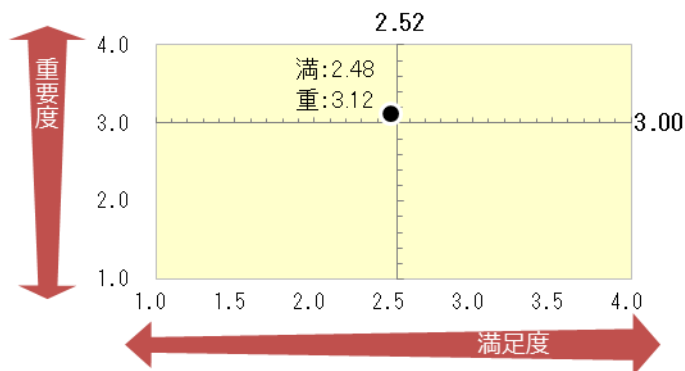
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	49人 (2.6%)	487人 (53.3%)
まあ満足	438人 (23.2%)	
やや不満	330人 (17.5%)	426人 (46.7%)
不満	96人 (5.1%)	
有意回答 計	913人 (48.4%)	913人 (100.0%)
わからない	723人 (38.4%)	
無回答	249人 (13.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	416人 (22.1%)	959人 (81.2%)
まあ高い	543人 (28.8%)	
やや低い	165人 (8.8%)	222人 (18.8%)
低い	57人 (3.0%)	
有意回答 計	1,181人 (62.7%)	1,181人 (100.0%)
わからない	421人 (22.3%)	
無回答	283人 (15.0%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政策 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
(スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)

「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が58.8%、重要度では「まあ高い」以上が75.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている

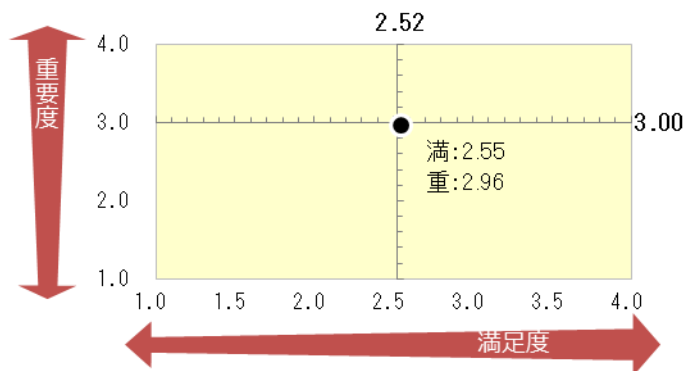
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	51人 (2.7%)	556人 (58.8%)
まあ満足	505人 (26.8%)	
やや不満	303人 (16.1%)	390人 (41.2%)
不満	87人 (4.6%)	
有意回答 計	946人 (50.2%)	946人 (100.0%)
わからない	688人 (36.5%)	
無回答	251人 (13.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	306人 (16.2%)	896人 (75.4%)
まあ高い	590人 (31.3%)	
やや低い	238人 (12.6%)	293人 (24.6%)
低い	55人 (2.9%)	
有意回答 計	1,189人 (63.1%)	1,189人 (100.0%)
わからない	415人 (22.0%)	
無回答	281人 (14.9%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政策 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
(文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)

「郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が71.0%、重要度では「まあ高い」以上が75.6%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より高く、重要度は平均値程度とみている。

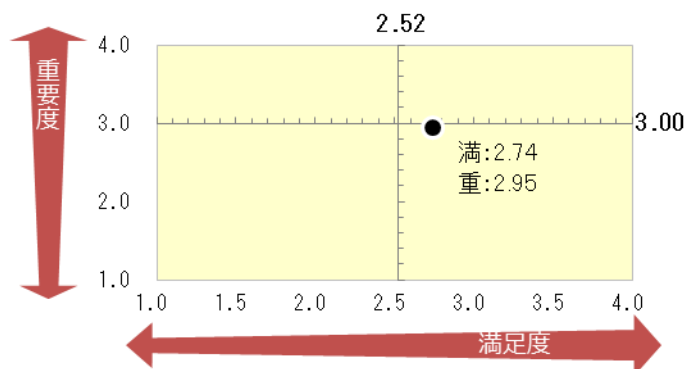
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	85人 (4.5%)	715人 (71.0%)
まあ満足	630人 (33.4%)	
やや不満	236人 (12.5%)	292人 (29.0%)
不満	56人 (3.0%)	
有意回答 計	1,007人 (53.4%)	1,007人 (100.0%)
わからない	630人 (33.4%)	
無回答	248人 (13.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	280人 (14.9%)	909人 (75.6%)
まあ高い	629人 (33.4%)	
やや低い	243人 (12.9%)	293人 (24.4%)
低い	50人 (2.7%)	
有意回答 計	1,202人 (63.8%)	1,202人 (100.0%)
わからない	404人 (21.4%)	
無回答	279人 (14.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政策 ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
(観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)

「ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61.0%、重要度では「まあ高い」以上が74.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや低くみている。

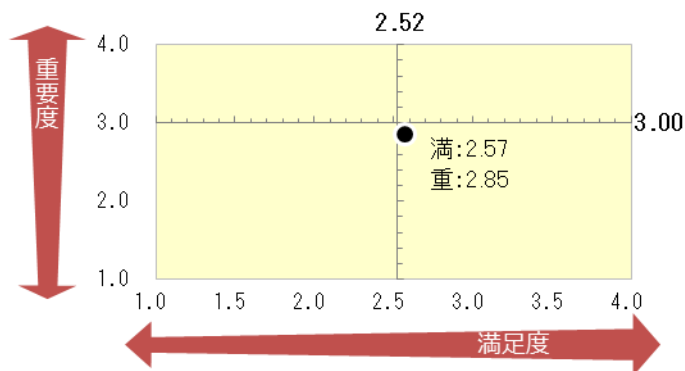
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	67人 (3.6%)	684人 (61.0%)
まあ満足	617人 (32.7%)	
やや不満	331人 (17.6%)	438人 (39.0%)
不満	107人 (5.7%)	
有意回答 計	1,122人 (59.5%)	1,122人 (100.0%)
わからない	602人 (31.9%)	
無回答	161人 (8.5%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	223人 (11.8%)	938人 (74.0%)
まあ高い	715人 (37.9%)	
やや低い	248人 (13.2%)	329人 (26.0%)
低い	81人 (4.3%)	
有意回答 計	1,267人 (67.2%)	1,267人 (100.0%)
わからない	424人 (22.5%)	
無回答	194人 (10.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政策 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
(産業振興、中小企業支援等)

「様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が57.8%、重要度では「まあ高い」以上が76.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

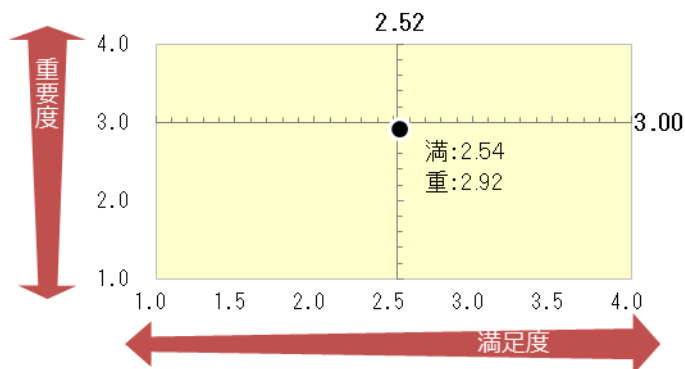
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	44人 (2.3%)	568人 (57.8%)
まあ満足	524人 (27.8%)	
やや不満	332人 (17.6%)	414人 (42.2%)
不満	82人 (4.4%)	
有意回答 計	982人 (52.1%)	982人 (100.0%)
わからない	738人 (39.2%)	
無回答	165人 (8.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	244人 (12.9%)	932人 (76.4%)
まあ高い	688人 (36.5%)	
やや低い	231人 (12.3%)	288人 (23.6%)
低い	57人 (3.0%)	
有意回答 計	1,220人 (64.7%)	1,220人 (100.0%)
わからない	470人 (24.9%)	
無回答	195人 (10.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政策 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
(労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)

「産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が48.4%、重要度では「まあ高い」以上が78.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりもやや低く、重要度は平均値程度とみている。

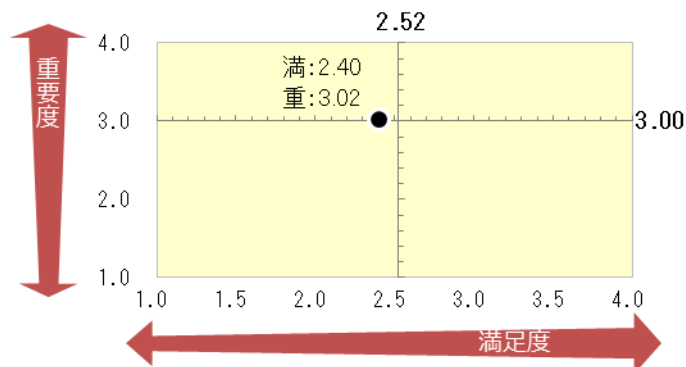
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	39人 (2.1%)	493人 (48.4%)
まあ満足	454人 (24.1%)	
やや不満	405人 (21.5%)	525人 (51.6%)
不満	120人 (6.4%)	
有意回答 計	1,018人 (54.0%)	1,018人 (100.0%)
わからない	701人 (37.2%)	
無回答	166人 (8.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	348人 (18.5%)	975人 (78.7%)
まあ高い	627人 (33.3%)	
やや低い	210人 (11.1%)	264人 (21.3%)
低い	54人 (2.9%)	
有意回答 計	1,239人 (65.7%)	1,239人 (100.0%)
わからない	452人 (24.0%)	
無回答	194人 (10.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政策 中心市街地を活かしたまちづくり
(商店街・マチグワァの振興等)

「中心市街地を活かしたまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が55.4%、重要度では「まあ高い」以上が72.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりもやや低くみている。

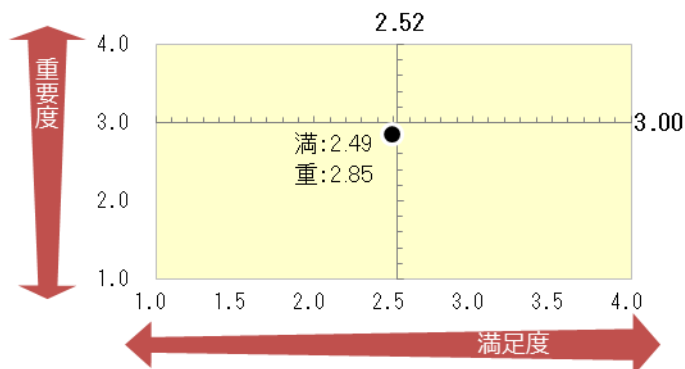
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	56人 (3.0%)	621人 (55.4%)
まあ満足	565人 (30.0%)	
やや不満	373人 (19.8%)	500人 (44.6%)
不満	127人 (6.7%)	
有意回答 計	1,121人 (59.5%)	1,121人 (100.0%)
わからない	602人 (31.9%)	
無回答	162人 (8.6%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	246人 (13.1%)	926人 (72.0%)
まあ高い	680人 (36.1%)	
やや低い	284人 (15.1%)	360人 (28.0%)
低い	76人 (4.0%)	
有意回答 計	1,286人 (68.2%)	1,286人 (100.0%)
わからない	407人 (21.6%)	
無回答	192人 (10.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
(省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)

「省エネを実践し、資源が循環するまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が56.1%、重要度では「まあ高い」以上が74.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

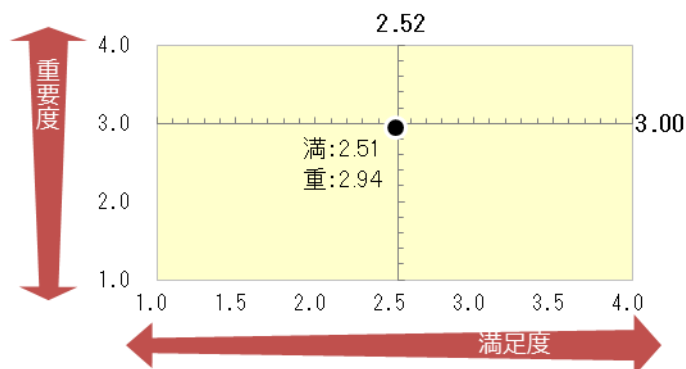
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	52人 (2.8%)	602人 (56.1%)
まあ満足	550人 (29.2%)	
やや不満	363人 (19.3%)	472人 (43.9%)
不満	109人 (5.8%)	
有意回答 計	1,074人 (57.0%)	1,074人 (100.0%)
わからない	641人 (34.0%)	
無回答	170人 (9.0%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	315人 (16.7%)	946人 (74.4%)
まあ高い	631人 (33.5%)	
やや低い	261人 (13.8%)	326人 (25.6%)
低い	65人 (3.4%)	
有意回答 計	1,272人 (67.5%)	1,272人 (100.0%)
わからない	412人 (21.9%)	
無回答	201人 (10.7%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
(魅力ある都市景観の形成、道路美化等)

「自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が50.3%、重要度では「まあ高い」以上が72.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりやや低くみている。

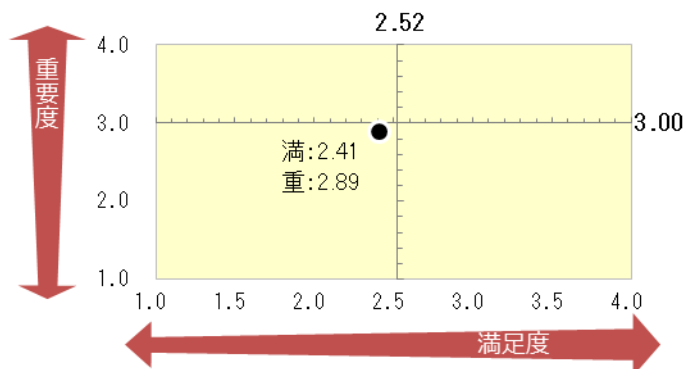
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	57人 (3.0%)	589人 (50.3%)
まあ満足	532人 (28.2%)	
やや不満	417人 (22.1%)	582人 (49.7%)
不満	165人 (8.8%)	
有意回答 計	1,171人 (62.1%)	1,171人 (100.0%)
わからない	544人 (28.9%)	
無回答	170人 (9.0%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	300人 (15.9%)	951人 (72.4%)
まあ高い	651人 (34.5%)	
やや低い	277人 (14.7%)	363人 (27.6%)
低い	86人 (4.6%)	
有意回答 計	1,314人 (69.7%)	1,314人 (100.0%)
わからない	373人 (19.8%)	
無回答	198人 (10.5%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
(交通体系の整備等)

「暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が43.7%、重要度では「まあ高い」以上が78.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より低く、重要度は平均値程度とみている。

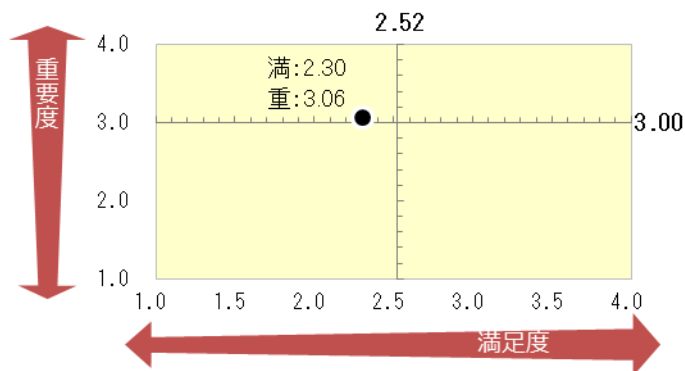
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	61人 (3.2%)	567人 (43.7%)
まあ満足	506人 (26.8%)	
やや不満	495人 (26.3%)	731人 (56.3%)
不満	236人 (12.5%)	
有意回答 計	1,298人 (68.9%)	1,298人 (100.0%)
わからない	429人 (22.8%)	
無回答	158人 (8.4%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	453人 (24.0%)	1,078人 (78.9%)
まあ高い	625人 (33.2%)	
やや低い	208人 (11.0%)	289人 (21.1%)
低い	81人 (4.3%)	
有意回答 計	1,367人 (72.5%)	1,367人 (100.0%)
わからない	332人 (17.6%)	
無回答	186人 (9.9%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
(安全安心で快適な道路や公園の整備等)

「災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.8%、重要度では「まあ高い」以上が78.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値程度とみている。

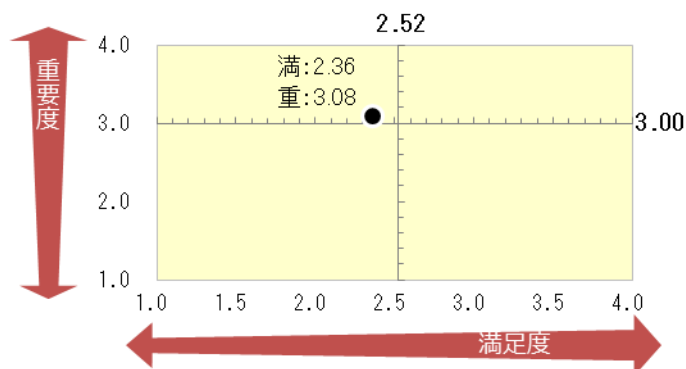
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	57人 (3.0%)	549人 (45.8%)
まあ満足	492人 (26.1%)	
やや不満	474人 (25.1%)	650人 (54.2%)
不満	176人 (9.3%)	
有意回答 計	1,199人 (63.6%)	1,199人 (100.0%)
わからない	525人 (27.9%)	
無回答	161人 (8.5%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	467人 (24.8%)	1,044人 (78.4%)
まあ高い	577人 (30.6%)	
やや低い	222人 (11.8%)	288人 (21.6%)
低い	66人 (3.5%)	
有意回答 計	1,332人 (70.7%)	1,332人 (100.0%)
わからない	359人 (19.0%)	
無回答	194人 (10.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政策 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
(都市計画、土地利用等)

「那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が49.8%、重要度では「まあ高い」以上が73.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値程度とみている。

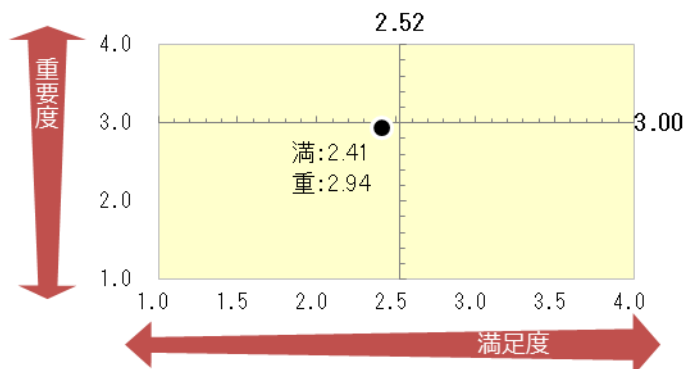
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	44人 (2.3%)	526人 (49.8%)
まあ満足	482人 (25.6%)	
やや不満	390人 (20.7%)	531人 (50.2%)
不満	141人 (7.5%)	
有意回答 計	1,057人 (56.1%)	1,057人 (100.0%)
わからない	664人 (35.2%)	
無回答	164人 (8.7%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	319人 (16.9%)	933人 (73.9%)
まあ高い	614人 (32.6%)	
やや低い	264人 (14.0%)	330人 (26.1%)
低い	66人 (3.5%)	
有意回答 計	1,263人 (67.0%)	1,263人 (100.0%)
わからない	430人 (22.8%)	
無回答	192人 (10.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政策 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
(行政サービスの電子化等)

「市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が52.8%、重要度では「まあ高い」以上が77.6%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

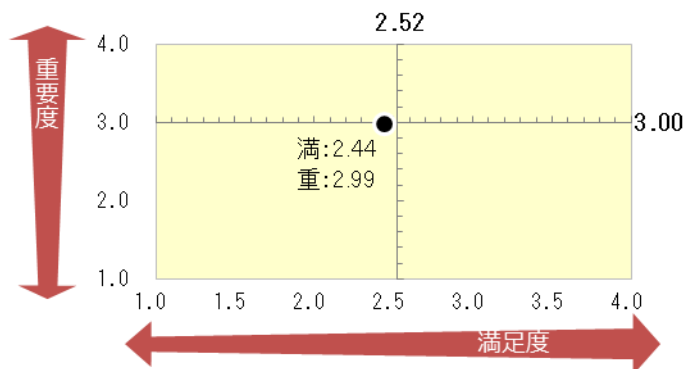
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	60人 (3.2%)	575人 (52.8%)
まあ満足	515人 (27.3%)	
やや不満	358人 (19.0%)	515人 (47.2%)
不満	157人 (8.3%)	
有意回答 計	1,090人 (57.8%)	1,090人 (100.0%)
わからない	629人 (33.4%)	
無回答	166人 (8.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	339人 (18.0%)	988人 (77.6%)
まあ高い	649人 (34.4%)	
やや低い	216人 (11.5%)	285人 (22.4%)
低い	69人 (3.7%)	
有意回答 計	1,273人 (67.5%)	1,273人 (100.0%)
わからない	418人 (22.2%)	
無回答	194人 (10.3%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政策 効率的で効果的な行財政運営を行う
(市民満足度の高いサービスの提供等)

「効率的で効果的な行財政運営を行う」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が50.9%、重要度では「まあ高い」以上が80.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともには平均値程度とみている。

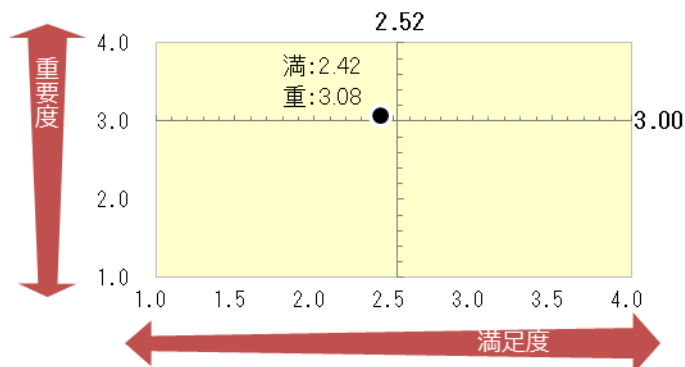
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	50人 (2.7%)	536人 (50.9%)
まあ満足	486人 (25.8%)	
やや不満	372人 (19.7%)	517人 (49.1%)
不満	145人 (7.7%)	
有意回答 計	1,053人 (55.9%)	1,053人 (100.0%)
わからない	666人 (35.3%)	
無回答	166人 (8.8%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	411人 (21.8%)	1,026人 (80.2%)
まあ高い	615人 (32.6%)	
やや低い	195人 (10.3%)	253人 (19.8%)
低い	58人 (3.1%)	
有意回答 計	1,279人 (67.9%)	1,279人 (100.0%)
わからない	413人 (21.9%)	
無回答	193人 (10.2%)	
合計	1,885人 (100.0%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



4. 各政策に対する年代別の満足度・重要度評価

各政策に対する年代別の満足度を集計した。

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	年代 無回答	
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	合計点数	1,937	12	163	224	285	382	355	505	11
	有意回答数	732	4	57	82	107	144	140	194	4
	平均評価点	2.65	3.00	2.86	2.73	2.66	2.65	2.54	2.60	2.75
地域の力が重なる安全安心のまちづくり	合計点数	2,546	18	221	274	397	527	472	625	12
	有意回答数	1,000	6	81	105	154	210	193	247	4
	平均評価点	2.55	3.00	2.73	2.61	2.58	2.51	2.45	2.53	3.00
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	合計点数	2,315	12	222	284	345	451	439	551	11
	有意回答数	874	4	77	101	130	175	170	213	4
	平均評価点	2.65	3.00	2.88	2.81	2.65	2.58	2.58	2.59	2.75
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	合計点数	2,744	15	243	332	410	557	512	666	9
	有意回答数	1,034	5	84	118	156	215	200	253	3
	平均評価点	2.65	3.00	2.89	2.81	2.63	2.59	2.56	2.63	3.00
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	合計点数	2,581	15	228	311	389	517	452	658	11
	有意回答数	1,034	5	81	128	153	211	193	259	4
	平均評価点	2.50	3.00	2.81	2.43	2.54	2.45	2.34	2.54	2.75
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	合計点数	2,702	12	255	314	414	544	464	689	10
	有意回答数	1,043	4	89	119	154	210	195	268	4
	平均評価点	2.59	3.00	2.87	2.64	2.69	2.59	2.38	2.57	2.50
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	合計点数	3,183	16	277	386	485	650	574	785	10
	有意回答数	1,183	5	95	143	178	245	226	287	4
	平均評価点	2.69	3.20	2.92	2.70	2.72	2.65	2.54	2.74	2.50
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	合計点数	3,064	15	289	391	463	618	536	743	9
	有意回答数	1,115	5	97	141	163	226	203	277	3
	平均評価点	2.75	3.00	2.98	2.77	2.84	2.73	2.64	2.68	3.00
子育てが楽しくなるまちづくり	合計点数	2,302	11	198	299	379	446	411	550	8
	有意回答数	916	4	75	126	149	179	166	214	3
	平均評価点	2.51	2.75	2.64	2.37	2.54	2.49	2.48	2.57	2.67
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	合計点数	2,266	14	205	272	349	462	409	543	12
	有意回答数	913	5	76	114	141	185	167	221	4
	平均評価点	2.48	2.80	2.70	2.39	2.48	2.50	2.45	2.46	3.00
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	合計点数	2,412	12	216	291	347	497	445	592	12
	有意回答数	946	4	77	118	139	194	177	233	4
	平均評価点	2.55	3.00	2.81	2.47	2.50	2.56	2.51	2.54	3.00
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	合計点数	2,758	12	259	348	397	579	485	666	12
	有意回答数	1,007	4	89	126	144	211	184	245	4
	平均評価点	2.74	3.00	2.91	2.76	2.76	2.74	2.64	2.72	3.00
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	合計点数	2,888	11	277	363	445	585	494	696	17
	有意回答数	1,122	4	101	144	174	234	197	263	5
	平均評価点	2.57	2.75	2.74	2.52	2.56	2.50	2.51	2.65	3.40
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	合計点数	2,494	12	225	322	369	503	431	620	12
	有意回答数	982	4	80	125	140	201	180	248	4
	平均評価点	2.54	3.00	2.81	2.58	2.64	2.50	2.39	2.50	3.00
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	合計点数	2,448	14	236	319	359	507	431	568	14
	有意回答数	1,018	5	88	127	148	217	188	240	5
	平均評価点	2.40	2.80	2.68	2.51	2.43	2.34	2.29	2.37	2.80
中心市街地を活かしたまちづくり	合計点数	2,792	11	243	324	409	565	521	702	17
	有意回答数	1,121	4	87	127	159	236	218	285	5
	平均評価点	2.49	2.75	2.79	2.55	2.57	2.39	2.39	2.46	3.40
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	合計点数	2,693	12	238	320	373	532	520	686	12
	有意回答数	1,074	4	85	122	145	219	218	277	4
	平均評価点	2.51	3.00	2.80	2.62	2.57	2.43	2.39	2.48	3.00
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	合計点数	2,823	11	241	345	428	562	542	677	17
	有意回答数	1,171	4	89	138	169	239	233	294	5
	平均評価点	2.41	2.75	2.71	2.50	2.53	2.35	2.33	2.30	3.40
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	合計点数	2,988	14	253	373	445	600	542	746	15
	有意回答数	1,298	5	99	162	193	270	247	317	5
	平均評価点	2.30	2.80	2.56	2.30	2.31	2.22	2.19	2.35	3.00
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	合計点数	2,828	12	245	333	429	563	514	717	15
	有意回答数	1,199	4	89	142	175	249	232	303	5
	平均評価点	2.36	3.00	2.75	2.35	2.45	2.26	2.22	2.37	3.00
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	合計点数	2,543	10	247	336	392	512	421	613	12
	有意回答数	1,057	4	88	137	159	222	188	255	4
	平均評価点	2.41	2.50	2.81	2.45	2.47	2.31	2.24	2.40	3.00
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	合計点数	2,658	12	250	355	406	534	473	616	12
	有意回答数	1,090	4	92	144	164	220	208	254	4
	平均評価点	2.44	3.00	2.72	2.47	2.48	2.43	2.27	2.43	3.00
効率的で効果的な行財政運営を行う	合計点数	2,547	9	220	311	400	512	457	628	10
	有意回答数	1,053	3	80	132	166	215	200	254	3
	平均評価点	2.42	3.00	2.75	2.36	2.41	2.38	2.29	2.47	3.33

IV. 「市の政策に対する満足度・重要度」の調査結果

20代、40代、60代では「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の平均評価点が最も高かった。10代、70代以上では「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の平均評価点が最も高かった。50代では「郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり」の平均評価点が最も高かった。

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.75	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.74	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.69	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.65	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.65
10代	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.20	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり、他13項目			3.00
20代	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.98	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.92	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.91	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.89	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.88
30代	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.81	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.81	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.77	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.76	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.73
40代	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.84	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.76	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.72	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 2.69	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.66
50代	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.74	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.73	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.65	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 2.65	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.59
60代	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.64	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.64	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり 2.58	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.56	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.54
70代以上	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 2.74	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり 2.72	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 2.68	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり 2.65	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 2.63

IV. 「市の政策に対する満足度・重要度」の調査結果

各政策に対する年代別の重要度を集計した。

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	年代 無回答	
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	合計点数	2,828	15	251	363	426	568	529	666	10
	有意回答数	1,025	5	90	139	157	209	189	233	3
	平均評価点	2.76	3.00	2.79	2.61	2.71	2.72	2.80	2.86	3.33
地域の力が重なる安全安心のまちづくり	合計点数	3,709	22	331	511	604	785	642	804	10
	有意回答数	1,219	7	103	166	195	257	220	268	3
	平均評価点	3.04	3.14	3.21	3.08	3.10	3.05	2.92	3.00	3.33
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	合計点数	3,138	21	284	435	489	638	572	689	10
	有意回答数	1,124	7	100	159	177	235	205	238	3
	平均評価点	2.79	3.00	2.84	2.74	2.76	2.71	2.79	2.89	3.33
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	合計点数	3,671	18	326	484	597	783	647	809	7
	有意回答数	1,216	6	100	168	201	257	217	265	2
	平均評価点	3.02	3.00	3.26	2.88	2.97	3.05	2.98	3.05	3.50
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	合計点数	3,908	23	345	539	611	826	688	866	10
	有意回答数	1,240	7	106	170	194	258	226	276	3
	平均評価点	3.15	3.29	3.25	3.17	3.15	3.20	3.04	3.14	3.33
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	合計点数	3,847	20	326	526	610	795	686	875	9
	有意回答数	1,248	7	106	170	199	253	224	286	3
	平均評価点	3.08	2.86	3.08	3.09	3.07	3.14	3.06	3.06	3.00
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	合計点数	4,131	22	346	552	656	872	755	919	9
	有意回答数	1,294	7	106	173	207	270	239	289	3
	平均評価点	3.19	3.14	3.26	3.19	3.17	3.23	3.16	3.18	3.00
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	合計点数	3,936	22	343	527	623	817	719	877	8
	有意回答数	1,256	7	105	169	198	260	229	286	2
	平均評価点	3.13	3.14	3.27	3.12	3.15	3.14	3.14	3.07	4.00
子育てが楽しくなるまちづくり	合計点数	3,708	21	337	546	619	745	660	773	7
	有意回答数	1,185	7	105	172	194	240	219	246	2
	平均評価点	3.13	3.00	3.21	3.17	3.19	3.10	3.01	3.14	3.50
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	合計点数	3,680	21	330	534	605	756	655	769	10
	有意回答数	1,181	7	104	167	192	242	215	251	3
	平均評価点	3.12	3.00	3.17	3.20	3.15	3.12	3.05	3.06	3.33
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	合計点数	3,525	20	318	505	553	718	640	761	10
	有意回答数	1,189	7	103	171	186	242	216	261	3
	平均評価点	2.96	2.86	3.09	2.95	2.97	2.97	2.96	2.92	3.33
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	合計点数	3,543	21	322	496	542	737	635	780	10
	有意回答数	1,202	7	103	169	191	247	218	264	3
	平均評価点	2.95	3.00	3.13	2.93	2.84	2.98	2.91	2.95	3.33
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	合計点数	3,614	21	327	493	560	743	654	804	12
	有意回答数	1,267	7	107	174	200	269	224	282	4
	平均評価点	2.85	3.00	3.06	2.83	2.80	2.76	2.92	2.85	3.00
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	合計点数	3,559	20	307	510	546	738	636	788	14
	有意回答数	1,220	7	99	170	189	252	224	275	4
	平均評価点	2.92	2.86	3.10	3.00	2.89	2.93	2.84	2.87	3.50
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	合計点数	3,747	20	340	530	599	764	688	795	11
	有意回答数	1,239	7	106	170	197	251	232	273	3
	平均評価点	3.02	2.86	3.21	3.12	3.04	3.04	2.97	2.91	3.67
中心市街地を活かしたまちづくり	合計点数	3,668	20	304	486	562	745	686	854	11
	有意回答数	1,286	7	105	170	201	257	241	301	4
	平均評価点	2.85	2.86	2.90	2.86	2.80	2.90	2.85	2.84	2.75
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	合計点数	3,740	20	315	479	569	781	720	844	12
	有意回答数	1,272	7	104	170	193	262	244	288	4
	平均評価点	2.94	2.86	3.03	2.82	2.95	2.98	2.95	2.93	3.00
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	合計点数	3,793	21	322	505	576	779	719	858	13
	有意回答数	1,314	7	107	175	201	268	250	302	4
	平均評価点	2.89	3.00	3.01	2.89	2.87	2.91	2.88	2.84	3.25
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	合計点数	4,184	21	349	560	645	880	776	940	13
	有意回答数	1,367	7	107	177	214	284	257	317	4
	平均評価点	3.06	3.00	3.26	3.16	3.01	3.10	3.02	2.97	3.25
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	合計点数	4,109	21	345	548	658	849	751	923	14
	有意回答数	1,332	7	107	173	208	271	250	312	4
	平均評価点	3.08	3.00	3.22	3.17	3.16	3.13	3.00	2.96	3.50
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	合計点数	3,712	20	326	515	563	801	679	797	11
	有意回答数	1,263	7	107	173	193	271	233	276	3
	平均評価点	2.94	2.86	3.05	2.98	2.92	2.96	2.91	2.89	3.67
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	合計点数	3,804	17	337	551	612	784	690	803	10
	有意回答数	1,273	6	106	179	199	269	238	273	3
	平均評価点	2.99	2.83	3.18	3.08	3.08	2.91	2.90	2.94	3.33
効率的で効果的な行財政運営を行う	合計点数	3,937	18	339	558	622	829	713	848	10
	有意回答数	1,279	6	103	179	199	271	237	281	3
	平均評価点	3.08	3.00	3.29	3.12	3.13	3.06	3.01	3.02	3.33

各政策に対する年代別の重要度を集計した。

10代では「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」の平均評価点が最も高かった。20代では「効率的で効果的な行財政運営を行う」の平均評価点が最も高かった。30代では「自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり」の平均評価点が最も高かった。40代では「子育てが楽しくなるまちづくり」の平均評価点が最も高かった。50代以上では「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の平均評価点が最も高かった。

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.19	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.15	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.13	子育てが楽しくなるまちづくり 3.13	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.12
10代	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.29	地域の力が重なる安全安心のまちづくり 3.14	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.14	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.14	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり 3.00
20代	効率的で効果的な行財政運営を行う 3.29	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.27	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり 3.26	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.26	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり 3.26
30代	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.20	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.19	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.17	子育てが楽しくなるまちづくり 3.17	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.17
40代	子育てが楽しくなるまちづくり 3.19	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.17	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.16	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.15	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.15
50代	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.23	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.20	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.14	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 3.14	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり 3.13
60代	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.16	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.14	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり 3.06	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.05	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.04
70代以上	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり 3.18	子育てが楽しくなるまちづくり 3.14	地域で暮らし地域で支えるまちづくり 3.14	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり 3.07	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり 3.06



那覇市

令和7年度 那覇市民意識調査報告書

発行日	令和8年3月
発行所	那覇市 企画財務部 企画調整課
住所	〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎 1-1-1
電話	098-862-9937
F A X	098-862-4263